

(様式 4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成 27 年 5 月 1 日現在)

大阪薬科大学薬学部

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1~7
基礎資料 2	修学状況（在籍学生数・休学退学者数・学士課程修了状況）	8~10
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOsに該当する科目	11~179
基礎資料 4	カリキュラムマップ	180~181
基礎資料 5	語学教育の要素	182
基礎資料 6	4年次の実務実習事前学習のスケジュール	183~186
基礎資料 7	学生受入状況について	187
基礎資料 8	教員・事務職員数	188
基礎資料 9	専任教員年齢構成	189
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	190~201
基礎資料11	卒業研究の配属状況	202
基礎資料12	講義室等の数と面積	203
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	204
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	205
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	206~368

	1 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数	
教養教育・語学教育	(択) 文学の世界 (教養)	前期	25	1	25	コ		1	
	(択) 歴史と社会 (教養)	前期	118	1	118	コ		1	
	(択) 地球環境論 (教養)	前期	今年度開講せず			コ		1	
	(択) 政治と社会 (教養)	前期	今年度開講せず			コ		1	
	(択) 基礎心理学 (教養)	前期	今年度開講せず			コ		1	
	(択) 法と社会 (教養)	前期	59	1	59	コ		1	
	(択) 経済の世界 (教養)	前期	27	1	27	コ		1	
	(択) 社会分析の基礎 (教養)	前期	75	1	75	コ		1	
	(択) 人間と宗教 (教養)	後期	138	1	138	コ		1	
	(択) 文化人類学 (教養)	後期	22	1	22	コ		1	
	(択) 倫理と社会 (教養)	後期	25	1	25	コ		1	
	(択) 倫理と社会 (教養)								
	(択) コーチング論 (教養)	後期	82	1	82	コ		1	
	(択) 数理論理学 (教養)	後期	13	1	13	コ		1	
	数学 1	前期	78	4	310	コ		1	
	数学 2	後期	77	4	306	コ		1	
	物理学 1	前期	154	2	307	コ		1	
	物理学 2	後期	151	2	302	コ		1	
	化学	前期	38	8	306	コ		1	
	身体運動科学	前期	153	2	306	コ		1	
	スポーツ・運動実習 1	前期	76	4	304	ジ		1	
	(択) スポーツ・運動実習 2 (教養)	後期	22	1	22	ジ		1	
	薬学入門	前期	153	2	306	コ		1	
	薬学入門								
	薬学入門								
	早期体験学習 1	前期・後期	17	18	306	コ	S	ジ	1
	早期体験学習 1								
	早期体験学習 1								
	(択) 情報科学	後期	175	1	175	コ		1	
	英語リスニング 1	前期	38	8	304	コ		1	
	英語リスニング 2	後期	38	8	302	コ		1	
	英語リーディング 1	前期	38	8	304	コ		1	
	英語リーディング 2	後期	38	8	302	コ		1	
	(択必) ドイツ語 1	前期	40	2	79	コ		1	
(択必) ドイツ語 2	後期	40	2	79	コ		1		
(択必) フランス語 1	前期	40	2	80	コ		1		
(択必) フランス語 2	後期	40	2	79	コ		1		
(択必) 中国語 1	前期	39	2	78	コ		1		
(択必) 中国語 2	後期	39	2	77	コ		1		
(択必) ハングル 1	前期	34	2	67	コ		1		
(択必) ハングル 2	後期	34	2	68	コ		1		
薬学専門教育	基礎有機化学	前期	153	2	305	コ		1	
	有機化学 1	後期	153	2	306	コ		1.5	
	生物学	前期	155	2	309	コ		1	
	基礎細胞生物学	後期	155	2	309	コ		1.5	
	生化学 1	後期	157	2	314	コ		1.5	
	生薬学	後期	154	2	308	コ		1.5	
	物理化学 1	後期	165	2	330	コ		1.5	
	分析化学 1	後期	156	2	312	コ		1.5	
	機能形態学 1	後期	154	2	307	コ		1.5	
	人体の構造と病態 1	前期	154	2	307	コ		1.5	
人体の構造と病態 2	後期	152	2	304	コ		1.5		
早期体験学習 2	後期	76	4	304	コ	S	ジ	0.5	
実習	基礎薬学実習	前期	78	4	310	ジ		0.5	
	基礎有機化学実習	後期	76	4	305	ジ		1	
	生物学実習 ※平成26年度以前入学生	後期	3	1	3	ジ		1	
演習	化学演習	前期	38	8	305	エ		1	
	情報科学演習	前期	76	4	304	エ		1	
単位数の合計	(必須科目)							33.5	
	(選択必修科目)							8	
	(選択科目)							15	
	合計							56.5	

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 実習=ジ
 演習=エ

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」…主たる要素で計上	科目数	単位数
1 ヒューマニズム教育・医療倫理教育	2	2
2 教養教育科目	21	21
3 語学教育科目	12	12
4 医療安全教育科目	0	0
5 生涯学習の意欲醸成科目	2	1.5
6 コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	2	2

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記: 講義=コ、 PBL/SGD=S

6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料1-2) 学年別授業科目

	2 年 次							
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
教養教育・語学教育	数理統計学	前期	153	2	305	コ		1.5
	医療総合人間学4 生命倫理と法/人権とジェンダー	前期	150	2	300	コ		1.5
	医療総合人間学4 生命倫理と法/人権とジェンダー							
	医療総合人間学4 生命倫理と法/人権とジェンダー							
	医療総合人間学5 臨床心理学/医療社会学	後期	152	2	303	コ		1.5
	(択) 人間と文化5 (人間と生命)	前期	154	1	154	コ		1
	(択) 人間と文化6 (人間と地球環境)	前期	14	1	14	コ		1
	(択) 人間と文化7 (人間と言語)	後期	今年度開講せず			コ		1
	(択) 人間と文化8 (人間と政治)	後期	13	1	13	コ		1
	(択) 医工薬連環科学	前期	64	1	64	コ		1.5
英語3	前期	38	8	302	コ		1	
英語4	後期	37	8	294	コ		1	
薬学専門教育	有機化学2	前期	158	2	316	コ		1.5
	有機化学3	後期	162	2	323	コ		1.5
	有機ペクトル解析学	後期	153	2	306	コ		1.5
	物理化学2	前期	156	2	312	コ		1.5
	物理化学3	後期	155	2	310	コ		1.5
	機器分析学	前期	158	2	316	コ		1.5
	放射化学	後期	153	2	305	コ		1.5
	生化学2	前期	154	2	308	コ		1.5
	生化学3	後期	163	2	325	コ		1.5
	微生物学	前期	157	2	313	コ		1.5
	機能形態学2	前期	154	2	308	コ		1.5
	生物無機化学	前期	154	2	308	コ		1.5
	生薬学2	前期	151	2	302	コ		1.5
	薬用天然物化学1	後期	159	2	318	コ		1.5
	衛生薬学1	前期	154	2	307	コ		1.5
	衛生薬学2	後期	151	2	302	コ		1.5
	病原微生物学	後期	150	2	299	コ		1.5
	病態生理学2	前期	150	2	300	コ		1.5
	薬理学1	後期	152	2	304	コ		1.5
	実習	生薬学実習	後期	76	4	302	ジ	
分析化学実習		前期	76	4	303	ジ		1
物理・放射化学実習		後期	75	4	301	ジ		1
演習								
単位数の合計							(必須科目)	37.5
							(選択必修科目)	0
							(選択科目)	5.5
							合計	43

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 実習=ジ
 演習=エ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」…主たる要素で計上	科目数	単位数
1 ヒューマニズム教育・医療倫理教育	1	1.5
2 教養教育科目	6	7
3 語学教育科目	2	2
4 医療安全教育科目	0	0
5 生涯学習の意欲醸成科目	0	0
6 コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	1	1.5

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-3) 学年別授業科目

	3 年 次							
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数
学育教育・養育語教	異文化言語演習 1	前期	16	20	310	エ		1
	異文化言語演習 2	後期	16	20	312	エ		1
薬学専門教育	有機化学 4	前期	171	2	342	コ		1.5
	免疫学	前期	166	2	331	コ		1.5
	生物統計学演習	後期	160	2	320	エ		1
	薬用天然物化学 2	前期	165	2	330	コ		1.5
	衛生薬学 3	前期	160	2	320	コ		1.5
	衛生薬学 4	後期	159	2	318	コ		1.5
	分子細胞生物学	後期	165	2	329	コ		1.5
	応用分子生物学	前期	168	2	336	コ		1.5
	応用分析学	前期	170	2	339	コ		1.5
	(択) 応用放射化学	前期	311	1	311	コ		1.5
	基礎薬剤学	前期	164	2	328	コ		1.5
	薬品合成化学 1	後期	166	2	332	コ		1.5
	病態生化学	前期	168	2	336	コ		1.5
	薬理学 2	前期	171	2	341	コ		1.5
	薬理学 3	後期	168	2	336	コ		1.5
	剤形設計学	後期	166	2	332	コ		1.5
	薬物動態学 1	前期	169	2	338	コ		1.5
	薬物動態学 2	後期	162	2	324	コ		1.5
	薬物治療学 1	前期	158	2	316	コ		1.5
	薬物治療学 2	後期	156	2	312	コ		1.5
医療薬剤学 1	後期	161	2	321	コ		1.5	
(択) 臨床化学	後期	314	1	314	コ		1.5	
(択) 実験動物科学 ※平成23年度以前入学生	後期	4	1	4	コ		1	
実習	有機化学実習	前期	78	4	310	ジ		1
	生物科学実習	前期	80	4	319	ジ		1
	衛生薬学実習	後期	79	4	316	ジ		1
	薬理学実習	後期	78	4	311	ジ		1
演習								
単位数の合計	(必須科目)							35.5
	(選択必修科目)							0
	(選択科目)							4
	合計							39.5

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 実習=ジ
 演習=エ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」…主たる要素で計上	科目数	単位数
1 ヒューマニズム教育・医療倫理教育	1	1.5
2 教養教育科目	0	0
3 語学教育科目	2	2
4 医療安全教育科目	0	0
5 生涯学習の意欲醸成科目	0	0
6 コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	0	0

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
 「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S
 6 行は適宜加除し、記入してください。

	4 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		単位数	
・ 教養教育 ・ 語学教育	医療総合人間学6 医療倫理学	前期	151	2	301	コ		1.5	
	医療総合人間学6 医療倫理学								
	医療総合人間学6 医療倫理学								
	医療総合人間学7 医療経済学・医療制度論	後期	163	2	325	コ		1.5	
	(自由択) 実践ビジネス英語	後期	9	1	9	コ		0.5	
薬学英語	前期	53	6	320	コ		1		
薬学専門教育	(択) 生物物理化学	前期	161	1	161	コ		1.5	
	(択) 薬品合成化学2	前期	33	1	33	コ		1.5	
	医薬品化学1	前期	167	2	334	コ		1.5	
	(択) 医薬品化学2	後期	15	1	15	コ		1.5	
	薬事関連法・制度	前期	161	2	321	コ		1.5	
	薬理学4	前期	168	2	335	コ		1.5	
	薬物動態学3	前期	163	2	326	コ		1.5	
	薬物治療学3	前期	149	2	297	コ		1.5	
	薬物治療学4	後期	164	2	327	コ		1.5	
	医療薬剤学2	前期	152	2	303	コ		1.5	
	医薬品安全性学	後期	168	2	335	コ		1.5	
	コミュニティファーマシー	後期	165	2	330	コ		1	
	医療情報学	前期	326	1	326	コ		1.5	
	臨床検査学	後期	164	2	327	コ		1.5	
	臨床栄養学	後期	165	2	330	コ		0.5	
	臨床感染症学	後期	335	1	335	コ		0.5	
	薬学基礎演習	後期	337	1	337	エ		1	
	(択) 臨床生理学	前期	294	1	294	コ		1.5	
	(択) 医用工学概論	前期	286	1	286	コ		1.5	
	医療薬剤学2 ※平成23年度以前入学生	後期	39	1	39	コ		1.5	
臨床薬物動態学 ※平成23年度以前入学生	後期	43	1	43	コ		1.5		
実習	薬剤学実習	前期	77	4	306	ジ		1	
	臨床導入学習1	前期	161	2	322	コ	ジ	エ	4
	臨床導入学習1								
	臨床導入学習1								
	臨床導入学習2	後期	165	2	329	コ	ジ	エ	1
	臨床導入学習2								
	臨床導入学習2								
調剤学実習 ※平成23年度以前入学生	前期	34	1	34	ジ		1		
演習									
単位数の合計							(必須科目)	32	
							(選択必修科目)	0	
							(選択科目)	8	
							合計	40	

(凡例)
講義=コ PBL/SGD=S 実習=ジ
演習=エ

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」…主たる要素で計上

	科目名	科目数	単位数
1	ヒューマニズム教育・医療倫理教育	6	10.5
2	教養教育科目	1	1.5
3	語学教育科目	2	1.5
4	医療安全教育科目	1	1.5
5	生涯学習の意欲醸成科目	0	0
6	コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	1	1

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1-5) 学年別授業科目

	5 年 次							単位数
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法		
薬学専門教育	薬物治療学 3	前期	本年度開講せず			コ		0.5
	臨床栄養学	前期	本年度開講せず			コ		0.5
	臨床感染症学	前期	本年度開講せず			コ		0.5
実習	病態生理学演習実習	前期	73	4	291	ジ	エ	1
	病院実務実習	後期			295	ジ		10
	薬局実務実習	後期			294	ジ		10
	特別演習・実習 1	5 年次前期～6 年次前期	13	22	294	ジ	エ	
演習								
単位数の合計	(必須科目)							22.5
	(選択必修科目)							0
	(選択科目)							0
	合計							22.5

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 実習=ジ
 演習=エ

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
 2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

	「科目の識別」…主たる要素で計上	科目数	単位数
1	ヒューマンズム教育・医療倫理教育	2	20
2	教養教育科目	0	0
3	語学教育科目	0	0
4	医療安全教育科目	0	0
5	生涯学習の意欲醸成科目	0	0
6	コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	0	0

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
 4 実習は 1 組 (実習グループ) の人数を記入してください。
 5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大 3 種類まで記入してください。下記の 2 つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

- 6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-6) 学年別授業科目

	6年次									
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数	授業方法			単位数	
薬学専門教育	薬学総合演習3	前期	329	1	329	エ			4	
	薬局方総論	前期	154	2	308	コ			1.5	
	薬学総合演習4	後期	329	1	329	エ			4	
	医薬品開発学	前期	154	2	308	コ			1.5	
	東洋医学概論	前期	154	2	308	コ			1.5	
	薬物治療学演習	前期	154	2	308	エ			1	
	臨床薬学統合演習	前期	154	2	308	エ			1	
実習	特別演習・実習1	前期	14	22	313	ジ	エ		10	
	特別演習・実習2	後期				ジ	エ		8	
	(択) 臨床検査学実習	前期	今年度開講せず			ジ			3	
演習										
単位数の合計									(必須科目)	32.5
									(選択必修科目)	0
									(選択科目)	3
									合計	35.5

(凡例)
 講義=コ PBL/SGD=S 実習=ジ
 演習=エ

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

2 下記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

「科目の識別」…主たる要素で計上

	科目数	単位数
1 ヒューマニズム教育・医療倫理教育	4	10.5
2 教養教育科目	0	0
3 語学教育科目	0	0
4 医療安全教育科目	0	0
5 生涯学習の意欲醸成科目	0	0
6 コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	0	0

3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」の表記にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料1-7) 学年別授業科目

(基礎資料1-1)から(基礎資料1-6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「会計科目数」および「単位数」を記入してください。

<平成27年度の現状>

科目の識別		会計科目数	会計単位数
1 ヒューマニズム教育・医療倫理教育		13	42.5
2 教養教育科目		9	10.5
3 語学教育科目		25	24.5
4 医療安全教育科目	注1	13	13.5
5 生涯学習の意欲醸成科目	注2	0	0
6 コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	注3	4	4
計		64	95

注1…他に4科目5単位で副要素として該当する科目あり
 注2…他に2科目5単位で副要素として該当する科目あり
 注3…他に7科目11単位で副要素として該当する科目あり

<平成23年度以前入学者カリキュラムでの集計>

科目の識別		会計科目数	会計単位数
1 ヒューマニズム教育・医療倫理教育		15	44
2 教養教育科目	注1	22	22.5
3 語学教育科目		10	10.5
4 医療安全教育科目	注2	1	1.5
5 生涯学習の意欲醸成科目	注3	2	1.5
6 コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	注4	2	2.5
計		52	82.5

注1…他に1科目1単位で副要素として該当する科目あり
 注2…他に2科目1単位で副要素として該当する科目あり
 注3…他に1科目4単位で副要素として該当する科目あり
 注4…他に8科目10.5単位で副要素として該当する科目あり

<平成24～26年度入学者カリキュラムでの集計>

科目の識別		会計科目数	会計単位数
1 ヒューマニズム教育・医療倫理教育	注1	15	41
2 教養教育科目		22	23.5
3 語学教育科目		9	9
4 医療安全教育科目	注2	1	1.5
5 生涯学習の意欲醸成科目	注3	2	2
6 コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	注4	3	4
計		52	81

注1…他に1科目1.5単位で副要素として該当する科目あり
 注2…他に4科目4.5単位で副要素として該当する科目あり
 注3…他に2科目5単位で副要素として該当する科目あり
 注4…他に6科目9.5単位で副要素として該当する科目あり

<平成27年度入学者カリキュラムでの集計>

科目の識別		会計科目数	会計単位数
1 ヒューマニズム教育・医療倫理教育		13	35
2 教養教育科目		27	28.5
3 語学教育科目		13	13
4 医療安全教育科目	注1	1	1.5
5 生涯学習の意欲醸成科目	注2	2	2
6 コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	注3	3	4
計		59	84

注1…他に5科目4.5単位で副要素として該当する科目あり
 注2…他に2科目5単位で副要素として該当する科目あり
 注3…他に7科目10.5単位で副要素として該当する科目あり

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

学 年	単位数			
	必須科目	選択必修科目	選択科目	合計
1 年 次	33.5	8	15	56.5
2 年 次	37.5	0	5.5	43
3 年 次	35.5	0	4	39.5
4 年 次	32	0	8	40
5 年 次	22.5	0	0	22.5
6 年 次	32.5	0	3	35.5
合計	193.5	8	35.5	237

(基礎資料2-1) 在籍学生数

		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	合計		
入学年度 における	入学定員数	270	270	270	270	270	270	1,620	A	
	編入定員数		5	5	5	5	5	25	B	
	入学者数	311	303	327	345	310	325	1,921		
基準日 における	各学年の在籍学生数	326	322	338	346	294	332	1,958	C	
	編入学生数(内)※		1		1	1		3	D	
	留年者数(内)	15	32	47	53	51	78	276		
	留年者の 入学年度	平成20年度 以前				8	9	27	44	
		平成21年度		1	1	5	8	51	66	
		平成22年度			2	8	34		44	
		平成23年度			14	32			46	
		平成24年度		8	30				38	
		平成25年度	3	23					26	
		平成26年度	12						12	
C / (A + B)		1.19		※ 編入生すべての編入した学年を、別添でご提出ください。						
D / B		0.12								

- [注] 1 「C / (A + B)」と「D / B」については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。
- 2 「編入学生数(内)」および「留年者数(内)」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。

(備考)

入学者数について…「薬学科」(6年制)「薬科学科」(4年制)一括募集のため、「薬科学科」進級者を含む(平成22年度入学者5名、平成23年度入学者1名、全員卒業済み)

編入生について…全員2年次編入

(基礎資料 2-2) 休学者数、留年者数、退学者数および編入学者数

	平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度				平成27年度			
総在籍 学生数	1575				1853				1967				2000				1993				1958			
	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数																				
1年次	8	15	11	0	2	12	7	0	6	22	11	0	7	24	9	0	6	20	6	0	10	24	0	0
2年次	2	27	5	1	3	18	5	0	3	25	4	0	5	22	7	1	2	23	4	0	4	31	0	1
3年次	3	33	5	0	5	48	3	0	2	29	5	0	4	34	5	0	4	30	5	0	0	29	0	0
4年次	3	19	0	0	2	29	1	0	1	18	1	8	0	39	1	0	5	28	1	0	0	18	0	0
5年次	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0
6年次	-	-	-	-	0	4	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	2	23	0	0	1	40	0	0
合計	16	94	21	1	12	111	16	0	12	94	21	8	16	135	22	1	20	125	16	0	16	143	0	1

[注] 平成27年度以外は年度末の現状を記入してください。

(備考) 旧4年制課程の学生(平成17年度以前入学生)、薬科学科の学生(4年制課程)は除外している
除籍となった学生は退学者として計上している

(基礎資料2-3) 学士課程修了状況

		平成23年度 (平成24年3月卒業)	平成24年度 (平成25年3月卒業)	平成25年度 (平成26年3月卒業)	平成26年度 (平成27年3月卒業)	平成27年度 (平成28年3月卒業)	平成28年度 (平成29年3月卒業)	入学者総数		卒業率 (%)
卒業者総数		221名	270名	283名	331名	292名	294名			
卒業者の 入学年度 内訳	平成18年度入学者	221名	43名	9名	6名	2名	1名	平成18年度	321名	68.8%
	平成19年度入学者	名	227名	16名	16名	2名	2名	平成19年度	308名	73.7%
	平成20年度入学者	名	名	258名	43名	12名	6名	平成20年度	361名	71.5%
	平成21年度入学者	名	名	名	257名	39名	8名	平成21年度	343名	74.9%
	平成22年度入学者	名	名	名	1名	237名	34名	平成22年度	325名	72.9%
	平成23年度入学者	名	名	名	8名	名	243名	平成23年度	310名	78.4%

(備考) 平成27年度、28年度卒業者(平成22年度、23年度入学者)の状況は見込みで算出

(基礎資料3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

1～4年次：平成24年カリキュラムで記載
 5～6年次：平成18年カリキュラムで記載

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ						
(1) 生と死						
【生命の尊厳】						
1) 1人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)	医療総合人間学1 医療総合人間学3	医療総合人間学5		医療総合人間学6		
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。	医療総合人間学1 医療総合人間学3	医療総合人間学4		医療総合人間学6		
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。	医療総合人間学1 医療総合人間学3	医療総合人間学4 医療総合人間学5	医療薬剤学1	医療総合人間学6		
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。(態度)	医療総合人間学1 医療総合人間学3	医療総合人間学5		医療総合人間学6		
5) 自らの体験を通して、生命の尊厳と医療の関わりについて討議する。(態度)	医療総合人間学1 医療総合人間学3	医療総合人間学4 医療総合人間学5		医療総合人間学6		
【医療の目的】						
1) 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。	医療総合人間学1 医療総合人間学2 医療総合人間学3	医療総合人間学4 医療総合人間学5	医療薬剤学1	医療総合人間学6		
【先進医療と生命倫理】						
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。	医療総合人間学3	医療総合人間学4 医療総合人間学5		医療総合人間学6		
(2) 医療の担い手としてのこころ構え						
【社会の期待】						
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)	医療総合人間学1 医療総合人間学2 医療総合人間学3 ト、伊語・ワカ語1 ト、伊語・ワカ語2	医療総合人間学4 医療総合人間学5	医療薬剤学1	医療総合人間学6 薬事関連法・制度 コミュニケーション マシ		
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)	医療総合人間学1 医療総合人間学2 医療総合人間学3 ト、伊語・ワカ語1 ト、伊語・ワカ語2	医療総合人間学4 医療総合人間学5	医療薬剤学1	医療総合人間学6 薬事関連法・制度 コミュニケーション マシ		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)	医療総合人間学1 医療総合人間学2 医療総合人間学3 トイ語・ワカ語1 トイ語・ワカ語2	医療総合人間学4 医療総合人間学5	医療薬剤学1	薬事関連法・制度 コミュニケーション		
	【医療行為に関わるころ構え】					
	1) ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。	医療総合人間学1 医療総合人間学3		医療薬剤学1	医療総合人間学6 薬事法関連法・制度	
	2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。	医療総合人間学1 医療総合人間学3		医療薬剤学1	医療総合人間学6 薬事法関連法・制度	
	3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。	医療総合人間学1 医療総合人間学3		医療薬剤学1	医療総合人間学6 薬事法関連法・制度	
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)	医療総合人間学1 医療総合人間学3		医療薬剤学1	医療総合人間学6 薬事法関連法・制度		
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)	医療総合人間学3		医療薬剤学1	医療総合人間学6 薬事法関連法・制度 コミュニケーション		
【研究活動に求められるころ構え】						
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。	医療総合人間学3	医療総合人間学4		医療総合人間学6		
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)	医療総合人間学3	医療総合人間学4		医療総合人間学6		
3) 他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。(態度)	医療総合人間学3	医療総合人間学4		医療総合人間学6		
【医薬品の創製と供給に関わるころ構え】						
1) 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)				医療総合人間学6 薬事法関連法・制度	医薬品開発学	
2) 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)			医療薬剤学1	医療総合人間学6 コミュニケーション	医薬品開発学	
【自己学習・生涯学習】						
1) 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。 (知識・技能・態度)	医療総合人間学1 医療総合人間学3	医療総合人間学4		医療総合人間学6 コミュニケーション		
2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)	医療総合人間学1 医療総合人間学3	医療総合人間学4	医療薬剤学1	医療総合人間学6 薬事法関連法・制度 コミュニケーション		

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年			
(3) 信頼関係の確立を目指して										
【コミュニケーション】										
1)	言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。	医療総合人間学1 医療総合人間学3 ト、例話・ワカシ話1 ト、例話・ワカシ話2	医療総合人間学5			コミュニケーション マシン				
2)	意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。	医療総合人間学1 医療総合人間学3 ト、例話・ワカシ話1 ト、例話・ワカシ話2	医療総合人間学5			コミュニケーション マシン				
3)	相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。	医療総合人間学1 医療総合人間学3 ト、例話・ワカシ話1 ト、例話・ワカシ話2	医療総合人間学5			コミュニケーション マシン				
【相手の気持ちに配慮する】										
1)	対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。	医療総合人間学1 医療総合人間学3 健康科学演習1 健康科学演習2	医療総合人間学5			コミュニケーション マシン				
2)	相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)	医療総合人間学1 医療総合人間学3 健康科学演習1 健康科学演習2	医療総合人間学5			コミュニケーション マシン				
3)	対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)	医療総合人間学1 健康科学演習1 健康科学演習2	医療総合人間学5							
【患者の気持ちに配慮する】										
1)	病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。	医療総合人間学1 医療総合人間学3	医療総合人間学5			コミュニケーション マシン				
2)	患者の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)	医療総合人間学1 医療総合人間学3	医療総合人間学5			コミュニケーション マシン				
3)	患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)	医療総合人間学1 医療総合人間学3	医療総合人間学5			コミュニケーション マシン				
4)	患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。(態度)	医療総合人間学3	医療総合人間学5			コミュニケーション マシン				
5)	不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。(知識・態度)	医療総合人間学3	医療総合人間学5			コミュニケーション マシン				
【チームワーク】										
1)	チームワークの重要性を例示して説明できる。	医療総合人間学1 医療総合人間学3 健康科学演習1 健康科学演習2	医療総合人間学4 医療総合人間学5			医療総合人間学6 コミュニケーション マシン				
2)	チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。(態度)	医療総合人間学3 健康科学演習1 健康科学演習2	医療総合人間学4 医療総合人間学5			医療総合人間学6 コミュニケーション マシン				

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	医療総合人間学3 健康科学演習1 健康科学演習2	医療総合人間学4 医療総合人間学5		医療総合人間学6 コミュニケーションマシ		
3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求め。 (態度)						
【地域社会の人々との信頼関係】						
1) 薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。	医療総合人間学1 医療総合人間学3	医療総合人間学4 医療総合人間学5		医療総合人間学6 薬事法関連法・制度 コミュニケーションマシ		
2) 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。 (態度)	医療総合人間学3	医療総合人間学4 医療総合人間学5		医療総合人間学6 コミュニケーションマシ		
B インTRODUKESHON						
(1) 薬学への招待						
【薬学の歴史】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	医療総合人間学1			医療総合人間学6		
2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。	医療総合人間学1			医療総合人間学6		
【薬剤師の活動分野】						
1) 薬剤師の活動分野 (医療機関、製薬企業、衛生行政など) について概説できる。	医療総合人間学1 医療総合人間学3			医療総合人間学6 コミュニケーションマシ		
2) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。	医療総合人間学1 医療総合人間学2 医療総合人間学3			医療総合人間学6 コミュニケーションマシ		
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。	医療総合人間学1		医療薬剤学1	医療総合人間学6 薬事法関連法・制度 コミュニケーションマシ		
4) 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。	医療総合人間学1			医療総合人間学6 薬事法関連法・制度 コミュニケーションマシ		
5) 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。	医療総合人間学1 医療総合人間学2			医療総合人間学6 コミュニケーションマシ		
【薬について】						
1) 「薬とは何か」を概説できる。	医療総合人間学1 医療総合人間学3		医療薬剤学1	医療総合人間学6		医薬品開発学
2) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。	有機化学1 基礎有機化学実習 医療総合人間学1			医療総合人間学6		医薬品開発学
3) 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。	医療総合人間学1			医療総合人間学6 薬事法関連法・制度		医薬品開発学

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 種々の剤形とその使い方について概説できる。	医療総合人間学 1		剤形設計学 医療薬理学 1	医療総合人間学 6 コミュニケーション マシナー		薬局方総論
5) 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。	医療総合人間学 1		医療薬理学 1	医療総合人間学 6 コミュニケーション マシナー		
【現代社会と薬学との接点】						
1) 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。				医療総合人間学 6 薬事法関連法・制度		医薬品開発学
2) 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。				医療総合人間学 6		
3) 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。				医療総合人間学 6 医薬品安全工学		
【日本薬局方】						
1) 日本薬局方の意義と内容について概説できる。			剤形設計学			薬局方総論
【総合演習】						
1) 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度)	医療総合人間学 1 医療総合人間学 3			薬事法関連法・制度		
2) 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。(技能)						薬局方総論
(2) 早期体験学習						
1) 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。	早期体験学習 1					
2) 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度)	早期体験学習 1					
3) 製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。(知識・態度)	医療総合人間学 1 早期体験学習 1					
4) 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。(知識・態度)	医療総合人間学 1 早期体験学習 1					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)							
		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
C 薬学専門教育							
【物理系薬学を学ぶ】							
C1 物質の物理的性質							
(1) 物質の構造							
【化学結合】							
1) 化学結合の成り立ちについて説明できる。							
2) 軌道の混成について説明できる。		有機化学1 化学 化学演習					
3) 分子軌道の基本概念を説明できる。		有機化学1 化学 化学演習			薬品合成化学2		
4) 共役や共鳴の概念を説明できる。		有機化学1 化学演習	有機化学3				
【分子間相互作用】							
1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。							
2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。		有機化学1 化学 化学演習					
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。		有機化学1 化学 化学演習					
4) 分散力について例を挙げて説明できる。		化学 化学演習					
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。		基礎有機化学 有機化学1 生化学1 化学 化学演習					
6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。		化学演習					
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。		有機化学1 生化学1 化学 化学演習					

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						該 当 科 目					
						1年	2年	3年	4年	5年	6年
【原子・分子】											
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。						化学	有機 ¹ , 分析 ² , 物理・放射化学実習 機器分析学 放射化学 生物無機化学 分析化学実習	応用放射化学	生物物理化学		
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。							有機 ¹ , 分析 ² , 物理・放射化学実習 機器分析学 生物無機化学		生物物理化学		
3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。							有機 ¹ , 分析 ² , 物理・放射化学実習 機器分析学 生物無機化学		生物物理化学		
4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。						基礎有機化学 有機化学 1	有機 ¹ , 分析 ² , 物理・放射化学実習 機器分析学 生物無機化学				
5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能)							有機 ¹ , 分析 ² , 物理・放射化学実習 機器分析学 生物無機化学		生物物理化学		
6) 偏光および旋光性について説明できる。						基礎有機化学	有機 ¹ , 分析 ² , 物理・放射化学実習 機器分析学 生物無機化学		生物物理化学		
7) 散乱および干渉について説明できる。							生物無機化学		生物物理化学		
8) 結晶構造と回折現象について説明できる。							物理化学 3 生物無機化学		生物物理化学		
【放射線と放射能】											
1) 原子の構造と放射線について説明できる。							物理・放射化学実習 放射化学	応用放射化学			
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。							物理・放射化学実習 放射化学	応用放射化学			
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。							物理・放射化学実習 放射化学				
4) 核反応および放射平衡について説明できる。							物理・放射化学実習 放射化学	応用放射化学			
5) 放射線の測定原理について説明できる。							物理・放射化学実習 放射化学	応用放射化学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
(2) 物質の状態 I	該当科目				
	1年	2年	3年	4年	5年
【総論】					6年
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物理化学 1				
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	物理化学 1				
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	物理化学 1				
【エネルギー】					
1) 系、外界、境界について説明できる。	物理化学 1	物理化学 3			
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。	物理化学 1	物理化学 3			
3) 仕事および熱の概念を説明できる。	物理化学 1	物理化学 3			
4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	物理化学 1	物理化学 3			
5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。	物理化学 1	物理化学 3			
6) 代表的な過程 (変化) における熱と仕事を計算できる。(知識、技能)	物理化学 1	物理化学 3			
7) エンタルピーについて説明できる。	物理化学 1	物理化学 3			
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識、技能)	物理化学 1	物理化学 3			
9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。	物理化学 1	物理化学 3			
【自発的な変化】					
1) エントロピーについて説明できる。	物理化学 1	物理化学 3			
2) 熱力学第二法則について説明できる。	物理化学 1	物理化学 3			

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)	物理化学 1	物理化学 3				
4) 熱力学第三法則について説明できる。	物理化学 1	物理化学 3				
5) 自由エネルギーについて説明できる。		物理化学 2 生化学 2 物理化学 3				
6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)		物理化学 2 物理化学 3				
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。		物理化学 2 物理化学 3				
8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van' t Hoffの式) について説明できる。		物理化学 2 物理化学 3				
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。		物理化学 2 生化学 2				
(3) 物質の状態 II						
【物理平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。		物理化学 2 物理化学 3				
2) 相平衡と相律について説明できる。		物理化学 2 物理化学 3				
3) 代表的な状態図 (一成分系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。		物理化学 2 物理化学 3				
4) 物質の溶解平衡について説明できる。		物理・放射化学実習 物理化学 3				
5) 溶液の束一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。		物理・放射化学実習 物理化学 3				
6) 界面における平衡について説明できる。		物理化学 3				
7) 吸着平衡について説明できる。		物理化学 3				
8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)		物理化学 3				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						該 当 科 目					
						1年	2年	3年	4年	5年	6年
【溶液の化学】											
1) 化学ポテンシャルについて説明できる。							物理化学2 物理化学3				
2) 活量と活量係数について説明できる。						分析化学	物理化学2 物理化学3				
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。							物理化学2 物理化学3				
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。							物理化学3				
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。											
6) イオン強度について説明できる。						分析化学	物理化学3				
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückel の式) について説明できる。						分析化学	物理化学3				
【電気化学】											
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。						分析化学					
2) 標準電極電位について説明できる。						分析化学	生化学2 分析化学実習	応用分析学			
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。							生化学2				
4) Nernstの式が誘導できる。						分析化学	分析化学実習				
5) 濃淡電池について説明できる。						分析化学					
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。								分子細胞生物学			
(4) 物質の変化											
【反応速度】											
1) 反応次数と速度定数について説明できる。						化学	物理・放射化学実習 物理化学3	基礎薬剤学	薬物動態学3		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
2)	微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		物理・放射化学実習 物理化学3	基礎薬剤学	薬物動態学3		
3)	代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物理化学3	基礎薬剤学			
4)	代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物理・放射化学実習 物理化学3	基礎薬剤学	薬物動態学3		
5)	代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。		物理化学3	基礎薬剤学			
6)	反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)を説明できる。		物理・放射化学実習 物理化学3	基礎薬剤学			
7)	衝突理論について概説できる。		物理化学3				
8)	遷移状態理論について概説できる。	生化学1	物理化学3				
9)	代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。		物理化学3	基礎薬剤学			
10)	酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。	生化学1		生物科学実習	薬物動態学3 生物物理化学		
【物質の移動】							
1)	拡散および溶解速度について説明できる。			基礎薬剤学			
2)	沈降現象について説明できる。			基礎薬剤学			
3)	流動現象および粘度について説明できる。		物理・放射化学実習	基礎薬剤学			
C2 化学物質の分析							
(1) 化学平衡							
【酸と塩基】							
1)	酸・塩基平衡を説明できる。	基礎薬学実習 生化学1 化学 化学演習 分析化学	物理・放射化学実習 物理化学3 分析化学実習	基礎薬剤学 応用分析学			
2)	溶液の水素イオン濃度(pH)を測定できる。(技能)	基礎薬学実習 化学 化学演習 分析化学	物理・放射化学実習 分析化学実習				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
3)	溶液のpHを計算できる。(知識・技能)	基礎薬学実習 化学演習 分析化学	物理・放射化学実習 物理化学3 分析化学実習				
4)	緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。	基礎薬学実習 化学演習 分析化学	物理・放射化学実習 物理化学3 分析化学実習				
5)	代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。	基礎薬学実習 化学演習 分析化学	物理・放射化学実習 物理化学実習				
6)	化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。	生化学1 化学演習 分析化学	物理・放射化学実習 物理化学3 分析化学実習	有機化学4			
【各種の化学平衡】							
1)	錯体・キレート生成平衡について説明できる。	化学演習 分析化学		応用分析学			
2)	沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。	化学演習 分析化学		応用分析学			
3)	酸化還元電位について説明できる。	化学演習 分析化学					
4)	酸化還元平衡について説明できる。	化学演習 分析化学					
5)	分配平衡について説明できる。		物理・放射化学実習				
6)	イオン交換について説明できる。	生化学1		応用分析学			
(2) 化学物質の検出と定量							
【定性試験】							
1)	代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	基礎薬学実習	生物無機化学	応用分析学			
2)	日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。			応用分析学			薬局方総論
3)	日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。			応用分析学			薬局方総論
【定量の基礎】							
1)	実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)	基礎薬学実習 化学演習	分析化学実習	応用分析学 生物統計学演習			

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。	分析化学	分析化学実習	応用分析学			
3) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	分析化学	分析化学実習	応用分析学			
4) 日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。	分析化学	分析化学実習	応用分析学			
5) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。			応用分析学			
【容量分析】						
1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	基礎薬学実習 化学 化学演習 分析化学	分析化学実習	応用分析学			
2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	化学演習 分析化学		応用分析学			
3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	化学演習 分析化学		応用分析学			
4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	化学演習 分析化学		応用分析学			
5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	化学演習 分析化学	分析化学実習	応用分析学			
6) 電気滴定（電位差滴定、電気伝導度滴定など）の原理、操作法および応用例を説明できる。	基礎薬学実習 分析化学	機器分析学 分析化学実習	応用分析学			
7) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（技能）	分析化学	分析化学実習	応用分析学			
【金属元素の分析】						
1) 原子吸光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。		機器分析学	応用分析学 臨床化学			
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。		機器分析学	応用分析学 臨床化学			
【クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。	生化学1	機器分析学 分析化学実習	生物科学実習			薬局方総論
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。		機器分析学 分析化学実習				

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)	基礎有機化学実習	機器分析学 分析化学実習				
(3) 分析技術の臨床応用						
【分析の準備】						
1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)		機器分析学 分析化学実習	臨床化学			
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。			応用分析学 臨床化学			
【分析技術】						
1) 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			応用分析学 臨床化学			
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。			応用放射化学 応用分析学 臨床化学			
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)			応用分析学 臨床化学 生物科学実習			
4) 電気流動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		機器分析学	応用分析学 臨床化学 生物科学実習			
5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。			応用分析学 臨床化学			
6) 代表的なドラッグミストリーについて概説できる。			応用分析学 臨床化学			
7) 代表的な画像診断技術 (X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など) について概説できる。			応用放射化学	臨床検査学		
8) 画像診断薬 (造影剤、放射性医薬品など) について概説できる。		物理・放射化学実習	応用放射化学	臨床検査学		
9) 薬学領域で緊用されるその他の分析技術 (バイオイメージング、マイクロチップなど) について概説できる。			応用放射化学 臨床化学	臨床検査学		
【薬毒物の分析】						
1) 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。			衛生薬学 4			
2) 代表的な中毒原因物質 (乱用薬物を含む) のスクリーニング法を列挙し、説明できる。			衛生薬学 4			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)				衛生薬学実習			
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる							
(1) 生体分子を解析する手法							
【分光分析法】							
1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学 分析化学実習	臨床化学	生物物理化学		薬局方総論	
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。		機器分析学 分析化学実習	臨床化学	生物物理化学			
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。				生物物理化学			
4) 電子スピン共鳴 (ESR) スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。		生物無機化学		生物物理化学			
5) 旋光度測定法 (旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。				生物物理化学			
6) 代表的な生体分子 (核酸、タンパク質) の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)			生物科学実習	生物物理化学			
【核磁気共鳴スペクトル】							
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。		有機スベクトル解析学		生物物理化学		薬局方総論	
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。				生物物理化学			
【質量分析】							
1) 質量分析法の原理を説明できる。		有機スベクトル解析学		生物物理化学			
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。				生物物理化学			
【X線結晶解析】							
1) X線結晶解析の原理を概説できる。				生物物理化学		薬局方総論	
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。				生物物理化学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
【相互作用の解析法】	該当科目				
	1年	2年	3年	4年	5年 6年
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。				生物物理化学	
(2) 生体分子の立体構造と相互作用					
【立体構造】					
1) 生体分子 (タンパク質、核酸、脂質など) の立体構造を概説できる。	基礎有機化学 生化学 1		生物科学実習	生物物理化学	
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。	生化学 1			生物物理化学	
3) タンパク質の立体構造を規定する因子 (疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など) について、具体例を用いて説明できる。	基礎有機化学 生化学 1			生物物理化学	
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。	生化学 1			生物物理化学	
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	基礎有機化学		有機化学4	生物物理化学	
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。	生化学 1			生物物理化学	
【相互作用】					
1) 鍵と鎖穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。	生化学 1			医薬品化学 1 生物物理化学	
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。				医薬品化学 1 生物物理化学	
3) 脂質の水中における分子集合構造 (膜、ミセル、膜タンパク質など) について説明できる。	生化学 1			生物物理化学	
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的な要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。				医薬品化学 1 生物物理化学	
C4 化学物質の性質と反応					
【基本事項】					
(1) 化学物質の基本的性質					
【基本事項】					
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	基礎有機化学 有機化学 1 化学実習	有機化学3	有機化学4		
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	基礎有機化学 有機化学 1	有機化学3	有機化学4		

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。	有機化学1	有機化学3				
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。	基礎有機化学 有機化学1	有機化学2 有機化学3				
5) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離、転位) の特徴を概説できる。	基礎有機化学 有機化学1	有機化学2 有機化学3				
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。	有機化学1 化学演習					
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン) の構造と性質を説明できる。	有機化学1	有機化学2 有機化学3				
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。	基礎有機化学	有機化学2				
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。	基礎有機化学 有機化学1	有機化学2 有機化学3	有機化学4			
【有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。	基礎有機化学 有機化学1		薬品合成化学1	医薬品化学1 薬品合成化学2		
2) キラリティーと光学活性を概説できる。	基礎有機化学 有機化学1		薬品合成化学1	薬品合成化学2		
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	基礎有機化学 有機化学1 生化学1		薬品合成化学1	薬品合成化学2		
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。	有機化学1		薬品合成化学1	薬品合成化学2		
5) 絶対配置の表示法を説明できる。	基礎有機化学 有機化学1		薬品合成化学1			
6) Fischer投影式とNewman投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。	基礎有機化学 有機化学1		薬品合成化学1			
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。	基礎有機化学 有機化学1		薬品合成化学1			
【無機化合物】						
1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。		生物無機化学	薬品合成化学1	薬品合成化学2		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。			生物無機化学	薬品合成化学1	薬品合成化学2		
3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。			生物無機化学				
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。			生物無機化学		薬品合成化学2		
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。			生物無機化学				
【錯体】							
1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。			生物無機化学				
2) 配位結合を説明できる。			生物無機化学				
3) 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。			生物無機化学				
4) 錯体の安定定数について説明できる。			生物無機化学				
5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素 (キレート効果) について説明できる。			生物無機化学				
6) 錯体の反応性について説明できる。			生物無機化学				
7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。			生物無機化学				
(2) 有機化合物の骨格							
【アルカン】							
1) 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。	基礎有機化学 有機化学1			薬品合成化学1			
2) アルカンの基本的な物性について説明できる。	基礎有機化学 有機化学1			薬品合成化学1	医薬品化学1		
3) アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。	基礎有機化学 有機化学1			薬品合成化学1			
4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。	有機化学1			薬品合成化学1			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を图示できる。	有機化学1		薬品合成化学1			
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクワトリアル) を图示できる。	有機化学1		薬品合成化学1			
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	有機化学1		薬品合成化学1			
【アルケン・アルキンの反応性】						
1) アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。		有機化学2	薬品合成化学1			
2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を图示し、反応の立体特異性 (アンチ付加) を説明できる。		有機化学2	薬品合成化学1			
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性 (Markovnikov 則) について説明できる。	基礎有機化学	有機化学2	薬品合成化学1			
4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。	基礎有機化学	有機化学2	薬品合成化学1			
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。		有機化学3	薬品合成化学1			
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。		有機化学2	薬品合成化学1			
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。		有機化学2	薬品合成化学1			
【芳香族化合物の反応性】						
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。	基礎有機化学	有機化学3	薬品合成化学1	医薬品化学1		
2) 芳香族性 (Hückel 則) の概念を説明できる。		有機化学3	薬品合成化学1			
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。		有機化学3	薬品合成化学1			
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。		有機化学3	薬品合成化学1			
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。			有機化学4 薬品合成化学1			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						該当科目					
						1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 官能基											
【解説】											
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。						基礎有機化学	有機化学3	薬品合成化学1 有機化学4	薬品合成化学2		薬局方総論
2) 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。								薬品合成化学1	薬品合成化学2		
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。									医薬品化学1		
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)						基礎有機化学実習					
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)						基礎有機化学実習		有機化学実習			
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。						有機化学1		有機化学4			
【有機ハロゲン化合物】											
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						基礎有機化学	有機化学2	薬品合成化学1			
2) 求核置換反応 (S_N1 および S_N2 反応) の機構について、立体化学を含めて説明できる。							有機化学2	薬品合成化学1			
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性 (Saytzeff則) を説明できる。							有機化学2	薬品合成化学1			
【アルコール・フェノール・チオール】											
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						基礎有機化学	有機化学2	薬品合成化学1			
2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						基礎有機化学		有機化学4 薬品合成化学1			
3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。								有機化学4 薬品合成化学1			
【エーテル】											
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						基礎有機化学	有機化学2	薬品合成化学1			
2) オキソラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。							有機化学2 有機化学3	薬品合成化学1	薬品合成化学2		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】							
1)	アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学	有機化学3	薬品合成化学1 有機化学実習	薬品合成化学2		
2)	カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学		有機化学4 薬品合成化学1 有機化学実習			
3)	カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル)の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学実習		有機化学4 薬品合成化学1			
【アミン】							
1)	アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学		有機化学4 薬品合成化学1			
2)	代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。			有機化学4 薬品合成化学1			
【官能基の酸性度・塩基性度】							
1)	アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。		有機化学2	有機化学4	薬品合成化学2		
2)	アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。		有機化学2	有機化学4	薬品合成化学2		
3)	含窒素化合物の塩基性を説明できる。		有機化学2	有機化学4	薬品合成化学2		
(4) 化学物質の構造決定							
【総論】							
1)	化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		有機スเปクトル解析学				
【¹H NMR】							
1)	NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		有機スเปクトル解析学				薬局方総論
2)	化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。		有機スเปクトル解析学	有機化学実習			
3)	有機化合物中の代表的な水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。		有機スเปクトル解析学	有機化学実習			
4)	重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。		有機スเปクトル解析学				

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
5) ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。		有機ス ^ハ ケ ^ル 解析学	有機化学実習			
6) ¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する理由と、分裂様式を説明できる。		有機ス ^ハ ケ ^ル 解析学	有機化学実習			
7) ¹ H NMRのスピン結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。		有機ス ^ハ ケ ^ル 解析学	有機化学実習			
8) 代表的化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)		有機ス ^ハ ケ ^ル 解析学	有機化学実習			
【¹³C NMR】						
1) ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。		有機ス ^ハ ケ ^ル 解析学				
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。		有機ス ^ハ ケ ^ル 解析学				
【IRスペクトル】						
1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		有機ス ^ハ ケ ^ル 解析学				
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		有機ス ^ハ ケ ^ル 解析学	有機化学実習			
【紫外可視吸収スペクトル】						
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。		有機ス ^ハ ケ ^ル 解析学				
【マススペクトル】						
1) マススペクトルの概要と測定法を説明できる。		有機ス ^ハ ケ ^ル 解析学				
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。		有機ス ^ハ ケ ^ル 解析学				
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明ができる。		有機ス ^ハ ケ ^ル 解析学				
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴を説明できる。		有機ス ^ハ ケ ^ル 解析学				
5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。		有機ス ^ハ ケ ^ル 解析学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
6)	高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。		有機化学Ⅰ/解析学				
7)	基本的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)		有機化学Ⅰ/解析学				
【比旋光度】							
1)	比旋光度測定法の概略を説明できる。		有機化学Ⅰ/解析学				薬局方総論
2)	実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)		有機化学Ⅰ/解析学				
3)	比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。	有機化学1	有機化学Ⅰ/解析学				
4)	旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。		有機化学Ⅰ/解析学				
【総合演習】							
1)	代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)		有機化学Ⅰ/解析学				
C5 ターゲット分子の合成							
(1) 官能基の導入・変換							
1)	アルケンの代表的な合成法について説明できる。		有機化学2 有機化学3	有機化学実習			
2)	アルキンの代表的な合成法について説明できる。		有機化学2	薬品合成化学1			
3)	有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。		有機化学2	薬品合成化学1			
4)	アルコールの代表的な合成法について説明できる。		有機化学2 有機化学3	薬品合成化学1 有機化学実習	薬品合成化学2		
5)	フェノールの代表的な合成法について説明できる。		有機化学2	有機化学4 薬品合成化学1			
6)	エーテルの代表的な合成法について説明できる。		有機化学2	薬品合成化学1			
7)	アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。		有機化学3	薬品合成化学1	薬品合成化学2		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。		有機化学3	有機化学4 薬品合成化学1			
9) カルボン酸誘導体 (エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物) の代表的な合成法について説明できる。			有機化学4 薬品合成化学1 有機化学実習			
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。			有機化学4 薬品合成化学1	薬品合成化学2		
11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。		有機化学3	薬品合成化学1 有機化学実習	薬品合成化学2		
12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)		有機化学3		薬品合成化学2		
(2) 複雑な化合物の合成						
【医薬骨格の構築法】						
1) Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。		有機化学3	有機化学実習	薬品合成化学2		
2) 転位反応を用いた代表的な医薬骨格の構築法を列挙できる。		有機化学3	有機化学4	薬品合成化学2		
3) 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。	有機化学1	有機化学2 有機化学3	有機化学4	薬品合成化学2		
4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応 (アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など) について概説できる。		有機化学3	有機化学4 有機化学実習	薬品合成化学2		
【位置および立体選択性】						
1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。		有機化学3	有機化学4	薬品合成化学2		
2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。		有機化学2		薬品合成化学2		
【保護基】						
1) 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。			有機化学4	薬品合成化学2		
【光学活性化合物】						
1) 光学活性化合物を得るための代表的な手法 (光学分割、不斉合成など) を説明できる。	有機化学1		薬品合成化学1	薬品合成化学2		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					該当科目					
					1年	2年	3年	4年	5年	6年
【総合演習】										
1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)								薬品合成化学2		
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)					基礎有機化学実習			薬品合成化学2		
3) 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)					基礎有機化学実習		有機化学実習			
C6 生体分子・医薬品を化学で理解する										
(1) 生体分子のコアとパーツ										
【生体分子の化学構造】										
1) タンパク質の高次構造を規定する結合(アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など)および相互作用について説明できる。					基礎有機化学 生化学1		生物科学実習	医薬品化学1 生物物理化学		
2) 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。					基礎有機化学 生化学1	薬用天然物化学1	有機化学4 生物科学実習	医薬品化学1 生物物理化学		
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。					基礎有機化学 生化学1			医薬品化学1 生物物理化学		
4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。					基礎有機化学 生物学		有機化学4	医薬品化学1 生物物理化学		
5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。					生物学 生化学1			医薬品化学1 生物物理化学		
【生体内で機能する複素環】										
1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。								医薬品化学1		
2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。							有機化学4	医薬品化学1		
3) 複素環を含む代表的な補酵素(フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサル、葉酸など)の機能を化学反応性と関連させて説明できる。								医薬品化学1 医薬品化学2		
【生体内で機能する錯体・無機化合物】										
1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。						生物無機化学				
2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。					有機化学1	生物無機化学				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
3)	一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。		生物無機化学				
【化学から観る生体ダイナミクス】							
1)	代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。	生化学 1					
2)	代表的な酵素 (キモトリプシン、リボスクレアーゼなど) の作用機構を分子レベルで説明できる。	生化学 1	生化学 2				
3)	タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。		生化学 2				
(2) 医薬品のコアとパーツ							
【医薬品のコポーネント】							
1)	代表的な医薬品のコア構造 (ファーマコフォア) を指摘し、分類できる。				医薬品化学1 医薬品化学2		
2)	医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。				医薬品化学1 医薬品化学2		
【医薬品に含まれる複素環】							
1)	医薬品として複素環化合物が薬用される根拠を説明できる。			薬品合成化学1	医薬品化学1 薬品合成化学2		
2)	医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。				医薬品化学1		
3)	代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		有機化学2 有機化学3		医薬品化学1		
4)	代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。		有機化学3	薬品合成化学1	薬品合成化学2		
5)	代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。			薬品合成化学1	薬品合成化学2		
【医薬品と生体高分子】							
1)	生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。				医薬品化学1		
2)	生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。				医薬品化学1		
3)	分子模型、コンピュータソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。 (知識・技能)				医薬品化学1		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【生体分子を模倣した医薬品】						
1) カテコールアルミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			薬品合成化学1	医薬品化学1 薬品合成化学2		
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。				医薬品化学1		
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。				医薬品化学2		
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。				医薬品化学2		
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。				医薬品化学2		
【生体内分子と反応する医薬品】						
1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。				医薬品化学2		
2) インターカレーター的作用機序を図示し、説明できる。				医薬品化学2		
3) β-ラクタムを持つ医薬品的作用機序を化学的に説明できる。				医薬品化学2		
07 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【生薬とは何か】						
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。	生薬学1	生薬学2 生薬学実習				
2) 生薬の歴史について概説できる。	生薬学1	生薬学2				
3) 生薬の生産と流通について概説できる。	生薬学1	生薬学2				
【薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)	生薬学1	生薬学2 薬用天然物化学1	薬用天然物化学2			
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。	生薬学1	生薬学2 薬用天然物化学1	薬用天然物化学2			

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。	生薬学1	生薬学2				
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)	生薬学1	生薬学2 薬用天然物化学1	薬用天然物化学2			
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。		薬用天然物化学1	薬用天然物化学2			
【植物以外の医薬資源】						
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。	生薬学1	薬用天然物化学1	薬用天然物化学2			
【生薬成分の構造と合成】						
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。		薬用天然物化学1	薬用天然物化学2			
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。			薬用天然物化学2			
3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。			薬用天然物化学2			
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。			薬用天然物化学2			
5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		薬用天然物化学1				
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		薬用天然物化学1				
7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。		薬用天然物化学1				
【農薬、香粧品としての利用】						
1) 天然物質の農薬、香粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。			薬用天然物化学2			
【生薬の同定と品質評価】						
1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。	生薬学1	生薬学2				
2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)	生薬学1	生薬学2 生薬学実習				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)	生薬学1	生薬学2 生薬学実習				
4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)	生薬学1	生薬学2 生薬学実習				
5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。	生薬学1	生薬学2				
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【シーズの探索】						
1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。		薬用天然物化学1	薬用天然物化学2	医薬品化学1		
2) シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。		生薬学2				
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。	生薬学1					
【天然物質の取扱い】						
1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能)	基礎有機化学実習					
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。		薬用天然物化学1				
【微生物が生み出す医薬品】						
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。				医薬品化学1		
【発酵による医薬品の生産】						
1) 微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程を概説できる。				医薬品化学2		
【発酵による有用物質の生産】						
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。			薬用天然物化学2			
(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬						
【漢方医学の基礎】						
1) 漢方医学の特徴について概説できる。		生薬学2				東洋医学概論
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。	生薬学1	生薬学2				東洋医学概論

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
3)	漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。	生薬学1	生薬学2				東洋医学概論
4)	漢方処方と「証」との関係について概説できる。		生薬学2				東洋医学概論
5)	代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。		生薬学2 生薬学実習				東洋医学概論
6)	漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。	生薬学1	生薬学2				東洋医学概論
7)	漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。			医療薬剤学1			東洋医学概論
【漢方処方の応用】							
1)	代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。	生薬学1	生薬学2				東洋医学概論
2)	漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。	生薬学1	生薬学2	医療薬剤学1			東洋医学概論
【生物系薬学を学ぶ】							
C8 生命体の成り立ち							
(1) ヒトの成り立ち							
【概論】							
1)	ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	機能形態学1 早期体験学習2 人体の構造と機能	機能形態学2 病態生理学2				
2)	ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。	機能形態学1 早期体験学習2 人体の構造と機能	機能形態学2 病態生理学2				
【神経系】							
1)	中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	機能形態学1 早期体験学習2 人体の構造と機能		薬理学3	薬物治療学3		
2)	体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。	機能形態学1 早期体験学習2 人体の構造と機能			薬物治療学3		
3)	自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。	機能形態学1 早期体験学習2 人体の構造と機能			薬物治療学3		
【骨格系・筋肉系】							
1)	主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学1 早期体験学習2 人体の構造と機能		薬物治療学2			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。		機能形態学1 早期体験学習2 人体の構造と機能		薬物治療学2			
【皮膚】							
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体の構造と機能 病態生理学1		薬物動態学1 薬物治療学2			
【循環器系】							
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。		早期体験学習2 人体の構造と機能 病態生理学1	機能形態学2 病態生理学2				
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。		早期体験学習2 人体の構造と機能 病態生理学1	機能形態学2 病態生理学2	薬物治療学1			
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体の構造と機能 病態生理学1	機能形態学2 病態生理学2				
【呼吸器系】							
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。		早期体験学習2 人体の構造と機能	機能形態学2 病態生理学2				
【消化器系】							
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。		早期体験学習2 人体の構造と機能	機能形態学2	薬物治療学2			
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。		早期体験学習2 人体の構造と機能	機能形態学2	薬物治療学2			
【泌尿器系】							
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		早期体験学習2 人体の構造と機能	機能形態学2 病態生理学2	薬物治療学1			
【生殖器系】							
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体の構造と機能	病態生理学2	薬物治療学1			
【内分泌系】							
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		人体の構造と機能	病態生理学2	薬物治療学1	薬物治療学3		
【感覚器系】							
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。		早期体験学習2 人体の構造と機能 病態生理学1	機能形態学2		薬物治療学3		

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目				
		1年	2年	3年	4年	5年
【血液・造血器系】						
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	人体の構造と機能 病態生理学1			免疫学 病態生化学		
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。	生物学 人体の構造と機能 生物学実習					
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	生物学 人体の構造と機能 生物学実習	病態生理学2				
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)	生物学実習					
【細胞膜】						
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。	生物学 生化学1					
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。	生物学 生化学1					
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。	生物学					
【細胞内小器官】						
1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。	生物学			病態生化学		
【細胞の分裂と死】						
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。	基礎細胞生物学 生物学実習					
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。	基礎細胞生物学					
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。	基礎細胞生物学 人体の構造と機能 病態生理学1			病態生化学		
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。	基礎細胞生物学	病態生理学2		病態生化学	薬物治療学4	
【細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	生物学					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。		生化学 1					
(3) 生体の機能調節							
【神経・筋の調節機構】							
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	機能形態学 1 人体の構造と機能	薬理学 1			薬物治療学 3		
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。	機能形態学 1 人体の構造と機能	薬理学 1	薬物治療学 1		薬物治療学 3		
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	機能形態学 1 人体の構造と機能	機能形態学 2			薬物治療学 3		
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。	生化学 1 機能形態学 1 早期体験学習 2	薬理学 1			薬物治療学 3		
【ホルモンによる調節機構】							
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。		病態生理学 2	分子細胞生物学 薬物治療学 1 病態生化学		薬理学 4		
2) 血糖の調節機構を説明できる。		生化学 2 病態生理学 2	分子細胞生物学 薬物治療学 1 病態生化学		薬理学 4		
【循環・呼吸系の調節機構】							
1) 血圧の調節機構を説明できる。		機能形態学 2 病態生理学 2	薬物治療学 1 薬理学 2 病態生化学				
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。	早期体験学習 2	機能形態学 2 病態生理学 2	薬物治療学 1				
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。	病態生理学 1	薬理学 2 病態生化学 薬物治療学 2					
【体液の調節機構】							
1) 体液の調節機構を説明できる。	病態生理学 1	機能形態学 2 病態生理学 2	薬物治療学 1 病態生化学				
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。	病態生理学 1	病態生理学 2	薬物治療学 1 薬理学 2 病態生化学				
【消化・吸収の調節機構】							
1) 消化、吸収、吸収における神経の役割について説明できる。	人体の構造と機能	機能形態学 2	薬物動態学 1 病態生化学 薬物治療学 2				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目				
		1年	2年	3年	4年	5年
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。	人体の構造と機能	機能形態学2 病態生理学2	薬動態学1 病態生化学 薬物治療学2			
【体温の調節機構】						
1) 体温の調節機構を説明できる。	人体の構造と機能		病態生化学			
(4) 小さな生き物たち						
【総論】						
1) 生態系の中での微生物の役割について説明できる。		微生物学		臨床感染症学		
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。	生物学 基礎細胞生物学	微生物学		臨床感染症学		
【細菌】						
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。		微生物学		薬物治療学4 臨床感染症学		
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。		微生物学		薬物治療学4 臨床感染症学		
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。		微生物学 病態生理学2	衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。		微生物学 病態生理学2	衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		
5) 腸内細菌の役割について説明できる。		微生物学	衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		
6) 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。		微生物学		薬物治療学4 臨床感染症学		
【細菌毒素】						
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		微生物学 病態生理学2	衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		
【ウイルス】						
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。		微生物学		薬物治療学4 臨床感染症学		
2) ウイルスの分類法について概説できる。		微生物学 病態生理学2		薬物治療学4 臨床感染症学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目				
	1年	2年	3年	4年	5年
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。		微生物学		薬物治療学4 臨床感染症学	5年
【真菌・原虫・その他の微生物】					
1) 主な真菌の性状について説明できる。		微生物学 病態生理学2		薬物治療学4 臨床感染症学	
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。		微生物学		薬物治療学4 臨床感染症学	
【消毒と滅菌】					
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。	生物学実習	微生物学	衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学	
2) 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度) (OSCEの対象)	生物学実習			臨床感染症学	
3) 主な滅菌法を実施できる。(技能) (OSCEの対象)	生物学実習				
【検出方法】					
1) グラム染色を実施できる。(技能)	生物学実習				
2) 無菌操作を実施できる。(技能)	生物学実習		生物科学実習		
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)	生物学実習		生物科学実習		
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法(生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験)について説明できる。				臨床感染症学	
5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)					
C9 生命をミクロに理解する					
(1) 細胞を構成する分子					
【脂質】					
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	生物学		衛生薬学3 病態生化学		
2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。	生物学		衛生薬学3 病態生化学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 脂肪酸の生合成経路を説明できる。		生化学2	衛生薬学3 病態生化学	医薬品化学2		
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。		生化学2 病態生理学2	衛生薬学3 薬物治療学1 病態生化学	医薬品化学2		
【糖質】						
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	生物学 生化学1		衛生薬学3 生物科学実習 病態生化学	医薬品化学1		
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学 生化学1		衛生薬学3 病態生化学	医薬品化学1		
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。	生物学 生化学1		衛生薬学3 病態生化学			
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)	生化学1		生物科学実習			
【アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生物学 生化学1		衛生薬学3 病態生化学	医薬品化学1		
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。		生化学2	衛生薬学3 病態生化学			
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)						
【ビタミン】						
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。			衛生薬学3	医薬品化学1		
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。			衛生薬学3	医薬品化学1		
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。			衛生薬学3	医薬品化学1		
(2) 生命情報担う遺伝子						
【ヌクレオチドと核酸】						
1) 核酸塩基の代謝(生合成と分解)を説明できる。		生化学2 生化学3				
2) DNAの構造について説明できる。	生物学 基礎細胞生物学	生化学3				

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) RNAの構造について説明できる。	生物学 基礎細胞生物学	生化学3					
【遺伝情報を担う分子】							
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。	基礎細胞生物学	生化学3					
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3					
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3					
4) 染色体の構造を説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3					
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど）を説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3	分子細胞生物学				
6) RNAの種類と働きについて説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3					
【転写と翻訳のメカニズム】							
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3					
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3	分子細胞生物学				
3) RNAのプロセッシングについて説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3					
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3					
5) リボソームの構造と機能について説明できる。	生物学 基礎細胞生物学	生化学3					
【遺伝子の複製・変異・修復】							
1) DNAの複製の過程について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3					
2) 遺伝子の変異（突然変異）について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3					
3) DNAの修復の過程について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
【遺伝子多型】			生化学 3	薬物動態学 2		
1) 一塩基変異 (SNPs) が機能におよぼす影響について概説できる。						
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【タンパク質の構造と機能】						
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。	生化学 1			病態生化学		
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。	生化学 1			病態生化学		
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。	生化学 1	生化学 2		分子細胞生物学 病態生化学		
【酵素】						
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	生化学 1					
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。	生化学 1	生化学 2				
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生化学 1	生化学 2 生物無機化学				
4) 酵素反応速度論について説明できる。	生化学 1			生物科学実習		
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生化学 1	生化学 2				
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)				生物科学実習		
【酵素以外の機能タンパク質】						
1) 細胞内外の物質や情報の受容に必要なタンパク質 (受容体、チャネルなど) の構造と機能を概説できる。				分子細胞生物学		
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。		生化学 2		病態生化学		
3) 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。		生化学 2 病態生理学 2		衛生薬学 3 薬物治療学 1 病態生化学		
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。				分子細胞生物学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。	生物学						
【タンパク質の取扱い】							
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)				生物科学実習			
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)	生化学1			生物科学実習			
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。	生化学1						
(4) 生体エネルギー							
【栄養素の利用】							
1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。	生物学	生化学2 病態生理学2		衛生薬学3 薬物動態学1		臨床栄養学	
【ATPの産生】							
1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。	生物学	生化学2				臨床栄養学	
2) 解糖系について説明できる。	生物学	生化学2				臨床栄養学	
3) クエン酸回路について説明できる。	生物学	生化学2				臨床栄養学	
4) 電子伝達系(酸化リン酸化)について説明できる。	生物学	生化学2				臨床栄養学	
5) 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。		生化学2		衛生薬学3		臨床栄養学	
6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。	生物学	生化学2				臨床栄養学	
7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。	生物学	生化学2				臨床栄養学	
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。		生化学2				臨床栄養学	
9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。		生化学2				臨床栄養学	

	該当科目				
	1年	2年	3年	4年	5年
	生物学	生化学2		臨床栄養学	6年
10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。					
【飢餓状態と適食状態】					
1) グリコーゲンの役割について説明できる。	早期体験学習2	生化学2 病態生理学2	病態生化学	臨床栄養学	
2) 糖新生について説明できる。		生化学2 病態生理学2	病態生化学	臨床栄養学	
3) 飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。		生化学2 病態生理学2	衛生薬学3 薬物治療学1 病態生化学	臨床栄養学	
4) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。		生化学2 病態生理学2	衛生薬学3 病態生化学	臨床栄養学	
5) 食餌性の血糖変動について説明できる。	早期体験学習2	生化学2 病態生理学2	病態生化学	臨床栄養学	
6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。	早期体験学習2	生化学2 病態生理学2	分子細胞生物学 病態生化学	臨床栄養学	
7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。		生化学2	衛生薬学3 病態生化学	臨床栄養学	
8) ケトン原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。		生化学2	衛生薬学3 病態生化学	臨床栄養学	
(5) 生理活性分子とシグナル分子					
【ホルモン】					
1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		病態生理学2	分子細胞生物学 薬物治療学1 薬理学2 病態生化学	薬理学4	
2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		病態生理学2	分子細胞生物学 薬物治療学1 病態生化学	薬理学4	
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		病態生理学2	分子細胞生物学 薬物治療学1 病態生化学	薬理学4	
4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。		病態生理学2	分子細胞生物学 薬物治療学1 病態生化学	薬理学4	
【オートコイドなど】					
1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。		病態生理学2	分子細胞生物学 薬理学2 病態生化学	医薬品化学2 薬物治療学4	

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。		病態生理学 2	分子細胞生物学 薬理学 2 病態生理学	医薬品化学2 薬物治療学 4		
3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義 (生理活性) を説明できる。		病態生理学 2	分子細胞生物学 薬理学 2 病態生理学	医薬品化学2 薬物治療学 4		
4) 主な生理活性アミン (セロトニン、ヒスタミンなど) の生合成と役割について説明できる。		病態生理学 2	分子細胞生物学 薬理学 2 病態生理学	医薬品化学2 薬物治療学 4		
5) 主な生理活性ペプチド (アンギオテンシン、ブラジキニンなど) の役割について説明できる。		病態生理学 2	分子細胞生物学 薬理学 2 病態生理学	医薬品化学2 薬物治療学 4		
6) 一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。			分子細胞生物学 薬理学 2			
【神経伝達物質】						
1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		薬理学 1	分子細胞生物学 薬理学 3	医薬品化学1		
2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		薬理学 1	分子細胞生物学 薬理学 3			
3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		薬理学 1	分子細胞生物学			
4) アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。		薬理学 1	分子細胞生物学			
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		病態生理学 2	免疫学 分子細胞生物学	薬物治療学 4		
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。		病態生理学 2	免疫学 分子細胞生物学			
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		病態生理学 2	免疫学 分子細胞生物学			
【細胞内情報伝達】						
1) 細胞内情報伝達に關与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げ、て説明できる。		薬理学 1	分子細胞生物学			
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。		薬理学 1	分子細胞生物学			
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。		薬理学 1	分子細胞生物学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
4) 代表的な細胞内 (核内) 受容体の具体例を挙げて説明できる。			薬理学 1	分子細胞生物学					
(6) 遺伝子を操作する									
【遺伝子操作の基本】									
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。				応用分子生物学					
2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能)				生物科学実習					
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)				生物科学実習					
4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。(態度)				応用分子生物学					
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)				応用分子生物学					
【遺伝子のクローニング技術】									
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。				応用分子生物学					
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。				応用分子生物学					
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。				応用分子生物学					
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)				応用分子生物学					
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。				応用分子生物学					
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。				応用分子生物学 生物科学実習					
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)				生物科学実習					
【遺伝子機能の解析技術】									
1) 細胞 (組織) における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。				応用分子生物学					

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。			応用分子生物学			
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。			応用分子生物学			
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。			応用分子生物学			
C10 生体防御						
(1) 身体をまもる						
【生体防御反応】						
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。	生物学		免疫学 衛生薬学4 病態生化学	臨床感染症学		
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。	生物学		免疫学 病態生化学	臨床感染症学		
3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。			免疫学 病態生化学	臨床感染症学		
4) 免疫反応の特徴（自己と非自己、特異性、記憶）を説明できる。	生物学		免疫学 病態生化学	臨床感染症学		
5) クローン選択説を説明できる。			免疫学 病態生化学	臨床感染症学		
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。	生物学	病態生理学2	免疫学 病態生化学	薬物治療学4 臨床感染症学		
【免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。	生物学	病態生理学2	免疫学 病態生化学	薬物治療学4 臨床感染症学		
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。	生物学	病態生理学2	免疫学 病態生化学	薬物治療学4 臨床感染症学		
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。	生物学	病態生理学2	免疫学 病態生化学	薬物治療学4 臨床感染症学		
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。	生物学	病態生理学2	免疫学 病態生化学	薬物治療学4 臨床感染症学		
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。	生物学 生化学1		免疫学 病態生化学	臨床感染症学		

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
2) MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。			免疫学 病態生化学	臨床感染症学		
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。		病態生理学 2	免疫学 病態生化学	薬物治療学 4 臨床感染症学		
4) 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構 (遺伝子再構成) を概説できる。			免疫学 病態生化学	臨床感染症学		
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。		病態生理学 2	免疫学 分子細胞生物学 病態生化学	薬物治療学 4 臨床感染症学		
(2) 免疫系の破壊・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾患】						
1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。	生物学 人体の構造と機能	病態生理学 2	免疫学 病態生化学	薬物治療学 4 臨床感染症学		
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		病態生理学 2	免疫学 病態生化学	薬物治療学 4 臨床感染症学		
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。		病態生理学 2	免疫学 病態生化学	薬物治療学 4 臨床感染症学		
4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。		病態生理学 2	免疫学 病態生化学	薬物治療学 4 臨床感染症学		
【免疫応答のコントロール】						
1) 臓器移植と免疫反応の関わり (拒絶反応、免疫抑制剤など) について説明できる。	生物学	病態生理学 2	免疫学 病態生化学	薬物治療学 4 臨床感染症学		
2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。		病態生理学 2	免疫学 衛生薬学 4	薬物治療学 4 臨床感染症学		
3) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。		病態生理学 2	免疫学	薬物治療学 4 臨床感染症学		
4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。			免疫学	薬物治療学 4 臨床感染症学		
【予防接種】						
1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。			免疫学 衛生薬学 4	薬物治療学 4 臨床感染症学		
2) 主なワクチン (生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン) について基本的特徴を説明できる。		病態生理学 2	衛生薬学 4	臨床感染症学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。			衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		
【免疫反応の利用】						
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。			免疫学	臨床感染症学		
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。			応用分析学	臨床感染症学		
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。(技能)	生物学実習					
4) ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。(技能)						
(3) 感染症にかか						
【代表的な感染症】						
1) 主なDNAウイルス (Δサイトメガロウイルス、ΔEBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、Δアデノウイルス、ΔパルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。		病原微生物学	衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		
2) 主なRNAウイルス (Δポリオウイルス、Δコクサッキーウイルス、Δエコーウイルス、Δライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、Δ麻疹ウイルス、Δムンプスウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。		病原微生物学	衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		
3) レトロウイルス (HIV、HTLV) が引き起こす疾患について概説できる。		病原微生物学	衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		
4) グラム陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		病原微生物学	衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		
5) グラム陰性球菌 (淋菌、Δ髄膜炎菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		病原微生物学	衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		
6) グラム陽性桿菌 (破傷風菌、Δガス壊疽菌、ボツリヌス菌、Δジフテリア菌、Δ炭疽菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		病原微生物学	衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		
7) グラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、Δチフス菌、Δペスト菌、コレラ菌、Δ百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、Δフルセラ菌、レジオネラ菌、Δインフルエンザ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		病原微生物学	衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		
8) グラム陰性スピリillum属病原菌 (ヘリコバクター・ピロリ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		病原微生物学	衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		
9) 抗酸菌 (結核菌、非定型抗酸菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		病原微生物学	衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		
10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		病原微生物学	衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
11) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、△ムーコル) の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		病原微生物学	衛生薬学3 衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		
12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。		病原微生物学	衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		
13) プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。		病原微生物学	衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		
【感染症の予防】						
1) 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。		病原微生物学	衛生薬学4	薬物治療学4 臨床感染症学		
【健康と環境】						
C11 健康						
(1) 栄養と健康						
【栄養素】						
1) 栄養素 (三大栄養素、ビタミン、ミネラル) を列挙し、それぞれの役割について説明できる。			衛生薬学3	臨床栄養学		
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。		生化学2	衛生薬学3	臨床栄養学		
3) 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。			衛生薬学3	臨床栄養学		
4) 食品中のタンパク質の栄養的な価値 (栄養価) を説明できる。			衛生薬学3	臨床栄養学		
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。			衛生薬学3	臨床栄養学		
6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。			衛生薬学3	臨床栄養学		
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。			衛生薬学3	臨床栄養学		
8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。			衛生薬学3	臨床栄養学		
【食品の品質と管理】						
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。			衛生薬学3			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 油脂が変化する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)			衛生薬学3 衛生薬学実習			
3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。			衛生薬学3			
4) 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。			衛生薬学3			
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。			衛生薬学3			
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。			衛生薬学3			
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。			衛生薬学3			
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)			衛生薬学3 衛生薬学実習			
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。			衛生薬学3			
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)			衛生薬学3			
【食中毒】						
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。		病態生理学2	衛生薬学3			
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		病態生理学2	衛生薬学3			
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。			衛生薬学3			
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。			衛生薬学3			
5) 化学物質(重金属、残留農薬など)による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。		生物無機化学	衛生薬学3			
(2) 社会・集団と健康						
【保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			衛生薬学4	医療総合人間学7		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 人口動態と人口動態について説明できる。			衛生薬学4	医療総合人間学7		
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。			衛生薬学4	医療総合人間学7		
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。			衛生薬学4	医療総合人間学7		
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。			衛生薬学4	医療総合人間学7		
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。			衛生薬学4	医療総合人間学7		
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。			衛生薬学4	医療総合人間学7		
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。(知識・態度)			衛生薬学4	医療総合人間学7		
【疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			衛生薬学4	医療総合人間学7		
2) 疫学の三要因(病因、環境要因、宿主要因)について説明できる。			衛生薬学4	医療総合人間学7		
3) 疫学の種類(記述疫学、分析疫学など)とその方法について説明できる。			衛生薬学4	医療総合人間学7		
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。(知識・技能)			衛生薬学4	医療総合人間学7		
5) 要因・対照研究(コホート研究)の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。(知識・技能)			衛生薬学4	医療総合人間学7		
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。			衛生薬学4	医療総合人間学7 医療情報学		
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。			衛生薬学4	医療総合人間学7 医療情報学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 疾病の予防							
【健康とは】							
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。	病態生理学 1		衛生薬学 4				
2) 世界保健機構 (WHO) の役割について概説できる。			衛生薬学 4				
【疾病の予防とは】							
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。	病態生理学 1	病態生理学 2	衛生薬学 4 薬物治療学 1				
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。			衛生薬学 4				
3) 新生児マスタスクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。	病態生理学 1	病態生理学 2	衛生薬学 4				
4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。(態度)			衛生薬学 4				
【感染症の現状とその予防】							
1) 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、国際感染症など) の特徴について説明できる。	病態生理学 1		衛生薬学 4	薬物治療学 4 臨床感染症学			
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。	病態生理学 1		衛生薬学 4	薬物治療学 4 臨床感染症学			
3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。	病態生理学 1		衛生薬学 4	薬物治療学 4 臨床感染症学			
4) 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。	病態生理学 1		衛生薬学 4	薬物治療学 4 臨床感染症学			
5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。	病態生理学 1		衛生薬学 4	薬物治療学 4 臨床感染症学			
6) 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。	病態生理学 1		衛生薬学 4	臨床感染症学			
【生活習慣病とその予防】							
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。	医療総合人間学 2 病態生理学 1	病態生理学 2	衛生薬学 3 衛生薬学 4 病態生理学 4	薬物治療学 4			
2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。	医療総合人間学 2 病態生理学 1	病態生理学 2	衛生薬学 3 衛生薬学 4 病態生理学 4	薬物治療学 4			

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。	医療総合人間学2	病態生理学2	衛生薬学3 衛生薬学4 病態生化学	薬物治療学4		
【職業病とその予防】						
1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。	病態生理学1	病態生理学2	衛生薬学4			
C12 環境						
(1) 化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。		衛生薬学1				
2) 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。		衛生薬学1	薬物動態学2			
3) 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。		衛生薬学1	薬物動態学2			
【化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。		衛生薬学1				
2) 変異原性試験 (Ames試験など) の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		衛生薬学1		医薬品安全性学		
3) 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。		衛生薬学1		薬物治療学4 医薬品安全性学		
4) 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。		衛生薬学1	分子細胞生物学	薬物治療学4		
【化学物質の毒性】						
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。		衛生薬学1	衛生薬学4	医薬品安全性学		
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。		衛生薬学1	衛生薬学4 薬物治療学1	薬物治療学4 医薬品安全性学		
3) 重金属、農薬、POB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。		衛生薬学1	衛生薬学4	医薬品安全性学		
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。		衛生薬学1	衛生薬学4			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOEL) などについて概説できる。		衛生薬学1	衛生薬学4	医薬品安全性学		
6) 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。		衛生薬学1	衛生薬学4	医薬品安全性学		
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法など) を説明できる。		衛生薬学1	衛生薬学4			
8) 環境ホルモン (内分泌攪乱化学物質) が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。 (態度)		衛生薬学1				
【化学物質による中毒と処置】						
1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。		衛生薬学1		医薬品安全性学		
2) 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)		衛生薬学1		医薬品安全性学		
【電離放射線の生体への影響】						
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。			応用放射化学			
2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。			応用放射化学			
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。			応用放射化学			
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子 (酸素効果など) について説明できる。			応用放射化学			
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。			応用放射化学			
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。			応用放射化学			
【非電離放射線の生体への影響】						
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。		衛生薬学2 放射化学	応用放射化学			
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。		衛生薬学2				
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。		衛生薬学2				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目							
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
(2) 生活環境と健康									
【地球環境と生態系】									
1)	地球環境の成り立ちについて概説できる。		衛生薬学2		医療総合人間学6				
2)	生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。		衛生薬学2		医療総合人間学6				
3)	人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)				医療総合人間学6				
4)	地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。		衛生薬学2		医療総合人間学6				
5)	食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。		衛生薬学2		医療総合人間学6				
6)	化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。		衛生薬学2		医療総合人間学6				
7)	環境中に存在する主な放射性核種(天然、人工)を挙げ、人の健康への影響について説明できる。		放射化学	応用放射化学					
【水環境】									
1)	原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。		衛生薬学2						
2)	水の浄化法について説明できる。		衛生薬学2						
3)	水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。		衛生薬学2						
4)	水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)		衛生薬学2	衛生薬学実習					
5)	下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。		衛生薬学2						
6)	水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。		衛生薬学2	衛生薬学実習					
7)	DO, BOD, CODを測定できる。(技能)		衛生薬学2	衛生薬学実習					
8)	富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。		衛生薬学2		医療総合人間学6				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【大気環境】						
1) 空気の成分を説明できる。		衛生薬学2				
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。		衛生薬学2		医療総合人間学6		
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)		衛生薬学2	衛生薬学実習	医療総合人間学6		
4) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。		衛生薬学2				
【室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)		衛生薬学2	衛生薬学実習			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。		衛生薬学2				
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。		衛生薬学2				
4) シックハウス症候群について概説できる。		衛生薬学2				
【廃棄物】						
1) 廃棄物の種類を列挙できる。		衛生薬学2		医療総合人間学6		
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。		衛生薬学2		医療総合人間学6		
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度)		衛生薬学2		医療総合人間学6		
4) マニフェスト制度について説明できる。		衛生薬学2		医療総合人間学6		
5) PRTR法について概説できる。		衛生薬学2		医療総合人間学6		
【環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。		衛生薬学2		医療総合人間学6		

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
2) 環境基本法の理念を説明できる。		衛生薬学2		医療総合人間学6		
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。		衛生薬学2		医療総合人間学6		
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。		衛生薬学2		医療総合人間学6		
【薬と疾病】						
C13 薬の効くプロセス						
【薬の作用】						
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学1	医療薬理学1	医薬品安全性学		
2) アゴニストとアントゴニストについて説明できる。		薬理学1	薬理学3			
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。		薬理学1	薬理学3			
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。		薬理学1				
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。		薬理学1				
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。		薬理学1	医療薬理学1	医薬品安全性学		
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。		薬理学1	薬物動態学2 医療薬理学1	医薬品安全性学		
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。		薬理学1		薬物治療学3 医薬品安全性学		
【薬の運命】						
1) 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。		薬理学1	薬物動態学1 医療薬理学1	薬理学実習 医薬品安全性学		臨床薬学統合演習
2) 薬物の代表的な投与方法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。		薬理学1	剤形設計学 薬物動態学1 医療薬理学1	薬理学実習 医薬品安全性学		臨床薬学統合演習
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。			剤形設計学 薬物動態学1	薬理学実習		臨床薬学統合演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。			薬物動態学1	薬剤学実習		臨床薬学統合演習
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。			薬物動態学1	薬剤学実習 薬物動態学3		臨床薬学統合演習
【薬の副作用】						
1) 薬物の主作用と副作用 (有害作用)、毒性との関連について説明できる。		薬理学1		医療総合人間学6 薬物治療学4 医薬品安全性学		臨床薬学統合演習
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。		薬理学1		薬物治療学4 医薬品安全性学		臨床薬学統合演習
【動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度)	生物学実習		薬理学実習	医療総合人間学6 薬剤学実習		
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)	生物学実習		薬理学実習			
3) 実験動物での代表的な薬物投与方法を実施できる。(技能)			薬理学実習			
(2) 薬の効き方						
【中枢神経系に作用する薬】						
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学3	医薬品安全性学		
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学3	医薬品安全性学		
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学3	薬物治療学4 医薬品安全性学		
4) 代表的な中枢神経疾患 (てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など) の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	早期体験学習2		薬理学3	薬物治療学3 医薬品安全性学		
5) 代表的な精神疾患 (統合失調症、うつ病など) の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学3	薬物治療学3 医薬品安全性学		
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。			薬理学実習			
【自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬理学1		薬物治療学1	薬物治療学3 医薬品安全性学		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 1	薬物治療学 1 薬物治療学 2	薬物治療学 3 医薬品安全性学		
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 1		薬物治療学 3 医薬品安全性学		
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能) △技能であるからCBTには馴染まない			薬理学実習	医薬品安全性学		
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 1				
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 1				
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)			薬理学実習			
【循環器系に作用する薬】						
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬物治療学 1 薬理学 2	医薬品安全性学		
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬物治療学 1 薬理学 2	医薬品安全性学		
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬物治療学 1 薬理学 2	医薬品安全性学		
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬物治療学 1 薬理学 2	医薬品安全性学		
【呼吸器系に作用する薬】						
1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬物治療学 1 薬理学 3	医薬品安全性学		
2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬物治療学 1 薬理学 3	医薬品安全性学		
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学 1	薬物治療学 1 薬理学 3	医薬品安全性学		
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。				医薬品化学 1 医薬品化学 2		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年			
(3) 薬の効き方II										
【ホルモンと薬】										
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			薬物治療学1	薬理学4						
2) 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬物治療学1	薬物治療学4 薬理学4						
3) 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬物治療学1	薬理学4						
【消化器系に作用する薬】										
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				薬理学3 薬物治療学2	医薬品安全性学					
2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				薬理学3 薬物治療学2	医薬品安全性学					
3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。				薬理学3 薬物治療学2	医薬品安全性学					
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				薬理学3 薬物治療学2	医薬品安全性学					
5) 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				薬理学3 薬物治療学2	医薬品安全性学					
【腎に作用する薬】										
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。				薬物治療学1 薬理学2						
【血液・造血器系に作用する薬】										
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬理学2 薬物治療学2						
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬理学2 薬物治療学2						
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬理学2 薬物治療学2						
【代謝系に作用する薬】										
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				薬物治療学1	薬理学4					

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬物治療学1	薬理学4		
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬物治療学1	薬理学4		
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬物治療学1	薬理学4		
【炎症・アレルギーと薬】						
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬理学3	薬物治療学4 臨床感染症学		
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			薬理学3	薬物治療学4		
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。			薬理学3	薬物治療学4		
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。				医薬品化学2		
(4) 薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。			薬物動態学1			
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。			薬物動態学1			
3) 受動拡散（単純拡散）、促進拡散の特徴を説明できる。			薬物動態学1			
4) 能動輸送の特徴を説明できる。		薬理学1	薬物動態学1			
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。			薬物動態学1			
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。			薬物動態学1			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						該当科目					
						1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分布】											
到達目標：											
1) 薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。								薬物動態学1			
2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。							薬理学1	薬物動態学1	薬物治療学3		
3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液 - 胎盤関門の意義を説明できる。							薬理学1	薬物動態学1			
4) 薬物の体液中での存在状態 (血漿タンパク結合など) を組織への移行と関連づけて説明できる。								薬物動態学1			
5) 薬物分布の変動要因 (血流量、タンパク結合性、分布容積など) について説明できる。								薬物動態学1			
6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。(技能)								薬物動態学1			
7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。(技能)								薬物動態学1	薬剤学実習		
【代謝】											
1) 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。								薬物動態学2			
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。							薬理学1	薬物動態学2	医薬品安全性学		
3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。								薬物動態学2			
4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。								薬物動態学2			
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。								薬物動態学2			
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。								薬物動態学2			
7) 薬物代謝酵素の変動要因 (誘導、阻害、加齢、SNPsなど) について説明できる。								薬物動態学2	医薬品安全性学		
8) 初回通過効果について説明できる。								薬物動態学2			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。			薬物動態学2			
【排泄】						
1) 腎における排泄機構について説明できる。		病態生理学2	薬物動態学2			
2) 腎クリアランスについて説明できる。		病態生理学2	薬物動態学2			
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。		病態生理学2	薬物動態学2			
4) 胆汁中排泄について説明できる。		病態生理学2	薬物動態学2			
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。		病態生理学2	薬物動態学2			
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。		病態生理学2	薬物動態学2			
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。		病態生理学2	薬物動態学2			
【相互作用】						
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			薬物動態学2 医療薬理学1	医薬品安全性学		
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			薬物動態学2 医療薬理学1	医薬品安全性学		
(5) 薬物動態の解析						
【薬動学】						
1) 薬物動態に関わる代表的なパラメータを列挙し、概説できる。					薬剤学実習 薬物動態学3	
2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算方法を説明できる。					薬剤学実習 薬物動態学3	
3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)					薬剤学実習 薬物動態学3	
4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)					薬剤学実習 薬物動態学3	

	該 当 科 目				
	1年	2年	3年	4年	5年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。				薬剤学実習 薬物動態学 3	5年
6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)				薬剤学実習 薬物動態学 3	
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)				薬剤学実習 薬物動態学 3	
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。				薬剤学実習 薬物動態学 3	
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。				薬剤学実習 薬物動態学 3	
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)				薬剤学実習 薬物動態学 3	
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)				薬剤学実習 薬物動態学 3	
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)				薬剤学実習 薬物動態学 3	
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】					
1) 治療的薬物モニタリング (TDM) の意義を説明できる。	早期体験学習 2			薬剤学実習 薬物動態学 3 医薬品安全性学	病態生理学演習実習
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。	早期体験学習 2			薬剤学実習 薬物動態学 3	病態生理学演習実習
3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)	早期体験学習 2				病態生理学演習実習
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動的パラメーターを用いて説明できる。				薬剤学実習 薬物動態学 3	病態生理学演習実習
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)				薬剤学実習 薬物動態学 3	病態生理学演習実習
C14 薬物治療					
(1) 体の変化を知る					
【症候】					
1) 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、喉下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、シヨック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい	早期体験学習 2 人体の構造と機能 病態生理学 1	病態生理学 2	薬物治療学 1 薬物治療学 2	薬物治療学 3 薬物治療学 4 臨床感染症学	病態生理学演習実習 薬物治療学演習

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
【症候と臨床検査値】						
1) 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	医療総合人間学1		薬物治療学2	臨床検査学	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
2) 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	医療総合人間学1	病態生理学2	薬物治療学1	薬物治療学4 臨床検査学	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
3) 代表的な呼吸器機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	医療総合人間学1 早期体験学習2	病態生理学2	薬物治療学1	薬物治療学4 臨床検査学	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
4) 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	医療総合人間学1 早期体験学習2	病態生理学2	薬物治療学1	臨床検査学	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	医療総合人間学1		薬物治療学1 薬物治療学2	臨床検査学	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	医療総合人間学1	病態生理学2	薬物治療学1	臨床検査学	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
7) 感染症および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。	医療総合人間学1	病態生理学2	薬物治療学1	薬物治療学4 臨床検査学 臨床検査学	病態生理学演習実習	臨床薬学統合演習
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。	医療総合人間学1	病態生理学2	薬物治療学1	薬物治療学4 臨床検査学	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
9) 尿および糞を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	医療総合人間学1 早期体験学習2	病態生理学2	薬物治療学1	薬物治療学4 臨床検査学	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。	医療総合人間学1 早期体験学習2	病態生理学2	薬物治療学1	臨床検査学	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
11) 代表的なバイタルサインを列挙できる。	医療総合人間学1 早期体験学習2	病態生理学2	薬物治療学1	臨床検査学	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)						
【薬物治療の位置づけ】						
1) 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療 (外科手術、食事療法など) の位置づけを説明できる。			薬物治療学1 薬物治療学2	薬物治療学3	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)			薬物治療学1		病態生理学演習実習	薬物治療学演習
【心臓・血管系の疾患】						
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。	病態生理学1	病態生理学2	薬物治療学1 薬理学2	臨床検査学	病態生理学演習実習	薬物治療学演習

	該当科目				
	1年	2年	3年	4年	5年
	病態生理学1	病態生理学2	薬物治療学1 薬理学2	臨床検査学	病態生理学演習実習
	病態生理学1	病態生理学2	薬物治療学1 薬理学2		病態生理学演習実習
	早期体験学習2 病態生理学1	病態生理学2	薬物治療学1 薬理学2	臨床検査学	病態生理学演習実習
	病態生理学1	病態生理学2	薬物治療学1 薬理学2	臨床検査学	病態生理学演習実習
	病態生理学1	病態生理学2	薬物治療学1 薬理学2	臨床検査学	病態生理学演習実習
	病態生理学1	病態生理学2	薬物治療学1 薬理学2	臨床検査学	病態生理学演習実習
	病態生理学1		薬理学2 薬物治療学2	臨床検査学	病態生理学演習実習
	病態生理学1		薬理学2 薬物治療学2	臨床検査学	
			薬物治療学2	薬物治療学4 臨床検査学	薬物治療学演習
	病態生理学1		薬物治療学2	臨床検査学	薬物治療学演習
	病態生理学1		薬物治療学2	薬物治療学4 臨床検査学	薬物治療学演習
			薬理学3 薬物治療学2		薬物治療学演習
			薬理学3 薬物治療学2		薬物治療学演習
			薬理学3 薬物治療学2		薬物治療学演習
	病態生理学1		薬理学3 薬物治療学2	臨床検査学	病態生理学演習実習
	病態生理学1		薬理学3 薬物治療学2	臨床検査学	病態生理学演習実習

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)

- 2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
- 3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
- 4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
- 5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
- 6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック

【血液・造血器の疾患】

- 1) 血液・造血器における代表的な疾患を挙げることができる。
- 2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
- 3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
- 4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
- 5) 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓

【消化器系疾患】

- 1) 消化器系の部位別 (食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓) に代表的な疾患を挙げることができる。
- 2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
- 3) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
- 4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。
- 5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃癌、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病	病態生理学 1		薬物治療学 2	薬物治療学 4	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)					病態生理学演習実習	薬物治療学演習
(3) 疾患と薬物治療 (腎臓疾患等)						
【腎臓・尿路の疾患】						
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。	早期体験学習 2 病態生理学 1	病態生理学 2	薬物治療学 1 病態生化学	薬物治療学 4	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	病態生理学 1	病態生理学 2	薬物治療学 1 病態生化学	臨床検査学	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	早期体験学習 2 病態生理学 1	病態生理学 2	薬物治療学 1 病態生化学	臨床検査学	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石	早期体験学習 2 病態生理学 1	病態生理学 2	薬物治療学 1 病態生化学		病態生理学演習実習	薬物治療学演習
【生殖器疾患】						
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。		病態生理学 2	薬物治療学 1	薬物治療学 4		薬物治療学演習
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学 2 薬理学 1	薬物治療学 1	薬物治療学 4		薬物治療学演習
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、不妊、子宮癌、子宮内腫瘍		病態生理学 2	薬物治療学 1	薬物治療学 4 臨床検査学		薬物治療学演習
【呼吸器・胸部の疾患】						
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。	早期体験学習 2 病態生理学 1	病態生理学 2	薬物治療学 1 薬理学 3		病態生理学演習実習	薬物治療学演習
2) 閉塞性気道疾患(気管支喘息、肺気腫)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	早期体験学習 2 病態生理学 1	病態生理学 2	薬物治療学 1 薬理学 3		病態生理学演習実習	薬物治療学演習
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌	早期体験学習 2 病態生理学 1	病態生理学 2	薬物治療学 1	薬物治療学 4	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
【内分泌系疾患】						
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。		病態生理学 2	薬物治療学 1 病態生化学	薬理学 4		薬物治療学演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目				
	1年	2年	3年	4年	5年
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学 2	薬物治療学 1 病態生化学	薬理学 4	薬物治療学演習
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学 2	薬物治療学 1 病態生化学	薬理学 4 臨床検査学	薬物治療学演習
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学 2	薬物治療学 1 病態生化学	薬理学 4 臨床検査学	薬物治療学演習
5) 以下の疾患について概説できる。上皮下小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病		病態生理学 2	薬物治療学 1 病態生化学	薬理学 4	薬物治療学演習
【代謝性疾患】					
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	病態生理学 1	病態生理学 2	薬物治療学 1 病態生化学	薬理学 4 臨床検査学	病態生理学演習実習 薬物治療学演習
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	病態生理学 1	病態生理学 2	薬物治療学 1 病態生化学	薬理学 4 臨床検査学	病態生理学演習実習 薬物治療学演習
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	病態生理学 1	病態生理学 2	薬物治療学 1 病態生化学	薬理学 4 臨床検査学	病態生理学演習実習 薬物治療学演習
【神経・筋の疾患】					
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。	病態生理学 1		薬理学 3	薬物治療学 3 臨床検査学	病態生理学演習実習 薬物治療学演習
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	早期体験学習 2 病態生理学 1		薬理学 3	薬物治療学 3 臨床検査学	病態生理学演習実習 薬物治療学演習
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	病態生理学 1		薬理学 3	薬物治療学 3	薬物治療学演習
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	早期体験学習 2 病態生理学 1		薬理学 3	薬物治療学 3	薬物治療学演習
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	病態生理学 1		薬理学 3	薬物治療学 3	薬物治療学演習
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆	早期体験学習 2			薬物治療学 3 臨床検査学	薬物治療学演習
【総合演習】					
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。			薬物治療学 1	薬物治療学 3 臨床検査学	薬物治療学演習

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
(4) 疾患と薬物治療 (精神疾患等)						
【精神疾患】						
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。			薬理学 3	薬物治療学 3		薬物治療学演習
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬理学 3	薬物治療学 3		薬物治療学演習
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬理学 3	薬物治療学 3		薬物治療学演習
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症			薬理学 3	薬物治療学 3		薬物治療学演習
【耳鼻咽喉の疾患】						
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。	早期体験学習 2			薬物治療学 3	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学 3	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎	早期体験学習 2			薬物治療学 3	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
【皮膚疾患】						
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。	病態生理学 1		薬物治療学 2	薬物治療学 4	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	病態生理学 1		薬物治療学 2	薬物治療学 4	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学 2	薬物治療学 4	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
4) 以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症	病態生理学 1		薬物治療学 2	薬物治療学 4	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
【眼疾患】						
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。				薬物治療学 3	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬理学 1		薬物治療学 3	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				薬物治療学 3	病態生理学演習実習	薬物治療学演習

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)				薬物治療学3	病態生理学演習実習	薬物治療学演習
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜炎						
【骨・関節の疾患】						
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。			病態生化学 薬物治療学2	薬理学4		臨床薬学統合演習
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			病態生化学 薬物治療学2	薬理学4		臨床薬学統合演習
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学2	病態生化学 薬物治療学2	薬物治療学4 薬理学4		臨床薬学統合演習
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症			病態生化学 薬物治療学2			臨床薬学統合演習
【アレルギー・免疫疾患】						
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。		病態生理学2	免疫学 薬理学3 病態生化学	薬物治療学4		臨床薬学統合演習
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学2	薬理学3 病態生化学	薬物治療学4		臨床薬学統合演習
3) 自己免疫疾患(全身性エリテマトーデスなど)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学2	病態生化学			臨床薬学統合演習
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学2	病態生化学			臨床薬学統合演習
【移植医療】						
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		病態生理学2		薬物治療学4		
【緩和ケアと長期療養】						
1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。				薬物治療学4		臨床薬学統合演習
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。			薬物治療学2	薬物治療学4		臨床薬学統合演習
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)						臨床薬学統合演習

	該当科目				
	1年	2年	3年	4年	5年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
(5) 病原微生物・悪性新生物と闘う					
【感染症】					
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。			衛生薬学 4	薬物治療学 4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習
【抗菌薬】					
1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。				薬物治療学 4 薬理学 4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習
2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。				薬物治療学 4 薬理学 4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習
3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。				薬物治療学 4 薬理学 4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習
4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。				薬物治療学 4 薬理学 4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習
5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。				薬物治療学 4 薬理学 4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習
6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。				薬物治療学 4 薬理学 4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習
7) ペリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。				薬物治療学 4 薬理学 4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習
8) サルファ薬 (ST合剤を含む) の有効な感染症を列挙できる。				薬物治療学 4 薬理学 4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習
9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。				薬物治療学 4 薬理学 4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習
10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。				薬物治療学 4 薬理学 4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。				薬物治療学 4 薬理学 4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習
12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。				薬物治療学 4 薬理学 4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習
【抗原虫・寄生虫薬】					
1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。				薬物治療学 4 薬理学 4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
【抗真菌薬】						
1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。					薬物治療学4 薬理学4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習
【抗ウイルス薬】						
1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。					薬物治療学4 薬理学4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。					薬物治療学4 薬理学4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習
【抗薬の耐性と副作用】						
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。					薬物治療学4 薬理学4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。					薬物治療学4 薬理学4 臨床感染症学	臨床薬学統合演習
【悪性腫瘍の病態と治療】						
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。		病態生理学1			薬物治療学4 薬理学4	臨床薬学統合演習
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。					薬物治療学4 薬理学4	臨床薬学統合演習
3) 化学療法薬が有する悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。					薬物治療学4 薬理学4	臨床薬学統合演習
【抗悪性腫瘍薬】						
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。					薬物治療学4 薬理学4	臨床薬学統合演習
2) 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。					薬物治療学4 薬理学4	臨床薬学統合演習
3) 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。					薬物治療学4 薬理学4	臨床薬学統合演習
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。					薬物治療学4 薬理学4	臨床薬学統合演習
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。					薬物治療学4 薬理学4	臨床薬学統合演習
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。					薬物治療学4 薬理学4	臨床薬学統合演習

	該当科目				
	1年	2年	3年	4年	5年
7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。				薬物治療学4 薬理学4	臨床薬学統合演習
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。				薬物治療学4 薬理学4	臨床薬学統合演習
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】					
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。				薬物治療学4 薬理学4	臨床薬学統合演習
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。				薬物治療学4 薬理学4	臨床薬学統合演習
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。				薬物治療学4 薬理学4	臨床薬学統合演習
C15 薬物治療に役立つ情報					
(1) 医薬品情報					
【情報】					
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。				医療薬剤学2 医療情報学	医薬品開発学 臨床薬学統合演習
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。				医療薬剤学2 医療情報学	医薬品開発学 臨床薬学統合演習
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。				医療薬剤学2 医療情報学	医薬品開発学 臨床薬学統合演習
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。				医療薬剤学2 医療情報学	医薬品開発学 臨床薬学統合演習
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。				医療薬剤学2 薬事法関連法・制度 医療情報学	医薬品開発学 臨床薬学統合演習
【情報源】					
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。			医療薬剤学1	医療薬剤学2 薬事法関連法・制度 医療情報学	
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。			医療薬剤学1	医療薬剤学2 薬事法関連法・制度 医療情報学	
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。			医療薬剤学1	医療薬剤学2 薬事法関連法・制度 医療情報学	
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。			医療薬剤学1	医療薬剤学2 薬事法関連法・制度 医療情報学	

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
5) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。			医療薬剤学1	医療薬剤学2 薬事法関連法・制度 医療情報学		
6) 医薬品インタビュフォームの位置づけと用途を説明できる。			医療薬剤学1	医療薬剤学2 医療情報学		
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビュフォームの使い分けができる。(技能)						
【収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的 (効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など) に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)			医療薬剤学1	医療薬剤学2 医療情報学		
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。			医療薬剤学1	医療薬剤学2 医療情報学		
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。(技能)			医療薬剤学1	医療薬剤学2 医療情報学		
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。(知識・態度)			医療薬剤学1	医療薬剤学2 医療情報学		
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。			医療薬剤学1	医療薬剤学2 医療情報学		
【データベース】						
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。			医療薬剤学1	医療薬剤学2 医療情報学		臨床薬学統合演習
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。(知識・技能)				医療薬剤学2 医療情報学		臨床薬学統合演習
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。(技能)				医療薬剤学2 医療情報学		臨床薬学統合演習
【EBM (Evidence-Based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。				医療薬剤学2 医療情報学		臨床薬学統合演習
2) EBM実践のプロセスを概説できる。				医療薬剤学2 医療情報学		臨床薬学統合演習
3) 臨床研究法 (ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など) の長所と短所を概説できる。				医療薬剤学2 医療情報学		臨床薬学統合演習
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。(知識・技能)				医療薬剤学2		臨床薬学統合演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。						臨床薬学統合演習
6) 臨床適用上の効果指標 (オッズ比、必要治療数、相対危険度など) について説明できる。						臨床薬学統合演習
【総合演習】						
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。						
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。 (知識・技能)						
(2) 患者情報						
【情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。						コミュニケーション マシ 医療情報学
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。						コミュニケーション マシ 医療情報学
【収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。			医療薬剤学1			コミュニケーション マシ 医療情報学
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)						コミュニケーション マシ 医療情報学
3) 患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。(技能)						コミュニケーション マシ 医療情報学
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。 (知識・技能)						コミュニケーション マシ 医療情報学
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)			医療薬剤学1			コミュニケーション マシ 医療情報学
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)						コミュニケーション マシ 医療情報学
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)						コミュニケーション マシ 医療情報学

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年			
(3) テーラーメイド薬物治療を目指す										
【遺伝的素因】										
1)	薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。			薬物治療学1 薬物治療学2 薬物動態学2	医薬品安全性学					
2)	薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。			薬物治療学1 薬物治療学2 薬物動態学2	医薬品安全性学					
3)	遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。			薬物治療学1 薬物治療学2 薬物動態学2	医薬品安全性学					
【年齢的素因】										
1)	新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物動態学2 医療薬剤学1	医薬品安全性学					臨床薬学統合演習
2)	幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物動態学2 医療薬剤学1	医薬品安全性学					臨床薬学統合演習
3)	高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物治療学1 薬物治療学2 薬物動態学2 医療薬剤学1	医薬品安全性学					臨床薬学統合演習
【生理的素因】										
1)	生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医療薬剤学1	薬物治療学4 医薬品安全性学					薬物治療学演習
2)	授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物治療学1 医療薬剤学1	薬物治療学4 医薬品安全性学					薬物治療学演習
3)	栄養状態の異なる患者（肥満など）に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物治療学1 薬物治療学2	医薬品安全性学					薬物治療学演習
【合併症】										
1)	腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物動態学2 薬物治療学2 医療薬剤学1	薬物治療学4 薬物動態学3 医薬品安全性学					薬物治療学演習
2)	肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物動態学2 薬物治療学2 医療薬剤学1	薬物動態学3 医薬品安全性学					薬物治療学演習
3)	心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。			薬物治療学1 薬物動態学2 医療薬剤学1	薬物動態学3					薬物治療学演習
【投与計画】										
1)	患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）									

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) ポピュレーションファーマコネティクスの概念と応用について概説できる。				薬物動態学3		
3) 薬動カ学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)				薬物動態学3		
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。				薬物動態学3		
【医薬品をつくる】						
C16 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。		物理・放射化学実習	基礎薬剤学			
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。		物理・放射化学実習	基礎薬剤学			
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。			基礎薬剤学 薬物動態学1			
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。		物理・放射化学実習	基礎薬剤学			
【分散系】						
1) 界面の性質について説明できる。		物理・放射化学実習	基礎薬剤学			
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。		物理・放射化学実習	基礎薬剤学			
3) 乳剤の型と性質について説明できる。			基礎薬剤学 剤形設計学			
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。			基礎薬剤学			
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。			基礎薬剤学			
【製剤材料の物性】						
1) 流動と変形(レオロジー)の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。		物理・放射化学実習	基礎薬剤学			

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。		物理・放射化学実習	基礎薬剤学			
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。			基礎薬剤学			
4) 粉体の性質について説明できる。			基礎薬剤学			
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。			基礎薬剤学 剤形設計学			
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。			基礎薬剤学 剤形設計学			
7) 粉末×線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。		物理化学2 物理化学3	基礎薬剤学	薬剤学実習		
8) 製剤材料の物性を測定できる。(技能)			基礎薬剤学			
(2) 剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。			剤形設計学 医療薬剤学1	薬剤学実習		薬局方総論
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。			剤形設計学 医療薬剤学1	薬剤学実習		薬局方総論
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。			剤形設計学 医療薬剤学1			薬局方総論
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。			剤形設計学 医療薬剤学1			薬局方総論
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。			剤形設計学 医療薬剤学1			
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。			剤形設計学 医療薬剤学1			
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。			剤形設計学 医療薬剤学1	薬剤学実習		
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。			剤形設計学			

業学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【製剤化】						
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。			剤形設計学	薬剤学実習		
2) 単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。(技能)			剤形設計学	薬剤学実習		
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			剤形設計学 医療薬剤学 1			
【製剤試験法】						
1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。			剤形設計学	薬剤学実習		薬局方総論
2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)			剤形設計学	薬剤学実習		薬局方総論
(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)						
【DDSの必要性】						
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。			剤形設計学			
2) DDSの概念と有用性について説明できる。			剤形設計学			
【放出制御型製剤】						
1) 放出制御型製剤(徐放性製剤を含む)の利点について説明できる。			剤形設計学 医療薬剤学 1			
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。			剤形設計学 医療薬剤学 1			
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。			剤形設計学 医療薬剤学 1			
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。			剤形設計学 医療薬剤学 1			
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる			剤形設計学 医療薬剤学 1			
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。			剤形設計学 医療薬剤学 1			

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
【ターゲティング】							
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。				剤形設計学			
2) 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。				剤形設計学			
【プロドラッグ】							
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。				基礎薬剤学 剤形設計学			
【その他のDDS】							
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。				剤形設計学			
C17 医薬品の開発と生産							
(1) 医薬品開発と生産のながれ							
【医薬品開発のコンセプト】							
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。					医療総合人間学 6		医薬品開発学 臨床薬学統合演習
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。					医療総合人間学 6		医薬品開発学 臨床薬学統合演習
【医薬品市場と開発すべき医薬品】							
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。					医療総合人間学 6 医療総合人間学 7		医薬品開発学
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。					医療総合人間学 6 医療総合人間学 7 コミュニケーション マナー		医薬品開発学
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。					医療総合人間学 6 医療総合人間学 7 コミュニケーション マナー		医薬品開発学
4) 希少疾病に対する医薬品（オーファンドラッグ）開発の重要性について説明できる。					医療総合人間学 6 医療総合人間学 7		医薬品開発学
【非臨床試験】							
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。					医療総合人間学 6 医薬品安全性学 薬事法関連法・制度		医薬品開発学

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品の承認】						
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。				医療総合人間学6 医薬品安全性学 薬事法関連法・制度		医薬品開発学 臨床薬学統合演習
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。				医療総合人間学6 医薬品安全性学 薬事法関連法・制度		医薬品開発学 臨床薬学統合演習
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。				医療総合人間学6 医薬品安全性学 薬事法関連法・制度		医薬品開発学 臨床薬学統合演習
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション (ICH) について概説できる。				医療総合人間学6 医薬品安全性学		医薬品開発学 臨床薬学統合演習
【医薬品の製造と品質管理】						
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。						医薬品開発学
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。				医療総合人間学6		医薬品開発学
3) 医薬品製造において環境安全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。				医療総合人間学6		医薬品開発学
【規範】						
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPPSP (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。			剤形設計学	医療総合人間学6 医薬品安全性学 薬事関連法・制度		医薬品開発学
【特許】						
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。				医療総合人間学6		医薬品開発学
【薬書】						
1) 代表的な薬書の例 (サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリジンなど) について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)				医薬品化学2 医療総合人間学6 医薬品安全性学		医薬品開発学 臨床薬学統合演習
(2) リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】						
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。						医薬品開発学
【標的分子との相互作用】						
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。				医薬品化学1		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 医薬品と標的生体分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。				医薬品化学1		
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。				医薬品化学1		
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。				医薬品化学1 医薬品化学2		
【スクリーニング】						
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。						医薬品開発学
2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。						医薬品開発学
【リード化合物の最適化】						
1) 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。						医薬品開発学
2) 生物学的等価性 (バイオアイソスター) の意義について概説できる。				医薬品化学1		医薬品開発学
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。						医薬品開発学
(3) バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。						
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。			応用分子生物学			
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。						
【遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				医療総合人間学6		
【細胞を利用した治療】						
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				医療総合人間学6		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【ゲノム情報の創薬への利用】				医療総合人間学 6		
1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。						
2) バイオインフォマティクスについて概説できる。						
3) 遺伝子多型 (欠損、増幅) の解析に用いられる方法 (ゲノミックサザンプロット法など) について概説できる。			応用分子生物学			
4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例 (イマチニブなど) を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。			応用分子生物学			
【疾患関連遺伝子】						
1) 代表的な疾患 (癌、糖尿病など) 関連遺伝子について説明できる。				薬物治療学 4		臨床薬学統合演習
2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。				薬物治療学 4		臨床薬学統合演習
(4) 治験						
【治験の意義と業務】						
1) 治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。			医療薬剤学 1	医療総合人間学 6 医薬品安全性学 薬事関連法・制度		臨床薬学統合演習
2) 医薬品創製における治験の役割を説明できる。			医療薬剤学 1	医療総合人間学 6 医薬品安全性学 薬事関連法・制度		臨床薬学統合演習
3) 治験 (第 I、II、およびⅢ相) の内容を説明できる。			医療薬剤学 1	医療総合人間学 6 医薬品安全性学 薬事関連法・制度		臨床薬学統合演習
4) 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。			医療薬剤学 1	医療総合人間学 6 医薬品安全性学 薬事関連法・制度		臨床薬学統合演習
5) 治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。 (態度)			医療薬剤学 1	医療総合人間学 6 医薬品安全性学 薬事関連法・制度		臨床薬学統合演習
6) 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。			医療薬剤学 1	医療総合人間学 6 医薬品安全性学 薬事関連法・制度		臨床薬学統合演習
【治験における薬剤師の役割】						
1) 治験における薬剤師の役割 (治験薬管理者など) を説明できる。			医療薬剤学 1	医療総合人間学 6 医薬品安全性学 薬事関連法・制度		臨床薬学統合演習
2) 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。			医療薬剤学 1	医療総合人間学 6 医薬品安全性学 薬事関連法・制度		臨床薬学統合演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目				
	1年	2年	3年	4年	5年
3) 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。			医療薬剤学1	医療総合人間学6 医薬品安全性学 薬事関連法・制度	5年
4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度)			医療薬剤学1	医療総合人間学6 医薬品安全性学 薬事関連法・制度	6年
(5) バイオスタティスティクス					
【生物統計の基礎】					
1) 帰無仮説の概念を説明できる。		数理統計学	生物統計学演習		
2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。			生物統計学演習		
3) 主な二群間の平均値の差の検定法 (t-検定、Mann-Whitney U検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)		数理統計学	生物統計学演習		
4) χ^2 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)			生物統計学演習		
5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)			生物統計学演習		
6) 主な多重比較検定法 (分散分析、Dunnett検定、Tukey検定など) の概要を説明できる。			生物統計学演習		
7) 主な多変量解析の概要を説明できる。			生物統計学演習		
【臨床への応用】					
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。			生物統計学演習		
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。			生物統計学演習		
3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。			生物統計学演習		
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)			生物統計学演習		
5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier曲線など) の特徴を説明できる。			生物統計学演習		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目							
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
C18 薬学と社会									
(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度									
【医療の担い手としての使命】									
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)		医療総合人間学1		医療薬剤学1	医療総合人間学6 薬事関連法・制度 コミュニケーション				臨床薬学統合演習
2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)		医療総合人間学1		医療薬剤学1	医療総合人間学6 薬事関連法制度 コミュニケーション				臨床薬学統合演習
【法律と制度】									
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。				医療薬剤学1	医療総合人間学7 薬事関連法・制度				臨床薬学統合演習
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。				医療薬剤学1	医療総合人間学7 薬事関連法・制度				臨床薬学統合演習
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。				医療薬剤学1	医療総合人間学7 薬事関連法・制度				臨床薬学統合演習
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。				医療薬剤学1	医療総合人間学7 薬事関連法・制度				臨床薬学統合演習
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。				医療薬剤学1	医療総合人間学7 薬事関連法・制度				臨床薬学統合演習
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。				医療薬剤学1	医療総合人間学7 薬事関連法・制度				臨床薬学統合演習
7) 製造物責任法を概説できる。			医療総合人間学4	医療薬剤学1	医療総合人間学7 薬事関連法・制度				臨床薬学統合演習
【管理薬】									
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。				医療薬剤学1	薬事関連法・制度				
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。				医療薬剤学1	薬事関連法・制度				
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。				医療薬剤学1	薬事関連法・制度				
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。				医療薬剤学1	薬事関連法・制度				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年			
【放射性医薬品】										
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準（放射性医薬品基準など）および制度について概説できる。				応用放射化学	臨床検査学					
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。				応用放射化学	臨床検査学					
(2) 社会保障制度と薬剤経済										
【社会保障制度】										
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。		人間と文化2（人間と歴史）		医療薬理学1	医療総合人間学7 コミュニケーション 薬事法関連法・制度					臨床薬学統合演習
2) 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。		人間と文化2（人間と歴史）		医療薬理学1	医療総合人間学7 医療総合人間学4 薬事法関連法・制度 コミュニケーション					臨床薬学統合演習
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。				医療薬理学1	医療総合人間学7 医療総合人間学4 薬事法関連法・制度 コミュニケーション					臨床薬学統合演習
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。				医療薬理学1	医療総合人間学7 医療総合人間学4 薬事法関連法・制度 コミュニケーション					臨床薬学統合演習
【医療保険】										
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。		人間と文化2（人間と歴史）		医療薬理学1	医療総合人間学7 薬事関連法・制度 コミュニケーション					臨床薬学統合演習
2) 医療保険のしくみを説明できる。		人間と文化2（人間と歴史）		医療薬理学1	医療総合人間学7 薬事関連法・制度 コミュニケーション					臨床薬学統合演習
3) 医療保険の種類を列挙できる。				医療薬理学1	医療総合人間学7 薬事関連法・制度 コミュニケーション					臨床薬学統合演習
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。				医療薬理学1	医療総合人間学7 薬事関連法・制度 コミュニケーション					臨床薬学統合演習
【薬剤経済】										
1) 国民医療費の動向を概説できる。		人間と文化2（人間と歴史）			医療総合人間学7 薬事関連法・制度 コミュニケーション					臨床薬学統合演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 保険医療と薬価制度の関係の概説できる。				医療総合人間学7 薬事関連法・制度 コミュニケーション		臨床薬学統合演習
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。				医療総合人間学7 薬事関連法・制度 コミュニケーション		臨床薬学統合演習
4) 医療費の内訳を概説できる。				医療総合人間学7 薬事関連法・制度 コミュニケーション		臨床薬学統合演習
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。				医療総合人間学7		臨床薬学統合演習
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)				医療総合人間学7		臨床薬学統合演習
(3) コミュニティファーマシー						
【地域薬局の役割】						
1) 地域薬局の役割を列挙できる。				コミュニケーション		臨床薬学統合演習
2) 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。				コミュニケーション		臨床薬学統合演習
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。				コミュニケーション		臨床薬学統合演習
【医薬分業】						
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。	医療総合人間学1		医療薬剤学1	医療総合人間学6 コミュニケーション		臨床薬学統合演習
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)	医療総合人間学1			コミュニケーション		臨床薬学統合演習
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。	医療総合人間学1			コミュニケーション		臨床薬学統合演習
【薬局の業務運営】						
1) 保険薬剤師兼担当規則および保険医療兼担当規則を概説できる。				医療総合人間学7 コミュニケーション		臨床薬学統合演習
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。				コミュニケーション		臨床薬学統合演習

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。				コミュニケーションマシ		臨床薬学統合演習
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書 (レセプト) について説明できる。				医療総合人間学7 コミュニケーションマシ		臨床薬学統合演習
【OTC薬・セルフメディケーション】						
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)			医療薬剤学1	コミュニケーションマシ		臨床薬学統合演習
2) 主な一般用医薬品 (OTC薬) を列挙し、使用目的を説明できる。				コミュニケーションマシ		臨床薬学統合演習
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。		生薬学2	衛生薬学3	コミュニケーションマシ		臨床薬学統合演習

(基礎資料3-2) 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

[注] 1 実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。

2 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

3 「(7)の事前学習のまとめ」において大学でSBOsの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

	該当科目		
	3年	4年	5年
実務実習モデル・コアカリキュラム (実務実習事前学習) SBOs			
D 実務実習教育			
(1) 実務実習事前学習			
(1) 事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1.	医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。	医療薬剤学1	
2.	医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。	医療薬剤学1	
3.	薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。(態度)		臨床導入実習
《チーム医療に注目する》			
4.	医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。		薬学総合演習2 臨床導入実習
5.	チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。		薬学総合演習2 臨床導入実習
6.	自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。(態度)		臨床導入実習
《医薬分業に注目する》			
7.	医薬分業の仕組みと意義を概説できる。		コミュニケーション
(2) 処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1.	処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。	医療薬剤学1	
2.	処方オーダーリングシステムを概説できる。	医療薬剤学1	
3.	処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。		臨床導入実習
4.	調剤を法的根拠に基づいて説明できる。	医療薬剤学1	
5.	代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。(知識・技能)		臨床導入実習
6.	不適切な処方せんの処置について説明できる。		臨床導入実習
《医薬品の用法・用量》			
7.	代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2
8.	患者に適した剤形を選択できる。(知識・技能)		臨床導入実習
9.	患者の特性(新生児、小児、高齢者、妊婦など)に適した用法・用量について説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2 薬学総合演習2

実務実習モデル・コアカリキュラム (実務実習事前学習) SBOs	該当科目		
	3年	4年	5年
10. 患者の特性に適した用量を計算できる。(技能)		臨床導入実習 薬学総合演習2	
11. 病態(腎、肝疾患など)に適した用量設定について説明できる。		臨床導入実習	
《服薬指導の基礎》			
12. 服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。		コミュニケーション	
《調剤室業務入門》			
13. 代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。(技能)		薬学総合演習2 臨床導入実習	
14. 処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。(技能)		薬学総合演習2 臨床導入実習	
15. 処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。(技能)		薬学総合演習2 臨床導入実習	
16. 調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。(技能)		薬学総合演習2 臨床導入実習	
17. 処方せん例の鑑査の意義とその必要性について討議する。(態度)		薬学総合演習2 臨床導入実習	
(3) 疑義照会			
《疑義照会の意義と根拠》			
1. 疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。		臨床導入実習	
2. 代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。		臨床導入実習	
3. 特定の配合によって生じる医薬品の性状、外觀の変化を観察する。(技能)		臨床導入実習	
4. 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。		臨床導入実習	
《疑義照会入門》			
5. 処方せん例の問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。(態度)		薬学総合演習2 臨床導入実習	
6. 代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。		薬物治療学1 薬物治療学2 臨床導入実習	
7. 代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。		薬物治療学1 薬物治療学2 臨床導入実習	
8. 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。		薬物治療学1 薬物治療学2 臨床導入実習	
9. 疑義照会の流れを説明できる。		薬学総合演習2 臨床導入実習	
10. 疑義照会をシミュレートする。(技能・態度)		薬学総合演習2 臨床導入実習	
(4) 医薬品の管理と供給			
《医薬品の安定性に注目する》			
1. 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	医療薬剤学1		
2. 代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。	医療薬剤学1		

実務実習モデル・コアカリキュラム (実務実習事前学習) SBOs		該当科目		
		3年	4年	5年
《特別な配慮を要する医薬品》				
3.	毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。	医薬薬理学1	臨床導入実習	
4.	麻薬、向精神薬などの管理と取扱い (投薬、廃棄など) について説明できる。	医薬薬理学1	臨床導入実習	
5.	血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。	医薬薬理学1	臨床導入実習	
6.	輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。	医薬薬理学1	臨床導入実習	
7.	代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。	医薬薬理学1	臨床導入実習	
8.	生物製剤の管理と取扱い (投薬、廃棄など) について説明できる。	医薬薬理学1	臨床導入実習	
9.	麻薬の取扱いをシミュレートできる。(技能)		臨床導入実習	
10.	代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。	医薬薬理学1		
11.	放射性医薬品の管理と取扱い (投薬、廃棄など) について説明できる。	医薬薬理学1		
《製剤化の基礎》				
12.	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。	医薬薬理学1		
13.	薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		コミュニケーション	
14.	代表的な院内製剤を調製できる。(技能)		臨床導入実習	
15.	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)		薬学総合演習2 臨床導入実習	
16.	抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)		臨床導入実習	
《注射剤と輸液》				
17.	注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。		臨床導入実習	
18.	代表的な配合変化を検出できる。(技能)		臨床導入実習	
19.	代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。		臨床導入実習	
20.	体内電解質の過不足を判断して補正できる。(技能)		臨床導入実習	
《消毒薬》				
21.	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。	医薬薬理学1		
22.	消毒薬調製時の注意点を説明できる。	医薬薬理学1		
(5) リスクマネージメント				
《安全管理に注目する》				
1.	薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。		コミュニケーション	
2.	誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。		コミュニケーション	
3.	院内感染の回避方法について説明できる。	医薬薬理学1		
《副作用に注目する》				
4.	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。		医薬品安全性学 薬学総合演習2	
《リスクマネージメント入門》				
5.	誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。		薬学総合演習2	
6.	リスクを回避するための具体策を提案する。(態度)		薬学総合演習2	
7.	事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)		薬学総合演習2	

実務実習モデル・コアカリキュラム (実務実習専前学習) SBOs		該当科目		
		3年	4年	5年
(6) 服薬指導と患者情報				
《服薬指導に必要な技能と態度》				
1.	患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。		臨床導入実習	
2.	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列挙できる。		臨床導入実習	
3.	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。		臨床導入実習	
4.	インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度)		臨床導入実習	
5.	適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度)		臨床導入実習	
6.	医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度)		臨床導入実習	
7.	患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。		臨床導入実習	
《患者情報の重要性に注目する》				
8.	服薬指導に必要な患者情報を列挙できる。		臨床導入実習	
9.	患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。(技能)		臨床導入実習	
10.	医師、看護師などの情報の共有化の重要性を説明できる。		臨床導入実習	
《服薬指導入門》				
11.	代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。(知識・技能)		薬学総合演習2 臨床導入実習	
12.	共感的態度で患者インタビューを行う。(技能・態度)		薬学総合演習2 臨床導入実習	
13.	患者背景に配慮した服薬指導ができる。(技能)		薬学総合演習2 臨床導入実習	
14.	代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。(技能)		臨床導入実習	
(7) 事前学習のまとめ				

(基礎資料3-3) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
A 基本事項						
(1) 薬剤師の使命						
【①医療人として】						
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	薬学入門 早期体験学習1			コミュニケーション	生命医療倫理	医療倫理論
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	薬学入門 早期体験学習1			コミュニケーション	生命医療倫理	医療倫理論
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	薬学入門 早期体験学習1			コミュニケーション	生命医療倫理	医療倫理論
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学入門 早期体験学習1			コミュニケーション	生命医療倫理	医療倫理論
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学入門			コミュニケーション	生命医療倫理	医療倫理論
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学入門			コミュニケーション	生命医療倫理	医療倫理論
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。 (知識・態度)	薬学入門			コミュニケーション	生命医療倫理	医療倫理論
【②薬剤師が果たすべき役割】						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	薬学入門 早期体験学習1			コミュニケーション	生命医療倫理	医療倫理論
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	薬学入門 早期体験学習1			コミュニケーション	生命医療倫理	医療倫理論
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	薬学入門			コミュニケーション	生命医療倫理 個別化医療	医療倫理論
4) 医薬品の効果が権率論的であることを説明できる。	薬学入門				生命医療倫理 臨床薬物動態学	医療倫理論
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	薬学入門 早期体験学習1				生命医療倫理	医療倫理論

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 健康管理、疾病予防、セルフマネジメント及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	薬学入門 早期体験学習1		衛生薬学4	生命医療倫理 コミュニケーション		医療倫理論
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	薬学入門		コミュニケーション	生命医療倫理 コミュニケーション 個別化医療		医療倫理論
8) 現代社会が抱える課題 (少子・超高齢社会等) に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。 (知識・態度)	薬学入門		衛生薬学4 コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論
【③患者安全と薬害の防止】						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)	薬学入門		コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。	薬学入門		コミュニケーション	生命医療倫理 コミュニケーション		医療倫理論
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	薬学入門		コミュニケーション	生命医療倫理 コミュニケーション 個別化医療		医療倫理論
4) 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。			コミュニケーション	生命医療倫理 コミュニケーション		医療倫理論
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これら回避するための手段を討議する。 (知識・態度)			コミュニケーション	生命医療倫理 個別化医療		医療倫理論
6) 代表的な薬害の例 (サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等) について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。				生命医療倫理 医薬品化学2 医薬品安全性学 個別化医療		医療倫理論
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これら回避するための手段を討議する。 (知識・態度)				生命医療倫理		医療倫理論
【④薬学の歴史と未来】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学入門					
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学入門					
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史 (医薬分業を含む) について説明できる。	薬学入門			コミュニケーション		
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	薬学入門					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 薬剤師に求められる倫理観							
【①生命倫理】							
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)	薬学入門 倫理と社会 (教養)		コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論	
2) 生命倫理の諸原則 (自律尊重、無危害、善行、正義等) について説明できる。	倫理と社会 (教養)		コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論	
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学入門 倫理と社会 (教養)		コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論	
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	倫理と社会 (教養)		コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論	
【②医療倫理】							
1) 医療倫理に関する規範 (ジュネーブ宣言等) について概説できる。	倫理と社会 (教養)		コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論	
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範 (薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等) について説明できる。			コミュニケーション	生命医療倫理 薬事関連法・制度		医療倫理論	
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	倫理と社会 (教養)		コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論	
【③患者の権利】							
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)	薬学入門 倫理と社会 (教養)		コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論	
2) 患者の基本的権利の内容 (リスボン宣言等) について説明できる。	薬学入門 倫理と社会 (教養)		コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論	
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	薬学入門 倫理と社会 (教養)		コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論	
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。 (知識・技能・態度)	薬学入門 倫理と社会 (教養)		コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論 医療情報学	
【④研究倫理】							
1) 臨床研究における倫理規範 (ヘルシンキ宣言等) について説明できる。				生命医療倫理		医療倫理論 医薬品情報評価学	
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。				生命医療倫理		医療倫理論 医薬品情報評価学	
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)				生命医療倫理		医療倫理論	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 信頼関係の構築						
【①コミュニケーション】						
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。		心理社会	コミュニケーション	コミュニケーション		
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。			コミュニケーション	コミュニケーション		
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。			コミュニケーション	コミュニケーション		
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。		心理社会	コミュニケーション	コミュニケーション		
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)		心理社会	コミュニケーション	コミュニケーション		
6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)		心理社会	コミュニケーション	コミュニケーション		
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)		心理社会	コミュニケーション	コミュニケーション		
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)			コミュニケーション	コミュニケーション		
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)			コミュニケーション	病態・薬物治療学演習		
【②患者・生活者と薬剤師】						
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病氣やケアの影響について説明できる。		心理社会	コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)		心理社会	コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論
(4) 多職種連携協働とチーム医療						
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	薬学入門 早期体験学習1		コミュニケーション	生命医療倫理 コミュニケーション		医療倫理論
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。	薬学入門		コミュニケーション	生命医療倫理 コミュニケーション		医療倫理論
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	薬学入門		コミュニケーション	生命医療倫理 コミュニケーション		医療倫理論

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求めめる。(態度)	薬学入門		コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)	薬学入門		コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論
(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成						
【①学習の在り方】						
1) 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)			コミュニケーション	生命医療倫理 病態・薬物治療学演習		医療倫理論
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)			コミュニケーション	生命医療倫理 病態・薬物治療学演習		医療倫理論
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)	情報科学		コミュニケーション	生命医療倫理 病態・薬物治療学演習		医療倫理論
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	情報科学		コミュニケーション	生命医療倫理 病態・薬物治療学演習		医療倫理論
5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	情報科学 情報科学演習		コミュニケーション	生命医療倫理 病態・薬物治療学演習		医療倫理論 医療情報学
【②薬学教育の概要】						
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	薬学入門 早期体験学習1			生命医療倫理		医療倫理論
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	薬学入門 早期体験学習1			生命医療倫理		医療倫理論
【③生涯学習】						
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	薬学入門			生命医療倫理		医療倫理論
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)	薬学入門			生命医療倫理		医療倫理論
【④次世代を担う人材の育成】						
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)				生命医療倫理		医療倫理論
2) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)				生命医療倫理		医療倫理論

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
B 薬学と社会						
(1) 人と社会に関わる薬剤師						
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。		心理社会	コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)		心理社会	コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)			コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)			コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)			コミュニケーション	生命医療倫理		医療倫理論
(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範						
【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】						
1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。			医療と法	生命医療倫理 薬事関連法・制度		医療倫理論
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。			医療と法	生命医療倫理 薬事関連法・制度		医療倫理論
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。			医療と法	生命医療倫理 薬事関連法・制度		医療倫理論
4) 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。			医療と法	生命医療倫理 薬事関連法・制度		医療倫理論
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。			医療と法	生命医療倫理 薬事関連法・制度		医療倫理論
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。			医療と法	生命医療倫理 薬事関連法・制度		医療倫理論
7) 個人情報取扱いについて概説できる。			医療と法	生命医療倫理 薬事関連法・制度		医療倫理論
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。			医療と法	生命医療倫理 薬事関連法・制度		医療倫理論
【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】						
1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律」の目的及び医薬品等(医薬品、薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品)、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等(製品)の定義について説明できる。						レギュラトリーサイエンス

	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。				薬事関連法・制度 医薬品化学1		レギュラトリーサイエンス
3) 治療の意義と仕組みについて概説できる。				生命医療倫理 薬事関連法・制度 医薬品化学2		医療倫理論 レギュラトリーサイエンス
4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。				薬事関連法・制度		レギュラトリーサイエンス
5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。				薬事関連法・制度 医薬品化学1		レギュラトリーサイエンス
6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。				薬事関連法・制度		レギュラトリーサイエンス
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。				薬事関連法・制度		レギュラトリーサイエンス
8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。				薬事関連法・制度		レギュラトリーサイエンス 薬局方総論
9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。				薬事関連法・制度		レギュラトリーサイエンス
10) 健康被害救済制度について説明できる。				薬事関連法・制度		レギュラトリーサイエンス
11) レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。				薬事関連法・制度		レギュラトリーサイエンス
【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】						
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。				薬事関連法・制度		
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。	生薬学			薬事関連法・制度 医薬品化学2		
3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。				薬事関連法・制度		
(3) 社会保障制度と医療経済						
【①医療、福祉、介護の制度】						
1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。			医療と法	制度経済 コミュニケーション		医療政策論
2) 医療保険制度について説明できる。			医療と法	制度経済 コミュニケーション		医療政策論

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 療養担当規則について説明できる。				制度経済 コミュニティラーソン		
4) 公費負担医療制度について概説できる。				制度経済 コミュニティラーソン		
5) 介護保険制度について概説できる。				制度経済 コミュニティラーソン		
6) 薬価基準制度について概説できる。				制度経済 コミュニティラーソン		
7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。				制度経済 コミュニティラーソン		
【②医薬品と医療の経済性】						
1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。				制度経済 医薬品化学1 コミュニティラーソン		
2) 国民医療費の動向について概説できる。				制度経済 医薬品化学1 コミュニティラーソン		
3) 後発医薬品とその役割について説明できる。		製剤学		制度経済 医薬品化学1 コミュニティラーソン		
4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。				制度経済 医薬品化学1		医薬品情報評価学
(4) 地域における薬局と薬剤師						
【①地域における薬局の役割】						
1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。				生命医療倫理 コミュニティラーソン		医療倫理論
2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。				生命医療倫理 制度経済 コミュニティラーソン		医療政策論 医療倫理論
3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。				生命医療倫理 コミュニティラーソン		医療倫理論
4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。				生命医療倫理 コミュニティラーソン		医療倫理論
5) 災害時の薬局の役割について説明できる。				生命医療倫理 コミュニティラーソン		医療倫理論
6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。				生命医療倫理 制度経済 コミュニティラーソン		医療政策論 医療倫理論

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該 当 科 目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】					
1) 地域包括ケアの理念について説明できる。			生命医療倫理 コミュニケーション		医療倫理論
2) 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。			生命医療倫理 コミュニケーション		医療倫理論
3) 学校薬剤師の役割について説明できる。		衛生薬学4	生命医療倫理 コミュニケーション		医療倫理論
4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。			生命医療倫理 コミュニケーション		医療倫理論
5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)			生命医療倫理 コミュニケーション		医療倫理論
C 薬学基礎					
C1 物質の物理的性質					
(1) 物質の構造					
【①化学結合】					
1) 化学結合の様式について説明できる。	物理化学3		化学 化学演習 基礎有機化学 有機化学1		
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	物理化学3		化学 化学演習 有機化学1		
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。	有機化学3 物理化学3		有機化学1		
【②分子間相互作用】					
1) ファンデルワールス力について説明できる。	物理化学3		化学 化学演習 有機化学1		
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	物理化学3	物理薬理学	物理化学2 化学 化学演習 有機化学1		
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	物理化学3		化学 化学演習 有機化学1		
4) 分散力について例を挙げて説明できる。	物理化学3		化学 化学演習		
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。	物理化学3		化学 化学演習 基礎有機化学 有機化学1 生化学1		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。		物理化学3				
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	生化学1	物理化学3				
【③原子・分子の挙動】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	物理学2	物理・放射化学実習 分析化学2	放射化学			
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。		分析化学2	放射化学			
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。			応用放射化学			
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。	物理学2 有機化学1					
5) 光の散乱および干渉について説明できる。	物理学2	物理化学2 分析化学2				
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。		物理化学2	薬剤学実習 物理薬理学 製剤学			
【④放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射線について説明できる。		物理・放射化学実習	放射化学			
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。		物理・放射化学実習	放射化学			
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。		物理・放射化学実習	放射化学			
4) 核反応および放射平衡について説明できる。		物理・放射化学実習	放射化学			
5) 放射線測定の実験と利用について概説できる。		物理・放射化学実習	放射化学			
(2) 物質のエネルギーと平衡						
【①気体の微視的状态と巨視的状态】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物理化学1					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	物理化学1					
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	物理化学1					
【②エネルギー】						
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。	物理化学1					
2) 熱力学第一法則を説明できる。	物理化学1					
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。	物理化学1					
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。	物理化学1					
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	物理化学1					
6) エンタルピーについて説明できる。	物理化学1		物理薬剤学 製剤学			
7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。	物理化学1					
【③自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。	物理化学1		物理薬剤学			
2) 熱力学第二法則について説明できる。	物理化学1					
3) 熱力学第三法則について説明できる。	物理化学1					
4) ギブズエネルギーについて説明できる。	有機化学1	生化学2 物理化学2	物理薬剤学 製剤学			
5) 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。		物理化学2 生化学2				
【④化学平衡の原理】						
1) ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。		物理化学2	物理薬剤学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。		物理化学2 生化学2				
3) 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。		物理化学2				
4) 共役反応の原理について説明できる。		物理化学2 生化学2				
【⑤相平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動について説明できる。		物理化学2				
2) 相平衡と相律について説明できる。		物理化学2				
3) 状態図について説明できる。		物理化学2				
【⑥溶液の性質】						
1) 希薄溶液の束一的性質について説明できる。		物理化学3 物理・放射化学実習	物理薬剤学			
2) 活量と活量係数について説明できる。	分析化学1	物理化学2				
3) 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。			応用分析学			
4) イオン強度について説明できる。	分析化学1					
【⑦電気化学】						
1) 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。		生化学2				
2) 電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。	分析化学1	生化学2	応用分析学			
(3) 物質の変化						
【⑧反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		物理化学3 物理・放射化学実習	物理薬剤学			
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		物理化学3 物理・放射化学実習	物理薬剤学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物理化学3	物理薬理学			
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物理化学3 物理・放射化学実習				
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。		物理化学3				
6) 反応速度と温度との関係を説明できる。			物理薬理学			
7) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる。		物理化学3				
C2 化学物質の分析						
(1) 分析の基礎						
【①分析の基本】						
1) 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)	基礎薬学実習 分析化学1	分析化学実習	生物科学実習			
2) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)	基礎薬学実習 分析化学1	分析化学2 分析化学実習	生物科学実習			
3) 分析法のバリデーションについて説明できる。	分析化学1	分析化学2				
(2) 溶液中の化学平衡						
【①酸・塩基平衡】						
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	化学演習 基礎薬学実習 分析化学1 生化学1	物理・放射化学実習	生物科学実習			
2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	化学演習 基礎薬学実習 有機化学1 分析化学1 生化学1	物理・放射化学実習 分析化学実習				
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)	基礎薬学実習	物理・放射化学実習 分析化学実習				
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	化学演習 基礎薬学実習 分析化学1 生化学1	物理・放射化学実習				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	分析化学1					
2) 沈殿平衡について説明できる。	化学演習 基礎薬学実習 分析化学1					
3) 酸化還元平衡について説明できる。	分析化学1					
4) 分配平衡について説明できる。		物理・放射化学実習				
(3) 化学物質の定性分析・定量分析						
【①定性分析】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	基礎薬学実習					
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。						薬局方総論
【②定量分析 (容量分析・重量分析)】						
1) 中和滴定 (非水滴定を含む) の原理、操作法および応用例を説明できる。	化学 化学演習 分析化学1		応用分析学			
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学1		応用分析学			
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学1		応用分析学			
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学1		応用分析学			
5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)	分析化学1	分析化学実習	応用分析学			薬局方総論
6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。						薬局方総論
7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。						薬局方総論

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 機器を用いる分析法						
【①分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。		分析化学2 有機化学2/解析学	生物科学実習	生物物理化学 臨床化学		
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。		分析化学2		生物物理化学 臨床化学		
3) 赤外吸収 (IR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		有機化学2/解析学		生物物理化学		
4) 原子吸光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		分析化学2				
5) 旋光度測定法 (旋光分散) の原理および応用例を説明できる。		有機化学2/解析学		生物物理化学		
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)		分析化学実習				
【②核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法】						
1) 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		有機化学2/解析学		生物物理化学		
【③質量分析法】						
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		有機化学2/解析学				
【④X線分析法】						
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。		物理化学2	薬理学実習 物理薬理学 製剤学	生物物理化学		
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。		物理化学2	薬理学実習 物理薬理学 製剤学			
【⑤熱分析】						
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。		物理化学2	物理薬理学 製剤学			
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。		物理化学2	物理薬理学 製剤学	生物物理化学		

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
(5) 分離分析法						
【①クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。	基礎有機化学実習 生化学1	分析化学2	生物科学実習	生物物理化学		
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。	基礎有機化学実習	分析化学2	有機化学実習			
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学2				
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		分析化学2				
5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)	基礎有機化学実習	分析化学2 分析化学実習	生物科学実習			
【②電気泳動法】						
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。	生化学1	分析化学2	生物科学実習	臨床化学		
(6) 臨床現場で用いる分析技術						
【①分析の準備】						
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。		分析化学2		臨床化学		
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。			応用分析学	臨床化学		
【②分析技術】						
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			応用分析学	臨床化学		
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。			応用分析学	臨床化学		
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。			応用分析学 生物科学実習	臨床化学		
4) 代表的なドラッグミストリーについて概説できる。			応用分析学	臨床化学		
5) 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。	早期体験学習2		応用放射化学 薬物治療学4	臨床化学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目				
		1年	2年	3年	4年	5年
C3 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【①基本事項】						
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	基礎有機化学 有機化学1	有機化学3	有機化学4			
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	基礎有機化学 有機化学1	有機化学3	有機化学4			
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	基礎有機化学 有機化学1					
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	有機化学1	有機化学3				
5) ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	有機化学1					
6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。	基礎有機化学 有機化学1 基礎有機化学実習	有機化学2				
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。		有機化学2			薬品合成化学	
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。		有機化学2				
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)	有機化学1 基礎有機化学実習	有機化学2 有機化学3	有機化学実習 有機化学4			
【②有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	基礎有機化学 有機化学1		合成化学		薬品合成化学	
2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	基礎有機化学 有機化学1 生化学1		合成化学		薬品合成化学	
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	基礎有機化学 有機化学1 生化学1		合成化学		薬品合成化学	
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。	有機化学1		合成化学		薬品合成化学	
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)	基礎有機化学 有機化学1		合成化学		薬品合成化学	

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアリキキュラム (SBOs)						
6) 炭素-炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。	基礎有機化学 有機化学1		合成化学	薬品合成化学		
7) フィッシャー投影式とニュウマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)	基礎有機化学 有機化学1		有機化学4 合成化学	薬品合成化学		
8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。	有機化学1		合成化学	薬品合成化学		
(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応						
【①アルカン】						
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。	基礎有機化学 有機化学1		合成化学	薬品合成化学		
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)	基礎有機化学 有機化学1		合成化学	薬品合成化学		
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	有機化学1		合成化学	薬品合成化学		
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能)	有機化学1		合成化学	薬品合成化学		
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	有機化学1		合成化学	薬品合成化学		
【②アルケン・アルキン】						
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。	基礎有機化学	有機化学2	合成化学	薬品合成化学		
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学2	合成化学	薬品合成化学		
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学2	合成化学	薬品合成化学		
【③芳香族化合物】						
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。	基礎有機化学	有機化学3	合成化学	薬品合成化学		
2) 芳香族性の概念を説明できる。		有機化学3	合成化学	薬品合成化学		
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学3	合成化学	薬品合成化学		

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
4) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		有機化学3	合成化学	薬品合成化学		
5) 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学3	合成化学	薬品合成化学		
(3) 官能基の性質と反応						
【①概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	基礎有機化学	有機化学2 有機化学3	有機化学4 合成化学	薬品合成化学		
2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)	基礎有機化学 基礎有機化学実習		合成化学	薬品合成化学		
【②有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学	有機化学2	合成化学	薬品合成化学		
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。		有機化学2	合成化学	薬品合成化学		
3) 脱離反応の特徴について説明できる。		有機化学2	合成化学	薬品合成化学		
【③アルコール・フェノール・エーテル】						
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学	有機化学2	有機化学4 合成化学	薬品合成化学		
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学	有機化学2	合成化学	薬品合成化学		
【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】						
1) アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学 基礎有機化学実習	有機化学3	有機化学4 有機化学実習 合成化学	薬品合成化学		
2) カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学	有機化学3	合成化学 有機化学実習	薬品合成化学		
3) カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学実習	有機化学3	有機化学実習 有機化学4 合成化学	薬品合成化学		
【⑤アミン】						
1) アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	基礎有機化学		有機化学4 合成化学	薬品合成化学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑥電子効果】						
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。		有機化学2 有機化学3	有機化学4 合成化学	薬品合成化学		
【⑦酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。		有機化学3	有機化学4 合成化学	薬品合成化学		
2) 含窒素化合物の塩基性を比較して説明できる。			有機化学4 合成化学	薬品合成化学		
(4) 化学物質の構造決定						
【①核磁気共鳴 (NMR)】						
1) ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。		有機 ¹ H・ ¹³ C NMR解析学	有機化学4 合成化学	薬品合成化学		
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおその化学シフト値を示すことができる。		有機 ¹ H・ ¹³ C NMR解析学	有機化学4 合成化学	薬品合成化学		
3) ¹ H NMR の積分値の意味を説明できる。		有機 ¹ H・ ¹³ C NMR解析学	有機化学4 合成化学	薬品合成化学		
4) ¹ H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する基本的な分裂様式を説明できる。		有機 ¹ H・ ¹³ C NMR解析学	有機化学実習			
5) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)		有機 ¹ H・ ¹³ C NMR解析学	有機化学4 合成化学	薬品合成化学		
【②赤外吸収 (IR)】						
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。		有機 ¹ H・ ¹³ C NMR解析学	有機化学実習 合成化学	薬品合成化学		
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)		有機 ¹ H・ ¹³ C NMR解析学	有機化学実習 合成化学	薬品合成化学		
【③質量分析】						
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。		有機 ¹ H・ ¹³ C NMR解析学	合成化学	薬品合成化学		
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)		有機 ¹ H・ ¹³ C NMR解析学				
3) ピークの種類 (基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) を説明できる。		有機 ¹ H・ ¹³ C NMR解析学				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)		有機スペクトル解析学				
【④総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)		有機スペクトル解析学				
(5) 無機化合物・錯体の構造と性質						
【①無機化合物・錯体】						
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。		生物無機化学				
2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。		生物無機化学				
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。		生物無機化学				
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。		生物無機化学				
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。		生物無機化学				
C4 生体分子・医薬品の化学による理解						
(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質						
【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】						
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子(アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど)の構造に基づく化学的性質を説明できる。	基礎有機化学		有機化学4 ゲノム医科学	生物物理化学		
2) 医薬品の標的となる生体高分子(タンパク質、核酸など)の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。			有機化学4 ゲノム医科学	生物物理化学		
【②生体内で機能する小分子】						
1) 細胞膜受容体および細胞内(核内)受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。		薬理学1			医薬品化学1	
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。					医薬品化学1	
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。					医薬品化学1	
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。					医薬品化学1	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 生体反応の化学による理解					
【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】					
1) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の構造と化学的性質を説明できる。					
2) リン化合物(リン酸誘導体など)および硫黄化合物(チオール、ジスルフィド、チオエステルなど)の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。					
【②酵素阻害剤と作用機序】					
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。					
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。					
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。					
【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】					
1) 代表的な受容体のアゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。					
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。					
【④生体内で起こる有機反応】					
1) 代表的な生体分子(脂肪酸、コレステロールなど)の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。					
2) 異物代謝の反応(発がん性物質の代謝的活性化など)を有機化学の観点から説明できる。					
(3) 医薬品の化学構造と性質、作用					
【①医薬品と生体分子の相互作用】					
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点(結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など)から説明できる。					
【②医薬品の化学構造に基づく性質】					
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質(酸性、塩基性、疎水性、親水性など)を説明できる。					
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。					
		合成化学	薬品合成化学 医薬品化学1		
			医薬品化学1		
生物学 生化学1			医薬品化学1		
生物学 生化学1			医薬品化学1		
	薬理学1		医薬品化学1 医薬品化学2		
			医薬品化学1		
		合成化学	薬品合成化学 医薬品化学1		
			医薬品化学1 医薬品化学2		
			医薬品化学1 医薬品化学2		
			医薬品化学1 医薬品化学2		7ドバ ¹ スト薬物治療学 2
			医薬品化学1		7ドバ ¹ スト薬物治療学 2
		製剤学	医薬品化学1 医薬品化学2		7ドバ ¹ スト薬物治療学 2

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のファーマコフオアについて概説できる。				医薬品化学1		7ドバンスト薬物治療学 2
2) バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。			合成化学	薬品合成化学 医薬品化学1		7ドバンスト薬物治療学 2
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。				医薬品化学1 医薬品化学2		7ドバンスト薬物治療学 2
【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】						
1) ヌクレオチドおよび核酸塩基アナログを有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学2		7ドバンスト薬物治療学 2
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			合成化学	薬品合成化学 医薬品化学2		7ドバンスト薬物治療学 2
3) スルホンアミド構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			合成化学	薬品合成化学 医薬品化学2		7ドバンスト薬物治療学 2
4) キノロン骨格をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学2		7ドバンスト薬物治療学 2
5) β -ラクタム構造をもつ代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			合成化学	薬品合成化学 医薬品化学2		7ドバンスト薬物治療学 2
6) ペプチドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学2		7ドバンスト薬物治療学 2
【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】						
1) カテコールアルミン骨格を有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	薬理学1		合成化学	薬品合成化学 医薬品化学1		7ドバンスト薬物治療学 2
2) アセチルコリンアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。	薬理学1			医薬品化学1		7ドバンスト薬物治療学 2
3) ステロイドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学2		7ドバンスト薬物治療学 2
4) ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				薬品化学1		7ドバンスト薬物治療学 2
5) オピオイドアナログの代表的な医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				医薬品化学1		7ドバンスト薬物治療学 2

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】						
1) DNAと結合する医薬品 (アルキル化剤、シスプラチン類) を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。				医薬品化学2		7ドバンスト薬物治療学2
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				医薬品化学2		7ドバンスト薬物治療学2
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				医薬品化学2		7ドバンスト薬物治療学2
【⑦イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質】						
1) イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造 (ジヒドロピリジンなど) の特徴を説明できる。			薬理学2	医薬品化学2		7ドバンスト薬物治療学2
C5 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【①薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。	生薬学	薬用天然物化学1		薬用天然物化学2		
2) 代表的な薬用植物を外形態から説明し、区別できる。(知識、技能)	生薬学	薬用天然物化学1		薬用天然物化学2		
3) 植物の主な内部形態について説明できる。		薬用天然物化学1				
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物 (ケン、アサ) の特徴を説明できる。	生薬学	薬用天然物化学1		薬用天然物化学2		
【②生薬の基原】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬 (植物、動物、菌類、菌類由来) を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。	生薬学	漢方・生薬学実習 薬用天然物化学1		薬用天然物化学2		薬局方総論
【③生薬の用途】						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬 (植物、動物、菌類、菌類由来) の薬効、成分、用途などを説明できる。	生薬学	基礎漢方薬学 薬用天然物化学1 漢方・生薬学実習		薬用天然物化学2		薬局方総論 漢方医学概論
2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。	生薬学	基礎漢方薬学 薬用天然物化学1		薬用天然物化学2		漢方医学概論
【④生薬の同定と品質評価】						
1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。	生薬学					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。		漢方・生薬学実習				薬局方総論
3) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)		漢方・生薬学実習				
4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。		薬用天然物化学1 漢方・生薬学実習	薬用天然物化学2			
5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。		薬用天然物化学1 漢方・生薬学実習	薬用天然物化学2			
(2) 薬の空庫としての天然物						
【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの合成経路を概説できる。		薬用天然物化学1	薬用天然物化学2			
2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		薬用天然物化学1				
3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。		薬用天然物化学1				
4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			薬用天然物化学2			
5) アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			薬用天然物化学2			
【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】						
1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。			薬用天然物化学2			
2) 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			薬用天然物化学2			
【③天然生物活性物質の取扱い】						
1) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)	基礎有機化学実習	漢方・生薬学実習				
【④天然生物活性物質の利用】						
1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。		薬用天然物化学1	薬用天然物化学2			
2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。		薬用天然物化学1	薬用天然物化学2			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目						
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	
3)	農薬や香粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。		薬用天然物化学1	薬用天然物化学2				
C6 生命現象の基礎								
(1) 細胞の構造と機能								
【①細胞膜】								
1)	細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	生化学1						
2)	エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	生化学1						
【②細胞小器官】								
1)	細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	生化学1		病態生化学				
【③細胞骨格】								
1)	細胞骨格の構造と機能を説明できる。	生化学1		病態生化学				
(2) 生命現象を担う分子								
【①脂質】								
1)	代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学 生化学1		衛生薬学3 病態生化学		生物物理化学 医薬品化学1 臨床化学		
【②糖質】								
1)	代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学 生化学1	薬用天然物化学1	衛生薬学3 病態生化学		生物物理化学 医薬品化学1 臨床化学		
2)	代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学 生化学1		衛生薬学3 病態生化学		医薬品化学1		
【③アミノ酸】								
1)	アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生物学 生化学1		衛生薬学3		生物物理化学 医薬品化学1		
【④タンパク質】								
1)	タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	生物学 生化学1		病態生化学 生物科学実習		生物物理化学 医薬品化学1		
【⑤ヌクレオチドと核酸】								
1)	ヌクレオチドと核酸(DNA、RNA)の種類、構造、性質を説明できる。	生物学 基礎細胞生物学	生化学3	生物科学実習 ゲノム医科学		生物物理化学 医薬品化学1		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【⑥ビタミン】						
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。			衛生薬学3 病態生化学	医薬品化学1		
【⑦微量元素】						
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。			衛生薬学3	医薬品化学1 臨床化学		
【⑧生体分子の定性、定量】						
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)			生物科学実習	生物物理化学		
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【①タンパク質の構造と機能】						
1) 多様な機能をもちタンパク質(酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質)を列挙し概説できる。	生物学 基礎細胞生物学 生化学1			生物物理化学 臨床化学		
【②タンパク質の成熟と分解】						
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程(細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾)について説明できる。	生物学 基礎細胞生物学		分子細胞生物学			
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。	基礎細胞生物学		病態生化学			
【③酵素】						
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	生物学 生化学1		生物科学実習	生物物理化学 臨床化学		
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生物学 生化学1			生物物理化学 臨床化学		
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生化学1			生物物理化学		
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)			生物科学実習	生物物理化学		
【④酵素以外のタンパク質】						
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。			衛生薬学3 分子細胞生物学	生物物理化学		
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。		生化学2	衛生薬学3 病態生化学	臨床化学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
(4) 生命情報を担う遺伝子						
【①概論】						
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3	分子細胞生物学 ゲノム医科学			
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3	ゲノム医科学			
【②遺伝情報を担う分子】						
1) 染色体の構造 (ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど) を説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3				
2) 遺伝子の構造 (プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど) を説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3				
3) RNA の種類 (hnRNA、mRNA、rRNA、tRNA など) と機能について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3				
【③遺伝子の複製】						
1) DNA の複製の過程について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3				
【④転写・翻訳の過程と調節】						
1) DNA から RNA への転写の過程について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3				
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3	分子細胞生物学 ゲノム医科学			
3) 転写因子による転写制御について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3	分子細胞生物学			
4) RNA のプロセッシング (キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など) について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3				
5) RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3				
【⑤遺伝子の変異・修復】						
1) DNA の変異と修復について説明できる。	基礎細胞生物学	生化学3				
【⑥組換え DNA】						
1) 遺伝子工学技術 (遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など) を概説できる。			ゲノム医科学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
2)	遺伝子改変生物 (遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物) について概説できる。			ゲノム医科学			
(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系							
【① 概論】							
1)	エネルギー代謝の概要を説明できる。	生物学	生化学2				
【②ATP の産生と糖質代謝】							
1)	解糖系及び乳酸の生成について説明できる。	生物学	生化学2	病態生化学			
2)	クエン酸回路 (TCA サイクル) について説明できる。	生物学	生化学2	病態生化学			
3)	電子伝達系 (酸化リン酸化) と ATP 合成酵素について説明できる。	生物学	生化学2	病態生化学			
4)	グリコーゲンの代謝について説明できる。		生化学2	病態生化学 分子細胞生物学	臨床化学		
5)	糖新生について説明できる。		生化学2	衛生薬学3 病態生化学	臨床化学		
【③脂質代謝】							
1)	脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。	生物学	薬用天然物化学1 生化学2	衛生薬学3 病態生化学			
2)	コレステロールの生合成と代謝について説明できる。		生化学2	衛生薬学3 病態生化学			
【④肌糖状態と飽食状態】							
1)	肌糖状態のエネルギー代謝 (ケトン体の利用など) について説明できる。	生物学	生化学2	衛生薬学3 病態生化学			
2)	余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。		生化学2	衛生薬学3 病態生化学			
【⑤その他の代謝系】							
1)	アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝 (尿素回路など) について説明できる。	生物学	生化学2	病態生化学			
2)	ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。		生化学2				

	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
3) ペントースリン酸回路について説明できる。		生化学2				
(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達						
【① 概論】						
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。	生物学		分子細胞生物学			先端分子医科学
【②細胞内情報伝達】						
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		薬理学1	分子細胞生物学			先端分子医科学
2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。		薬理学1	分子細胞生物学			先端分子医科学
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。		薬理学1	分子細胞生物学			先端分子医科学
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。		薬理学1	分子細胞生物学			先端分子医科学
5) 細胞内 (核内) 受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		薬理学1	分子細胞生物学			先端分子医科学
【③細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	生物学					
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。	生物学					
(7) 細胞の分裂と死						
【①細胞分裂】						
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。	基礎細胞生物学		分子細胞生物学			先端分子医科学
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。	基礎細胞生物学		分子細胞生物学			先端分子医科学
【②細胞死】						
1) 細胞死 (アポトーシスとネクロトーシス) について説明できる。	基礎細胞生物学		病態生化学			先端分子医科学

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③がん細胞】						
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。	基礎細胞生物学		分子細胞生物学			先端分子医科学
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。	基礎細胞生物学		分子細胞生物学			先端分子医科学
C7 人体の成り立ちと生体機能の調節						
(1) 人体の成り立ち						
【①遺伝】						
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。	基礎細胞生物学		ゲノム医科学			先端分子医科学
2) 遺伝子多型について概説できる。	基礎細胞生物学	生化学3	ゲノム医科学			先端分子医科学
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。			ゲノム医科学 病態生化学			先端分子医科学
【②発生】						
1) 個体発生について概説できる。	基礎細胞生物学					
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	基礎細胞生物学 人体の構造と病態1		分子細胞生物学			
【③器官系概論】						
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	機能形態学1 人体の構造と病態1 人体の構造と病態2	生物学実習				
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類（上皮、内皮、間葉系など）を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	機能形態学1 人体の構造と病態1 人体の構造と病態2	生物学実習				
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。（技能）		生物学実習				
4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。（技能）		生物学実習				
【④神経系】						
1) 中枢神経系について概説できる。	機能形態学1 人体の構造と病態1		薬理学3			医薬品安全性学
2) 末梢（体性・自律）神経系について概説できる。	機能形態学1 人体の構造と病態1	薬理学1				医薬品安全性学

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目				
		1年	2年	3年	4年	5年
【⑤骨格系・筋肉系】						
1)	骨、筋肉について概説できる。	機能形態学1 人体の構造と病態1	薬物治療学2	病態生化学		
2)	代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	機能形態学1 人体の構造と病態1	薬物治療学2			
【⑥皮膚】						
1)	皮膚について概説できる。	人体の構造と病態1	機能形態学2 薬物治療学2			
【⑦循環器系】						
1)	心臓について概説できる。	人体の構造と病態2	機能形態学2	薬理学2	医薬品安全性学	
2)	血管系について概説できる。	人体の構造と病態2	機能形態学2	病態生化学 薬理学2	医薬品安全性学	
3)	リンパ管系について概説できる。	人体の構造と病態2		免疫学 病態生化学		
【⑧呼吸器系】						
1)	肺、気管支について概説できる。	人体の構造と病態2	機能形態学2		医薬品安全性学	
【⑨消化器系】						
1)	胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	人体の構造と病態1	機能形態学2 薬物治療学2	病態生化学	医薬品安全性学	
2)	肝臓、膵臓、胆臓について概説できる。	人体の構造と病態1	機能形態学2 薬物治療学2	病態生化学	医薬品安全性学	
【⑩泌尿器系】						
1)	泌尿器系について概説できる。	人体の構造と病態2		病態生化学	医薬品安全性学	
【⑪生殖器系】						
1)	生殖器系について概説できる。	人体の構造と病態2				
【⑫内分泌系】						
1)	内分泌系について概説できる。	人体の構造と病態2		病態生化学 分子細胞生物学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目				
		1年	2年	3年	4年	5年
【⑬感覚器系】						
1) 感覚器系について概説できる。	人体の構造と病態2	機能形態学2		医薬品安全性学		
【⑭血液・造血管系】						
1) 血液・造血管系について概説できる。	人体の構造と病態1	薬物治療学2	病態生化学 分子細胞生物学			
(2) 生体機能の調節						
【①神経による調節機構】						
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	機能形態学1 人体の構造と病態1	薬理学1	薬理学3			
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学1 人体の構造と病態1	薬理学1	分子細胞生物学 薬理学3			
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	機能形態学1 人体の構造と病態1					
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	機能形態学1 人体の構造と病態1		薬理学2			
【②ホルモン・内分泌系による調節機構】						
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	人体の構造と病態2	機能形態学2	病態生化学 分子細胞生物学			
【③オートコイドによる調節機構】						
1) 代表的なオートコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	人体の構造と病態1 人体の構造と病態2		病態生化学 分子細胞生物学 薬理学2			
【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】						
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	人体の構造と病態1 人体の構造と病態2		分子細胞生物学			先端分子医科学
【⑤血圧の調節機構】						
1) 血圧の調節機構について概説できる。	人体の構造と病態2	機能形態学2	病態生化学 分子細胞生物学 薬理学2			
【⑥血糖の調節機構】						
1) 血糖の調節機構について概説できる。	人体の構造と病態2	生化学2	病態生化学 分子細胞生物学			
【⑦体液の調節】						
1) 体液の調節機構について概説できる。	人体の構造と病態2		病態生化学 分子細胞生物学 薬理学2			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。		人体の構造と病態2		病態生化学 薬理学2			
【⑧体温の調節】							
1) 体温の調節機構について概説できる。		人体の構造と病態1	薬物治療学2				
【⑨血液凝固・線溶系】							
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。		人体の構造と病態1	薬物治療学2	病態生化学 薬理学2			
【⑩性周期の調節】							
1) 性周期の調節機構について概説できる。		人体の構造と病態2					
C8 生体防御と微生物							
(1) 身体をまもる							
【① 生体防御反応】							
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。		生物学		衛生薬学4 免疫学			
2) 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。		生物学		免疫学			先端分子医科学
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。		生物学		免疫学			先端分子医科学
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。		生物学		免疫学			先端分子医科学
【②免疫を担当する組織・細胞】							
1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。		生物学		免疫学			先端分子医科学
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。		生物学		免疫学			先端分子医科学
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。		生物学		免疫学			先端分子医科学
【③分子レベルで見た免疫のしくみ】							
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。		生物学		免疫学			先端分子医科学

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。			免疫学			先端分子医科学
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性 (遺伝子再構成) と活性化について説明できる。			免疫学			先端分子医科学
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。	生物学		免疫学			先端分子医科学
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。	生物学		分子細胞生物学 免疫学			先端分子医科学
(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用						
【① 免疫応答の制御と破綻】						
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。	生物学		免疫学			先端分子医科学
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。	生物学		免疫学			先端分子医科学
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。			免疫学			先端分子医科学
4) 臓器移植と免疫反応の関わり (拒絶反応、免疫抑制剤など) について説明できる。			免疫学			先端分子医科学
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。			免疫学			先端分子医科学
6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。			免疫学			先端分子医科学
【② 免疫反応の利用】						
1) フクチンの原理と種類 (生フクチン、不活化フクチン、トキシイド、混合フクチンなど) について説明できる。			衛生薬学 ⁴			先端分子医科学
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。			免疫学			先端分子医科学
3) 血清療法と抗体医薬について概説できる。			免疫学			先端分子医科学
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法 (ELISA 法、ウエスタンブロット法など) を実施できる。(技能)		生物学実習				

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	生物学	微生物学		臨床感染症学		先端分子医科学
(3) 微生物の基本						
【① 総論】						
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。						
【② 細菌】						
1) 細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。		微生物学				先端分子医科学
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。		生物学実習 微生物学				先端分子医科学
3) 細菌の異化作用（呼吸と発酵）および同化作用について説明できる。		微生物学				
4) 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。		微生物学				
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。		微生物学				先端分子医科学
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。		微生物学				先端分子医科学
【③ ウイルス】						
1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		微生物学				先端分子医科学
【④ 真菌・原虫・蠕虫】						
1) 真菌の性状を概説できる。		微生物学				
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。		微生物学				
【⑤ 消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。		生物学実習 微生物学	衛生薬学4			
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。		生物学実習 微生物学	衛生薬学4			薬局方総論
【⑥ 検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。（技能）		生物学実習				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 無菌操作を実施できる。(技能)		生物学実習				
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)		生物学実習				
(4) 病原体としての微生物						
【①感染の成立と共生】						
1) 感染の成立(感染経路、侵入門戸など)と共生(腸内細菌など)について説明できる。		病原微生物学	衛生薬学4	臨床感染症学		先端分子医科学
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。		病原微生物学	衛生薬学4	臨床感染症学		先端分子医科学
【②代表的な病原体】						
1) DNA ウイルス(ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルスなど)について概説できる。		病原微生物学		臨床感染症学		先端分子医科学
2) RNA ウイルス(ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など)について概説できる。		病原微生物学		臨床感染症学		先端分子医科学
3) グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)およびグラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、シフテリア菌、炭疽菌、セラチア菌など)について概説できる。		病原微生物学		臨床感染症学		先端分子医科学
4) グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌など)およびグラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、肺炎ピブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など)について概説できる。		病原微生物学		臨床感染症学		先端分子医科学
5) グラム陰性らせん菌(ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジエジュニ/コリなど)およびスピロヘータについて概説できる。		病原微生物学		臨床感染症学		先端分子医科学
6) 抗酸菌(結核菌、らい菌など)について概説できる。		病原微生物学		臨床感染症学		先端分子医科学
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。		病原微生物学		臨床感染症学		
8) 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癩菌など)について概説できる。		病原微生物学		臨床感染症学		
9) 原虫(マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫(回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど)について概説できる。		病原微生物学		臨床感染症学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目				
		1年	2年	3年	4年	5年
D 衛生薬学						
D1 健康						
(1) 社会・集団と健康						
【①健康と疾病の概念】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			衛生薬学4			
【②保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			衛生薬学4			
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。			衛生薬学4			
3) 人口動態 (死因別死亡率など) の変遷について説明できる。			衛生薬学4			
【③疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			衛生薬学4			
2) 疫学の三要因 (病因、環境要因、宿主要因) について説明できる。			衛生薬学4			
3) 疫学の種類 (記述疫学、分析疫学など) とその方法について説明できる。			衛生薬学4			
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)			衛生薬学4			
(2) 疾病の予防						
【①疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。	身体運動科学		衛生薬学3 衛生薬学4			
2) 健康増進政策 (健康日本21など) について概説できる。	身体運動科学		衛生薬学3 衛生薬学4			
【②感染症とその予防】						
1) 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など) の特徴について説明できる。			衛生薬学4	臨床感染症学		
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。			衛生薬学4	臨床感染症学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。			衛生薬学4	臨床感染症学		
4) 予防接種の意義と方法について説明できる。			衛生薬学4	臨床感染症学		
【③生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。	身体運動科学		衛生薬学4			
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。	身体運動科学		衛生薬学4			
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度)	身体運動科学		衛生薬学3 衛生薬学4			
【④母子保健】						
1) 新生児アスクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。			衛生薬学4			
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防策について説明できる。			衛生薬学4			
【⑤労働衛生】						
1) 代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。			衛生薬学4			
2) 労働衛生管理について説明できる。			衛生薬学4			
(3) 栄養と健康						
【①栄養】						
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。	身体運動科学		衛生薬学3	臨床栄養学		
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。		薬物治療学2	衛生薬学3	臨床栄養学		
3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。	身体運動科学		衛生薬学3			
4) 五大栄養素以外の食品成分(食物繊維、抗酸化物質など)の機能について説明できる。			衛生薬学3			
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。			衛生薬学3	臨床栄養学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。			衛生薬学3			
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。	身体運動科学		衛生薬学3	臨床栄養学		
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。			衛生薬学3 衛生薬学4	臨床栄養学		
【②食品機能と食品衛生】						
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。			衛生薬学3			
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)			衛生薬学3			
3) 食品の変質を防ぐ方法(保存法)を説明できる。			衛生薬学3			
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。			衛生薬学3			
5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。			衛生薬学3			
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。			衛生薬学3			
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。			衛生薬学3			
【③食中毒と食品汚染】						
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		薬物治療学2	衛生薬学3 衛生薬学4			
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。		薬物治療学2	衛生薬学3			
3) 化学物質(重金属、残留農薬など)やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。		衛生薬学1	衛生薬学3			
D2 環境						
(1) 化学物質・放射線の生体への影響						
【①化学物質の毒性】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。		衛生薬学1				

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。		衛生薬学1				
3) 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。		衛生薬学1	衛生薬学3	医薬品安全性学		
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。		衛生薬学1	衛生薬学3			
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)		衛生薬学1		医薬品安全性学		
6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。		衛生薬学1		医薬品安全性学		
7) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。		衛生薬学1		医薬品安全性学		
【②化学物質の安全性評価と適正使用】						
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)			衛生薬学実習			
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。		衛生薬学1		医薬品安全性学		
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。		衛生薬学1		医薬品安全性学		
4) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。		衛生薬学1		医薬品安全性学		
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。		衛生薬学1	衛生薬学2			
【③化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。		衛生薬学1	衛生薬学2			先端分子医科学
2) 遺伝毒性試験(Ames試験など)の原理を説明できる。		衛生薬学1		医薬品安全性学		
3) 発がんに至る過程(イニシエーション、プロモーションなど)について概説できる。		衛生薬学1	衛生薬学3	医薬品安全性学		先端分子医科学
【④放射線の生体への影響】						
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。		衛生薬学1	応用放射化学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 代表的な放射性核種 (天然、人工) と生体との相互作用を説明できる。		衛生薬学1	応用放射化学			
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。		衛生薬学1	応用放射化学			
4) 非電離放射線 (紫外線、赤外線など) を列挙し、生体への影響を説明できる。			応用放射化学 衛生薬学2			
(2) 生活環境と健康						
【①地球環境と生態系】						
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。			衛生薬学2			
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。			衛生薬学2			
3) 化学物質の環境内動態 (生物濃縮など) について例を挙げて説明できる。			衛生薬学2			
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。			衛生薬学2			
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)			衛生薬学実習			
【②環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。			衛生薬学2			
2) 環境基本法の理念を説明できる。			衛生薬学2			
3) 環境汚染 (大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など) を防止するための法規制について説明できる。			衛生薬学2			
【③水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。			衛生薬学2			
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。			衛生薬学2			
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)			衛生薬学2 衛生薬学実習			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。			衛生薬学2			
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			衛生薬学2 衛生薬学実習			
6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。			衛生薬学2			
【④大気環境】						
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。			衛生薬学2			
2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)			衛生薬学2 衛生薬学実習			
3) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。			衛生薬学2			
【⑤室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			衛生薬学2 衛生薬学実習			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。			衛生薬学2			
【⑥廃棄物】						
1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。			衛生薬学2			
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。			衛生薬学2			
3) マニフェスト制度について説明できる。			衛生薬学2			
E 医療薬学						
E1 薬の作用と体の変化						
(1) 薬の作用						
【①薬の作用】						
1) 薬の用量と作用の関係の説明できる。		薬理学1		医薬品安全性学 臨床薬物動態学		
2) アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。		薬理学1	薬物治療学4	医薬品化学1 医薬品化学2		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。		薬理学1	薬物治療学4 薬理学2	医薬品化学1		
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。		薬理学1		医薬品化学1 医薬品化学2		
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(06(6)【2細胞内情報伝達】1.~5.参照)		薬理学1		医薬品化学1		
6) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。 (E4(1)【2吸収】、【3分布】、【4代謝】、【5排泄】参照)		生物薬剤学1 薬理学1	生物薬剤学2 薬物動態解析学	臨床薬物動態学 医薬品化学1 医薬品化学2 医薬品安全性学		
7) 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。		薬理学1		医薬品安全性学		
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。 (E4(1)【2吸収】5.【4代謝】5.【5排泄】5.参照)		薬理学1	薬物治療学4	医薬品化学1 医薬品安全性学		
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。		薬理学1	薬物治療学4	医薬品化学1 医薬品化学2 医薬品安全性学		
【2】動物実験						
1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)		生物学実習	薬理学実習			
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)		生物学実習	薬理学実習			
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)		生物学実習	薬理学実習			
【3】日本薬局方						
1) 日本薬局方収載の生物学的定量的特徴を説明できる。						薬局方総論
(2) 身体の病的変化を知る						
【1】症候						
1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 高血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腰痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食慾不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛、関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害	人体の構造と病態1 人体の構造と病態2	薬物治療学1 薬物治療学2		病態・薬物治療学演習 アドバンスト薬物治療学1		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目							
		1年	2年	3年	4年	5年	6年		
【②病態・臨床検査】									
	人体の構造と病態1 人体の構造と病態2 早期体験学習2	薬物治療学1 薬物治療学2		病態・薬物治療学演習 臨床化学					
1)	尿検査および便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。								
2)	血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	薬物治療学1 薬物治療学2		病態・薬物治療学演習					
3)	血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	薬物治療学1 薬物治療学2		病態・薬物治療学演習 臨床化学					
4)	免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	薬物治療学1		病態・薬物治療学演習					
5)	動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	薬物治療学1		病態・薬物治療学演習 臨床化学					
6)	代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	薬物治療学1 薬物治療学2		病態・薬物治療学演習 臨床化学					
7)	代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	薬物治療学1		病態・薬物治療学演習					
8)	代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。	薬物治療学1 薬物治療学2		病態・薬物治療学演習 臨床化学					
(3) 薬物治療の位置づけ									
1)	代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。	薬物治療学2		薬物治療学3 薬物治療学4		病態・薬物治療学演習 アドバンスト薬物治療学1			
2)	代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能）	薬物治療学2		薬物動態解析学 薬物治療学3		病態・薬物治療学演習 アドバンスト薬物治療学1			
(4) 医薬品の安全性									
1)	薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。	薬理学1		薬物治療学3		医薬品安全性学 個別化医療			レクチュリー・ガイダンス
2)	薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。			薬物治療学3		医薬品安全性学 個別化医療			レクチュリー・ガイダンス
3)	以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害	薬物治療学2		薬物治療学3		医薬品安全性学 個別化医療 アドバンスト薬物治療学1 臨床生理学			
4)	代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度）			薬物治療学3		医薬品安全性学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					該 当 科 目					
					1年	2年	3年	4年	5年	6年
E2 薬理・病態・薬物治療										
(1) 神経系の疾患と薬										
【①自律神経系に作用する薬】										
1)	交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学1							
2)	副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学1 薬物治療学2							
3)	神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学1							
4)	自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)		薬理学1		薬理学実習					
【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】										
1)	知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学1							
2)	運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学1							
3)	知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)				薬理学実習					
4)	以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré(ギラン・バレー)症候群、重症筋無力症(重複)			早期体験学習2		薬物治療学4				
【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】										
1)	全身麻酔薬、催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。				薬理学3 薬物治療学3					
2)	麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(WHO三段階除痛ラダーを含む)を説明できる。				薬理学3 薬物治療学3					
3)	中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。				薬理学3 薬物治療学4					
4)	統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬理学2 薬理学3 薬物治療学4					
5)	うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬理学2 薬理学3 薬物治療学4					
6)	不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				薬理学3 薬物治療学4					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) てんかんについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学3 薬物治療学4	臨床生理学		
8) 脳血管疾患 (脳内出血、脳梗塞、脳脊髄液、一過性脳虚血)、くも膜下出血) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	早期体験学習2		薬理学3 薬物治療学4			
9) Parkinson (パーキンソン) 病について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	早期体験学習2		薬理学2 薬理学3 薬物治療学4			
10) 認知症 (Alzheimer (アルツハイマー) 型認知症、脳血管性認知症等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬理学3 薬物治療学4			
11) 片頭痛について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) について説明できる。			薬理学2 薬理学3 薬物治療学4	アドバンスト薬物治療学1		
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			薬理学実習			
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)			薬物治療学4			
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎 (重複) 多発性硬化症 (重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy (ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症	早期体験学習2		薬物治療学4	臨床生理学		
【④化学構造と薬物】						
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		生物薬理学1	薬物治療学4	医薬品化学1		アドバンスト薬物治療学2
(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬						
【①抗炎症薬】						
1) 抗炎症薬 (ステロイド性および非ステロイド性) および解熱性鎮痛薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。			薬理学2 薬理学3 薬物治療学3			先端分子医科学
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。			薬理学3 薬物治療学3			先端分子医科学
3) 創傷治癒の過程について説明できる。	人体の構造と病態1		薬理学3 薬物治療学3			
【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】						
1) アレルギー治療薬 (抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。		薬物治療学1	薬理学2 薬理学3 薬物治療学3			先端分子医科学
2) 免疫抑制薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。		薬物治療学1	薬理学2 薬理学3 薬物治療学3			先端分子医科学

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息 (重複)		薬物治療学1 薬物治療学2	薬理学3 薬物治療学3			先端分子医科学
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態 (病態生理、症状等) および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson (スティーブンス-ジョンソン) 症候群、中毒性表皮壊死症 (重複)、薬剤性過敏症候群、薬疹		薬物治療学1	薬物治療学3	医薬品安全性学		先端分子医科学
5) アナフィラキシシオンックについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1	薬物治療学3	医薬品安全性学		先端分子医科学
6) 以下の疾患について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーネット病		薬物治療学1 薬物治療学2	薬物治療学3			先端分子医科学
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 および病態 (病態生理、症状等)・橋本病 (重複)、悪性貧血 (重複)、アジソン病、1型糖尿病 (重複)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血 (重複)、シェーグレン症候群		薬理学1 薬物治療学1 薬物治療学2	薬物治療学3			先端分子医科学
8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、関節リウマチ (重複)		薬物治療学1 薬物治療学2	薬物治療学3			先端分子医科学
9) 臓器移植 (腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血) について、拒絶反応および移植片対宿主病 (GVHD) の病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2	薬物治療学3			先端分子医科学
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】						
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2	薬理学3 薬物治療学3			
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2	薬物治療学3	薬理学4		
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2	薬物治療学3			
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患 (副甲狀腺機能亢進 (低下) 症、骨軟化症 (くる病を含む))、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2	薬物治療学3	薬理学4		
【④化学構造と薬効】						
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。			薬物治療学3	医薬品化学2		アドバンス薬物治療学2
(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬						
【①循環器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 不整脈の例示：上室性期外収縮 (PAC)、心室性期外収縮 (PVC)、心房細動 (Af)、発作性上室頻拍 (PSVT)、WPW症候群、心室頻拍 (VT)、心室細動 (VF)、房室ブロック、QT延長症候群	早期体験学習2	薬物治療学1	薬理学2	臨床生理学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学1	薬理学2	臨床生理学		6年
3) 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学1	薬理学2	臨床生理学		
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)	早期体験学習2	薬物治療学1	薬理学2	臨床生理学		
5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症(ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患		薬物治療学1		臨床生理学		
6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)		薬物治療学1	薬理学実習			
【②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2	薬理学2			
2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2	薬理学2			
3) 以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血		薬物治療学1 薬物治療学2	薬理学2			
4) 播種性血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学1 薬物治療学2				
5) 以下の疾患について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病(重複)、悪性リンパ腫(重複) (E2 (7) 【⑨悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照)		薬物治療学1 薬物治療学2	薬物治療学3			
【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】						
1) 利尿薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬物治療学1	薬理学2			
2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学1				
3) ネフロローゼ症候群について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学1				
4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学1				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 慢性腎臓病(CKD)、糸球体腎炎(重複)、糖尿病性腎症(重複)、薬剤性腎症(重複)、腎盂腎炎(重複)、膀胱炎(重複)、尿路感染症(重複)、尿路結石	早期体験学習2	薬物治療学1		臨床生理学		
6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内腺症、子宮筋腫		薬理学1 薬物治療学1		薬理学4		
7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬理学1 薬物治療学1		薬理学4		
8) 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症		薬物治療学1		薬理学4		
【④化学構造と薬効】						
1) 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		薬理学1 薬物治療学1	薬理学2 生物薬剤学2	医薬品化学1 医薬品化学2		7ドハ'スト薬物治療学2
【④呼吸器系・消化器系の疾患と薬】						
【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	早期体験学習2	薬理学1 薬物治療学1	薬理学3	臨床生理学		
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患(ニコチン依存症を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学1	薬理学3	臨床生理学		
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学1		臨床生理学		
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬物治療学1	薬理学3			
【②消化器系疾患の薬、病態、治療】						
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎		薬物治療学2	薬理学3			
2) 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学2	薬理学3			
3) 肝疾患(肝炎、肝硬変(ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学2	薬理学3	臨床生理学		
4) 膵炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学2	薬理学3	臨床生理学		
5) 胆道疾患(胆石症、胆道炎)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学2	薬理学3	臨床生理学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 機能性消化管障害 (過敏性腸症候群を含む) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学2	薬理学3			
7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学2	薬理学3			
8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物 (催吐薬) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学2	薬理学3			
9) 痔について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学2				
【③化学構造と薬効】						
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		生物薬理学1 薬物治療学1	薬理学2 薬理学3	医薬品化学1		7ドハースト薬物治療学2
(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬						
【①代謝系疾患の薬、病態、治療】						
1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学1		薬理学4		
2) 脂質異常症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1		薬理学4		
3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1		薬理学4		
【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】						
1) 性ホルモン関連薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。		薬物治療学1		薬理学4		
2) Basedow (バセドウ) 病について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1		薬理学4		
3) 甲状腺炎 (慢性 (橋本病)、亜急性) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1		薬理学4		
4) 尿閉症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1		薬理学4		
5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群 (SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing (クッシング) 症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全 (急性、慢性)、子宮内腺症 (重複)、アジソン病 (重複)		薬物治療学1		薬理学4		
【③化学構造と薬効】						
1) 代謝系・内分泌系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		薬物治療学1	薬物治療学3	薬理学4 医薬品化学1 医薬品化学2		7ドハースト薬物治療学2

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬					
【①眼疾患の薬、病態、治療】					
1) 緑内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬理学1	薬物治療学4			
2) 白内障について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学4			
3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	早期体験学習2	薬物治療学4			
4) 以下の疾患について概説できる。 結膜炎(重複)、網膜炎、ぶどう膜炎、網膜色素変性症	早期体験学習2	薬物治療学4			
【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】					
1) めまい(動揺病、Meniere(メニエール)病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		薬物治療学4			
2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎(重複)、花粉症 咽頭炎、扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎	早期体験学習2	薬物治療学4			
【③皮膚疾患の薬、病態、治療】					
1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬物治療学2	薬物治療学3			
2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬物治療学2	薬物治療学3			
3) 褥瘡について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。	薬物治療学2	薬物治療学3			
4) 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹(重複)、薬疹(重複)、水疱症(重複)、乾燥(重複)、接触性皮膚炎(重複)、光線過敏症(重複)	薬物治療学2	薬物治療学3			
【④化学構造と薬効】					
1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。	薬理学1 生物薬剤学1	薬物治療学3 薬物治療学4	医薬品化学1		7ドハンスト薬物治療学2
(7) 病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬					
【①抗菌薬】					
1) 以下の抗菌薬の薬理(薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体(アミノグリコシド)系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤(ST合剤を含む)、その他の抗菌薬		薬物治療学3	薬理学4 臨床感染症学 アドハンスト薬物治療学1		
2) 細菌感染症に関連する代表的な生物学的製剤(ワクチン等)を挙げ、その作用機序を説明できる。		薬物治療学3	薬理学4 臨床感染症学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【②抗菌薬の耐性】			薬物治療学3	臨床薬物動態学 薬理学4 臨床感染症学 アドバンスト薬物治療学1		
1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。						
【③細菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の呼吸器感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 上気道炎 (かぜ症候群 (大部分がウイルス感染症) を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎		薬物治療学1	薬物治療学3	薬理学4 臨床感染症学 アドバンスト薬物治療学1		
2) 以下の消化器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病理性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎		薬物治療学1 薬物治療学2	薬物治療学3	薬理学4 臨床感染症学 アドバンスト薬物治療学1		
3) 以下の感覚器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎		薬物治療学1	薬物治療学3 薬物治療学4	臨床感染症学 アドバンスト薬物治療学1		
4) 以下の尿路感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎		薬物治療学1	薬物治療学3	臨床感染症学 アドバンスト薬物治療学1		
5) 以下の性感染症について、病態 (病態生理、症状等)、予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等		薬物治療学1	薬物治療学3	臨床感染症学 アドバンスト薬物治療学1		
6) 脳炎、髄膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1	薬物治療学3 薬物治療学4	臨床感染症学 アドバンスト薬物治療学1		
7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎、ハンセン病		薬物治療学1 薬物治療学2	薬物治療学3	臨床感染症学 アドバンスト薬物治療学1		
8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1	薬物治療学3	臨床感染症学 アドバンスト薬物治療学1		
9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等		薬物治療学1	薬物治療学3	薬理学4 臨床感染症学 アドバンスト薬物治療学1		
10) 以下の全身性細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 ジフテリア、劇症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症		薬物治療学1	薬物治療学3	臨床感染症学 アドバンスト薬物治療学1		
【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】						
1) ヘルペスウイルス感染症 (単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態 (病態生理、症状等) を説明できる。 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1	薬物治療学3 薬物治療学4	薬理学4 臨床感染症学		先端分子医科学
2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学2	薬物治療学3	薬理学4 臨床感染症学		先端分子医科学
3) インフルエンザについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学3	薬物治療学3	薬理学4 臨床感染症学		先端分子医科学

	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
4) ウイルス性肝炎 (HAV, HBV, HCV) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理 (急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。(重複)		薬物治療学1 薬物治療学2	薬物治療学3	薬理学4 臨床感染症学		先端分子医科学
5) 後天性免疫不全症候群 (AIDS) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1	薬物治療学3	薬理学4 臨床感染症学		先端分子医科学
6) 以下のウイルス感染症 (ブドウ球菌を含む) について、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性紅斑 (リンゴ病)、手足口病、伝染性単核球症、発疹性疹疹、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob (クロイツツフェルト-ヤコブ) 病		薬物治療学1 薬物治療学2	薬物治療学3 薬物治療学4	臨床感染症学		先端分子医科学
【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】						
1) 抗真菌薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床通用を説明できる。		薬物治療学1	薬物治療学3	薬理学4 臨床感染症学 アドバンスト薬物治療学1		
2) 以下の真菌感染症について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症		薬物治療学1 薬物治療学2	薬物治療学3	薬理学4 臨床感染症学 アドバンスト薬物治療学1		
【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】						
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢		薬物治療学2		薬理学4 臨床感染症学 アドバンスト薬物治療学1		
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 回虫症、鞭虫症、アネサキス症		薬物治療学2		臨床感染症学 アドバンスト薬物治療学1		
【⑦悪性腫瘍】						
1) 腫瘍の定義 (良性腫瘍と悪性腫瘍の違い) を説明できる。				薬理学4 アドバンスト薬物治療学1		先端分子医科学
2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査 (細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー、アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬 がん死亡の現状)、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因	早期体験学習2			薬理学4 アドバンスト薬物治療学1		先端分子医科学
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。				薬理学4 アドバンスト薬物治療学1		先端分子医科学
【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】						
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床通用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬		薬物治療学1	薬物治療学3	薬理学4 アドバンスト薬物治療学1		先端分子医科学
2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。		薬物治療学1	薬物治療学3	薬理学4 アドバンスト薬物治療学1		先端分子医科学
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用 (下痢、悪心、嘔吐、白血球減少、皮膚障害 (手足症候群を含む)、血小板減少等) の軽減のための対処法を説明できる。		薬物治療学1	薬物治療学3	薬理学4 アドバンスト薬物治療学1		先端分子医科学

	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
4) 代表的ながん化学療法レジメン (FOLFOX等) について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。		薬物治療学1	薬物治療学3	薬理学4 アドバンスト薬物治療学1	アドバンスト薬物治療学4	先端分子医科学
5) 以下の白血病について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 急性 (慢性) 骨髄性白血病、急性 (慢性) リンパ性白血病、成人T細胞白血病 (ATL)		薬物治療学1	薬物治療学3	薬理学4 アドバンスト薬物治療学1	アドバンスト薬物治療学4	先端分子医科学
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1	薬物治療学3	薬理学4 アドバンスト薬物治療学1	アドバンスト薬物治療学4	先端分子医科学
7) 骨肉腫について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1	薬物治療学3	薬理学4 アドバンスト薬物治療学1	アドバンスト薬物治療学4	先端分子医科学
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、肺癌		薬物治療学1	薬物治療学3	薬理学4 アドバンスト薬物治療学1	アドバンスト薬物治療学4	先端分子医科学
9) 肺癌について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1	薬物治療学3	薬理学4 アドバンスト薬物治療学1	アドバンスト薬物治療学4	先端分子医科学
10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭・咽頭・鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍		薬物治療学1	薬物治療学3	薬理学4 アドバンスト薬物治療学1	アドバンスト薬物治療学4	先端分子医科学
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌		薬物治療学1	薬物治療学3	薬理学4 アドバンスト薬物治療学1	アドバンスト薬物治療学4	先端分子医科学
12) 腎・尿路系の悪性腫瘍 (腎癌、膀胱癌) について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1	薬物治療学3	薬理学4 アドバンスト薬物治療学1	アドバンスト薬物治療学4	先端分子医科学
13) 乳癌について、病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬物治療学1	薬物治療学3	薬理学4 アドバンスト薬物治療学1	アドバンスト薬物治療学4	先端分子医科学
【⑨がん終末期医療と緩和ケア】						
1) がん終末期の病態 (病態生理、症状等) と治療を説明できる。			薬物治療学3	アドバンスト薬物治療学1		
2) がん性疼痛の病態 (病態生理、症状等) と薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			薬物治療学3	アドバンスト薬物治療学1		
【⑩化学構造と薬効】						
1) 病原微生物・悪性新生物が関与する疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。			薬物治療学3	薬理学4		アドバンスト薬物治療学2
(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報						
【⑪組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			薬物治療学3			レギュトリーザイン アドバンスト薬物治療学3

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 代表的な細胞換え体医薬品を列挙できる。			薬物治療学3			レギュラトリーサイエンス アドバンスト薬物治療学 3
3) 細胞換え体医薬品の安全性について概説できる。			薬物治療学3			レギュラトリーサイエンス アドバンスト薬物治療学 3
【②遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			ゲノム医科学			先端分子医科学 アドバンスト薬物治療学 3
【③細胞、組織を利用した移植医療】						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			ゲノム医科学 薬物治療学3			アドバンスト薬物治療学 3
2) 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。			薬物治療学3			アドバンスト薬物治療学 3
3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。			薬物治療学3			アドバンスト薬物治療学 3
4) 胚性幹細胞 (ES細胞)、人工多能性幹細胞 (iPS細胞) を用いた細胞移植医療について概説できる。			薬物治療学3			アドバンスト薬物治療学 3
(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルメディケーション						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。						コミュニケーション アドバンスト薬物治療学 1
2) 要指導医薬品および一般用医薬品 (リスクの程度に応じた区分 (第一類、第二类、第三類) も含む) について説明し、各分類に含まれる代表的な薬剤を列挙できる。						コミュニケーション アドバンスト薬物治療学 1
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。						コミュニケーション アドバンスト薬物治療学 1
4) 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。(技能)						コミュニケーション アドバンスト薬物治療学 1
5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病等						コミュニケーション アドバンスト薬物治療学 1
6) 主な養生法 (運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む) とその健康の保持・促進における意義を説明できる。						コミュニケーション アドバンスト薬物治療学 1
7) 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。						コミュニケーション アドバンスト薬物治療学 1
8) 要指導医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能)						コミュニケーション アドバンスト薬物治療学 1

	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
(10) 医療の中の漢方薬						
【①漢方薬の基礎】						
1) 漢方の特徴について概説できる。		基礎漢方薬学				漢方医学概論
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証		基礎漢方薬学				漢方医学概論
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。		基礎漢方薬学				漢方医学概論
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などの相違について説明できる。		基礎漢方薬学				漢方医学概論
【②漢方薬の応用】						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。		基礎漢方薬学				漢方医学概論
2) 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。		基礎漢方薬学 漢方・生薬学実習	薬物治療学4			漢方医学概論
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。		基礎漢方薬学	薬物治療学4			漢方医学概論
【③漢方薬の注意点】						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。		基礎漢方薬学	薬物治療学4			漢方医学概論
(11) 薬物治療の最適化						
【①総合演習】						
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)			薬物治療学4	病態・薬物治療学演習 7ト・ハフスト薬物治療学1		
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。(知識・態度)			薬物治療学4	病態・薬物治療学演習 個別化医療		
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)			薬物治療学3	病態・薬物治療学演習		
E3 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【①情報】						
1) 医薬品を使用した取り扱い取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。			医薬品情報学			医療情報学 レギュラリ-ギニア

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。			医薬品情報学			レギュラトリーサイエンス
3) 医薬品 (後発医薬品等を含む) の開発過程で行われる試験 (非臨床試験、臨床試験、安定性試験等) と得られる医薬品情報について概説できる。			医薬品情報学			レギュラトリーサイエンス アドバンスト薬物治療学 ³
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。			医薬品情報学			レギュラトリーサイエンス アドバンスト薬物治療学 ³
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度 (「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、QPSP、RMP など) とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。			医薬品情報学			レギュラトリーサイエンス アドバンスト薬物治療学 ³
【②情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。			医薬品情報学			レギュラトリーサイエンス
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。			医薬品情報学			レギュラトリーサイエンス
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。			医薬品情報学			レギュラトリーサイエンス
4) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の法的位置づけについて説明できる。			医薬品情報学			レギュラトリーサイエンス
5) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の記載項目 (警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など) を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。			医薬品情報学	個別化医療		レギュラトリーサイエンス
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。			医薬品情報学			レギュラトリーサイエンス
【③収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的 (効能効果、副作用、相互作用、薬理鑑別、妊婦への投与、中毒など) に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。 (技能)				医薬品情報演習 個別化医療 病態・薬物治療学演習		アドバンスト薬物治療学 ²
2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。 (知識・技能)				医薬品情報演習 病態・薬物治療学演習		医療情報学
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。				医薬品情報演習 病態・薬物治療学演習		
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。 (技能)				医薬品情報演習 病態・薬物治療学演習		
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点 (知的所有権、守秘義務など) について説明できる。				医薬品情報演習 病態・薬物治療学演習		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【④EBM (Evidence-based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。						医薬品情報評価学
2) 代表的な臨床研究方法 (ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。				個別化医療		医薬品情報評価学
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性 (研究結果の正確度や再現性) と外的妥当性 (研究結果の一般化の可能性) について概説できる。 (E3 (1) 【③収集・評価・加工・提供・管理】参照)						医薬品情報評価学
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。						医薬品情報評価学
【⑤生物統計】						
1) 臨床研究における基本的な統計量 (平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など)の意味と違いを説明できる。			医療統計学	個別化医療		レジュマリー・ガイダンス
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。		数理統計学	医療統計学	個別化医療		
3) 代表的な分布 (正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布) について概説できる。		数理統計学	医療統計学	個別化医療		
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。			医療統計学	個別化医療		
5) 二群間の差の検定 (t検定、 χ^2 検定など) を実施できる。(技能)		数理統計学	医療統計学	個別化医療		
6) 主な回帰分析 (直線回帰、ロジスティック回帰など) と相関係数の検定について概説できる。			医療統計学	個別化医療		
7) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier 曲線など) について概説できる。			医療統計学	個別化医療		
【⑥臨床研究デザインと解析】						
1) 臨床研究 (試験を含む) の代表的な手法 (介入研究、観察研究) を列挙し、それらの特徴を概説できる。						レジュマリー・ガイダンス 医薬品情報評価学
2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。						医薬品情報評価学
3) 観察研究での主な疫学研究デザイン (症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など) について概説できる。						医薬品情報評価学
4) 副作用の因果関係を評価するための方法 (副作用判定アルゴリズムなど) について概説できる。						医薬品情報評価学

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。						医薬品情報評価学
6) 介入研究の計画上の技法 (症例数設定、ランダム化、盲検化など) について概説できる。						医薬品情報評価学
7) 統計解析時の注意点について概説できる。						医薬品情報評価学
8) 介入研究の効果指標 (真のエンドポイントと代替のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント) の違いを、例を挙げて説明できる。						医薬品情報評価学
9) 臨床研究の結果 (有効性、安全性) の主なパラメータ (相対リスク、絶対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合) を説明し、計算できる。 (知識・技能)						レギュトリーサイエンス 医薬品情報評価学
【⑦医薬品の比較・評価】						
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。				医薬品情報演習 個別化医療		レギュトリーサイエンス 7ドバント薬物治療学 2
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。 (技能)				医薬品情報演習 個別化医療		レギュトリーサイエンス 7ドバント薬物治療学 2
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。 (技能)				医薬品情報演習		7ドバント薬物治療学 2
(2) 患者情報						
【①情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			医薬品情報学			
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。			医薬品情報学			
【②収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。			医薬品情報学			医療情報学
2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。			医薬品情報学			医療情報学
3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。			医薬品情報学			医療情報学
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。 (A (2) 【③患者の権利】 参照)			医薬品情報学	病態・薬物治療学演習		医療情報学

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						該当科目					
						1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 個別化医療											
【①遺伝的素因】											
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。									医薬品安全性学 個別化医療		
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因 (薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など) について、例を挙げて説明できる。								生物薬剤学2	医薬品安全性学 個別化医療		
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。									個別化医療		7ドバンスト薬物治療学 2
【②年齢的要因】											
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。								生物薬剤学2	医薬品安全性学 個別化医療		7ドバンスト薬物治療学 2
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。							薬物治療学2	生物薬剤学2	医薬品安全性学 個別化医療		7ドバンスト薬物治療学 2
【③臓器機能低下】											
1) 腎疾患、腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。							薬物治療学1	生物薬剤学2 薬物動態解析学	臨床薬物動態学 医薬品安全性学 個別化医療		7ドバンスト薬物治療学 2
2) 肝疾患、肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。							薬物治療学1	薬物動態解析学	臨床薬物動態学 医薬品安全性学 個別化医療		7ドバンスト薬物治療学 2
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。							薬物治療学1		臨床薬物動態学 個別化医療		7ドバンスト薬物治療学 2
【④その他の要因】											
1) 薬物の効果に影響する生理的要因 (性差、閉経、日内変動など) を列挙できる。									臨床薬物動態学 個別化医療		
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。								生物薬剤学2	個別化医療		7ドバンスト薬物治療学 2
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満、低アルブミン血症、腹水など) における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。									個別化医療		7ドバンスト薬物治療学 2
【⑤個別化医療の計画・立案】											
1) 個別の患者情報 (遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など) と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。(技能)									個別化医療 病態・薬物治療学演習 アドバンスト薬物治療学1		7ドバンスト薬物治療学 2
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。									個別化医療		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
E4 薬の生体内運命						
(1) 薬物の体内動態						
【①生体膜透過】						
1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。		生物薬剤学1 物理化学3				
2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。		生物薬剤学1 物理化学3	生物薬剤学2			
【②吸収】						
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。		生物薬剤学1				
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。		生物薬剤学1				
3) 薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理学的要因など）を列挙し、説明できる。		生物薬剤学1				
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		生物薬剤学1		個別化医療		
5) 初回通過効果について説明できる。		生物薬剤学1	生物薬剤学2			
【③分布】						
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。		生物薬剤学1	薬剤学実習			
2) 薬物の組織移行性（分布容積）と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。		生物薬剤学1	薬剤学実習			
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。		生物薬剤学1	薬剤学実習			
4) 血液－組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。		生物薬剤学1				
5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。		生物薬剤学1				
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。		生物薬剤学1	薬剤学実習	個別化医療		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【④代謝】						
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。			生物薬剤学2			
2) 薬物代謝の第I相反応(酸化・還元・加水分解)、第II相反応(抱合)について、例を挙げて説明できる。			生物薬剤学2			
3) 代表的な薬物代謝酵素(分子種)により代謝される薬物を列挙できる。			生物薬剤学2	臨床薬物動態学		
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。			製剤学 生物薬剤学2			
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学2	個別化医療		
【⑤排泄】						
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。			生物薬剤学2 薬剤学実習			
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。			生物薬剤学2			
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。			生物薬剤学2	臨床薬物動態学		
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。			生物薬剤学2			
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学2 薬剤学実習	個別化医療		
(2) 薬物動態の解析						
【①薬物速度論】						
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ(全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など)の概念を説明できる。			薬物動態解析学			
2) 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる(急速静注・経口投与[単回および反復投与]、定速静注)。(知識、技能)			薬物動態解析学			
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)			薬物動態解析学 薬剤学実習			
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。			薬物動態解析学			

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
5) 組織クリアランス (肝、腎) および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。			薬物動態解析学	臨床薬物動態学		
6) 薬物動態学一薬力学解析 (PK-PD解析) について概説できる。				臨床薬物動態学		
【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】						
1) 治療薬物モニタリング (TDM) の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。				臨床薬物動態学 個別化医療		
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。				臨床薬物動態学 個別化医療		
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)			薬剤学実習	臨床薬物動態学		
4) ポピュレーションファーマコキネティクス概念と応用について概説できる。			薬剤学実習	臨床薬物動態学		
E5 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤の性質						
【①固形材料】						
1) 粉体の性質について説明できる。			物理薬剤学 製剤学 薬剤学実習			
2) 結晶 (安定形および準安定形) や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。		物理化学3	物理薬剤学 製剤学 薬剤学実習			
3) 固形材料の溶解現象 (溶解度、溶解平衡など) や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 (C2) 2) 【①酸・塩基平衡】1. 及び【②各種の化学平衡】2. 参照		物理化学3 物理・放射化学実習	物理薬剤学			
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子 (pHや温度など) について説明できる。		物理・放射化学実習	物理薬剤学			
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			製剤学			
【②半固形・液状材料】						
1) 流動と変形 (レオロジー) について説明できる。		物理化学3 物理・放射化学実習	物理薬剤学			
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質 (粘度など) について説明できる。		物理化学3 物理・放射化学実習	物理薬剤学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【③分散系材料】						
1) 界面の性質 (界面張力、分配平衡、吸着など) や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 (C2) (2) 【②各種の化学平衡】4. 参照		物理化学3 物理・放射化学実習	物理薬理学			
2) 代表的な分散系 (分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など) を列挙し、その性質について説明できる。			物理薬理学			
3) 分散した粒子の安定性と分離現象 (沈降など) について説明できる。			物理薬理学			
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			物理薬理学 製剤学			
【④薬物及び製剤材料の物性】						
1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。			物理薬理学 製剤学			
2) 薬物の安定性 (反応速度、複合反応など) や安定性に影響を及ぼす因子 (pH、温度など) について説明できる。 (C1) (3) 【①反応速度】1. ~7. 参照			物理薬理学			
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			物理薬理学 製剤学			
(2) 製剤設計						
【①代表的な製剤】						
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。			製剤学			薬局方総論
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学 製剤学実習			薬局方総論
3) 粘膜に適用する製剤 (点眼剤、吸入剤など) の種類とその特性について説明できる。			製剤学			薬局方総論
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学			薬局方総論
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学			薬局方総論
6) その他の製剤 (生薬関連製剤、透析に用いる製剤など) の種類と特性について説明できる。			製剤学			薬局方総論
【②製剤化と製剤試験法】						
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			製剤学			薬局方総論

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。			製剤学 製剤学実習			薬局方総論
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			製剤学			薬局方総論
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。			製剤学 製剤学実習			薬局方総論
【③生物学的同等性】						
1) 製剤の特性（適用部位、製剤からの薬物の放出性など）を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。			製剤学 製剤学実習			
(3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム)						
【①DDS の必要性】						
1) DDSの概念と有用性について説明できる。			製剤学			
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 （プロドラッグについては、E4(1)【④代謝】4.も参照）			製剤学			
【②コントロールリリース（放出制御）】						
1) コントロールリリースの概要と意義について説明できる。			製剤学			
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤学			
3) コントロールリリース技術を活用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤学			
【③ターゲティング（標的指向性）】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。			製剤学			
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤学			
3) ターゲティング技術を活用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤学			
【④吸収改善】						
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。			製剤学			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。			製剤学			
3) 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。			製剤学			
F 薬学臨床						
前) : 病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項						
(1) 薬学臨床の基礎						
【①早期臨床体験】 ※原則として2年次修了までに学習する事項						
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	早期体験学習1					
2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)	早期体験学習1					
3) 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能)	早期体験学習2					
【②臨床における心構え】 [A(1)、(2)参照]						
1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)				臨床導入学習1		
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)				臨床導入学習1		
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)				臨床導入学習1		
4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
【③臨床実習の基礎】						
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。				臨床導入学習1		

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。				臨床導入学習1		
3) 前) 病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。				臨床導入学習1		
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。				臨床導入学習1 臨床導入学習2 コミュニケーション		
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度 (医療、福祉、介護) の概略を説明できる。 〔B (3) ①参照〕				コミュニケーション		
6) 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。					病院実務実習	
7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。					病院実務実習	
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度)					病院実務実習	
9) 急性期医療 (救急医療・集中治療・外傷治療等) や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。					病院実務実習	
10) 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。					病院実務実習	
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。					病院実務実習	
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。					病院実務実習	
13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。					薬局実務実習	
14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。					薬局実務実習	
15) 薬局の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。(知識・態度)					薬局実務実習	
(2) 処方せんに基づく調剤						
【①法令・規則等の理解と遵守】〔B (2)、(3) 参照〕						
1) 前) 調剤業務に関わる事項 (処方せん、調剤録、疑義照会等) の意義や取り扱い扱いを法的根拠に基づいて説明できる。				臨床導入学習1 臨床導入学習2		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 調剤業務に関わる法的文書 (処方せん、調剤録等) の適切な記載と保存・管理ができる。 (知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。					薬局実務実習	
【②処方せんと疑義照会】						
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。				臨床導入学習2 7トハノスト薬物治療学 1		
2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。				臨床導入学習1 臨床導入学習2		医療情報学
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。				臨床導入学習1 7トハノスト薬物治療学 1		
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。				臨床導入学習1 7トハノスト薬物治療学 1		
5) 前) 処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。				臨床導入学習1 7トハノスト薬物治療学 1		
6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度)				臨床導入学習1 臨床導入学習2 7トハノスト薬物治療学 1		
7) 処方せんの記載事項 (医薬品名、分量、用法・用量等) が適切であるか確認できる。 (知識・技能)				個別化医療 7トハノスト薬物治療学 1	病院実務実習 薬局実務実習	
8) 注射薬処方せんの記載事項 (医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等) が適切であるか確認 できる。(知識・技能)				個別化医療 7トハノスト薬物治療学 1	病院実務実習	
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)				個別化医療 7トハノスト薬物治療学 1	病院実務実習 薬局実務実習	
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方方が妥当であるか判断できる。(知識・技能)				7トハノスト薬物治療学 1	病院実務実習 薬局実務実習	
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
【③処方せんに基づく医薬品の調製】						
1) 前) 薬袋、薬札 (ラベル) に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)				臨床導入学習1 臨床導入学習2		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 前) 主な医薬品の成分 (一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。				臨床導入学習1		
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)				臨床導入学習1 臨床導入学習2		
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。				臨床導入学習1 臨床導入学習2		
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。				臨床導入学習1		
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)				臨床導入学習1 臨床導入学習2		
7) 前) 抗癌性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(知識・技能)				臨床導入学習1		
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)				臨床導入学習1		
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
12) 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
13) 一回量(一包化)調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。					病院実務実習 薬局実務実習	
16) 注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を実施できる。(技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
17) 抗癌性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
18) 特別な注意を要する医薬品(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等)の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
19) 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】						
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。(態度)				臨床導入学習1 臨床導入学習2		
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。				臨床導入学習2		7ドハント薬物治療学 2
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)				臨床導入学習1		
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)				臨床導入学習1		
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				臨床導入学習2		
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い方法を説明できる。(技能・態度)				臨床導入学習1 臨床導入学習2		
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。				臨床導入学習1 臨床導入学習2		
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)				臨床導入学習1		
9) 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
10) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
【⑤医薬品の供給と管理】						
1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。				医療薬剤学		
2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。				医療薬剤学		
3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。				医療薬剤学 臨床導入学習1		
4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。				医療薬剤学 臨床導入学習1		
5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。		物理・放射化学実習	応用放射化学	医療薬剤学		
6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。				医療薬剤学 臨床導入学習1		
7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。				医療薬剤学 臨床導入学習1		
8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。				医療薬剤学		
9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。					病院実務実習 薬局実務実習	
12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。 (知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)					病院実務実習	
【⑥安全管理】						
1) 前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。				医療薬剤学 臨床導入学習1		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品 (抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等) の特徴と注意点を列挙できる。				医療薬理学 臨床導入学習1		
3) 前) 代表的なインジメント (ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)				医療薬理学 臨床導入学習1		
4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。				医療薬理学 臨床導入学習1		
5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)				臨床導入学習1 臨床導入学習2		
6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。				医療薬理学 臨床導入学習1		
7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。				医療薬理学 臨床導入学習1		
8) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品 (抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等) の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
9) 前) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。					病院実務実習 薬局実務実習	
10) 前) 施設内のインジメント (ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
11) 前) 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
12) 前) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
13) 前) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)					病院実務実習	
14) 前) 院内での感染対策 (予防、蔓延防止など) について具体的な提案ができる。(知識・態度)					病院実務実習	
(3) 薬物療法の実践						
【①患者情報の把握】						
1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。	早期体験学習2			臨床導入学習2		
2) 前) 患者および種々の情報源 (診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等) から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) [E3(2)①参照]				臨床導入学習1 臨床導入学習2		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 前) 身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。	早期体験学習2			臨床導入学習2		
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)	早期体験学習2			臨床導入学習1 臨床導入学習2		
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)	早期体験学習2				病院実務実習 薬局実務実習	
6) 患者・来局者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)	早期体験学習2			7トバント薬物治療学 1	病院実務実習 薬局実務実習	
【②医薬品情報の収集と活用】 [E3 (1) 参照]						
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)				臨床導入学習1 臨床導入学習2		
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)					病院実務実習	
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
【③処方設計と薬物療法の実践(処方設計と提案)】						
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				個別化医療 臨床導入学習2		
2) 前) 病態(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。				個別化医療 臨床導入学習2		7トバント薬物治療学 2
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。				臨床導入学習2		7トバント薬物治療学 2
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。	早期体験学習2			臨床導入学習1 臨床導入学習2		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。				臨床栄養学 臨床導入学習1 臨床導入学習2		
6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。				臨床栄養学 臨床導入学習1 臨床導入学習2		
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。				個別化医療	病院実務実習 薬局実務実習	
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案ができる。				個別化医療	病院実務実習 薬局実務実習	
9) 患者の状態(疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等)や薬剤の特徴(作用機序や製剤的性質等)に基づき、適切な処方を提案できる。(知識・態度)				個別化医療	病院実務実習 薬局実務実習	7ドバンスト薬物治療学 2
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。(知識・態度)					病院実務実習	医療情報学
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)					病院実務実習	7ドバンスト薬物治療学 2
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	7ドバンスト薬物治療学 2
13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。					病院実務実習 薬局実務実習	7ドバンスト薬物治療学 2
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
【④処方設計と薬物療法の実践(薬物療法における効果と副作用の評価)】						
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。				個別化医療 臨床導入学習1 臨床導入学習2		7ドバンスト薬物治療学 2
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)				臨床導入学習1 臨床導入学習2		7ドバンスト薬物治療学 2
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)				臨床導入学習1 臨床導入学習2		
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)	早期体験学習2			個別化医療 アドバンスト薬物治療学1 臨床生理学	病院実務実習	7ドバンスト薬物治療学 2
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定を提案できる。(知識・態度)	早期体験学習2			個別化医療	病院実務実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。(知識・技能)	早期体験学習2			個別化医療	病院実務実習	
7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。				アドバンスト薬物治療学1	病院実務実習 薬局実務実習	アドバンスト薬物治療学2
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。	早期体験学習2			個別化医療 アドバンスト薬物治療学1 臨床生理学	病院実務実習 薬局実務実習	アドバンスト薬物治療学2
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。	早期体験学習2			個別化医療 アドバンスト薬物治療学1 臨床生理学	病院実務実習 薬局実務実習	アドバンスト薬物治療学2
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)				個別化医療	病院実務実習 薬局実務実習	アドバンスト薬物治療学2
11) 報告に必要な要素(5W1H)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)					病院実務実習 薬局実務実習	
13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)					病院実務実習	
(4) チーム医療への参画 [A (4) 参照]						
【①医療機関におけるチーム医療】						
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。				臨床感染症学 臨床栄養学 臨床導入学習1 コミュニケーション1		
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。				臨床感染症学 臨床栄養学 臨床導入学習1 コミュニケーション1		
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。				コミュニケーション1		
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)					病院実務実習	
5) 医師・看護師等の他職種と患者の状態(病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、QOL等)の情報を共有する。(知識・態度)					病院実務実習	
6) 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議(カンファレンスや患者回診への参加等)する。(知識・態度)					病院実務実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。 (知識・態度)					病院実務実習	
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)					病院実務実習	
9) 病院内の多様な医療チーム(IGT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度)				臨床感染症学 臨床栄養学	病院実務実習	
【②地域におけるチーム医療】						
1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)およびその意義について説明できる。				コミュニケーション 臨床導入学習1		
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)				コミュニケーション 臨床導入学習1		
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)					病院実務実習 薬局実務実習	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(5) 地域の保健・医療・福祉への参画 [B (4) 参照]						
【①在宅 (訪問) 医療・介護への参画】						
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。				コミュニティラーン 臨床導入学習1		
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。				コミュニティラーン 臨床導入学習1		
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。				コミュニティラーン 臨床導入学習1		
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務 (訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務) を体験する。(知識・態度)					薬局実務実習	
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・態度)					薬局実務実習	
6) 在宅患者の病状 (症状、疾患と重症度、栄養状態等) とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)					薬局実務実習	
【②地域保健 (公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動) への参画】						
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動 (薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等) について説明できる。				コミュニティラーン 臨床導入学習1		
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。				コミュニティラーン 臨床導入学習1		
3) 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)				コミュニティラーン	薬局実務実習	
4) 地域住民の衛生管理 (消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等) における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)				コミュニティラーン	病院実務実習 薬局実務実習	
【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】 [E2 (9) 参照]						
1) 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度)				コミュニティラーン アドバンスト薬物治 療学1		
2) 前) 代表的な症候 (頭痛・腹痛・発熱等) を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度)				コミュニティラーン 臨床導入学習1 アドバンスト薬物治 療学1		
3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤 (漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)				コミュニティラーン 臨床導入学習1 アドバンスト薬物治 療学1		
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)				コミュニティラーン 臨床導入学習1 アドバンスト薬物治 療学1		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度)				コミュニケーション臨床導入学習1	薬局実務実習	
6) 来局者から収集した情報や身体所見などにに基づき、来局者の病状(疾患、重症度等)や体調を推測できる。(知識・態度)				コミュニケーション臨床導入学習1 アドバンスト薬物治療学1	薬局実務実習	
7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応(医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等)を選択できる。(知識・態度)				コミュニケーション臨床導入学習1 アドバンスト薬物治療学1	薬局実務実習	
8) 選択した薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を来局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度)				コミュニケーション臨床導入学習1 アドバンスト薬物治療学1	薬局実務実習	
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)				コミュニケーション臨床導入学習1	薬局実務実習	
【④災害時医療と薬剤師】						
1) 前) 災害時医療について概説できる。				コミュニケーション		
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。					病院実務実習 薬局実務実習	
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)					病院実務実習 薬局実務実習	
6 薬学研究						
(1) 薬学における研究の位置づけ						
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。						特別演習・実習 医薬品情報評価 アドバンスト薬物治療学3
2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習 アドバンスト薬物治療学3
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習 アドバンスト薬物治療学3
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習 アドバンスト薬物治療学3
(2) 研究に必要な法規範と倫理						
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。	薬学入門 倫理と社会(教養)		医療と法	生命医療倫理 特別演習・実習	特別演習・実習	医療倫理論 特別演習・実習 医薬品情報評価 アドバンスト薬物治療学3

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。	薬学入門 倫理と社会 (教養)		医療と法	生命医療倫理 特別演習・実習	特別演習・実習	医療倫理論 特別演習・実習 医薬品情報評価学 アドバンスト薬物治 療学3
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3再掲	薬学入門 倫理と社会 (教養)		医療と法	生命医療倫理 特別演習・実習	特別演習・実習	医療倫理論 特別演習・実習 アドバンスト薬物治 療学3
(3) 研究の実践						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習 アドバンスト薬物治 療学3
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)				特別演習・実習	特別演習・実習	特別演習・実習

(基礎資料 4-1) 薬学科カリキュラムマップ(平成26年度以前入学生)

カリキュラムポリシー	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	タイプポリシー
<p>基礎教育 ヒューマンズエム教育 薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と、医療の担い手として相応しい倫理性と社会性を持つこと。</p>	<p>(必修科目) 数学1・2、物理学入門1・2 医療総合人間学2(医療と健康・コミュニケーション学) 医療総合人間学3(総合人間学・コミュニケーション学) 情報科学演習 健康科学演習1 早期体験学習1 化学、化学演習 (選択科目) 人間と文化1(人間と文学・芸術) 人間と文化2(人間と歴史) 人間と文化3(人間と宗教) 人間と文化4(文化人類学) 健康科学演習2</p>	<p>(必修科目) 数理統計学 医療総合人間学4(生命倫理と法・人権とエンゲージメント) 医療総合人間学5(臨床心理学・医療社会学) (選択科目) 人間と文化5(人間と生命) 人間と文化6(人間と地球環境) 人間と文化7(人間と言語) 人間と文化8(人間と政治) 医工薬連携科学</p>	<p>(必修科目) 英訳1・2 (選択必修科目) ドイツ語1・2 フランス語1・2</p>	<p>(必修科目) 医療総合人間学1(薬学・生命倫理の基礎) 基礎有機化学 有機化学1 生物学 基礎細胞生物学 生化学1、生薬学1 物理化学1、分析化学</p>	<p>(必修科目) 機能形態学1 人体の構造と機能 早期体験学習2 病態生理学1</p>	<p>(必修科目) 基礎薬学実習 基礎有機化学実習 生物学実習</p>	
<p>語学教育 国際化に対応し得る語学力を養う</p>		<p>(必修科目) 英語3・4</p>	<p>(必修科目) 英文化言語演習1・2</p>	<p>(必修科目) 薬学英語 (選択科目) 英訳1 (選択必修科目) 実践ビジネス英語</p>			
<p>薬学専門教育 「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」を基本とした、薬物に関する幅広い科学的知識を得る</p>	<p>(必修科目) 医療総合人間学1(薬学・生命倫理の基礎) 基礎有機化学 有機化学1 生物学 基礎細胞生物学 生化学1、生薬学1 物理化学1、分析化学</p>	<p>(必修科目) 生物有機化学 有機化学2・3 有機スベクトル解析学 生化学2・3 微生物学 薬用天然物化学1 薬用天然物化学2・3 物理化学2 機器分析学 放射化学 衛生薬学1・2</p>	<p>(必修科目) 有機化学4 薬品合成化学1 分子細胞生物学 免疫学、応用分子生物学 病態生化学 薬用天然物化学2 応用分析学 衛生薬学3・4 生物統計学演習 (選択科目) 応用放射化学 臨床化学</p>	<p>(必修科目) 薬理学4、医薬品安全生化学 薬事関連法・制度 薬物動態学3 薬物治療学3・4 医薬薬理学2 薬学基礎演習 薬学基礎演習1・2 薬理毒理学 臨床検査学、臨床栄養学 臨床感染症学 (選択科目) 臨床生理学 医用工学概論</p>	<p>(自由選択科目) 実践ビジネス英語</p>		<p>薬の専門家として必要と幅広い科学的知識を有していること</p>
<p>医療薬学教育 薬の専門家として患者や医療チームから信頼される薬剤師を養成 薬剤師として必要な知識・技能および態度を修得するために病院と薬局において参加型実務実習を行う</p>	<p>(必修科目) 機能形態学1 人体の構造と機能 早期体験学習2 病態生理学1</p>	<p>(必修科目) 機能形態学2 薬理学1 病態生理学2</p>	<p>(必修科目) 薬物動態学1・2 基礎薬理学 剤形設計学 薬理学2・3 薬物治療学1・2 医薬薬理学1</p>	<p>(必修科目) 薬理学4、医薬品安全生化学 薬事関連法・制度 薬物動態学3 薬物治療学3・4 医薬薬理学2 薬学基礎演習 薬学基礎演習1・2 薬理毒理学 臨床検査学、臨床栄養学 臨床感染症学 (選択科目) 臨床生理学 医用工学概論</p>	<p>(必修科目) 医薬品開発学 薬方医学概論 薬局方針論 臨床薬物動態学 臨床薬物評価学 臨床薬理学 病態・薬物治療学演習 薬学総合演習</p>		<p>薬の専門家として必要と幅広い科学的知識を有していること 薬の専門家として必要と幅広い科学的知識を有していること</p>
<p>実習科目 講義で得た知識を基に、研究活動に必要な技術・方法を体得する さらに問題発見・解決能力を育成するために各研究室に所属し卒業研究を行う</p>	<p>(必修科目) 基礎薬学実習 基礎有機化学実習 生物学実習</p>	<p>(必修科目) 有機化学実習 生物科学実習 物理・放射化学実習 分析化学実習</p>	<p>(必修科目) 有機化学実習 基礎薬学実習 衛生薬学実習 薬理学実習</p>	<p>(必修科目) 薬理学実習</p>	<p>特別演習・実習(必修科目)</p>		<p>科学的視点に基づく問題発見・解決能力を有していること</p>

(基礎資料 4 - 2) 薬学科カリキュラムマップ(平成27年度以降入学生)

カリキュラムポリシー	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	タイプポリシー
<p>基礎教育 ヒューマニズム教育</p> <p>薬学を学ぶ上での基礎学力の養成と、医療の担い手に応じた倫理性と社会性身につける。</p>	<p>(必修科目) 数学1・2、物理学1・2 化学、化学演習 情報科学演習 身体運動科学 スポーツ運動実習1 薬学入門 早期体験学習1 (選択科目) 情報科学</p> <p>授業(選択科目) 教養(選択科目) 世界の文化、歴史と社会、地球環境論、政治と社会、基礎心理学、法と社会、経済の世界、社会分析の基礎、人間と宗教、文化人類学、倫理と社会、マーケティング論、スポーツ・運動実習2、教理論理学</p>	<p>(必修科目) 英語スピーキング1・2 英語ライティング1・2 (選択必修科目) ドイツ語1・2 フランス語1・2 中国語1・2 ハンガリー1・2</p> <p>(必修科目) 基礎有機化学 有機化学1 生物化学 基礎細胞生物学 生化学1・2 物理化学1、分析化学1</p>	<p>(必修科目) 有機化学2・3 分析化学1 生化学2・3 微生物学 基礎動物生物学 基礎分子生物学 薬用天然物化学1 物理化学2・3 分析化学2 生物無機化学、衛生薬学1</p>	<p>(必修科目) 臨床薬物動態学 薬理学4、医薬品安全衛生学 医療薬理学、個別化医療 薬事関連法、制度 コミュニケーション・マネージャー 薬学基礎演習 臨床導入学習1・2 (選択科目) アドバンスド薬物治療学3 臨床薬理学 臨床薬理学 臨床薬理学</p>	<p>(必修科目) 臨床薬物動態学 薬理学4、医薬品安全衛生学 医療薬理学、個別化医療 薬事関連法、制度 コミュニケーション・マネージャー 薬学基礎演習 臨床導入学習1・2 (選択科目) アドバンスド薬物治療学3 臨床薬理学 臨床薬理学 臨床薬理学</p>	<p>(必修科目) 薬局方総論 医薬品情報評価 薬学総合演習 (選択科目) 漢方医学概論 レギュラトリーサイエンス アドバンスド薬物治療学2 臨床薬理学 臨床薬理学 臨床薬理学</p>	<p>医師として相応しい倫理性と社会性身につけていること</p>
<p>語学教育</p> <p>国際化に対応し得る語学力を養う</p>	<p>(必修科目) 英語スピーキング1・2 英語ライティング1・2 (選択必修科目) ドイツ語1・2 フランス語1・2 中国語1・2 ハンガリー1・2</p>	<p>(必修科目) 英語スピーキング1・2 英語ライティング1・2 (選択必修科目) ドイツ語1・2 フランス語1・2 中国語1・2 ハンガリー1・2</p>	<p>(必修科目) 英語スピーキング1・2 英語ライティング1・2 (選択必修科目) ドイツ語1・2 フランス語1・2 中国語1・2 ハンガリー1・2</p>	<p>(必修科目) 英語スピーキング1・2 英語ライティング1・2 (選択必修科目) ドイツ語1・2 フランス語1・2 中国語1・2 ハンガリー1・2</p>	<p>(必修科目) 英語スピーキング1・2 英語ライティング1・2 (選択必修科目) ドイツ語1・2 フランス語1・2 中国語1・2 ハンガリー1・2</p>	<p>(必修科目) 英語スピーキング1・2 英語ライティング1・2 (選択必修科目) ドイツ語1・2 フランス語1・2 中国語1・2 ハンガリー1・2</p>	<p>国際化に対応し得る語学力を養う</p>
<p>薬学専門教育</p> <p>「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」を基本とした、薬物に関する幅広い科学的知識を得る</p>	<p>(必修科目) 基礎有機化学 有機化学1 生物化学 基礎細胞生物学 生化学1・2 物理化学1、分析化学1</p>	<p>(必修科目) 有機化学2・3 分析化学1 生化学2・3 微生物学 基礎動物生物学 基礎分子生物学 薬用天然物化学1 物理化学2・3 分析化学2 生物無機化学、衛生薬学1</p>	<p>(必修科目) 有機化学2・3 分析化学1 生化学2・3 微生物学 基礎動物生物学 基礎分子生物学 薬用天然物化学1 物理化学2・3 分析化学2 生物無機化学、衛生薬学1</p>	<p>(必修科目) 有機化学2・3 分析化学1 生化学2・3 微生物学 基礎動物生物学 基礎分子生物学 薬用天然物化学1 物理化学2・3 分析化学2 生物無機化学、衛生薬学1</p>	<p>(必修科目) 有機化学2・3 分析化学1 生化学2・3 微生物学 基礎動物生物学 基礎分子生物学 薬用天然物化学1 物理化学2・3 分析化学2 生物無機化学、衛生薬学1</p>	<p>(必修科目) 有機化学2・3 分析化学1 生化学2・3 微生物学 基礎動物生物学 基礎分子生物学 薬用天然物化学1 物理化学2・3 分析化学2 生物無機化学、衛生薬学1</p>	<p>薬の専門家として必要幅広い科学的知識を有していること</p>
<p>医薬薬学教育</p> <p>薬の専門家として患者や医療チームから信頼される薬剤師を養成 薬師として必要知識・技能および態度を修得するために病院と薬局において参加型実務演習を行う</p>	<p>(必修科目) 機能形態学1 人体の構造と機能1・2 早期体験学習2</p>	<p>(必修科目) 機能形態学2 薬理学1 薬物治療学1・2</p>	<p>(必修科目) 機能形態学2 薬理学1 薬物治療学1・2</p>	<p>(必修科目) 機能形態学2 薬理学1 薬物治療学1・2</p>	<p>(必修科目) 機能形態学2 薬理学1 薬物治療学1・2</p>	<p>(必修科目) 機能形態学2 薬理学1 薬物治療学1・2</p>	<p>薬の専門家として必要幅広い科学的知識を有していること</p>
<p>実習科目</p> <p>講義で得た知識を基に、研究活動に必要な技術・方法を体得するとともに、問題発見・解決能力を育成するために、各研究室に所属し実務研究を行う</p>	<p>(必修科目) 基礎薬学実習 基礎有機化学実習</p>	<p>(必修科目) 生物化学実習 物理・放射化学実習 分析化学実習</p>	<p>(必修科目) 有機化学実習 生物化学実習 衛生薬学実習 薬学実習 薬理学実習</p>	<p>(必修科目) 有機化学実習 生物化学実習 衛生薬学実習 薬学実習 薬理学実習</p>	<p>(必修科目) 有機化学実習 生物化学実習 衛生薬学実習 薬学実習 薬理学実習</p>	<p>(必修科目) 有機化学実習 生物化学実習 衛生薬学実習 薬学実習 薬理学実習</p>	<p>科学的根拠に基づく問題発見・解決能力を有していること</p>

(基礎資料5) 語学教育の要素

<平成23年度以前入学生のカリキュラム>

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
英語1	1	○	○	○	○
英語2	1	○	○	○	○
英語3	2	○	○	○	○
英語4	2	○	○	○	○
ドイツ語1	1	○	○	○	○
ドイツ語2	1	○	○	○	○
ドイツ語3	1	○	○	○	○
ドイツ語4	2	○	○	○	○
フランス語1	1	○	○	○	○
フランス語2	1	○	○	○	○
フランス語3	1	○	○	○	○
フランス語4	2	○	○	○	○
異文化言語演習1	3	○			
異文化言語演習2	3	○			
薬学英語	4	○	○	○	○

※ドイツ語、フランス語はいずれかを選択必修

<平成24～26年度入学生のカリキュラム>

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
英語1	1	○	○	○	○
英語2	1	○	○	○	○
英語3	2	○	○	○	○
英語4	2	○	○	○	○
ドイツ語1	1	○	○	○	○
ドイツ語2	1	○	○	○	○
フランス語1	1	○	○	○	○
フランス語2	1	○	○	○	○
異文化言語演習1	3	○			
異文化言語演習2	3	○			
薬学英語	4	○	○	○	○
実践ビジネス英語	4,5	○	○	○	○

※ドイツ語、フランス語はいずれかを選択必修

※実践ビジネス英語は卒業要件には含まれない

<平成27年度入学生のカリキュラム>

科目名	開講年次	要素			
		読み	書き	聞く	話す
英語リスニング1	1	○	○	○	○
英語リスニング2	1	○	○	○	○
英語リーディング1	1	○	○	○	○
英語リーディング2	1	○	○	○	○
英語スピーキング1	2	○	○	○	○
英語スピーキング2	2	○	○	○	○
英語ライティング1	2	○	○	○	○
英語ライティング2	2	○	○	○	○
ドイツ語1	1	○	○	○	○
ドイツ語2	1	○	○	○	○
フランス語1	1	○	○	○	○
フランス語2	1	○	○	○	○
中国語1	1	○	○	○	○
中国語2	1	○	○	○	○
ハンゲル1	1	○	○	○	○
ハンゲル2	1	○	○	○	○
異文化言語演習1	3	○			
異文化言語演習2	3	○			
薬学英語	4	○	○	○	○

※独、仏、中、韓はいずれかを選択必修

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

(基礎資料6) 4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成27年4月						
(週)	(曜日)	(日)	班	3時限	4時限	5時限
第1週	月	6日	Bクラス	ガイダンス		
	火	7日	1A・1B	S101・S102、S202～S205、S211、S506・S507 講義・演習		
			2A・2B	S202～S208、S210・S211、S302、S412、S506・S507 講義・演習		
			3A・3B	S101・S102、S105、S205、S207～S209、S305・S306、S505、S605 講義・演習		
	水	8日	1A・1B	S202～S205、S211、S506・S507 講義・演習		
			2A・2B	S206、S302、S411・S412 講義・演習		
			3A・3B	S201～S204、S301、S303～S306 講義・演習		
	木	9日	1A・1B	S202～S205、S211、S501・S502、S506・S507 講義・演習		
			2A・2B	S104～S106、S413、H305、H402 講義・演習		
			3A・3B	S101～S103、S601、S604・S605 講義・演習		
	金	10日	1A・1B	S202～S205、S211、S506・S507 講義・演習		
			2A・2B	S410・S411 講義・演習		
3A・3B			S101～S103、S209、S602～S606 講義・演習			
第2週	月	—	—	—		
	火	14日	1A・1B	S202～S205、S211、S403・S406、S506・S507 講義・演習		
			2A・2B	EBM 講義・演習		
			3A・3B	S205、S207～S209、S504～S506、S602～S606 講義・演習		
	水	15日	1A・1B	S201～S208、S210・S211、S304～S306、S501・S502、S506・S507 講義・演習		
			2A・2B	S104～S106講義		
			3A・3B	S101～S103、S205～S207、S602～S606 講義・演習		
	木	16日	1A・1B	S105、S202・S203、S205、S507 講義・演習		
			2A・2B	S206、S302、S411・S412 講義・演習		
			3A・3B	S603～S606 講義・演習		
	金	17日	1A・1B	実習テスト		
			2A・2B	S410・S411 講義・演習		
3A・3B			S604～S606 講義・演習			
第3週	月	—	—	—		
	火	21日	1A・1B	S202～S208、S210・S211、S302、S412、S506・S507 講義・演習		
			2A・2B	S101・S102、S105、S205、S207～S209、S305・S306、S505、S605 講義・演習		
			3A・3B	S101・S102、S202～S205、S211、S506・S507 講義・演習		
	水	22日	1A・1B	S104～S106 講義・演習		
			2A・2B	S201～S204、S301、S303～S306 講義・演習		
			3A・3B	S202～S205、S211、S506・S507 講義・演習		
	木	23日	1A・1B	S206、S302、S411・S412 講義・演習		
			2A・2B	S101～S103、S601、S604・S605 講義・演習		
			3A・3B	S202～S205、S211、S501・S502、S506・S507 講義・演習		
	金	24日	1A・1B	S410・S411 講義・演習		
			2A・2B	S101～S103、S209、S602～S606 講義・演習		
3A・3B			S202～S205、S211、S506・S507 講義・演習			
第4週	月	—	—	—		
	火	28日	1A・1B	EBM 講義・演習		
			2A・2B	S205、S207～S209、S504～S506、S602～S606 講義・演習		
			3A・3B	S202～S205、S211、S403・S406、S506・S507 講義・演習		
	木	30日	1A・1B	S104～S106、S413、H305、H402 講義・演習		
			2A・2B	S603～S606 講義・演習		
3A・3B			S105、S201～S208、S210・S211、S304～S306、S501・S502、S506・S507 講義・演習			

平成27年5月						
(週)	(曜日)	(日)	班	3時限	4時限	5時限
第4週	金	1日	1A・1B	S206、S302、S411・S412 講義・演習		
			2A・2B	S604～S606 講義・演習		
			3A・3B	実習テスト		
第5週	月	4日	祝日			
	火	5日	休日			
	水	6日	休日			
	木	7日	1A・1B	S410・S411 講義・演習		
			2A・2B	S101～S103、S205～S207、S602～S606 講義・演習		
3A・3B			演習			
金	8日	新入生歓迎会(午後休講)				
第6週	月	11日	—	—		
	火	12日	1A・1B	S101・S102、S105、S205、S207～S209、S305・S306、S505、S605 講義・演習		
			2A・2B	S101・S102、S202～S205、S211、S506・S507 講義・演習		
			3A・3B	S202～S208、S210・S211、S302、S412、S506・S507 講義・演習		
	水	13日	1A・1B	S201～S204、S301、S303～S306 講義・演習		
			2A・2B	S202～S205、S211、S506・S507 講義・演習		
			3A・3B	S202～S208、S210・S211、S302、S412、S506・S507 講義・演習		
	木	14日	1A・1B	S101～S103、S601、S604・S605 講義・演習		
			2A・2B	S202～S205、S211、S501・S502、S506・S507 講義・演習		
			3A・3B	S104～S106、S413、H305、H402 講義・演習		
	金	15日	1A・1B	S101～S103、S209、S602～S606 講義・演習		
			2A・2B	S202～S205、S211、S506・S507 講義・演習		
3A・3B			S410・S411 講義・演習			
第7週	月	—	—	—		
	火	19日	1A・1B	S205、S207～S209、S504～S506、S602～S606 講義・演習		
			2A・2B	S202～S205、S211、S403・S406、S506・S507 講義・演習		
			3A・3B	EBM 講義・演習		
	水	20日	1A・1B	S603～S606 講義・演習		
			2A・2B	S201～S208、S210・S211、S304～S306、S501・S502、S506・S507 講義・演習		
			3A・3B	S104～S106講義		
	木	21日	1A・1B	S604～S606 講義・演習		
			2A・2B	S105、S202・S203、S205、S507 講義・演習		
3A・3B			S206、S302、S411・S412 講義・演習			
金	22日	1A・1B	S101～S103、S205～S207、S602～S606 講義・演習			
		2A・2B	実習テスト			
		3A・3B	S410・S411 講義・演習			
第8週	月	—	—	—		
	火	—	—	—		
	水	27日	Aクラス	ガイダンス		
	木	28日	4A・4B	S101・S102、S202～S205、S211、S506・S507 講義・演習		
			5A・5B	S202～S208、S210・S211、S302、S412、S506・S507 講義・演習		
			6A・6B	S101・S102、S105、S205、S207～S209、S305・S306、S505、S605 講義・演習		
	金	29日	4A・4B	S202～S205、S211、S506・S507 講義・演習		
5A・5B			S206、S302、S411・S412 講義・演習			
6A・6B			S201～S204、S301、S303～S306 講義・演習			

平成27年6月						
(週)	(曜日)	(日)	班	3時限	4時限	5時限
第9週	月	1日	—	—		
	火	2日	4A・4B	S202～S205、S211、S501・S502、S506・S507 講義・演習		
			5A・5B	S410・S411 講義・演習		
			6A・6B	S101～S103、S601、S604・S605 講義・演習		
	水	3日	4A・4B	S202～S205、S211、S506・S507 講義・演習		
			5A・5B	S206、S302、S411・S412 講義・演習		
			6A・6B	S205、S207～S209、S504～S506、S602～S606 講義・演習		
	木	4日	4A・4B	S202～S205、S211、S403・S406、S506・S507 講義・演習		
			5A・5B	S104～S106、S413、H305、H402 講義・演習		
			6A・6B	S101～S103、S209、S602～S606 講義・演習		
	金	5日	4A・4B	S201～S208、S210・S211、S304～S306、S501・S502、S506・S507 講義・演習		
			5A・5B	S410・S411 講義・演習		
6A・6B			S603～S606 講義・演習			
第10週	月	8日	—	—		
	火	9日	4A・4B	実習テスト		
			5A・5B	EBM 講義・演習		
			6A・6B	S604～S606 講義・演習		
	水	10日	4A・4B	S105、S202・S203、S205、S507 講義・演習		
			5A・5B	S104～S106 講義・演習・演習		
			6A・6B	S101～S103、S205～S207、S602～S606 講義・演習		
	木	11日	4A・4B	S202～S208、S210・S211、S302、S412、S506・S507 講義・演習		
			5A・5B	S101・S102、S105、S205、S207～S209、S305・S306、S505、S605 講義・演習		
			6A・6B	S101・S102、S202～S205、S211、S506・S507 講義・演習		
	金	12日	4A・4B	S206、S302、S411・S412 講義・演習		
			5A・5B	S201～S204、S301、S303～S306 講義・演習		
6A・6B			S202～S205、S211、S506・S507 講義・演習			
第11週	月	15日	—	—		
	火	16日	4A・4B	S410・S411 講義・演習		
			5A・5B	S101～S103、S601、S604・S605 講義・演習		
			6A・6B	S202～S205、S211、S501・S502、S506・S507 講義・演習		
	水	17日	4A・4B	S206、S302、S411・S412 講義・演習		
			5A・5B	S205、S207～S209、S504～S506、S602～S606 講義・演習		
			6A・6B	S202～S205、S211、S506・S507 講義・演習		
	木	18日	4A・4B	S104～S106、S413、H305、H402 講義・演習		
			5A・5B	S101～S103、S209、S602～S606 講義・演習		
			6A・6B	S202～S205、S211、S403・S406、S506・S507 講義・演習		
	金	19日	4A・4B	S410・S411 講義・演習		
			5A・5B	S603～S606 講義・演習		
6A・6B			S201～S208、S210・S211、S304～S306、S501・S502、S506・S507 講義・演習			
第12週	月	22日	—	—		
	火	23日	4A・4B	EBM 講義・演習		
			5A・5B	S604～S606 講義・演習		
			6A・6B	実習テスト		
	水	24日	4A・4B	S104～S106 講義・演習		
			5A・5B	S101～S103、S205～S207、S602～S606 講義・演習		
			6A・6B	S105、S202・S203、S205、S507 講義・演習		
	木	25日	4A・4B	S101・S102、S105、S205、S207～S209、S305・S306、S505、S605 講義・演習		
			5A・5B	S101・S102、S202～S205、S211、S506・S507 講義・演習		
			6A・6B	S202～S208、S210・S211、S302、S412、S506・S507 講義・演習		
	金	26日	4A・4B	S201～S204、S301、S303～S306 講義・演習		
			5A・5B	S202～S205、S211、S506・S507 講義・演習		
6A・6B			S202～S208、S210・S211、S302、S412、S506・S507 講義・演習			

第13週	月	29日	—			
	火	30日	4A・4B	S101～S103、S209、S602～S606 講義・演習		
			5A・5B	S202～S205、S211、S501・S502、S506・S507 講義・演習		
			6A・6B	S206、S302、S411・S412 講義・演習		
平成27年7月						
(週)	(曜日)	(日)	班	3時限	4時限	5時限
第13週	水	1日	4A・4B	S101～S103、S601、S604・S605 講義・演習		
			5A・5B	S202～S205、S211、S506・S507 講義・演習		
			6A・6B	S206、S302、S411・S412 講義・演習		
	木	2日	4A・4B	S205、S207～S209、S504～S506、S602～S606 講義・演習		
			5A・5B	S202～S205、S211、S403・S406、S506・S507 講義・演習		
			6A・6B	S104～S106、S413、H305、H402 講義・演習		
	金	3日	4A・4B	S603～S606 講義・演習		
			5A・5B	S201～S208、S210・S211、S304～S306、S501・S502、S506・S507 講義・演習		
			6A・6B	S410・S411 講義・演習		
第14週	月	6日	—			
	火	7日	4A・4B	S604～S606 講義・演習		
			5A・5B	実習テスト		
			6A・6B	EBM 講義・演習		
	水	8日	4A・4B	S101～S103、S205～S207、S602～S606 講義・演習		
			5A・5B	S105、S202・S203、S205、S507 講義・演習		
			6A・6B	S104～S106 講義・演習		

- [注]
- 1 4年次の実務実習事前学習のスケジュールを例示に従い、実務実習モデル・コアカリキュラムの「学習方略」で用いられているLS番号（主となる）と学習方法を記入してください。表は月ごとに作成し、シートが足りない場合はシートのコピーで適宜追加し、作成してください。
 - 2 大学行事、祭日等は、簡潔に記入してください。（例示：学祭、OSCE、予備日、祝日）
 - 3 上記1の内容が記載されていれば、大学独自の様式の表を提出することができます。

(基礎資料7) 学生受入状況について

	学科名	入試の種類		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	募集定員数に対する入学者数の比率(6年間の平均)
				入試(22年度実施)	入試(23年度実施)	入試(24年度実施)	入試(25年度実施)	入試(26年度実施)	入試(27年度実施)	
薬学部	薬学科・薬科学科(学部一括募集)	一般入試	受験者数	1,027	1,150	1,531	1,746	1,635	1,671	115%
			合格者数	408	379	398	374	479	440	
			入学者数(A)	160	172	166	167	190	191	
			募集定員数(B)	150	150	150	150	150	160	
			A/B*100(%)	107%	115%	111%	111%	127%	119%	
		大学入試センター入試	受験者数	688	710	857	806	455	388	83%
			合格者数	241	250	193	186	182	158	
			入学者数(A)	28	47	9	29	16	14	
			募集定員数(B)	30	30	30	30	30	20	
			A/B*100(%)	93%	157%	30%	97%	53%	70%	
		指定校推薦	受験者数	30	43	36	44	41	40	98%
			合格者数	30	43	36	44	41	40	
			入学者数(A)	30	43	36	44	41	40	
			募集定員数(B)	40	40	40	40	40	40	
			A/B*100(%)	75%	108%	90%	110%	103%	100%	
		公募推薦入試	受験者数	453	520	574	749	627	602	102%
			合格者数	169	173	176	124	143	168	
			入学者数(A)	92	83	115	63	64	71	
			募集定員数(B)	80	80	80	80	80	80	
			A/B*100(%)	115%	104%	144%	79%	80%	89%	
帰国生徒入試	受験者数	0	3	2	0	0	0			
	合格者数	0	0	1	0	0	0			
	入学者数(A)	0	0	1	0	0	0			
	募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名			
	A/B*100(%)									
学科計	受験者数	2,198	2,426	3,000	3,345	2,758	2,701	106%		
	合格者数	848	845	804	728	845	806			
	入学者数(A)	310	345	327	303	311	316			
	募集定員数(B)	300	300	300	300	300	300			
	A/B*100(%)	103%	115%	109%	101%	104%	105%			

(備考) 学科への配属は4年次に進級する際に学生の希望等により決定します。なお、薬学科定員は270名、薬科学科定員は30名です。

- [注]
- 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
 - 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
 - 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。
 - 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
 - 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
 - 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
 - 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な6年制薬学科の教員数 * 1	35名
②設置基準において、必要な実務家教員数 * 2	6名

* 1 大学設置基準 第二条別表第一、イ備考4

* 2 大学設置基準 別表第一、イ十号

本学は、薬学科(6年制)と薬科学科(4年制)を設置している。上表①及び②は薬学科収容定員(1,645名)から算定する。

①別表第一イ備考九より、収容定員360人に必要専任教員22人(A)

備考四より、 $1,645 - 360 = 1,285$ 人 $1,285 \div 600 \times 6 =$ 必要専任教員13人(B)

上述より、 $A+B=22+13=$ 6年制薬学科の必要専任教員数35人(C)

②文部科学省告示第百七十五号(平成十六年十二月十五日)より、 $C \div 6 =$ 必要な実務家教員数6名

(教員の部)	教授	准教授	専任講師	助教	助手	備考
教養教育	1	5	1	0	0	
語学教育	1	1	0	0	0	
薬学基礎教育	6 (1)	10	7	0	4 (4)	教授6(1)=1名定年後嘱託 助手4(4)=4名嘱託 TA:1, SA:15
専門薬学教育	13	8 (1)	4	0	11 (11)	准教授8(1)=1名実務家 助手11(11)=11名嘱託 RA:10, TA:13, SA:23
実務実習教育	10 (10)	1 (1)	0	1 (1)	0	教授10(10)=10名実務家(内9名特任) 准教授1(1)=1名実務家 助教1(1)=1名実務家 SA:10
小計	31 (11)	25 (2)	12	1 (1)	15 (15)	
専任教員数	69 (14)					
(事務職員の部)	局長	部長	課長	事務員	その他の職種	備考
大学業務関連	0	0	9 (1)	33	2	課長9(1)=1名嘱託 その他2名=1名看護師、1名用務員
法人業務関連	1	0	0	0	6 (6)	その他6名=6名薬剤師(6名嘱託)
小計	1	0	9 (1)	33	8 (6)	
事務職員数	43 (1)					

- [注] 1 主に担当する科目(業務)で算出し、重複しないように注意してください。
- 2 該当する場合は、()内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。(例示: 6(2)=6名のうち2名が特任)
- 3 該当する場合は、()内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。(例示: 3(1)=3名のうち1名が嘱託事務職員)
- 4 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。
- 5 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料9) 専任教員年齢構成

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教授	0	22 (4)	7 (1)	2	0	0	31 (5)
	0%	71%	23%	6%	0%	0%	100%
准教授	0	0	13 (3)	12 (2)	0	0	25 (5)
	0%	0%	52%	48%	0%	0%	100%
専任講師	0	0	6 (3)	4 (2)	2	0	12 (5)
	0%	0%	50%	33%	17%	0%	100%
助教	0	0	0	0	1 (1)	0	1 (1)
	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
合計	0	22 (4)	26 (7)	18 (4)	3 (1)	0	69 (16)
	0%	32%	38%	26%	4%	0%	100%
定年年齢	65歳						

※65歳到達した年度末

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 ()に女性の数を記入してください。(例示: 2(1) = 2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

(基礎資料10) 専任教員の担当授業科目および時間数

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										最終学歴及び学位称号	
								科目名		講義		演習		実験・実習・実技		計			年間平均毎週授業時間数
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
								科目名		講義		演習		実験・実習・実技		計			
薬学科 (薬薬科学科)	薬学入門	学長	まさだ みきお 政田 幹夫	男	66	2015.1.1	2015.1.1	0.6				0.6	0.0	0.0	京都大学大学院 薬学専攻 博士課程満期 退学 薬学博士				
								0.3				0.3	0.0	0.0					
								0.9	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0					
薬学科 (薬薬科学科)	衛生薬学3 衛生薬学4 衛生薬学実習 早期体験学習1	教授	あまの ふみお 天野 富美夫	男	62	2001.7.2	2001.7.2	3.0				3.0	0.0	0.0	東京大学大学院 薬学専攻 博士課程修了 薬学博士				
								3.0	3.0			0.0	0.0	3.0					
								0.3			13.5	0.0	0.0	0.0					
薬学科 (薬薬科学科)	薬理学1 薬理学2 薬理学実習 早期体験学習1	教授	まつむら やすお 松村 靖夫	男	60	1979.4.1	2002.5.1	3.3	3.0			3.3	0.0	0.0	大阪薬科大学 大学院薬学研究 修了 医学博士				
								3.0	3.0			0.0	0.0	3.0					
								0.3			13.5	0.0	0.0	0.0					
薬学科 (薬薬科学科)	生化学3 微生物学 生物科学実習 早期体験学習1	教授	つじほう ひろし 辻坊 裕	男	62	1984.4.1	2004.4.1	3.0	3.0			3.0	0.0	0.0	大阪大学大学院 薬学専攻 博士課程修了 薬学博士				
								3.0	3.0			0.0	0.0	3.0					
								3.0	0.3		13.5	0.0	0.0	0.3					
薬学科 (薬薬科学科)	衛生薬学2 衛生薬学実習	教授	ふじもと ようこ 藤本 陽子	女	61	1981.4.1	2006.4.1	3.0				3.0	0.0	0.0	大阪薬科大学 大学院薬学研究 修了 薬学博士				
								3.0				0.0	0.0	3.0					
								0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
薬学科 (薬薬科学科)	物理化学1 基礎薬学実習 物理化学2	教授	どい みつお 土井 光暢	男	57	1983.4.1	2006.4.1	3.0	3.0			6.8	0.0	0.0	大阪大学大学院 薬学専攻 博士課程修了 薬学博士				
								3.0	3.0			0.0	0.0	6.8					
								0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
薬学科 (薬薬科学科)	基礎有機化学実習 医薬品化学1 医薬品化学2 早期体験学習1	教授	たなか れいこ 田中 麗子	女	64	1974.4.1	2006.4.1	1.8				1.5	0.0	0.0	大阪薬科大学 薬学部薬学 薬学博士				
								3.0	3.0			6.8	0.0	0.0					
								0.3			0.0	0.0	0.0	0.3					
薬学科 (薬薬科学科)	機能形態学1 機能形態学2 生物化学実習	教授	たかおか まさのり 高岡 昌徳	男	61	1980.4.1	2006.4.1	2.1	1.5			3.0	0.0	0.0	岡山大学大学院 薬学専攻 博士課程修了 薬学博士				
								3.0	3.0			0.0	0.0	3.0					
								3.0	3.0			0.0	0.0	0.0					
計								3.0	3.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	9.8				

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										最終学歴及び学位称号	年間平均毎週授業時間数									
								講義		演習		実験・実習・実技		計														
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
薬学科 (兼薬科学科)	機能分子創成化学研究室	教授	うらた ひでひと 浦田 秀仁	男	55	1987.4.1	2006.4.1	有機化学3	3.0					0.0	3.0							大阪大学大学院薬学研究科 前期課程 修士(薬学) 博士(薬学)	9.8					
								有機化学4	3.0					0.0	3.0													
								有機化学実習						13.5														
								計	3.0	0.0	0.0	0.0	13.5	0.0	16.5	0.0	3.0											
薬学科 (兼薬科学科)	臨床実践薬学研究室	教授 (実務家)	あらかわ ゆきお 荒川 行生	男	61	2006.4.1	2006.4.1	臨床導入学習1							18.0						大阪大学大学院薬学研究科 前期課程 修士(医学)	9.8						
								臨床導入学習2						9.0														
								医薬薬理学2	1.5																			
								早期体験学習1	0.3																			
計	0.0	1.8	0.0	0.0	18.0	9.0	18.0	0.0	10.8																			
薬学科 (兼薬科学科)	薬品分析化学研究室	教授	みの よしき 三野 芳紀	男	65	1977.8.1	2006.10.1	分析化学1	3.0												徳島大学大学院薬学研究科 修士課程修了 薬学博士	14.4						
								生物無機化学	3.0																			
								分析化学実習	1.4					13.5														
								応用分析学 早期体験学習1	0.3																			
計	4.4	3.3	0.0	0.0	13.5	0.0	17.9	0.0	3.3																			
薬学科 (兼薬科学科)	有機薬化学研究室	教授	はるさわ しんや 春沢 信哉	男	61	1983.4.1	2006.10.1	薬品合成化学1	3.0												名古屋市立大学大学院薬学研究科 修士課程修了 薬学博士	10.6						
								有機化学実習	1.5					13.5														
								薬品合成化学2 早期体験学習1	0.3																			
								計	1.5	3.3	0.0	0.0	13.5	0.0	15.0	0.0	3.3											
薬学科 (兼薬科学科)	言語文化グループ	教授	くすのせ たけあき 楠瀬 雄昭	男	61	1991.4.1	2007.4.1	英語リーディング1	3.0												京都大学文学部 薬学 文学士	9.2						
								英語リーディング2	3.0																			
								英語3 英語4 異文化言語演習1 異文化言語演習2 早期体験学習1	3.0			1.5																
								計	6.0	6.3	1.5	1.5	0.0	0.0	7.5	0.0	7.8											
薬学科 (兼薬科学科)	薬物治療学研究室	教授	まつむら ひとし 松村 人志	男	60	2010.4.1	2010.4.1	薬学入門	0.6												大阪医科大学 医学部卒業 医学博士	7.7						
								早期体験学習2	0.7					6.8														
								人体の構造と病態1 薬物治療学3 病態生理学演習実習 薬物治療学演習	2.3			1.5																
								計	3.6	0.0	0.5	0.0	13.5	6.8	17.6	0.0	6.8											
薬学科 (兼薬科学科)	生化学研究室	教授	ふくなが きりょう 福永 理己郎	男	56	2010.11.1	2010.11.1	人間と文化5(人間と生命)	0.6												京都大学大学院薬学研究科 修士後期課程 薬学博士	9.0						
								分子細胞生物学	3.0																			
								生物科学実習 早期体験学習1	0.6					13.5														
								計	1.2	3.3	0.0	0.0	13.5	0.0	14.7	0.0	3.3											

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										最終学歴及び学位称号								
								毎週授業時間数											年間平均毎週授業時間数							
								講義		演習		実験・実習・実技		計												
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	計	後期															
薬学科 (兼薬科 学科)	薬品作用機 析学研究室	教授	おおの ゆきひろ 大野 行弘	男	56	2007.4.1	2011.4.16	薬理学3	3.0				0.0	3.0	0.0	3.0	京都大学 大学院 薬学博士 課程修了 医学博士									
								薬理学実習						13.5	0.0	13.5		0.0	13.5							
								医薬品安全性学	3.0						0.0	0.0		3.0	0.0	3.0						
								早期体験学習1	0.3						0.0	0.0		0.3	0.0	0.3						
	計		0.3	6.0	0.0	0.0	13.5	0.0	13.5	0.0	19.5	9.9														
薬学科 (兼薬科 学科)	薬物治療学 II研究室	教授	しまもと ちかお 島本 史夫	男	63	2011.10.1	2011.10.1	薬学入門	0.6					0.6	0.0	0.6	大阪医科大学 薬学部卒業 医学博士									
								早期体験学習2						6.8	0.0	6.8		0.0	6.8							
								人体の構造と病態1	1.6						1.6	0.0		1.6	0.0	1.6						
								人間と文化5 (人間と生命)	0.3						0.3	0.0		0.3	0.0	0.3						
	計		3.0					13.5	0.0	13.5	0.0	13.5	0.0	13.5												
薬学科 (兼薬科 学科)	循環病態治 療学研究室	教授	はやし てつや 林 哲也	男	61	2011.10.1	2011.10.1	早期体験学習2	2.5					2.5	3.0	0.0	13.5	6.8	16.7	9.8	大阪医科大学 大学院 薬学博士 課程修了 医学博士					
								人体の構造と病態2							0.9				6.8	0.0		0.0	6.8			
								病態生理学2	0.9						0.9					0.9		0.0	0.9	0.0	0.9	
								薬物治療学1	0.9						0.9					0.9		0.0	0.9	0.0	0.9	
	計		1.8	0.9	0.4	0.0	13.5	0.0	13.5	0.0	6.8	0.0	15.7	7.7	11.7											
薬学科 (兼薬科 学科)	製剤設計学 研究室	教授	とづか ゆういち 戸塚 裕一	男	43	2012.4.1	2012.4.1	制剤設計学													千葉大学 大学院 薬学博士 課程修了 博士(薬学)					
								薬理学実習							13.5					13.5		0.0	13.5	0.0	13.5	
								薬局方総論	1.5													1.5	0.0	1.5	0.0	1.5
								早期体験学習1	0.3											0.3		0.0	0.3	0.0	0.3	
	計		1.5	3.3	0.0	0.0	13.5	0.0	13.5	0.0	0.0	0.0	15.0	3.3	9.2											
薬学科 (兼薬科 学科)	生薬科学研 究室	教授	たにくら まさひこ 谷口 雅彦	男	52	1989.4.1	2013.4.1	薬用天然物化学1	3.0					3.0							大阪薬科大学 大学院 薬学博士 課程修了 博士(薬学)					
								生薬学実習																		
								薬用天然物化学2	3.0																	
								早期体験学習1	0.3																	
	計		3.3	3.0	0.0	0.0	6.8	0.0	6.8	0.0	0.0	0.0	6.8	0.0	6.8											
薬学科 (兼薬科 学科)	人間文化学 グループ	教授	そうまえ きよさだ 宗前 清貞	男	50	2013.4.1	2013.4.1	歴史と社会(教養)	1.5					1.5							東北大学 大学院 薬学博士 課程修了 博士(法学)					
								人間と文化8 (人間と政治)																		
								異文化言語演習1																		
								異文化言語演習2																		
	計		1.5	3.0	0.0	0.0	6.8	0.0	6.8	0.0	0.0	0.0	6.8	0.0	6.8											
薬学科 (兼薬科 学科)	薬物動態学 3	教授	ながい じゅんや 永井 純也	男	45	2014.4.1	2014.4.1	薬物動態学2	3.0					3.0							京都大学 大学院 薬学博士 課程修了 博士(薬学)					
								薬物動態学3																		
								薬理学実習																		
								早期体験学習1	0.3																	
	計		3.0	3.3	0.0	0.0	13.5	0.0	13.5	0.0	0.0	0.0	16.5	3.3	9.9											

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										最終学位及び学位称号							
								毎週授業時間数											年間平均毎週授業時間数						
								講義		演習		実験・実習・実技		計											
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	計	前期	後期	計										
薬学科	臨床実践薬学教育研究室	教授(特任)(実務家)	はなやま かよこ 花山 加代子	女	63	2010.2.1	2010.2.1	臨床導入学習1	0.0	0.0	0.0	0.0	18.0	0.0	18.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	近畿大学薬学部卒業 薬学士			
								臨床導入学習2						9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0
								計	0.0	0.0	0.0	0.0	18.0	9.0	18.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.5					
薬学科	臨床実践薬学教育研究室	教授(特任)(実務家)	すずき よしお 鈴木 芳郎	男	66	2010.4.1	2010.4.1	臨床導入学習1				18.0		18.0								大阪薬科大学薬学部卒業 薬学士			
								臨床導入学習2					9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	
								計	0.0	0.0	0.0	18.0	9.0	18.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.5					
薬学科	臨床実践薬学教育研究室	教授(特任)(実務家)	につた つよし 新田 剛	男	66	2010.4.1	2010.4.1	臨床導入学習1				18.0		18.0								大阪薬科大学薬学部卒業 薬学士			
								臨床導入学習2					9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	
								計	0.0	0.0	0.0	18.0	9.0	18.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.5					
薬学科	臨床実践薬学教育研究室	教授(特任)(実務家)	はせがわ けんじ 長谷川 健次	男	64	2011.4.16	2011.4.16	臨床導入学習1				18.0		18.0								大阪薬科大学薬学部卒業 薬学士			
								臨床導入学習2					9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	
								計	0.0	0.0	0.0	18.0	9.0	18.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.5					
薬学科	臨床実践薬学教育研究室	教授(特任)(実務家)	ではり とよこ 出開 豊子	女	63	2012.4.1	2012.4.1	臨床導入学習1				18.0		18.0								徳島大学薬学部卒業 薬学士			
								臨床導入学習2					9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	
								計	0.0	0.0	0.0	18.0	9.0	18.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.5					
薬学科	臨床実践薬学教育研究室	教授(特任)(実務家)	おんだ せいじ 恩田 誠二	男	64	2013.4.1	2013.4.1	臨床導入学習1				18.0		18.0								大阪薬科大学薬学部卒業 薬学士			
								臨床導入学習2					9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	
								計	0.0	0.0	0.0	18.0	9.0	18.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.5					
薬学科	臨床実践薬学教育研究室	教授(特任)(実務家)	きん みえこ 金 美恵子	女	58	2013.4.1	2013.4.1	臨床導入学習1				18.0		18.0								神戸女子薬科大学薬学部卒業 薬学士			
								臨床導入学習2					9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	
								計	0.0	0.0	0.0	18.0	9.0	18.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.5					
薬学科	臨床実践薬学教育研究室	教授(特任)(実務家)	こもり かつや 小森 勝也	男	61	2013.4.1	2013.4.1	臨床導入学習1				18.0		18.0								大阪薬科大学薬学部卒業 薬学士			
								臨床導入学習2					9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	
								計	0.0	0.0	0.0	18.0	9.0	18.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.5					

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										最終学位及び 学位称号	年間平均毎週 授業時間数		
								講義		演習		実験・実習 実技		計		前期	後期			前期	後期
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
薬学科	臨床実践薬学教育研究室	教授 (特任 実務 家)	わきじょう やすのり 脇條 康哲	男	62	2013.4.1	2013.4.1	臨床導入学習1				18.0	0.0	18.0	0.0	0.0	0.0	13.5	大阪薬科大学 薬学部卒業 薬学士		
								臨床導入学習2				9.0	0.0	9.0	0.0	0.0	0.0			0.0	
薬学科 (薬薬科 学科)	生体機能診 断学研究室	准教授	おおもも よしろう 大桃 善朗	男	59	1984.4.1	1993.4.1	基礎薬学実習				6.8	0.0	6.8	0.0	0.0	0.0	12.6	京都大学大学院 薬学系 薬学修士		
								放射化学	3.0			13.5	0.0	13.5	0.0	0.0	0.0			0.0	
薬学科 (薬薬科 学科)	生化学研究 室	准教授	いのうえ せいじ 井上 晴嗣	男	58	1985.4.1	1998.1.1	生化学2	3.0				0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	8.4	大阪大学大学院 薬学系 薬学修士		
								生物科学実習				13.5	0.0	13.5	0.0	0.0	0.0			0.0	
薬学科 (薬薬科 学科)	循環器能治 療学研究室	准教授 (実務 家)	井尻 好雄	男	57	2006.4.1	2006.4.1	早期体験学習2					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.5	大阪薬科大学 薬学部卒業 薬学修士		
								人体の構造と病態2	1.2			6.8	0.0	6.8	0.0	0.0	0.0			0.0	
薬学科 (薬薬科 学科)	薬品物理化 学研究室	准教授	ともお こうじ 友尾 幸司	男	51	1992.4.1	2007.4.1	物理化学3					2.1	0.0	2.1	0.0	0.0	8.7	大阪薬科大学 大学院 薬学修士 薬学修士 薬学修士		
								物理・放射化学実習				13.5	0.0	13.5	0.0	0.0	0.0			0.0	
薬学科 (薬薬科 学科)	環境分子生 理学研究室	准教授	さくま さとる 佐久間 寛	男	52	1987.4.1	2009.4.1	衛生薬学実習					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.3	大阪大学大学院 薬学系 薬学修士		
								薬学英語	1.5			13.5	0.0	13.5	0.0	0.0	0.0			0.0	
薬学科 (薬薬科 学科)	臨床実践薬 学研究室	准教授 (実務 家)	おんだ みつこ 恩田 光子	女	50	2006.4.1	2009.4.1	薬事関連法・制度 コミュニケーション	3.0				0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	17.0	大阪大学大学院 薬学系 薬学修士		
								臨床導入学習1				18.0	0.0	18.0	0.0	0.0	0.0			0.0	
								臨床導入学習2													
								臨床薬学統合演習	0.9				0.0	0.9	0.0	0.0	0.0				
								計	3.0	3.0	0.0	0.0	18.0	9.0	21.9	12.0					

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										最終学歴及び学位称号				
								毎週授業時間数					計						年間平均毎週授業時間数			
								講義	演習		実験・実習・実技		計	前期	後期	前期	後期					
科目名	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	計	前期	後期									
薬学科 (兼薬科学科)	言語文化学 グループ	准教授	すみす ともこ スミス 朋子	女	50	2011.4.1	2011.4.1	英語リーディング1	3.0				3.0	0.0	3.0	0.0	3.0	カリフォルニア ア大学大学院 言語学研究所 博士課程修了 Ph.D. (Linguistics)				
								英語リーディング2	3.0				3.0	0.0	3.0	0.0	3.0		0.0			
								英語3	3.0				3.0	0.0	3.0	0.0	3.0		0.0			
								異文化言語演習1		1.5			1.5	0.0	1.5	0.0	1.5		0.0			
								異文化言語演習2		1.5			1.5	0.0	1.5	0.0	1.5		0.0			
早期体験学習1	0.3	6.0	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	7.7	0.0	0.0									
薬学科 (兼薬科学科)	化学	准教授	みやもと かつしろ 宮本 勝城	男	51	1990.4.1	2011.4.16	化学	1.5				1.5	0.0	1.5	0.0	1.5	大阪薬科大学 大学院薬学研 究所修士課程 修了 博士(薬学)				
								化学演習	3.0				3.0	0.0	3.0	0.0	3.0		0.0			
								応用分子生物学		1.5			1.5	0.0	1.5	0.0	1.5		0.0			
								生物科学実習						13.5			13.5		0.0			
								早期体験学習1	0.3	0.3			0.3	0.0	0.3	0.0	0.3		0.0			
計	4.5	0.3	1.5	0.0	13.5	0.0	19.5	0.3	9.9	0.0	9.9	0.0	0.3									
薬学科 (兼薬科学科)	有機薬化学 研究室	准教授	うさみ よしひで 宇佐美 吉英	男	53	1989.4.1	2011.4.16	有機化学1	3.0				3.0	0.0	3.0	0.0	3.0	京都大学 大学院薬学研 究所修士課程 修了 博士(薬学)				
								基礎有機化学実習						13.5			13.5		0.0			
								有機化学2	3.0				3.0	0.0	3.0	0.0	3.0		0.0			
								早期体験学習1	0.3	0.3			0.3	0.0	0.3	0.0	0.3		0.0			
								計	3.3	0.3	0.0	0.0	13.5	0.0	16.5	0.0	9.9		0.0	9.9	0.0	0.0
薬学科 (兼薬科学科)	有機薬化学 医薬品化学 研究室	准教授	やまだ たけし 山田 剛司	男	46	1994.4.1	2011.4.16	化学	1.5				1.5	0.0	1.5	0.0	1.5	大阪薬科大学 大学院薬学研 究所修士課程 修了 博士(薬学)				
								化学演習		1.5			1.5	0.0	1.5	0.0	1.5		0.0			
								基礎有機化学実習						13.5			13.5		0.0			
								有機スベクトル解析学		3.0			3.0	0.0	3.0	0.0	3.0		0.0			
								医薬品化学1	1.2				1.2	0.0	1.2	0.0	1.2		0.0			
早期体験学習1	0.3	0.3			0.3	0.0	0.3	0.0	0.3	0.0												
計	3.0	0.3	1.5	0.0	13.5	0.0	4.5	0.0	10.5	0.0	10.5	0.0	0.0									
薬学科 (兼薬科学科)	機能分子創 成化学研究 室	准教授	わだ じゅんいち 和田 俊一	男	47	1995.4.1	2011.4.16	基礎有機化学	3.0				3.0	0.0	3.0	0.0	3.0	京都大学 大学院薬学研 究所修士課程 修了 博士(薬学)				
								有機化学実習						13.5			13.5		0.0			
								薬学英語	1.5				1.5	0.0	1.5	0.0	1.5		0.0			
								早期体験学習1	0.3	0.3			0.3	0.0	0.3	0.0	0.3		0.0			
								計	4.5	0.3	0.0	0.0	13.5	0.0	18.0	0.0	9.2		0.0	9.2	0.0	0.0
薬学科 (兼薬科学科)	薬物動態学1 薬理学実習 早期体験学習1	准教授	いわなが かつのり 岩永 一範	男	49	1982.11.16	2012.4.1	薬物動態学1	3.0				3.0	0.0	3.0	0.0	3.0	摂南大学 大学院薬学研 究所前期課程 修了 博士(薬学)				
								薬理学実習						13.5			13.5		0.0			
								早期体験学習1	0.3	0.3			0.3	0.0	0.3	0.0	0.3		0.0			
								計	3.0	0.3	0.0	0.0	13.5	0.0	16.5	0.0	8.4		0.0	8.4	0.0	0.0
								生薬学	3.0	3.0			3.0	0.0	3.0	0.0	3.0		0.0			
薬学科 (兼薬科学科)	生薬学 生薬学実習 薬局方総論 早期体験学習1	准教授	しばの まさお 芝野 真喜雄	男	47	1993.4.1	2012.4.1	生薬学	3.0				3.0	0.0	3.0	0.0	3.0	大阪薬科大学 薬学部卒業 博士(薬学)				
								生薬学2						6.8			6.8		0.0			
								生薬学実習						0.6			0.6		0.0			
								薬局方総論	0.6	0.6			0.6	0.0	0.6	0.0	0.6		0.0			
								早期体験学習1	0.3	0.3			0.3	0.0	0.3	0.0	0.3		0.0			
計	3.9	0.3	0.0	0.0	6.8	0.0	3.9	0.0	6.9	0.0	6.9	0.0	0.0									

所属学科 (兼業科 学科)	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就 年 月 日	現職就任 年 月 日	授業科目										最終学位及 学位称号	
								講義		演習		実験・実習 実技		計		年間平均毎週 授業時間数			
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
薬学科 (兼業科 学科)	生体防御学 研究室	准教授	ふじもり こう 藤森 功	男	47	2007.4.1	2012.4.1	3.0				13.5		3.0	0.0	8.6	京都工芸繊維 大学大学院工 学研究所 修士課程修了 博士(農学)		
								3.0	0.6										
								3.0	0.6	0.0	0.0	13.5	0.0	16.5	0.6				
								計											
薬学科 (兼業科 学科)	病態分子薬 理学研究室	准教授	おおきた まもる 大喜多 守	男	44	2007.4.1	2012.4.1	1.5						1.5	0.0	9.2	大阪薬科大学 大学院薬学研 究院修士課程 修了 博士(薬学)		
								3.0											
								0.3						0.3	0.0				
								計											
薬学科 (兼業科 学科)	薬品物理化 学研究室	准教授	いん やすこ 伊 康子	女	54	1984.4.1	2012.4.1	1.5		1.5				1.5	0.0	大阪薬科大学 薬学部卒業 博士(薬学)			
											1.5								
									0.9			13.5							
								計											
薬学科 (兼業科 学科)	環境医療学 グループ	准教授	さかもと きょうこ 阪本 恭子	女	47	2012.4.1	2012.4.1	1.8	0.9	1.5	0.0	0.0	0.0	3.3	14.4	8.9	大阪薬科大学 大学院薬学研 究院修士課程 修了 博士(薬学)		
								3.0											
								0.3											
								計											
薬学科 (兼業科 学科)	環境医療学 グループ	准教授	たいま なりひと 当麻 成人	男	54	1993.4.1	2013.4.1	6.9	4.5	0.0	0.0	0.0	6.9	4.5	5.7	日本体育大学 大学院体育学 院修士課程 修了 体育学修士			
								3.0											
								3.0				6.0							
								計											
薬学科 (兼業科 学科)	薬理学研究 室	准教授	みやざき まこと 宮崎 誠	男	48	1999.1.1	2013.4.1	1.5		1.5				1.5	0.0	大阪薬科大学 大学院薬学研 究院修士課程 修了 博士(薬学)			
								3.0											
								0.8				13.5							
								計											
薬学科 (兼業科 学科)	自然学グ ループ	准教授	ながた まこと 永田 誠	男	48	2006.10.1	2013.4.1	3.0						3.0	1.5	5.6	東京工業大学 大学院理工学 院修士課程 修了 博士(理学)		
								3.0											
								0.3											
								計											

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										最終学位及び学位称号				
								毎週授業時間数											年間平均毎週授業時間数			
								講義		演習		実験・実習・実技		計								
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	計	後期											
薬学科 (薬薬科 学科)	生体機能解析学研究室	准教授	さかぐち みのる 坂口 実	男	54	1989.6.21	2014.4.1	生物学	3.0				3.0	0.0	3.0	0.0	3.0	大阪薬科大学 大学院薬学研究科 修士課程 修士(薬学)				
								基礎細胞生物学												0.0	3.0	
								早期体験学習1	0.3											0.3	0.3	0.3
								3.3	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	16.8	10.1						
薬学科 (薬薬科 学科)	中央機器研究施設	准教授	みのうら かつひこ 箕浦 克彦	男	46	1992.4.1	2014.4.1	化学	1.5						1.5	0.0	1.5	0.0	大阪薬科大学 薬学部卒業 修士(薬学)			
								化学演習		1.5											1.5	0.0
								分析化学実習													13.5	0.0
								0.3	0.3					0.0	0.3	0.3						
								1.5	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	16.5	0.3	8.4						
薬学科 (薬薬科 学科)	薬物治療学研究室	准教授	こうだ ゆか 幸田 祐佳	女	41	1998.4.1	2014.4.1	早期体験学習2									6.8	大阪薬科大学 大学院薬学研究科 修士課程 修士(薬学)				
								人体の構造と機能1												0.5	0.0	
								薬学英語	1.5											1.5	0.0	
								0.7						0.7	0.0	0.0						
														13.5	0.0	0.0						
								0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	16.4	6.8	11.6						
薬学科 (薬薬科 学科)	自然学グループ	准教授	よしおか こういち 吉岡 興一	男	43	2014.4.1	2014.4.1	数学1	3.0						3.0	0.0	3.0	京都大学 理学研究科 修士課程 修士(理学)				
								数学2													0.0	3.0
								物理学1													3.0	0.0
								3.0	3.0					0.0	0.0	0.0						
								0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	6.3	6.2						
								0.1	0.1					0.1	0.0	0.1						
薬学科 (薬薬科 学科)	二大薬工薬連環科学教育研究機構	准教授 (特任)	ぜいた こういち 鎌田 晃一	男	55	2012.8.1	2012.8.1	医工薬連環科学									0.0	京都大学 大学院研究科 修士課程 修士(薬学)				
																					0.0	
																					0.0	
														0.0	0.0	0.0						
								0.1	0.1					0.1	0.0	0.1						
薬学科 (薬薬科 学科)	情報科学関連研究室	講師	おおいし ひろふみ 大石 宏文 (休職中)	男	57	1987.4.1	2002.6.1										大阪大学 大学院研究科 修士前期課程 修士(薬学)					
																				0.0		
																					0.0	
																0.0						
薬学科 (薬薬科 学科)	生化学研究室	講師	ふじい しのぶ 藤井 忍	男	50	1992.4.1	2006.4.1	生化学1									3.0	大阪薬科大学 大学院薬学修士課程 修士(薬学)				
								生物科学実習													0.0	
								薬学英語	1.5											13.5	0.0	
								0.3	0.3					0.0	0.3	0.3						
								1.5	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	3.3	9.2						
薬学科 (薬薬科 学科)	薬品作用解析学研究室	講師	かわい よしこ 河合 悦子	女	50	1988.4.1	2009.4.1	薬理学実習									13.5	大阪薬科大学 薬学部卒業 修士(薬学)				
								薬学英語	1.5												1.5	0.0
								早期体験学習1	0.3												0.3	0.0
								1.5	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	3.3	9.2						
								0.3	0.3					0.0	0.0	0.0						
								1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	13.5	7.7						

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										最終学位及び学位称号
								講義		演習		実験・実習・実技		計		年間平均毎週授業時間数		
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
薬学科 (薬薬科学科)	薬品分析化学研究室	講師	さとう たかじ 佐藤 卓史	男	51	1992.8.1	2009.4.1	3.0				13.5		3.0	0.0	9.2	大阪薬科大学 大学院薬学研究科修士課程 修了 博士(薬学)	
								1.6	0.3					1.6	0.0			
								4.6	0.3	0.0	0.0	13.5	0.0	18.1	0.3			
								計										
薬学科 (兼薬科学科)	臨床化学研究 病態生理化学演習実習 薬局方総論 薬物治療学演習 早期体験学習1	講師	やまぐち たかこ 山口 敬子	女	51	1989.10.1	2012.4.1	0.2	1.5			13.5		0.0	6.8	11.7	大阪薬科大学 大学院薬学前期 修了 博士(薬学)	
								0.9										
								1.1	1.8	0.0	0.0	13.5	6.8	14.8	8.6			
								計										
薬学科 (兼薬科学科)	化学演習 基礎薬学実習 早期体験学習1	講師	あさの あきこ 浅野 晶子	女	41	1996.4.1	2012.4.1	1.5		1.5		6.8		1.5	0.0		大阪薬科大学 薬学部卒業 博士(薬学)	
								1.5				6.8		6.8	0.0			
								計										
薬学科 (兼薬科学科)	循環病態治療学研究室	講師	かとう りゅうじ 加藤 隆児	男	39	2005.4.1	2012.4.1	0.9						0.0	6.8	5.1	大阪薬科大学 大学院薬学前期 修了 博士(薬学)	
								0.9										
								1.5	0.3	0.0	0.0	6.8	0.0	9.8	0.3			
								計										
薬学科 (兼薬科学科)	生体機能診断学研究室	講師	ひらた まさひこ 平田 雅彦	男	49	1994.4.1	2013.4.1	1.5		1.5		6.8		1.5	0.0	12.4	京都大学大学院 薬学研究所 博士後期課程 満期退学 博士(薬学)	
								0.3				13.5		0.3	0.0			
								計										
薬学科 (兼薬科学科)	微生物学研究室	講師	つちや たかひろ 土屋 孝弘	男	41	2005.4.1	2013.4.1	3.0						3.0	0.0	11.8	大阪薬科大学 大学院薬学前期 修了 博士(薬学)	
								0.3										
								3.3	0.0	0.0	0.0	6.8	13.5	10.1	13.5			
								計										
薬学科 (兼薬科学科)	R1研究施設	講師	やまおき るみ 山沖 留美	女	46	1991.4.1	2013.4.1	1.5		1.5				1.5	0.0	8.4	大阪薬科大学 薬学部卒業 博士(工学)	
								0.3	0.3	0.0	0.0		13.5	0.0	13.5			
								計										

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										最終学位及び U学学位番号	
								講義		演習		実験・実習 実技		計		年間平均毎週 授業時間数			
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
薬学科 (兼薬科 学科)	創製設計学 研究室	講師	かどた かずのり 門田 和紀	男	35	2013.4.1	2013.4.1	3.0	0.0			13.5		3.0	0.0	8.4	同志社大学 学院工学研究 科博士後期課 程修了 (工学)		
									0.3										
								3.0	0.3	0.0	0.0	13.5	0.0	16.5	0.3				
								計											
薬学科 (兼薬科 学科)	中央機器研 究施設	講師	ふじたけ みほよ 藤嶽 美穂代	女	52	1986.4.1	2014.4.1	0.3	0.3					0.3	0.3		神戸女子薬科 大学薬学部卒 業 博士 (薬学)		
								0.3	0.3					0.3	0.3				
								計											
薬学科 (兼薬科 学科)	臨床薬学実 務教育研究 室	助教	はだ りえ 羽田 理恵	女	39	1998.4.1	2010.4.1										大阪薬科大学 薬学部卒業 学士 (薬学)		
														0.3	0.3				
								計											
薬学科 (兼薬科 学科)	臨床化学研 究室	助手	あさの まみこ 浅野 麻美子	女	34	2011.4.1	2011.4.1					13.5		13.5	0.0		大阪薬科大学 院薬学研習科 博士後期課程 修了 (薬学)		
														6.8	6.8				
								計											
薬学科 (兼薬科 学科)	医薬品化学 研究室	助手	きくち たかし 菊地 崇	男	32	2011.4.1	2011.4.1	0.3						0.3	0.0		日本薬科大学 院理工学研究 科博士後期課 程修了 博士 (工学)		
								0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0				
								計											
薬学科 (兼薬科 学科)	環境分子生 理学研究室	助手	こうだ てつや 孝田 哲也	男	33	2011.4.1	2011.4.1	0.3						0.3	0.0		大阪薬科大学 院薬学研 習科博士前期 課程修了 修士 (薬学)		
								0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0				
								計											
薬学科 (兼薬科 学科)	薬物治療学 研究室	助手	たなか さおり 田中 早織	女	32	2011.4.1	2011.4.1					13.5		13.5	0.0		大阪薬科大学 院薬学研 習科博士前期 課程修了 修士 (薬学)		
														6.8	6.8				
								計											
薬学科 (兼薬科 学科)	生体機能解 析学研究室	助手	たなか さとし 田中 智	男	36	2011.4.1	2011.4.1	0.3	0.3					0.3	0.3		大阪薬科大学 院薬学研 習科博士前期 課程修了 修士 (薬学)		
								0.3	0.3					13.5	13.5				
								計											

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										最終学位及び U学学位番号	年間平均毎週 授業時間数											
								講義		演習		実験・実習 実技		計		前期	後期			前期	後期									
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期															
薬学科 (薬薬科 学科)	形態分子薬 理学研究室	助手	たなか りょうすけ 田中 亮輔	男	28	2011.4.1	2011.4.1	薬理学実習	0.3					13.5	0.0	13.5						大阪薬科大学 大学院薬学研 究科博士前期 課程修了 修士(薬学)	6.9							
								早期体験学習1																						
								計	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	13.5	0.0	13.5														
								有機化学実習																						
薬学科 (薬薬科 学科)	有機薬化学 研究室	助手	よねやま ひろき 米山 弘樹	男	32	2011.4.1	2011.4.1	薬理学実習		0.3																				
								早期体験学習1																						
								計		0.3	0.0	0.0	0.0	13.5	0.0	13.5														
								衛生薬学実習																						
薬学科 (薬薬科 学科)	生体防衛学 研究室	助手	こいけ あつし 小池 敦資	男	33	2011.8.1	2011.8.1	薬理学実習	0.3																					
								早期体験学習1																						
								計	0.3	0.0	0.0	0.0	13.5	0.0	13.5															
								薬理学実習																						
薬学科 (薬薬科 学科)	薬品作用解 析学研究室	助手	しみず さき 清水 佐紀	女	29	2011.10.1	2011.10.1	薬理学実習	0.3																					
								早期体験学習1																						
								計	0.3	0.0	0.0	0.0	13.5	0.0	13.5															
								薬理学実習																						
薬学科 (薬薬科 学科)	薬品分析化 学研究室	助手	あずま たかし 東 剛志	男	31	2012.4.1	2012.4.1	分析化学実習		0.3																				
								早期体験学習1																						
								計		0.3	0.0	0.0	13.5	0.0	13.5															
								病態生理学演習実習																						
薬学科 (薬薬科 学科)	薬物治療学 II研究室	助手	たかの みな 高野 美菜	女	29	2012.10.1	2012.10.1	早期体験学習2																						
								計																						
								基礎薬学実習																						
								早期体験学習1																						
薬学科 (薬薬科 学科)	分子構造化 学研究室	助手	かわしま ひろゆき 川島 浩之	男	29	2014.4.1	2014.4.1	薬理学実習		0.3																				
								早期体験学習1																						
								計		0.3	0.0	0.0	6.8	0.0	6.8															
								生薬学実習																						
薬学科 (薬薬科 学科)	生薬科学研 究室	助手	ひらた よしゆき 平田 佳之	男	28	2014.4.1	2014.4.1	生薬学実習		0.3																				
								早期体験学習1																						
								計		0.3	0.0	0.0	6.8	0.0	6.8															
								薬理学実習																						

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな氏名	(性別)	(年齢)	就年月日	現職就任年月日	授業科目										年間平均毎週授業時間数	最終学位及び学位称号													
								講義		演習		実験・実習		計																		
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																	
薬学科 (薬薬科 学科)	機能分子創 成化学研究 室	助手	はやし じゅんすけ 林 淳祐	男	26	2014.4.1	2014.4.1																大阪薬科大学 大学院薬学研 究科博士前期 課程修了(薬科 学)									
								0.3																								
								0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	13.5																		
								計																								
薬学科 (薬薬科 学科)	製剤設計学 研究室	助手	さとう ひでゆき 佐藤 秀行	男	29	2014.4.1	2014.4.1																									
								0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.5																		
								計																								

[注] 1 「所属学科」には、() に兼任の学科名を記入してください。
2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合は、通年制の場合、3学期制の場合、3学期制の場合等は、通算、欄を修正して記入してください。
4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。(例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間)
5 1授業科目を複数教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当教員で除して毎週授業時間数を算出してください。また、担当時間数が明らかでない場合はそれを考慮して時間数を算出してください。
6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。
7 卒業研究は授業科目から除外して作成してください。

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況

5年生の在籍学生数 294名

6年生の在籍学生数 332名

	配属講座など	指導教員数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計
1	薬品物理化学	2	8	13	21
2	分子構造化学	3	6	13	19
3	生体機能診断学	2	13	11	24
4	有機薬化学	3	15	16	31
5	機能分子創製化学	3	12	10	22
6	医薬品化学	3	14	16	30
7	生薬科学	3	14	15	29
8	生化学	3	16	14	30
9	微生物学	3	12	19	31
10	生体機能解析学	3	17	14	31
11	生体防御学	3	15	17	32
12	環境分子生理学	3	16	16	32
13	薬品分析化学	3	9	17	26
14	薬剤学	3	15	12	27
15	製剤設計学	3	17	17	34
16	病態分子薬理学	3	15	17	32
17	薬品作用解析学	3	16	15	31
18	循環病態治療学	3	16	14	30
19	薬物治療学	3	17	17	34
20	薬物治療学Ⅱ	2	9	8	17
21	臨床化学	3	9	8	17
22	臨床実践薬学	2	13	14	27
	合計	62	294	313	607

※6年次で卒業研究の単位修得済みの学生が19名在籍。

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生1人当 たり面積(m ²) (A/B)	備考
大阪薬科大学 (全学共通)	講義室	20	3,557	専用	3,019	1,664	2.14	
	実習室	10	2,168	専用	684	1,958	1.11	
	臨床薬学関連実習施設	15	920	専用	—	—	—	(TDM室・特任教員室除く) (コンピューター演習室含 む)
	自習室	4	318	専用	165	1,958	0.16	(グループ学習室含む)
	セミナー室	7	355	専用	159	1,958	0.18	
	情報科学演習室	1	133	専用	80	326	0.41	
	中央機器研究施設	23	705	専用	—	—	—	
	R I 研究施設	21	531	専用	—	—	—	(管理室・廊下含む)
	動物関連研究施設	44	874	専用	—	—	—	(管理室・廊下含む)
	薬用植物園	3	4,995	専用	—	—	—	(温室・管理室・倉庫を含 む)

- [注] 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
- 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
- 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名(学生数)を記載し、「利用学生総数(B)」欄にもその数を含めて記入してください。
- 4 「利用学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
- 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B)	収容定員に対する 座席数の割合(%) $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備 考
大阪薬科大学図書館	162	1,980	8.2	グループ学習室 (図書館会議室を含む)	37	0	学部(1,958) 大学院(22)
計	162	1,980	8.2	グループ学習室 (図書館会議室を含む)	37	0	学部(1,958) 大学院(22)

- [注] 1 「学生収容定員(B)」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。
- 2 「備考」欄には学生収容定員(B)の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。
- 3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数 (数)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書			平成24年度	平成25年度	平成26年度	
大阪薬科大学図書館	92,781	92,781	267	376	2,040	4,334	1,414	1,356	1,156	・電子ジャーナルは本館 で集中管理 ・図書受け入れ状況は視 聴覚資料も含む
計	92,781	92,781	267	376	2,040	4,334	1,414	1,356	1,156	

- [注] 1 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。
- 2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。
- 3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含めてください。
- 4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。
- 5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名	職名 学長	氏名 政田 幹夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2015年度前期	2年次生科目「人間と文化5(人間と生命)」の講義10回中2回を「薬学と医療1」、「薬学と医療2」として担当し、1年次必修科目「薬学入門」のステップアップとして、1では薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割が説明できるよう、2では薬剤師として求められる基本的な資質について具体例を挙げて説明できるよう講義を行った。
		2015年度前期	1年次生必修科目「薬学入門」の講義10回中2回を「薬学とは何か1」、「薬学とは何か2」に分けて担当し、本学学生としての自覚を育みながら、「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できるよう、また、特別講師による講演も交え、薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割が説明できるよう、講義を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2015. 5. 23 2015. 6. 14 2015. 10. 24	大阪薬科大学公開教育講座「医療現場において薬学・薬剤師の果たすべき役割」 摂南大学薬学部公開講座「薬物療法におけるセーフティ・マネージメント」 大阪薬科大学市民講座「薬(くすり)と薬師(くすし)～体の中での薬の働きと薬剤師の役割～」
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Pharmacoethnicity of docetaxel-induced severe neutropenia: integrated analysis of published phase II and III trials	共著	2013年	International Journal of Clinical Oncology 18, 96-104
Predictors of response of patients with solid tumors to granulocyte colony-stimulating factor	共著	2013年	Int J Clin Pharm. 35, 45-50
Application of Hospital Preparations for Cancer Treatment, and an Approach toward Their Commercialization	共著	2013年	Biol. Pharm. Bull. 36, 719-722
Inhibitory effect of ciprofloxacin on β -glucuronidase-mediated deconjugation of mycophenolic acid glucuronide	共著	2014年	Biopharm. Drug Dispos. 35, 275-283
Clinical effect of a multidisciplinary team approach to the initial treatment of patients with hospital-acquired bloodstream infections at a Japanese university hospital	共著	2014年	American Journal of Infection Control 42, 970-975
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名)			
(演題名)			
III 学会および社会における主な活動			
平成23年4月～現在	厚生労働省 薬事食品衛生審議会副作用・感染等被害判定部会委員		

平成22年12月～現在	独立行政法人医薬品医療機器総合機構 医療機関における医薬品等の情報伝達・活用状況調査に関する検討会委員
平成26年7月～現在	日本医薬品情報学会 理事
平成12年4月～現在	日本薬剤疫学会 理事

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	生体防御学
職名	教授	氏名	天野 富美夫
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成13年9月～ 現在	大学院博士前期課程で領域統合型先端科学特論を創設し、PBL型の授業を開講した。本学の生命・環境科学領域の担当教員がそれぞれの専門領域・分野における最新の科学の成果をもとに導入を行い、そこから学生たちに問題を発掘させて課題を提起させた。続いて問題の解決に至るまでの指導を行い、学生たちにその成果を発表させ、領域に所属する多数の教員の前で発表し、質疑応答を行う方法を取り入れた。本学におけるPBL型講義の嚆矢である。 この方式の導入に先立ち、平成20年から大学院旧課程の「衛生薬学Ⅱ」において、がんをテーマに一部でPBL型の授業を試み、学生のアンケートや小論文、レポートを見てこの授業に改良と工夫を重ね、上記のPBL型授業を創設するに至った。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成20年4月～ 現在	衛生薬学分野において、担当する「健康」の分野の要点をまとめ、とくに重要な基礎知識を「国家試験に出る順300問」としてプリントして配布した。これは、国家試験を前にした旧課程の4年生、新課程の6年生に好評で、知識の整理と反復復習に効果を上げている。
		平成26年9月～ 現在	衛生薬学分野において、担当する「健康」の分野の要点をまとめ、とくに重要な基礎知識を「今週の衛生」として、ほぼ毎月1度、6回生を対象に配布している。「国家試験対策」として、本学の学生の理解度・到達度の低い分野や計算問題、化合物の構造の理解など、数問ずつを選び、解説付きで配布している。学生たちは手軽にこのプリントを手にして復習し、あるいは計算練習をして理解度の向上に役立っている。
		平成23年	天野富美夫:食品の微生物などによる汚染と健康障害。「食品衛生学-「食の安全」の科学-」(那須正夫、和田啓爾 編)改訂第2版、pp. 99-146 南江堂、東京
		平成23年	バイオハザードと遺伝子組換え実験 「21世紀の考える薬学微生物学 (第3版)」(池澤宏郎 編) pp. 473-495、廣川書店(東京)
		平成23年	膜を隔てた物質と情報のやりとり(第12章)、細胞周期(第13章)「ベーシック薬学教科書シリーズ 生化学」(中西義信編) pp. 263-284, pp. 292-296、化学同人(京都)
		平成24年	第3章 食中毒 「スタンダード薬学シリーズ第5巻 健康と環境(第2版)」(永沼章、井出速雄、鍛冶利幸、編) pp. 90-110 (2012)、東京化学同人(東京)
		平成24年	第3章 食中毒 「スタンダード薬学シリーズ第5巻 健康と環境(第2版)」(永沼章、井出速雄、鍛冶利幸、編) pp. 90-110 (2012)、東京化学同人(東京)
		平成25年	感染症とその予防対策、食品による健康障害、食品成分の変質、食品に由来する疾病の各論。「第5版 衛生薬学 -健康と環境-」(永沼章、姫野誠一郎、平塚明編)、pp. 55-85, 198-237 (2013)丸善、東京
		平成25年	疾病の予防と対策。「衛生薬学 (第3版)」(石井秀実、杉浦隆之編)、pp. 239-307 (2013)朝倉書店(東京)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成25年12月	日本薬学会の学会誌「ファルマシア」の巻頭文「オピニオン」に「6年制薬学教育とキャリア教育」という題で発表した意見が掲載された。これは本学のキャリアサポート部長として平成24、25年度に経験した事柄を踏まえて、6年制薬学教育には科目としての教育や実習・演習の充実を図るだけでなく、卒業後の社会人となってからの将来を見据えて、在学中からのキャリアデザインを含む多彩な「キャリア教育」を実施するという大きな意味と意義があることを訴えた。この掲載文に対する反響は大きく、大学の教員だけでなく、病院・薬局・薬系企業・公務員など、各分野から共感する声が上がった。

<p>4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)</p>	<p>平成22年4月～ 現在</p>	<p>平成22年度開講の大阪薬科大学の大学院薬科学専攻博士前期課程(2年制)、ならびに平成24年度4月開講の薬学専攻博士課程(4年制)の創設に尽力した。さらに平成24年度から同大学院博士課程に、大阪大学を拠点校とする「がんプロコース」を設置する協議を行い、平成25年4月開講に漕ぎ着けた。同年、2名の大学院生が「がんプロコース」に入学し平成27年4月には新たに1名の学生が同コースに入学した。これら3名はいずれも社会人大学院生で、本学としては初めて、社会人に大学院の門戸を開く契機となった。がんプロコースにおける教育の充実は学部における臨床系の教育にも良い影響を及ぼし、多職種連携や先端医療の推進に対しても、学生の興味と関心が向けられるようになった。また、8回のシンポジウムは多くの参加者を数え、活発な討議が続くとともに、薬学生の卒後教育の機会としても重要な役割を果たしている。</p>	
	<p>平成26年4月～ 現在</p>	<p>平成26年度の日本薬学会近畿支部長就任と同時に、「薬学生の一在宅体験プログラム」を企画し、実施した。これは在宅医療に未だ十分な理解や認識がない薬学生を対象に、近畿支部傘下の大学生を対象にして、地域の保険薬局が実施している施設あるいは居宅における在宅医療の現場を見学し、様々な体験を通して、在宅医療の抱える問題を考え、改善のための方策を考察し、提案するものである。平成26年度、本学からは10名の学生が参加し、活発な体験発表と討論を行った。平成27年度も同様の試みを実施中である。</p>	
<p>II 研究活動</p>			
<p>1. 著書・論文等の名称</p>	<p>単著・ 共著の別</p>	<p>発行または発表の 年月(西暦でも可)</p>	<p>発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称</p>
<p>(論文) Regulatory role of cardiolipin in the activity of an ATP-dependent protease, Lon, from <i>Escherichia coli</i>.</p>	<p>共著</p>	<p>2011年</p>	<p>J. Biochem. (Tokyo) 149 (2011) 519-527.</p>
<p>(論文) SEp22, <i>Salmonella</i> Dps, a key molecule bearing both pathogenicity and resistance to environmental stresses in <i>Salmonella</i>.</p>	<p>共著</p>	<p>2011年</p>	<p>J. Health Sci. 57 (2011) 1-14.</p>
<p>(論文) Characterization of macrophage mutants established by their resistance to LPS and cycloheximide-induced apoptotic cell death.</p>	<p>共著</p>	<p>2012年</p>	<p>Advances in Bioscience and Biotechnology, 3 (2012) 770-781.</p>
<p>(論文) Differential resuscitative effect of pyruvate and its analogues on VBNC (Viable But Non-Culturable) <i>Salmonella</i>.</p>	<p>共著</p>	<p>2013年</p>	<p>Microbes & Environ. 28 (2013) 180-186.</p>
<p>(論文) Nitric oxide is an important regulator of Heme Oxygenase-1 expression in the lipopolysaccharide- and Interferon-γ-treated murine macrophage-like cell line J774.1/JA-4.</p>	<p>共著</p>	<p>2015年</p>	<p>Biol. Pharm. Bull., 38 (2015) 7-16.</p>
<p>2. 学会発表(評価対象年度のみ)</p>		<p>発表年・月</p>	<p>学会名</p>
<p>マクロファージの活性化に及ぼす培地の影響</p>		<p>2015. 6</p>	<p>第16回Pharmacology Hematology シンポジウム</p>
<p>乾燥ストレス負荷によるサルモネラのVBNC状態への移行と復帰</p>		<p>2015. 7</p>	<p>第29回日本バイオフィルム学会学術集会</p>
<p>シコニン含有生薬のエンドトキシンによる汚染とシコニン-エンドトキシンが誘導するマクロファージの細胞障害性の解析</p>		<p>2015. 9</p>	<p>フォーラム2015 衛生薬学・環境トキシコロジー</p>
<p>Differential resuscitative effect of catalase and pyruvate toward the viable but non-culturable (VBNC) <i>Salmonella</i></p>		<p>2015. 10</p>	<p>7th ASM Conference on Biofilms</p>
<p>マクロファージ活性化に及ぼす培地の影響</p>		<p>2015. 12</p>	<p>第88回日本生化学会大会</p>
<p>乾燥ストレス負荷によるサルモネラのVBNC状態への移行と復帰</p>		<p>2015. 12</p>	<p>第88回日本生化学会大会</p>
<p>Simultaneous addition of shikonin derivatives and lipopolysaccharide induces rapid death of macrophages</p>		<p>2015. 12</p>	<p>ASCB annual meeting 2015</p>
<p>サルモネラの乾燥耐性獲得に及ぼすSEp22 (Dps), 栄養因子, 及び菌の密度の効果</p>		<p>2016. 3</p>	<p>第89回日本細菌学会総会</p>
<p>VBNC 状態のサルモネラに対するカタラーゼ及びピルビン酸の異なる回復効果</p>		<p>2016. 3</p>	<p>第89回日本細菌学会総会</p>
<p>クルクミンとLPSによって誘導されるマクロファージの細胞障害性の解析</p>		<p>2016. 3</p>	<p>日本薬学会第136回年会</p>
<p>III 学会および社会における主な活動</p>			
<p>平成13年7月～現在</p>	<p>日本薬学会近畿支部幹事</p>		
<p>平成14年4月～現在</p>	<p>日本生化学会評議員</p>		
<p>平成26年6月～現在</p>	<p>日本バイオフィルム学会理事</p>		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 臨床実践薬学	職名 教授	氏名 荒川 行生
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ○事前学習科目（複数） ○実務実習 ○薬学総合演習 4		毎年度4月 毎年度（適宜） 2013年度・2014年度	実務実習現場での実情に合わせて、これの準備学習として最適となるよう実施項目（内容）の毎年度の見直しを行っており、これに合わせて学生への配布資料も増・改訂している。 実習部会（委員会）との連携を密にし、定期的な訪問指導はもとより、早急な緊急事態の把握と即応（緊急訪問を含む）を実現している。 薬剤師国家試験問題（実務領域）の分析を行い、その結果を生かした授業（複数日）を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書 『実務実習事前学習テキスト』 『グラフィックガイド 薬剤師の技能-理論まるごと実践へ-』 『病院薬局研修ガイドブック』 『臨床導入実習ノート』（毎年度の改訂版） 『臨床導入学習1ノート』		2009年3月18日 2009年8月30日 2009年9月20日 2009年～2014年 2015年4月1日	本学事前学習科目（複数）の教科書 本学事前学習科目（複数）の教科書 本学事前学習科目（複数）の教科書または参考書 本学事前学習科目の教科書 本学事前学習科目の教科書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		—	—
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬剤師国家試験問題検討委員会（実務部会）出席		毎年度	検討結果を担当科目の授業内容に反映
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）訪問薬剤管理指導を受けている認知症治療薬服用患者の属性及び服薬アドヒアランスとの関連要因に関する予備的研究。	共著	2012年3月	YAKUGAKU ZASSHI (Vol. 132・No. 3)
（論文）Factors Related to Medication Adherence of Cognitively Impaired Patients in Community Pharmacy.	共著	2012年7月	Pharmacology & Pharmacy (Vol. 3・No. 3)
（論文）Factors Affecting the Effect of Treatment of VCM Based on the Quantity of MRSA for Hospital-Acquired Pneumonia.	共著	2012年12月	Japanese Journal of Drug Informatics (Vol. 14・No. 3)
（論文）Preliminary Study about the Relationship between Workload and the Outcomes of Community Pharmacists' Home Visiting Service.	共著	2013年12月	Japanese Journal of Social Pharmacy (Vol. 32・No. 2)
（論文）An Attempt at Objective Evaluation of the Current Situation of Concomitant Drug Use for Dementia Outpatients at Community Pharmacies.	共著	2014年2月	Japanese Journal of Drug Informatics (Vol. 15・No. 4)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
生活者の睡眠薬への認識は、睡眠の質や「不眠で困ったときの相談行動」に関連している		2015年6月	医薬品情報学会
生活者の睡眠薬に対する認識は了解因子と杞憂因子で構成される		2015年6月	医薬品情報学会
薬局薬剤師の禁煙支援に対する意識調査		2015年11月	日本医療薬学会
禁煙支援に対する薬局薬剤師の知識と関連要因に関する検討		2015年11月	日本医療薬学会
「禁煙支援推進」に向けた課題抽出のための実態調査		2015年11月	日本医療薬学会
III 学会および社会における主な活動			
平成23年4月～	社会福祉法人高槻市社会福祉事業団 評議員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 機能分子創製化学	職名：教授	氏名：浦田 秀仁
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・担当科目について ・担当科目における授業評価について ・授業方法の工夫	2005年～ 2006年～ 2006年～ 2011年 2009年(有機化学3) 2009年(有機化学4) 2010年(有機化学3) 2010年(有機化学4) 2011年(有機化学3) 2011年(有機化学4) 2012年(有機化学3) 2012年(有機化学4) 2013年(有機化学3) 2013年(有機化学4) 2014年(有機化学3) 2014年(有機化学4) 2009年4月～	3年次科目：有機化学4 2年次科目：有機化学3 3年次科目：有機化学実習 2年次科目：医工薬連環科学 総合評価 4.01/5.0点 学内平均 3.78 総合評価 4.16/5.0点 学内平均 3.78 総合評価 4.00/5.0点 学内平均 3.68 総合評価 4.23/5.0点 学内平均 3.65 総合評価 4.00/5.0点 学内平均 3.72 総合評価 4.06/5.0点 学内平均 3.71 総合評価 /5.0点 学内平均 3.72 総合評価 4.18/5.0点 学内平均 3.80 総合評価 3.2/4.0点 学内平均 3.2 総合評価 3.5/4.0点 学内平均 3.1 総合評価 3.4/4.0点 学内平均 3.3 総合評価 3.3/4.0点 学内平均 3.3 出席カードに、授業内容等で疑問に思うことを書いてもらい、次回の授業でフィードバックしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 「基礎有機化学問題集」	2013年3月	有機化学の教科書として使用している「ソロモンの有機化学」の章立てや使用する用語に対応させて作成した問題集。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 平成23年度文部科学省薬学教育者のためのワークショップ 第2回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ (FDを含む)	2011年8月 2012年11月	参加 参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)「基礎有機化学問題集」	共著	平成25年3月	廣川書店
(論文) Incorporation of Thymine Nucleotides by DNA Polymerases through T-Hg ^{II} -T Base Pairing.	共著	平成22年9月	Angew. Chem. Int. Ed., 49, 6516-6519 (2010).
(論文) Ag ^I Ion-Mediated Formation of C-A Mismatch by DNA Polymerases.	共著	平成24年6月	Angew. Chem. Int. Ed., 51, 6464-6466 (2012).
(論文) A post-synthetic approach for the synthesis of 2'-O-methylthiomethyl-modified oligonucleotides responsive to a reducing environment.	共著	平成25年9月	Chem. Commun., 49, 7620-7622 (2013).

(論文) Regulated incorporation of two different metal ions into programmed sites in a duplex by DNA polymerase catalyzed primer extension.	共著	平成26年6月	Angew. Chem. Int. Ed., 53, 6624-6627 (2014).
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Cu ^I の配位による新規C-Cu ^I -T型塩基対の形成		2015年・10月	日本薬学会近畿支部
DNA polymerase によるC-Ag ^I -T、T-Ag ^I -C 錯体型塩基対の連続形成の検討		2015年・10月	日本薬学会近畿支部
プロドラッグ型 2'-O-メチルジチオメチル修飾-siRNA の遺伝子発現抑制効果		2015年・10月	日本薬学会近畿支部
Design of multivalent cyclic RGD-conjugated MAP (Aib) for targeted delivery of small interfering RNA		2015年・11月	日本ペプチド学会
RGD配列を有した膜透過性ペプチドMAP (Aib) のsiRNA デリバリー能力		2016年・3月	日本薬学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成12年4月～	生命の起原および進化学会誌 Viva Origino編集委員		
平成14年4月～	新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) 事前評価者		
平成18年4月～	日本薬学会近畿支部委員		
平成22年4月～	生命の起原および進化学会 運営委員		
平成23年3月～	近畿学生野球連盟常任理事		
平成24年3月	生命の起原および進化学会 第37回学術講演会大会委員長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 薬品作用解析学	職名 教授	氏名 大野 行弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成19年4月～ 現在	「薬理学3」(3回生対象)を担当 ・自学教材用に、毎回の講義ポイントをプリントとして配布している ・授業中に演習問題を課し、適宜、復習に取り組みさせている ・時にスライドを用いた授業をおりませ、授業に刺激を与えている ・学生アンケートによる授業評価では、常に学内平均を上回っている	
	平成19年4月～ 現在	「医薬品安全性学」(4回生対象)を担当 ・自学教材用に、毎回の講義ポイントをプリントとして配布している ・授業中に演習問題を課し、適宜、復習に取り組みさせている ・時にスライド授業をおりませ、授業に刺激を与えている ・学生アンケートによる授業評価では、常に学内平均を上回っている	
	平成19年4月～ 現在	「薬学総合演習3および4」(6回生対象)を担当 ・要点ポイントと捉えた、密度の濃い講義に努めている	
	平成19年4月～ 現在	「薬理学実習」(3回生対象)を担当 ・少人数制で丁寧かつ安全面に留意した指導に努めている。 ・学生自身に考えさせる姿勢を努めている ・動物愛護や倫理面を配慮した指導に努めている ・学生アンケートにおける学生の満足度は高い	
	平成19年4月～ 現在	「特別演習・実習1および2」(5・6回生対象)を担当 ・約15名/年の受け入れ学生に対して、着実に研究成果が得られるよう指導している ・導入講義、学生間での勉強会、セミナーを定期的実施し、専攻領域における専門知識、研究技能の習得ができるよう指導している ・学内での研究発表会のほか、専門学会での学会発表も奨励、指導しており、発表を通じてプレゼン資料の作成能力および発表能力の育成に努めている ・また、自らも高い研究水準を維持できるよう自己努力している	
	平成19年4月～ 現在	「早期体験学習」(1回生対象)を担当 ・SGDを通じて、学生の興味を引き出し、積極的な学習姿勢が得られるよう指導に努めている。	
	平成23年4月～ 現在	「三大学医工業連携科学教育 機能形態学実習」 ・少人数制で丁寧かつ安全な実習指導に努めている。 ・学生への問いかけ等を通じ、学生自身に考える姿勢を持たせるよう努めている ・動物愛護や倫理面にも配慮した指導に努めている ・学生アンケートにおける学生の満足度は高い	
	平成27年4月～ 現在	「機能形態学2」(2回生対象)を担当 ・自学教材用に、毎回の講義ポイントをプリントとして配布している ・授業中に演習問題を課し、適宜、復習に取り組みさせている	

2 作成した教科書、教材、参考書	平成19年4月～ 現在	「薬理学実習書」 ・「薬理学実習」の教科書として使用している	
	平成22年3月31日	「NEW医薬品の安全性学（第2版）」 廣川書店 （分担執筆） ・「医薬品安全性学」講義の教科書として使用している	
	平成23年4月～ 現在	「三大学医工業連環科学教育 機能形態学実習書」 ・「三大学医工業連環科学教育 機能形態学実習」 の教科書として使用している	
	平成25年8月5日	「図解 薬害・副作用学」 南山堂 （分担執筆） ・「医薬品安全性学」講義の参考書としている	
	平成27年7月	「図解 薬理学」 南山堂 （分担執筆）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年4月～ 平成25年3月	公開教育講座委員会・委員長を務める ・病院、薬局薬剤師の生涯教育の一環として講演会 を企画運営した	
	平成25年4月～ 平成26年3月	早期体験学習委員会・委員長を務める ・1回生を対象に、薬剤師の活躍現場／医薬品の開発 現場への訪問学習、導入講義／ガイダンス、SGD教育 を企画運営した	
	平成26年4月～ 現在	薬剤師国家試験対策委員会・委員長を務める ・薬剤師国家試験受験者を対象に、「薬学総合演習 3・4」の講義計画を策定し、学生へのガイダン ス、国家試験対策講義、演習試験などの授業運営を 行った	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Pathophysiological roles of serotonergic system in regulating extrapyramidal motor function.	共著	平成25年9月	Biol. Pharm. Bull., 36, 1396-1400 (2013)
Improving the treatment of schizophrenia: Role of 5-HT receptors in modulating cognitive and extrapyramidal motor functions.	共著	平成25年9月	CNS Neurol. Disord. Drug Targets., 12, 861-869 (2013)
Improving the treatment of Parkinson's disease: A novel approach by modulating 5-HT1A receptors.	共著	平成25年2月	Aging Dis., 4, 1-13 (2013)
Therapeutic role of 5-HT1A receptors in the treatment of schizophrenia and Parkinson's disease.	単著	平成23年2月	CNS Neurosci. Ther., 17, 58-65 (2011)
New insight into the therapeutic role of 5-HT1A receptors in central nervous system disorders.	単著	平成22年6月	Cent. Nerv. Syst. Agents Med. Chem., 10, 148-157 (2010)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Alternation of dopaminergic neurotransmission in the nucleus accumbens by the gene mutation of synaptic vesicle protein 2A (Sv2aL174Q).		平成27年7月	第38回日本神経科学会
Amygdala is the primary causative site for nicotine-induced convulsive seizures.		平成27年7月	第38回日本神経科学会
下オリーブ核HNC 1 チャンネルは本態性振戦の発症を制御する。		平成27年9月	第45回日本神経精神薬理学会 第37回日本生物学的精神医学 学会 合同大会

D1受容体を介する口部ジスキネジア発現に対する小脳D3受容体の調節機能.	平成27年9月	第45回日本神経精神薬理学会 第37回日本生物学的精神医学会 合同大会
Mutation of the gene encoding synaptic vesicle protein 2A (SV2A) markedly facilitates the kindling epileptogenesis in rats.	平成27年10月	第49回日本てんかん学会
Mechanisms underlying the kindling facilitation by the gene mutation of synaptic vesicle protein 2A (SV2A).	平成27年10月	第49回日本てんかん学会
Nicotine provokes seizures by activating amygdala neurons partly through $\alpha 7$ -nACh receptors.	平成27年10月	第49回日本てんかん学会
Role of cerebellar D3 receptors in regulating exploratory locomotion and extrapyramidal motor disorders.	平成27年11月	The 4th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology.
NMDA receptor glycine-binding site agonists improve extrapyramidal side effects by antipsychotics.	平成27年11月	The 4th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology.
(Mutation of the gene encoding synaptic vesicle protein 2A (SV2A) markedly facilitates the kindling epileptogenesis in rats.	平成27年11月	The 4th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology.
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
1981年10月～現在	日本薬理学会 代議員、学術評議員	
1981年10月～現在	日本薬学会 近畿支部委員	
1984年 4月～現在	日本神経精神薬理学会 評議員、トランスレーショナル・メディカル・サイエンス委員会委員	
2008年10月～現在	日本てんかん学会 基礎研究推進委員会委員、近畿地方会運営委員	
2009年 1月～現在	日本毒性学会 評議員	
2011年12月～現在	国際神経精神薬理学会 (CINP)	
2012年 4月～現在	"Dataset Papers in Science: Pharmacology" Member of Editorial Board	
2013年 1月～現在	日本神経科学学会	
2013年 9月～現在	"American Journal of Neuroscience Research" Member of Advisory Editorial Board	
2014年 1月～現在	"Pharmacologia" Member of Editorial Board	
2014年 4月～現在	"Therapeutic Targets for Neurological Diseases" Editor in Chief	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 言語文化学グループ	職名 教授	氏名 楠瀬 健昭
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	H26前期・後期 H27前期	英語テキストは原書を使用 英語テキストは原書を使用	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	H22・6・17 H26・6・12	公開授業 公開授業	指導案を英語で作成 指導案を英語で作成
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) ブライト・ソネットの影	単著	平成25年9月	『とい』(32号)
(論文) サンダルを響かせて	単著	平成26年9月	『とい』(33号)
(翻訳) 土壤という世界(『沈黙の春』第5章)	単著	平成23年3月	『とい』(30号)
(創作) 追悼詩 君とともに	単著	平成22年12月	NONDUM(12号)
(創作) 老師に捧げるソネット	単著	平成26年2月	NONDUM(13号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Harry Ploughmanを読む		平成27年4月	日本ホプキンス協会関西支部会
III 学会および社会における主な活動			
平成22年1月～現在	日本ホプキンス協会関西支部会運営委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	薬物治療学Ⅱ
職名	教授	氏名	島本 史夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 担当科目 ・大阪医科大学医学部 消化器病学（3,4年次） OSCE（4年次） advanced OSCE（6年次） クリニカル・クラークシップ（6年次） ・大阪医科大学看護専門学校 医学英語 消化器病学（1年次） ・大阪薬科大学薬学部 人体の構造と機能（1年次） 病態生理学1（1年次） 医療総合人間学1（1年次） 医療総合人間学2（1年次） 人間と文化5（2年次） 薬物治療学2（3,4年次） 早期体験学習2（1年次） 薬物治療学演習実習（5年次） 薬物治療学演習（6年次） 薬学総合演習4（6年次） ・大阪薬科大学大学院薬学専攻博士課程 医療薬学総論 臨床医療薬学特論Ⅱ		~平成23年9月 ~平成22年3月 平成23年10月 ~現在 平成24年4月 ~現在	消化器疾患の解剖生理、病態生理、薬物治療 医療面接、医療コミュニケーション、腹部診察 医療面接、腹部診察手技、臨床推論 消化器疾患患者bed side教育、カルテ記載法 看護業務に必要な医学英語 消化器疾患の解剖生理、病態生理、薬物治療 消化器、血液、骨、関節、皮膚の解剖生理学 消化器、血液、骨、関節、皮膚の病態生理学 医療倫理、医療の目的、患者権利、チーム医療 健康と医療・予防医学、高齢社会と健康 医・薬学史からみた生と死の医学 消化器、血液、骨、関節、皮膚疾患と薬物治療 バイタルサイン、採血手技、超音波検査の体験 バイタルサイン・採血手技実習と症例検討 消化器、血液、骨、関節、皮膚疾患の症例検討 消化器、血液、骨、関節、皮膚疾患の薬物治療演習 消化器疾患の病態生理・薬物治療の最新の知見 胃粘膜防御の病態生理・薬物治療の最新の知見
授業方法の工夫 大阪医科大学医学部では、PBL形式でスモールグループ討論を中心とし、自発的学習能力、問題解決能力を養う教育を行った。共用試験に先立ちOSCEを導入して、医療面接を中心にして、患者との医療コミュニケーション能力育成を行った。同時に、PBL・OSCE指導者養成のためのワークショップを毎年開催し、コーディネーター、タスクフォースとして企画運営を行った。 大阪薬科大学薬学部では、1~3年次までの講義は毎回プレテストで講義内容を認識させ、ポストテストにより理解度を確認している。講義はスライドと板書を交互に行うことにより集中力を維持させ、三択問題や国試問題を紹介して講義参加へのモチベーションを高めている。ポストテストにアンケートを入れ、その内容の一部を次回講義初めに紹介・解説することにより、正確な理解と学習への意欲を向上させている。医療倫理や患者権利などは実際の事例をシナリオに作成し、ロールプレイなどで学生に臨場感のある疑似体験をさせている。4~6年次の講義・演習は下位年次で学習した解剖生理・病態生理などの基礎的資料をプリントにして配布し、復習しながら新しい講義内容の理解が滑らかに行えるように工夫している。医療現場の事例を基に具体的な知識の使い方を示しながら講義・演習を進めている。			
2 作成した教科書、教材、参考書 ・第101回~第109回医師国家試験問題解説書 ・医師国家試験問題解説アプローチ ・医師国家試験既出問題集サクセス ・CBTこあかり オリエンテーション ・CBTこあかり リ・コ五肢択一形式篇 ・CBTこあかり リ・コ連問形式篇 ・主要症候・医療面接がわかる ・国試カンファランス あなむね ・臨床推論がわかる		2007年~2015年 2006年~2009年 2010年, 2011年 2005年~2012年 2006年~2014年 2006年~2015年 2010年 2013年 2014年	医学評論社 島本史夫、高木融編、医学評論社 青木達哉、島本史夫、高木融編、医学評論社 安田幸雄、松田重三編、医学評論社 CBTこあかりリ・コ編集委員会編、医学評論社 CBTこあかりリ・コ編集委員会編、医学評論社 安田幸雄編 医学評論社 安田幸雄、他著 医学評論社 安田幸雄編 医学評論社
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・学生による授業評価の分析と活用法-pilot study ・PBLにおける学生評価~大阪医科大学のPBLシステム・評価システムと問題点~		平成21年12月 平成22年1月	大阪医科大学雑誌 68:186-194, 2009 第35回医学教育セミナー&ワークショップ発表

・薬学生主体による薬育活動の児童への有用性について	平成26年3月	日本薬学会第134年会発表（優秀演題賞受賞）
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）		
・OSCE実行委員会委員	～平成23年9月	大阪医科大学OSCEの企画運営
・PBLチュートリアル委員会委員	～平成23年9月	大阪医科大学PBL教育の企画運営
・教育センター委員会委員	～平成23年9月	大阪医科大学学部学生教育の企画運営
・PBLのあり方を考える委員会 委員長	～平成23年9月	大阪医科大学PBL教育の評価・見直しを検討
・医師国家試験対策プロジェクト委員	～平成23年9月	大阪医科大学学生の国家試験対策を検討
・臨床研修運営委員会委員	～平成23年9月	大阪医科大学臨床研修プログラムの企画運営
・三大学医工薬連携科学教育研究機構 副部門長	～平成23年9月	大阪医大・大阪薬大・関西大学連携プロジェクト
・第34回大阪医科大学医学教育ワークショップ	平成21年10月	臨床実習終了時評価作成 コーディネーター
・第35回大阪医科大学医学教育ワークショップ	平成21年11月	第11回OSCEワークショップ コーディネーター
・臨床研修プログラム責任者養成講習会	平成21年10月	厚生労働省後援 臨床研修協議会主催 参加
・第35回医学教育セミナー&ワークショップ	平成22年1月	医学教育開発研究センター主催 タスクフォース
・第37回大阪医科大学医学教育ワークショップ	平成23年1月	第11回OSCEワークショップ コーディネーター
・第38回大阪医科大学医学教育ワークショップ	平成23年5月	第12回OSCEワークショップ コーディネーター
・第60回薬学教育者ワークショップ in 近畿	平成24年4月	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ参加
専門医・指導医等の資格		
・日本内科学会 認定内科医	昭和63年10月	第50666号（昭和63年10月03日～現在）
・日本消化器内視鏡学会 専門医	昭和63年12月	第80278号（昭和63年12月01日～現在）
・日本消化器病学会 専門医	平成2年12月	第5358号（平成2年12月01日～現在）
・日本消化器内視鏡学会 指導医	平成4年12月	第80278号（平成4年12月01日～現在）
・厚生労働省 外国人医師臨床修練指導医	平成8年11月	第1887号（平成8年11月27日～現在）
・日本老年医学会 指導医	平成9年4月	第196091号（平成904月01日～現在）
・日本医師会 認定産業医	平成17年5月	第500672号（平成1705月31日～現在）
・日本老年医学会 専門医	平成17年11月	第5016号（平成1711月01日～現在）
・厚生労働省 臨床研修指導医	平成18年1月	第13号（平成18年01月09日～現在）

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Effect of secreted lymphocyte antigen-6/urokinase-type plasminogen activator receptor-related peptide-1 (SLURP-1) on airway epithelial cells.	共著	平成25年	Biochemical and Biophysical Research Communications, 438, 175-179
（論文）PPAR α autocrine regulation of Ca ²⁺ -regulated exocytosis in guinea pig antral mucous cells: NO and cGMP accumulation.	共著	平成26年10月	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol, 307:G1169-G1179
（論文）Disinfection potential of electrolyzed strongly acidic water against <i>Mycobacteria</i> : Conditions of disinfection and recovery of disinfection potential by re-electrolysis.	共著	平成27年2月	Biomedical Research, 36:109-113
（著書）第109回医師国家試験問題解説書	共著	平成27年4月	医学評論社
（著書）CBT こあかり 2016 リ・コ 最新問題篇	共著	平成27年8月	医学評論社
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
加齢に伴う大腸憩室発見頻度と自覚症状に関する疫学的検討		平成27年6月	第57回日本老年医学会学術集会
アルコール依存症患者の過去26年間における年齢分布および上部消化管疾患の変移		平成27年11月	第25回日本医療薬学会年会
アルコール依存症患者における長期アルコール摂取と合併症との相関		平成27年11月	第25回日本医療薬学会年会
アルコール依存症患者における腹部超音波所見・血液検査所見と飲酒期間との相関		平成27年11月	第25回日本医療薬学会年会
2型糖尿病モデルラットを用いたインスリン療法による合併脂質異常症と小腸の形態的・機能的変化に関する検討		平成27年11月	第25回日本医療薬学会年会

2型糖尿病モデルラットを用いた低脂肪食餌療法による合併脂質異常症と小腸の形態的・機能的変化に関する検討		平成27年11月	第25回日本医療薬学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成3年4月～現在	日本消化器病学会 評議員		
平成4年5月～現在	日本消化器内視鏡学会 評議員		
平成6年11月～現在	日本潰瘍学会 評議員		
平成8年6月～現在	日本老年医学会 代議員		
平成8年12月～現在	日本内科学会 支部評議員		
平成9年5月～現在	日本適応学会 評議員		
平成15年6月～平成26年2月	日本高齢消化器病学会 評議員		
平成16年12月～平成26年2月	日本消化管学会 評議員		
平成17年4月～平成26年3月	大阪医科大学医師会雑誌 編集委員		
平成17年12月～平成23年3月	高槻市予防接種運営委員会 委員		
平成17年12月～平成23年3月	高槻市予防接種健康被害調査委員会 委員		
平成18年4月～現在	大阪府医師会 予備代議員		
平成25年4月～現在	日本薬学会近畿支部 役員		
平成26年4月～現在	大阪薬科大学研究倫理審査委員会 委員長		
平成27年4月～現在	大阪薬科大学公開教育講座委員会 委員長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	人間文化学グループ
職名	教授	氏名	宗前 清貞
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2009年4月-	学部講義を担当し、政治過程論、公共政策学、地方自治論、政策評価論、一般教養政治学（以上前任校）、医療制度（以上本務校）が含まれる。細かい知識よりも制度の設計哲学のような大枠を捕らえるような講義を展開し、社会変化に対応できる社会科学のリタラシー伝達に注力した。
2	作成した教科書、教材、参考書		特になし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4	その他教育活動上特記すべき事項		学内でFD活動に参加し、講義（人間と歴史）を公開した上で学内各層からの批評を受けた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）専門知と政治（全218頁中、149-176頁担当）	共著	2009年7月	早稲田大学出版部
（著書）現代日本政治の争点（全261頁中、54-73頁担当）	共著	2013年11月	法律文化社
（論文）自治体における経営の限界と公共性—公立病院問題を中心として	単著	2010年5月	『年報行政研究（日本行政学会）』45号、95-117
（論文）自民党政権下における医療政策—保守政権と社会政策—	単著	2012年6月	『年報政治学2012-1（日本政治学会）』、114-137
（論文）補助線としての雇用—福祉レジーム論の批判的検討—	単著	2013年10月	『レヴァイアサン』53号、117-124頁
（論文）政権交代と政策転換	単著	2011年3月	『沖縄法政学会報』23号、27-34
（論文）行政改革は福祉政策に何をもちたか—自治体ガバナンスの現状と課題—	単著	2013年4月	政策科学・国際関係論集』15号（琉球大学法文学部紀要）61-90頁
（論文）行政に対する「期待値」の背景—政治変容と改革理念の相関—	単著	2015年2月	『季刊行政相談』144号、全国行政相談委員連合協議会、46-51頁
（論文）戦中期の医療体制整備と戦後医療政策の展開	単著	2015年3月	『大阪薬科大学紀要』9号、19-33頁
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2010年4月 - 2011年12月	日本政治学会文献委員		
2010年10月 - 2012年6月	日本政治学会年報編集委員		
2012年5月 - 2014年5月	日本行政学会年報委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 生体機能解析学	職名 教授	氏名 高岡 昌徳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		H22年-H27年 各年度10月-翌年1月	1年次生後期科目 基礎生理学及び解剖学のうち、特に神経系とその調節機構について、学生が概説及び説明できるように授業を行っている。授業は教科書を中心に、必要に応じてプリントやスライド等の補助教材を用いて解説している。また、過去の試験問題とその解説をホームページ (http://takaoka3.web.fc2.com/test/test.html) に公開している。学生対象のアンケートでは概ね好評であり、それらの意見を参考にして、その後の授業でフィードバックを行っている。
機能形態学1			
		H22年-27年 各年度4月-7月	2年次生前期科目 基礎生理学及び解剖学のうち、神経系の諸器官について構造と機能並びにその神経性及び体液性調節機構について、学生が概説及び説明できるように授業を行っている。授業は教科書を中心に、必要に応じてプリントやスライド等の補助教材を用いて解説している。また、過去の試験問題とその解説をホームページ (http://takaoka3.web.fc2.com/test/test.html) に公開している。学生対象のアンケートでは概ね好評である。また、教員を対象とした公開授業授を実施し、意見を参考にして、その後の授業でフィードバックを行っている。
機能形態学2			
		H22年-H27年 各年度10月-翌年1月	1年次生後期科目 生体の構造と機能を、細胞から個体の観察を通して理解させる実習を担当している。生物学、生化学、機能形態学など薬学における生物系教科との関連を重視しながら指導している。また、スライドを使った実習手順の解説や、関連する情報を常に閲覧できるように、各実験台に1~2台のパソコンを配備して情報を提供している。
生物学実習			
2 作成した教科書、教材、参考書			
スタンダード薬学シリーズ4 生物系薬学 IV. 演習編 (東京化学同人)		平成23年6月	平成17年3月に発行された「スタンダード薬学シリーズ4 生物系薬学 I. 生命体の成り立ち (東京化学同人)」の演習編として出版された。解剖・整理における「尿路系」について分担執筆した。
ベーシック薬学教科書シリーズ14 機能形態学 (化学同人)		平成20年3月	薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した教科書として出版された。「感覚器系」および「循環器系」について分担執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
授業研究会		平成24年5月	学内FD委員会からの指示で公開授業を行い、後の授業研究会での学生アンケートや参加教員からの意見を元に、その後の授業改善に努めた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Efficient synthesis of [4-(4-chlorophenyl)butyl]-S-(3-piperidinopropyl) isothioureia (OUP-186) and its analogues using 2-nitrophenylacetyl isothiocyanate: Application to novel histamine H3R antagonists.	共著	2015年1月	Synthesis 47 , 1291-1302.

Bio-imaging of hydroxyl radicals in plant cells using the fluoroscent molecular probe rhodamine B hydrazine, without any pretreatment.	共著	2014年1月	J Biosci Bioeng. 118 , 98-100.
Prolyl oligopeptidase inhibition-induced growth arrest of human gastric cancer cells.	共著	2014年1月	Biochem Biophys Res Commun. 443 , 91-96.
Prolyl oligopeptidase is a glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase-binding protein that regulates genotoxic stress-induced cell death.	共著	2013年4月	Int J Biochem Cell Biol. 45 , 850-857
Prolyl oligopeptidase participates in cell cycle progression in a human neuroblastoma cell line.	共著	2011年6月	Biochem Biophys Res Commun. 409 , 693-698.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
マイクロ波の非熱性効果が種々の培養癌細胞に与える影響		2015年9月	第34回microwave surgery 研究会
PC12細胞の酸化ストレス障害に対するp38/Nrf2経路を介した α -リボ酸の保護作用		2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
培養乳癌細胞株MCF-7細胞に及ぼすベルベリンの細胞死誘導メカニズムの解析		2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
抗ヒトプロリルオリゴペプチダーゼ（POP）モノクローナル抗体の作成と応用 POPと相互作用する分子の探索		2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
シタラピンで誘導される細胞死におけるプロリルオリゴペプチダーゼとグリセルアルデヒド3リン酸脱水素酵素の相互作用解析		2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
プロリルオリゴペプチダーゼ阻害薬による細胞増殖阻害メカニズムの解析		2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
低温でのマイクロ波照射下での細胞の誘電率と生存率の関係		2015年11月	第9回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム
新規ヒスタミンH3受容体アンタゴニストの乳がん細胞増殖抑制作用		2015年11月	第33回メディシナルケミストリーシンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
●学会			
昭和53年3月～現在	日本薬理学会会員 現学術評議員		
平成20年4月～現在	日本毒性学会会員 現評議員		
●社会的活動			
平成21年～現在	関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学 医工薬連環科学教育研究機構 構成員		
平成22年～現在	医工薬連環科学教育研究機構における双方向授業の担当		
平成22年～平成26年	科学技術振興機構（JST）主催のサマーサイエンスキャンプ 講師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	医薬品化学
職名	教授	氏名	田中 麗子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成9年4月～ 現在	板書を使って説明する。 出席を取る。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成14年3月 平成20年4月	(著書) 医薬品化学第3版 (廣川書店) (著書) NEW医薬品化学 (廣川書店)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成21年 平成23年	他教員による授業参観および検討会 (FD委員会) 他教員による授業参観および検討会 (FD委員会)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) An unusual lanostane-type triterpenoid, spiroinonotsuoxodiol, and other triterpenoids from <i>Inonotus obliquus</i> .	共著	2010年8月	Phytochemistry 71: 1774-1779
(論文) Hybrids of 3 α -methoxyserrat-14-en-21 β -ol (PJ-1) and 3 β -methoxyserrat-14-en-21 β -ol (PJ-2) and various anti-oxidants as cancer chemopreventive agents.	共著	2011年8月	Eur. J. Med. Chem. 46, 3368-3375
(論文) Absolute stereostructure of Andriolides A- G from the flower of <i>Carapa guianensis</i> (Meliaceae).	共著	2011年4月	Tetrahedron 67, 782-792
(論文) Guianolides A and B, new carbon skeletal limonoids from the seeds of <i>Carapa guianensis</i> .	共著	2013年4月	Org. Lett 15, 3018-3021.
(論文) Carapanolides J-L from the Seeds of <i>Carapa guianensis</i> (Andiroba) and Their Effects on LPS-Activated NO Production.	共著	2014年10月	Molecules 19, 17130-17140
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ブラジル産植物アンデローバ (<i>Carapa guianensis</i>) 種子の新規リモノイド		2015年9月	日本生薬学会第62回年会
アンデローバ含有リモノイドの肝細胞内中性脂肪低減作用		2015年9月	日本生薬学会第62回年会
エリンギ (<i>Pleurotus eryngii</i>) 子実体に含まれる新規ergostane型ステロイド		2015年9月	日本生薬学会第62回年会
エリンギ (<i>Pleurotus eryngii</i>) 子実体のergostane型ステロイド		2015年9月	第59回 香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会
セイヨウタンポポ (<i>Taraxacum officinale</i>) 根部の新規トリテルペン		2016年3月	日本薬学会第136年会
ウンシュウミカン (<i>Citrus unshiu</i>) 果皮の新規リモノイド		2016年3月	日本薬学会第136年会
ムラサキウニ由来真菌の新代謝産物altercrosin類の構造		2016年3月	日本薬学会第136年会
カイメン由来真菌の産生する新規細胞毒性物質の絶対構造		2016年3月	日本薬学会第136年会
エリンギ (<i>Pleurotus eryngii</i>) 子実体の新規ステロイド-eringiacetal A および Bの構造-		2016年3月	日本薬学会第136年会
アンデローバ含有成分の脂肪肝低減作用成分		2016年3月	日本薬学会第136年会

温州ミカンの未熟果皮に含まれる成分による脂肪細胞における脂肪蓄積抑制機構の解析	2016年3月	日本薬学会第136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
	なし	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	生薬科学
		職名	教授
		氏名	谷口 雅彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・ 担当科目について		平成21年4月～平成21年9月	4 年次生科目 薬局方総論 (分担)
		平成21年4月～平成25年9月	3 年次生科目 薬用天然物化学
		平成21年4月～現在	2 年次生科目 生薬学実習 (分担)
		平成23年4月～平成26年9月	4 年次生科目 薬学英语
		平成25年10月～現在	2 年次生科目 薬用天然物化学 1
		平成26年4月～現在	3 年次生科目 薬用天然物化学 2
・ 担当科目における授業評価について		平成21年度	薬局方総論 3.33/5 薬用天然物化学 3.25/5 生薬学実習 4.32/5
		平成22年度	薬用天然物化学 2.93/5 生薬学実習 4.19/5
		平成23年度	薬用天然物化学 3.42/5 薬学英语 3.77/5 生薬学実習 4.25/5
		平成24年度	薬用天然物化学 3.18/5 薬学英语 3.84/5 生薬学実習 4.34/5
		平成25年度	薬用天然物化学 3.0/4 薬学英语 3.2/4 薬用天然物化学 1 2.9/4 生薬学実習 4.20/5
		平成26年度	薬用天然物化学 2 3.2/4 薬学英语 3.2/4 薬用天然物化学 1 3.3/4 生薬学実習 4.26/5
・ 授業方法の工夫		平成21年度～	薬用天然物化学：パワーポイントを用いた講義を行っていたがH23年のFD対象公開講義の検討会で指摘を受け、黒板への板書中心の講義に変更(学生がノートをキッチリと取るようになる)。復習のため重要事項のレポートを課しているが、平成25年度からは講義の前に課題を示す。 生薬学実習：漢方薬の煎じ薬、丸剤および軟膏剤を作成している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年	薬学生のための天然物化学テキスト(南江堂) 分担
		平成25年	薬学生のための天然物化学(廣川書店) 分担 薬用植物学(南江堂) 分担
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成21年 11月8,9日	第42回 薬剤師のためのワークショップin近畿のタスクフォース

	平成23年6月	FD対象公開講義（3年次生：薬用天然物化学）および検討会を行う。	
	平成24年6月9日～平成26年3月31日	薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する調査研究チーム委員にて、改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムを作成	
	平成26年6月	FD対象公開講義（3年次生：薬用天然物化学2）および検討会を行う。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Chemical studies on the root of <i>Heracleum candicans</i> Wall. (Part 3)	共著	2010年	J. Nat. Med., 64, 175-181.
Four novel furanocoumarin glucosides, candinosides A, B, C and D, from <i>Heracleum candicans</i> Wall	共著	2011年	J. Nat. Med., 65, 116-121.
Five condensed furanocoumarins from the root of <i>Heracleum candicans</i> Wall.	共著	2011年	J. Nat. Med., 65, 268-274.
Metabolites of 3'-O-acetylhamaudol isolated from <i>Angelica japonica</i> roots, and their antitumor actions	共著	2012年	Natural Products Journal, 2, 20-30.
Anti-tumor effects of various furocoumarins isolated from the roots, seeds and fruits of <i>Angelica</i> and <i>Cnidium</i> species under ultraviolet A irradiation	共著	2014年	J. Nat. Med., 68, 83-94.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
明日葉カルコンの抗血栓作用の可能性と作用発現に重要な構造		平成27年5月	第37回 日本血栓止血学会学術集会
明日葉カルコンの血小板凝集抑制作用		平成27年6月	第16回 Pharmacology-Hematologyシンポジウム
早蓮草熱水抽出エキスに含まれる新規グアニジンアルカロイドとCOX阻害活性について		平成27年8月	第32回 和漢医薬学会学術大会
紫根熱水抽出エキス中のピロリジンアルカロイドの探索研究		平成27年8月	第32回 和漢医薬学会学術大会
シンキョウカツの成分研究		平成27年9月	日本生薬学会 第61回年会
明日葉が持つ抗血栓作用の可能性と作用発現に重要なカルコンの構造		平成27年9月	日本生薬学会 第61回年会
The combination of Gefitinib (Iressa) and non-substituted B-ring flavonoids from <i>Scutellaria baicalensis</i> root showed synergistic effects against the growth of non-small-cell lung cancer cell lines		平成27年9月	Frontiers in Medicinal Chemistry
石斛の品質評価法の検討。指標成分の探索（3）		平成28年3月	日本薬学会 第136年会
III 学会および社会における主な活動			
平成20年4月～平成22年3月	日本生薬学会・関西支部・会計		
平成22年4月～現在	日本生薬学会・関西支部委員		
平成24年5月～現在	漢方薬・生薬研修会薬用植物園実習研修における講師		
平成25年4月～現在	日本生薬学会評議員		
平成27年4月～現在	大阪生薬協会・顧問		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 微生物学	職名 教授	氏名 辻坊 裕
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成22年度以前 ～現在	微生物学：毎回、講義内容とモデル・コアカリキュラムとの対応を説明するとともに、基礎と臨床の知見を相互に関連付けながら平易に講義をしている。また、要点が理解できるように、できるだけ整理して板書をしている。平成27年度の授業評価は概ね良好であった。	
	平成22年度以前 ～現在	生化学3：モデル・コアカリキュラムに対応した教科書を用いて、講義をしている。教科書に記載のない箇所については、参考書を使用して、最新の知識を教授することにより学習意欲を高める工夫を行っている。学生による授業評価に基づき、講義の改善に努めている。平成27年度の評価は概ね良好であった。	
	平成22年度以前 ～現在	生物科学実習：組換えDNA実験に必要なとされる基礎的実験を行い、遺伝子クローニング、塩基配列決定、ならびに遺伝子解析などについての基本的知識と技能を習得することを目的とし、グループで討論することにより問題解決能力の向上を目指している。平成27年度の評価は概ね良好であった。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成23年6月28日 平成25年8月30日 平成25年9月1日 平成27年4月1日	生物系薬学 IV 演習編 生物系薬学 I 生命体の成り立ち 生物系薬学 II 生命をミクロに理解する 第2版 生物科学実習テキスト	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成26年5月17日	関西地区FD連絡協議会第7回総会で「FD活動の現状と課題について」と題する報告を京都大学吉田キャンパスで行った。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Crystallization and preliminary X-ray crystallographic analysis of BxIA, an intracellular beta-D-xylosidase from <i>Streptomyces thermoviolaceus</i> OPC-520.	共著	平成22年7月	Acta Crystallogr Sect F Struct Biol Cryst Commun, vol. 66 No. 7
The <i>Vibrio parahaemolyticus</i> <i>pvuA1</i> gene (formerly termed <i>psuA</i>) encodes a second ferric vibrioferrin receptor that requires <i>tonB2</i> .	共著	平成23年11月	FEMS Microbiol Lett, vol. 324 No. 1
NK1.1(+) cells regulate neutrophil migration in mice with <i>Acinetobacter baumannii</i> pneumonia.	共著	平成24年2月	Microbiol Immunol, vol. 56 No. 2
Role of periplasmic binding proteins, FatB and VatD, in the vulnibactin utilization system of <i>Vibrio vulnificus</i> M2799.	共著	平成25年12月	Microb Pathog, vol. 65
The RND protein is involved in the vulnibactin export system in <i>Vibrio vulnificus</i> M2799.	共著	平成26年10月	Microb Pathog, vol. 75
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
<i>Pseudoalteromonas piscicida</i> 0-7株のキチン分解機構に関する新規タンパク質の解析		平成27年8月	日本キチン・キトサン学会
<i>Vibrio vulnificus</i> M2799株の鉄獲得機構の解明		平成27年9月	微生物シンポジウム
臨床分離株 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799株におけるVulnibactin分泌機構の解明		平成27年10月	日本薬学会近畿支部

Bam複合体を標的とした新規抗菌物質の開発	平成27年10月	日本薬学会近畿支部
臨床分離株 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799株由来シデロフォア結合タンパク質 VatD のシデロフォア 結合機構の解明	平成27年10月	日本薬学会近畿支部
<i>Vibrio vulnificus</i> M2799株のペリプラズム結合タンパク質VatDの構造解析	平成28年3月	日本細菌学会
<i>Vibrio vulnificus</i> のRtxA1 毒素の解析	平成28年3月	日本細菌学会
臨床分離株 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799 由来シデロフォア結合タンパク質VatD とシデロフォアとの相互作用解析	平成28年3月	日本薬学会
<i>Aeromonas hydrophila</i> におけるferrichrome利用遺伝子の解析	平成28年3月	日本薬学会
<i>Vibrio vulnificus</i> における外因性シデロフォア受容体遺伝子の発現に関与する転写因子の作用機構について	平成28年3月	日本薬学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成25年4月～平成28年3月	薬学教育評価機構 評価実施員	
平成26年4月～平成28年3月	薬学教育評価機構 評価委員	
平成26年4月～平成28年3月	日本薬学会近畿支部幹事	
平成26年4月～平成28年3月	キチン・キトサン学会評議員	
平成27年4月～平成28年3月	日本薬学会代議員	
平成27年4月～平成28年3月	日本細菌学会関西地区評議員	
平成27年4月～平成28年3月	JSTマッチングプランナー専門委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	分子構造化学
職名	教授	氏名	土井 光暢
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2007年4月～	物理化学系科目では、式の誘導、計算が頻出する。授業では、ある条件で物性値を求める際に、適切な式を選び、正しい計算を行う力を養うことを目的としている。そのため、各講義の終わり20～30分で試験を行うことで、演習的要素を取り入れている。
2	作成した教科書、教材、参考書	2007年4月～	式の誘導は最小限に抑え、具体的な計算方法を示すことに重点をおいたテキストを作成した。テキストには、応用例の後に類似問題を加えることで反復練習が可能な構成を意識している。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		(なし)
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2012年10月	物理化学 I について公開研究授業 (ピアレビュー)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Peptide foldamers composed of six-membered ring α , α -disubstituted α -amino acids with two changeable chiral acetal moieties.	共著	2015年4月	Tetrahedron, 71(23)
(論文) Modulating the structure of phenylalanine-incorporated ascidiacyclamide through fluorination.	共著	2014年10月	J Pept Sci, 20(10)
(論文) Helical Peptide-foldamers having a chiral five-membered ring amino Acid with two azido functional groups.	共著	2014年10月	J Org Chem. 79(19)
(論文) Effects of D-Leu residues on the helical secondary structures of L-Leu-based nonapeptides.	共著	2014年3月	Chem Pharm Bull, 63(3)
(論文) Oligopeptides with Equal Amounts of L- and D-Amino Acids May Prefer a Helix Screw Sense.	共著	2013年11月	J. Org. Chem. 78(23)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
アミロイド β ペプチドの26位セリン周辺の配列に着目した凝集阻害ペプチドの探索研究		2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
ヒトカルシトニンのシステイン置換型誘導体における二量体の合成と凝集性及び二次構造の評価		2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
側鎖架橋ヘリカルペプチドの合成と不斉有機分子触媒反応への応用		2016年3月	日本薬学会第136年会
ヒトカルシトニン二量体モデルにおける凝集性及び繊維形態の評価		2016年3月	日本薬学会第136年会
エチレンアセタールを有するキラル5員環アミノ酸を含有するペプチドのヘリカル二次構造		2016年3月	日本薬学会第136年会
pH応答性環状ジ置換アミノ酸の合成およびその含有ペプチドのコンフォメーション解析		2016年3月	日本薬学会第136年会
配座自由度を制限したヘリカルペプチドによる不斉マイケル付加反応		2016年3月	日本薬学会第136年会
側鎖修飾した環状 α , α -ジ置換アミノ酸よりなるペプチドの二次構造		2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
平成20年4月～	日本分析化学会近畿支部幹事		
平成18年4月～	日本薬学会近畿支部幹事		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 製剤設計学	職名 教授	氏名 戸塚 裕一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 製剤学 (授業評価等を含む) 薬局方総論		2012年4月～現在 2013年9月～現在	薬局方の通則、製剤総則、一般試験法に関わる理解度の向上への工夫。 製剤学を学ぶことで、如何にして臨床で使う製剤が設計されているか興味を持たせている。
2 作成した教科書、教材、参考書 広義 製剤学		2015年4月	3年生を対象にした、製剤学の授業を専門的に行うための教科書を執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2014年12月	FD委員及び臨床系教員が参加した中で、製剤学に関する公開授業を行い、学生を交えて後日改善点などを討議した。
4 その他教育活動上特記すべき事項 学内公開授業 (製剤学) (FDを含む)			特になし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Anomalous role change of tertiary amino and ester groups as hydrogen acceptors in Eudragit® E based solid dispersion depending on the concentration of Naproxen	共著	2015年2月	Mol. Pharm., 12, 1050-1061
(論文) Enhanced dissolution of quercetin by forming composite particles	共著	2015年3月	J. Food Eng., 149, 248-254
(論文) Absorption improvement of tranilast by forming highly soluble nano-size composite structures associated with α -glucosyl rutin via spray drying	共著	2015年5月	Euro. J. Pharm. Biopharm., 92, 49-55
(論文) Kinetics of co-crystal formation with caffeine and citric acid via liquid assisted grinding analysed using distinct element method	共著	2015年8月	Euro. J. Pharm. Sci., 76, 217-224
(論文) Preparation of composite particles of hydrophilic or hydrophobic drugs with highly branched cyclic dextrin via spray drying for dry powder inhalers	共著	2015年10月	Powder Technology, 283, 16-23
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Curcumin の溶解度及び化学的安定性向上を指向した複合粒子の開発		2015年5月	粉体工学会2015年度春期研究発表会
CFD 解析による粉末吸入製剤使用時の Breath-hold が粒子挙動に及ぼす影響		2015年5月	日本薬剤学会第30年会
Stabilizing effect of cyclodextrins on the water-soluble nanocomposite formulation of curcumin and transglycosylated additives		2015年5月	Joint conference of 8th Asian Cyclodextrin Conference and 32nd Cyclodextrin Symposium
酵素処理ルチンによる光安定性改善を指向した葉酸ナノ粒子の作製.		2015年8月	第40回製剤・創剤セミナー
Nanocomposite formation of drug/trans-glycosylated additive for creating functional powders		2015年10月	The 5th International Conference on the Characterization and Control of Interfaces for High Quality Advanced Materials and the 51st Summer Symposium on Powder Technology

糖転移ステビアのミセル形成能を利用した医薬品の溶解性改善	2015年10月	粉体工学会2015年度秋期研究発表会
両親媒性グラフトコポリマーSoluplusを用いたIpriflavone非晶質固体分散体－物理化学的特性の評価－	2015年10月	第65回 日本薬学会近畿支部総会
Highly-soluble and hydrolytic degradation-preventing formulation of curcumin using α -transglycosylated hesperidin and polyvinylpyrrolidone	2015年10月	Food structures, Digestion and Health, 3rd International Conference
肺の幾何学的構造を考慮した吸入療法における Breath-hold習得の有用性検証	2016年3月	日本薬学会136年会
ウルソデオキシコール酸を用いた新たな低分子化合物の結晶定量法としての Plused NMR の応用	2016年3月	日本薬学会136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成21年～現在	日本薬剤学会 評議員	
平成21年～現在	粉体工学会 編集委員	
平成23年～現在	日本薬学会 ファルマシア編集委員、学術雑誌編集委員(平成25年～)	
平成26年～現在	製剤機械技術学会 評議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	薬剤学
		職名	教授
		氏名	永井 純也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
		平成26年4月～ 現在	薬物動態学2： 本講義は3年次生後期に開講している。本講義では、薬物の生体内運命を表す諸過程（吸収、分布、代謝、排泄）において、「代謝」と「排泄」に関する基本的な知識を修得することを目的としている。講義においては、実際の医療現場で使用されている薬物を中心に取り上げることで、薬剤師が本分野において必要とする知識を学生が実感できるように心掛けている。また、毎回の講義において、それまでに講義した内容に関連する問題の演習を行い、詳しく解説することで学生の理解がより深まるように努めている。その演習問題には薬剤師国家試験の過去問を取り入れることにより、早期に国家試験に対する意識が高まるように心掛けている。さらに、聴講した学生に授業アンケートを行い、授業方法の改善に取り組んでいる。
		平成26年4月～ 現在	薬物動態学3： 本講義は4年次生前期に開講している。本講義では、薬物速度論における主要な解析法（コンパートメント解析、生理学的モデル解析、モーメント解析）の基礎的事項を修得することを目的としている。薬物速度論は、薬剤師が臨床現場でTDMなどを通じて薬物投与設計を行っていく上で不可欠な基礎知識であることが学生に伝わるように講義を行っている。また、毎回の講義において演習問題を解くことによって、単に数式を暗記するのみではなく、薬物動態を解析する上で数式を柔軟に使いこなせるようになることを目標にしている。さらに、聴講した学生に授業アンケートを行い、授業方法の改善に取り組んでいる。
		平成26年4月～ 現在	薬剤学実習： 本講義は4年次生前期に実施している。本実習では、大きく薬物動態学的な内容と製剤学的な内容に分けて実施しているが、本教員は主に前者を担当している。本実習では、臨床において起こりうる、タンパク結合や腎排泄過程における薬物間相互作用に関する内容を題材にしている。また本実習では、薬物速度論の解析を実際にグラフ用紙に描出しながら進めていくことで、本解析手法の本質をより実感できるようにしている。さらに、TDMや医薬品開発業務において不可欠な母集団薬物動態解析に関するコンピューター演習を取り入れている。
		平成26年4月～ 現在	特別演習・実習（研究）： 4年次生後期に所属研究室が決定し、6年次生の後期にまで及ぶ特別演習・実習では、研究を進めていく上での基礎的実験技術、プロトコル作成、データ解析手法、実験データの論理的考察といった一連の作業を修得できるように指導している。また、定期的に、英語学術論文を紹介するセミナーや研究の進捗状況を報告する発表会を実施することで、プレゼンテーションを行う機会を設けている。さらに、学会や研究会などの学外での発表も経験できるように研究指導を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成27年4月	「医薬学連環科学」資料集（関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学 医薬学連環科学教育研究機構 編著）改訂版（分担執筆）
		平成27年4月	薬剤学実習テキスト

3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成27年10月	日本薬学会主催の「第1回若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップ」に参加し、「卒業時に求められる資質とその評価を考える」をテーマにSGD形式で作業および全体討論を行った。
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可) 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
	(論文) Entry of aminoglycosides into renal tubular epithelial cells via endocytosis-dependent and -independent pathways.	共著	平成26年8月 Biochem Pharmacol, 90(4):331-337
	(論文) Fatty acid-bearing albumin but not fatty acid-depleted albumin induces HIF-1 activation in human renal proximal tubular epithelial cell line HK-2.	共著	平成26年7月 Biochem Biophys Res Commun, 450(1):476-481
	(論文) Characterization of protamine uptake by opossum kidney epithelial cells.	共著	平成25年12月 Biol Pharm Bull, 36(12):1942-1949
	(論文) Albumin overload induces expression of hypoxia-inducible factor 1 alpha and its target genes in HK-2 human renal proximal tubular cell line.	共著	平成25年5月 Biochem Biophys Res Commun, 434(3):670-675
	(論文) Megalin/cubilin-mediated uptake of FITC-labeled IgG by OK kidney epithelial cells.	共著	平成23年10月 Drug Metab Pharmacokin, 26(5):474-485
2.	学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月 学会名
	アルブミン共存下におけるBODIPY® FL C16の尿細管上皮細胞内移行特性		平成27年5月 日本薬剤学会第30年会
	ヒト肝由来HepG2細胞におけるBODIPY® FL C16の細胞内取り込みに及ぼすアルブミン共存の影響		平成27年5月 日本薬剤学会第30年会
	茶葉飲料—ドネベジル塩酸塩混合時において形成される複合体に関する研究		平成27年5月 日本薬剤学会第30年会
	インスリンのパルス状投与による血糖低下効果増大の要因		平成27年5月 第32回日本TDM学会・学術大会
	フェキソフェナジン塩酸塩の消化管吸収性変化に関する検討—リンゴジュースでの服用による溶解性変化の影響—		平成27年10月 第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
	ヒト腎近位尿細管上皮細胞株におけるアルブミン誘発BCRP 輸送活性の上昇：脂肪酸の関与		平成27年10月 第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
	Reduced solubility of fexofenadine hydrochloride by mixing with apple juice		平成27年10月 2015 AAPS Annual Meeting and Exposition
	腎近位尿細管上皮細胞におけるBCRPおよびP-糖タンパク質活性性及び脂肪酸結合アルブミンの影響		平成27年11月 日本薬物動態学会第30回年会
	リンゴジュース中におけるフェキソフェナジン塩酸塩の溶解性に関する検討		平成27年11月 第25回日本医療薬学会年会
	シベンゾリンの低血糖作用に及ぼすロサルタン併用の影響		平成28年3月 日本薬学会第136年会
	腎近位尿細管上皮細胞におけるHIF-1活性化に伴うBCRP機能亢進と薬剤性細胞障害に及ぼす影響		平成28年3月 日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
	平成21年2月～平成22年1月	日本薬学会中国四国支部 幹事	
	平成22年1月～現在	日本薬物動態学会 評議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	循環病態治療学
職名	教授	氏名	林 哲也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 担当科目 ・大阪医科大学医学部 循環器病学 (3, 4年次) OSCE (4年次) advanced OSCE (6年次) クリニカル・クラークシップ (6年次) 附属病院循環器診療 ・大阪医科大学看護専門学校 医学英語 循環器病学 フィジカルエグザミネーション (1年次) 看護と生体診断法 (4年次) ・大阪薬科大学薬学部 人体の構造と機能 (1年次) 病態生理学2 (1年次) 薬物治療学1 (3年次) 早期体験学習2 (1年次) 薬物治療学演習実習 (5年次) 薬物治療学演習 (6年次) 臨床薬学統合演習 (6年次) 薬学総合演習4 (6年次) ・大阪薬科大学大学院薬学専攻博士課程 医療薬学総論 臨床医療薬学特論II 臨床連携治療演習 治験・臨床試験演習 授業方法の工夫		~平成23年9月 ~平成23年9月 ~平成23年9月 ~平成23年9月 平成22年3月まで 平成24年3月まで 平成23年4月~現在 平成27年4月~現在 平成23年10月~現在 平成24年4月~現在	循環器疾患の解剖生理、病態生理、薬物治療 医療面接、胸部診察 医療面接、胸部診察手技、臨床推論 循環器疾患患者ベッドサイド教育、カルテ記載法 循環器診断法と研修医、学生の教育 看護業務に必要な医学英語 循環器疾患の解剖生理、病態生理 ベッドサイドの心臓病学 心電図の原理、読み方、不整脈 循環器器、腎、生殖器、内分泌の解剖生理学 循環器疾患の病態生理 循環器疾患の薬物治療 バイタルサイン、採血手技の体験 バイタルサイン・採血手技実習と症例検討 循環器疾患の症例検討 治験業務に携わる組織の役割と責任 循環器疾患の薬物治療演習 循環器疾患の病態生理・薬物治療の最新の知見 臨床試験ならびに臨床研究の現状と課題 チーム医療と安全管理の実践 大阪医科大学臨床研究センターでの演習 授業は板書とスライドを交互に使用し、学生の注意力が低下しないよう常に配慮している。また、授業内容について毎回、小テストを実施して各学生の理解度をチェックしている。演習では実臨床で経験した貴重な症例のデータを駆使し、オリジナルのシナリオを多数作成して教育に使用している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成26年5月1日 平成27年6月27日	実践処方例とその解説第2版、じほう Pharmacotherapy改訂第3版、ネオメディカル
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成22年11月13日	薬物治療学授業、公開授業シンポジウム
4 その他教育活動上特記すべき事項		~平成23年9月 平成22年11月13日 平成24年8月25-26日	大阪医科大学OSCE循環器領域の企画運営 FD委員会シンポジウム参加 薬学教育協議会より活動貢献賞受賞
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称

Cardiovascular protection by ezetimibe and influence on oxidative stress in mice exposed to intermittent hypoxia	共著	2015年	Eur J Pharmacol 2015; 765: 7-14
Hydrogen gas attenuates embryonic gene expression and prevents left ventricular remodeling induced by intermittent hypoxia in cardiomyopathic hamsters.	共著	2014年	Am J Physiol Heart Circ Physiol 2014;307: H1626-H1633
Celiprolol reduces oxidative stress and attenuates left ventricular remodeling induced by hypoxic stress in mice.	共著	2013年	Hypertens Res 2013; 36: 934-939.
Inhalation of hydrogen gas attenuates left ventricular remodeling induced by intermittent hypoxia in mice	共著	2011年	Am J Physiol Heart Circ Physiol 2011; 301: H1062-H1069・2011
Impact of the renin-angiotensin-aldosterone-system on cardiovascular and renal complications in diabetes mellitus	共著	2010年	Curr Vasc Pharmacol 2010; 8: 189-197
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Crosstalk between O-GlcNAcylation and Phosphorylation Regulates Autophagy in Diabetes Mellitus and OGT-Tg Mice Exposed to Intermittent Hypoxia		2015年4月	第79回日本循環器学会学術集会
Acetaminophen誘発肝障害の予測予防に関する検討 - Acetaminophenとそのグルクロン酸抱合体血中濃度測定とUGT1A1遺伝子診断の意義 -		2015年5月	第32回日本TDM学会・学術大会
Soluble tumor necrosis factor receptors 1 and 2 as novel biomarkers for drug-induced liver injury		2015年5月	第32回日本TDM学会・学術大会
間歇的低酸素負荷時の糖尿病マウス心筋に及ぼすO-GlcNAc化の影響		2015年6月	第36回日本循環制御医学会総会
PAHモデルラットにおけるVEGF発現遅延が右室リモデリングに与える影響		2015年6月	第36回日本循環制御医学会総会
LPS投与マウス及びRAW264細胞におけるCapsaicinの作用		2015年6月	第36回日本循環制御医学会総会
間歇的低酸素負荷にともなう酸化ストレスと心筋リモデリング		2015年6月	第36回日本循環制御医学会総会
周術期における可溶性腫瘍壊死因子レセプター解析の意義と重要性		2015年6月	第36回日本循環制御医学会総会
重篤副作用発現機序における皮膚免疫の関わり		2015年7月	第23回クリニカルファーマシーシンポジウム 医療薬学フォーラム2015
Factor Xa inhibition prevents cardiac remodeling induced by intermittent hypoxia in sleep apnea model mice		2015年11月	American Heart Association Scientific Sessions 2015
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成10年6月～現在に至る	日本循環器学会近畿地方会評議員		
平成10年12月～現在に至る	日本内科学会近畿地方会評議員		
平成12年10月～現在に至る	日本臨床分子形態学会評議員		
平成13年6月～現在に至る	日本顕微鏡学会評議員		
平成13年10月～現在に至る	日本心不全学会評議員		
平成20年4月～平成24年3月	日本循環器学会評議員		
平成22年10月～現在に至る	日本高血圧学会評議員		
平成24年7月～現在に至る	日本動脈硬化学会評議員		
平成26年12月～現在に至る	日本臨床薬理学会評議員		
平成27年6月～現在に至る	日本循環制御医学会評議員		
平成27年10月～現在に至る	日本循環制御医学会理事		
・平成21年以降の社会貢献			
1	日本高血圧学会認定講座-高血圧治療ガイドライン2009生涯教育講演会、平成21年2月15日 「高血圧治療と睡眠時無呼吸」 於 グランドプリンスホテル赤坂		

2	西淀川区医師会学術講演、平成21年2月18日 「高血圧治療 Up-to-Date 2009」 於 西淀川区公害医療センター
3	第56回糖尿病教育学習研究会（トップセミナー）第95回IIDES糖尿病研究会、 第33回CDE兵庫県連合会研究会-合同研究会、平成21年5月30日 「睡眠時無呼吸症候群と心血管障害：糖尿病患者さんにおけるリスクの集積 と治療- 循環器専門医の立場から」 於 神戸国際会館
4	山形県臨床内科医会学術講演、平成21年9月10日 「睡眠時無呼吸と心血管障害：メタボリックシンドロームにおける リスクの集積と治療」 於 ホテルメトロポリタン山形
5	兵庫県医師会学術講演会（日医生涯教育講座認定）、平成21年10月10日 「睡眠時無呼吸と心血管障害」 於 神戸市医師会館
6	第10回河内連携懇話会、平成21年11月7日 「メタボリックシンドロームにおけるリスクの集積と治療」 於 梅田スカ イビル タワーウエスト
7	大阪医科大学市民公開講座、平成22年1月16日 「新しいお薬をあなたに-治験ってな-高血圧治療の最前線」 於 大阪医科大学
8	第238回枚方市医師会・交野市医師会学術研修会、平成22年2月20日 「睡眠時無呼吸と心血管障害」 於 枚方市医師会館
9	港区医師会学術講演会、平成22年10月15日 「脂質異常症治療の進歩～コレステロール吸収阻害がもたらすベネフィット」 於 ホテル大阪ベイタワー
10	山形県長井市西置賜郡医師会講演会、平成22年10月19日 「循環器専門医の高血圧治療-睡眠と動脈硬化」 於 長井市医師会館
11	講演会：減塩のスズメ in Osaka、平成22年11月25日 「ARB/利尿薬合剤が早朝高血圧に及ぼす効果と安全性～SPEC studyからの報 告」 於 ホテル阪急インターナショナル
12	北摂Hypertension Expert Academy、平成22年11月27日 「拡張不全と睡眠時無呼吸症候群」 於 たかつき京都ホテル
13	臨床研究セミナー、平成23年4月21日 「臨床試験の常識・非常識-治験について」 於 大阪医科大学
14	臨床研究セミナー、平成23年5月18日 「臨床試験の常識・非常識-日常臨床との違い」 於 大阪医科大学
15	臨床心臓病研究会、平成23年5月21日 「動脈硬化性疾患に対する新たな治療戦略」 於 大阪医科大学
16	臨床研究セミナー、平成23年6月15日 「臨床試験：患者の権利について」 於 大阪医科大学
17	臨床研究セミナー、平成23年7月21日 「患者の権利について、メリットとデメリット、インフォームド・コンセン ト」 於 大阪医科大学
18	臨床研究セミナー、平成23年9月15日 「臨床研究コーディネーターの支援内容について」 於 大阪医科大学
19	高槻市民講座、平成23年10月27日 「健やかな未来のために：アンチエイジングと治験」 於 総合市民交流 センター
20	臨床研究セミナー、平成23年10月19日 「臨床研究コーディネーターの支援内容について」 於 大阪医科大学
21	臨床研究セミナー、平成23年11月17日 「治験における事務手続きについて」 於 大阪医科大学
22	第22回川西循環器病研究会、平成24年2月18日 「循環器疾患における睡眠時無呼吸症候群（SAS）の重要性」 於 川西医師 会館
23	第20回北摂四医師会骨・内分泌・代謝研究会、平成24年3月10日 「メタボリックシンドロームと睡眠時無呼吸症候群-循環器専門医からの提 言」 於 大阪医科大学看護学部
24	第141回北摂地域薬剤師交流研修会、平成24年7月14日 「アンチエイジングを念頭に入れた薬物療法の現状と未来」 於 大阪薬科大 学附属薬局
25	第63回大阪薬科大学公開教育講座、平成25年5月25日 「動脈硬化とアンチエイジング ～最新の薬物治療～」 於 梅田スカイビル
26	薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会 1、平成25年8月21日、28日 於 大阪薬科大学

27	薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会2、平成25年9月11日、18日 於 大阪薬科大学
28	薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会3、平成25年10月30日、11月6日 於 大阪薬科大学
29	成光薬品工業株式会社新春特別講演会、平成26年1月10日 「第1部：血圧に関する常識・非常識」 「第2部：アンチエイジングを考慮した薬物療法の実際」 於 成光薬品工業株式会社
30	薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会4、平成26年2月5日 於 大阪薬科大学
31	第8回北摂コラボレーションミーティング特別講演、平成26年2月22日 「低酸素ストレス応答を理解した薬物療法とアンチエイジング」 於 高槻 京都ホテル
32	薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会5、平成26年4月9日 於 大阪薬科大学
33	高槻市薬剤師会講演、平成26年4月19日 「薬剤師に必要なフィジカルアセスメントの基礎知識と実践」 於 高槻市総合保健福祉センター
34	薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会6、平成26年6月4日 於 大阪薬科大学
35	薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会7、平成26年9月10日 於 大阪薬科大学
36	薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会8、平成26年11月5日 於 大阪薬科大学
37	薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会9、平成27年2月4日 於 大阪薬科大学
38	大阪薬科大学学術講演会 in 東京、平成27年2月22日 「薬剤師に必要なフィジカルアセスメントの基礎知識と実践」 於 第一ホテル東京
39	薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会10、平成27年4月8日 於 大阪薬科大学
40	大阪薬科大学同窓会、平成27年5月31日 「薬剤師に必要なフィジカルアセスメントの基礎知識と実践」 於 ホテル グランヴィア大阪
41	薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会11、平成27年6月10日 於 大阪薬科大学
42	薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会12、平成27年9月9日 於 大阪薬科大学
43	薬剤師のためのフィジカルアセスメント講習会13、平成27年11月18日 於 大阪薬科大学

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 有機薬化学	職名 教授	氏名 春沢 信哉
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	H24年4月より 毎年	授業中に薬剤師国家試験の問題を取り上げ、学生に対して解答と解説を行う事で、授業と国試との関連性を明確にしている。	
	H24年10月より	有機化学系教科担当教員会議委員長として、全国の有機化学教育(講義、実習、研究)の活性化に向けての各大学の取り組みを調査、会議での討論を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
教科書：有機医薬品合成化学 ターゲット分子の合成(廣川書店)	H23年1月30日	6年制コアカリキュラムに沿った薬学生のための新しい教科書の作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
化学物質の安全取扱講演会	H21年4月より 毎年	5年次生に化学物質の安全取扱教育をケミカルハザード委員会で毎年4月に実施	
病院薬局訪問事前講演会とマナー教育講演会	H24年4月	早期体験学習のための講演会とマナー教育の実施	
企業訪問事前講演会と卒業生からの進路教育講演会	H24年9月	早期体験学習のための事前学習と卒業生からの進路指導のための講演会	
アムステルダム自由大学(VU Amsterdam)学生訪問時の学生国際交流講演会	H27年4月8日	VU Amsterdam study tour の責任者として両大学学生ための講演(Mitsunobu reaction in my chemistry)	
第10回有機化学系教科担当教員会議	H27年10月25日	有機化学系教科担当教員会議を会議を主催し、全国の有機化学教育(講義、実習、研究)の活性化に向けての各大学の取り組みを討論した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
公開授業と授業検討会の実施及び授業評価アンケートの改正	H24年	FD委員長として、公開授業と授業検討会の実施及び授業評価アンケートの改正、	
GPA制度の検討と見送りの提言	H24年	本学におけるGPA制度の適応性検討と見送りの提言	
アムステルダム自由大学(VU Amsterdam)学生訪問団のホスト校責任者	H27年4月8日	VU Amsterdam study tour の受け入れ側として、大学間の学生国際交流事業の実施	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書)有機医薬品合成化学 ターゲット分子の合	共著	平成23年1月	廣川書店
(論文) Synthesis of Novel C4-Linked C ₂ -Imidazole Ribonucleoside Phosphoramidite and Its Application to Probing the Catalytic Mechanism of a Ribozyme	共著	2009年	<i>J. Org. Chem.</i> , 74 , 2350-2356
(論文) Synthesis of novel tetrazole C5-linked C ₀ - and C ₂ -ribonucleoside Phosphoramidites Using MePOM and POM groups for probing RNA catalysis	共著	2012年	<i>Tetrahedron Lett.</i> , 53 , 5891-5894
(論文) Synthesis and evaluation of <i>N</i> -alkyl-S-[3-(piperidin-1-yl)propyl]isothioureas: High affinity and human/rat species-selective histamine H ₃ receptor antagonists	共著	2013年	<i>Bioorg. Med. Chem. Lett.</i> , 23 , 6415-6420

(論文) Synthesis of C4-linked C ₀ - and C ₂ -imidazole 2'-deoxyribonucleoside phosphoramidites and imidazole base pairing effects on DNA	共著	2014年	<i>Synthesis</i> , 46 , 2815-2825
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Conversion of alkynes from cyanophoshates via α -azidotetrazoles		2015年6月	16th Tetrahedron Symposium (Berlin, Ger.)
Novel Synthesis of Arylalkynes via α -Azidotetrazoles from Cyanophosphates		2015年7月	The 3rd International Symposium of Process Chemistry (Kyoto)
Synthesis of (+)-Pericosine E: Naturally Occurring Minor Enantiomer		2015年9月	13th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-13)
シアノホスフェートから α -アジドテトラゾールの生成とその反応性		2015年11月	第41回反応と合成の進歩シンポジウム
新規ヒスタミンH3受容体アンタゴニストの乳がん細胞増殖抑制作用		2015年11月	第33回メディシナルケミストリーシンポジウム
テトラゾールホスフェートのフラグメンテーション—シアノホスフェートからアルキンの生成—		2015年11月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
閉環メタセシスを鍵反応とする新規ピラゾール融合複素環化合物の合成		2015年11月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
抗腫瘍性海洋天然物 pericosine A のエナンチオマー組成について		2016年11月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
シアノホスフェートを経るケトンからアルキンへの変換反応		2016年3月	日本薬学会136年会
塩素原子欠乏型pericosine E 類縁体の合成		2016年3月	日本薬学会136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成18年10月～現在	日本薬学会近畿支部幹事		
平成24年11月～現在	Microwave Surgery 研究会幹事		
平成25年11月～現在	日本ヒスタミン学会幹事		
平成27年10月～現在	第10回有機化学系教科担当教員会議委員長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 生化学	職名 教授	氏名 福永 理己郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
・ 教育内容 担当科目			
京都大学医学部 (准教授)			
分子細胞生物学 (分担)		2010年4月	医学部3年次: 遺伝子工学, シグナル伝達
分子細胞生物学実習 (分担)		2010年4月	医学部3年次: 遺伝子工学実習
大阪薬科大学			
分子細胞生物学 (専担)		2011年~2014年	3年次後期: 生理活性分子と細胞内シグナル伝達
生物科学実習 (分担)		2011年~2015年	3年次前期: 生化学実験の基礎
薬学総合演習3 (分担)		2011年~2014年	6年次前期: 生理活性分子と細胞内シグナル伝達
人間と文化5 (分担)		2013年~2015年	2年次前期: 発生と分化, ゲノム科学と生命
早期体験学習1 (責任者)		2014年~2015年	1年次通年: 早期体験学習の企画と実施
・ 教育方法の工夫 分子細胞生物学 (専担)		2011年~2015年	空欄を設けたレジュメに重要語句・用語を記入させながら授業を行うことにより, 理解を深めさせる。
2 作成した教科書、教材、参考書 講義レジュメ		2011年~2015年	講義のスライドと同一内容のレジュメを作成し, 毎年, 新しい内容を加えて改訂している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬学教育者ワークショップ FD公開授業・授業研究会		2011年7月 2012年10月	受講者としてワークショップに参加した。 担当する分子細胞生物学の公開授業を行い, 教員による当該授業の研究会を設けた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Combined deficiency for Mnk1 and Mnk2 delays tumor development.	共著	2010年8月	Proc. Natl. Acad. Sci. USA 107, 13984-13990
Essential role of p400/mDomino chromatin-remodeling ATPase in bone marrow hematopoiesis and cell-cycle progression	共著	2010年9月	J. Biol. Chem. 285, 30214-30223
Essential role for Mnk kinases in Type II interferon (IFN γ) - signaling and its suppressive effects on normal hematopoiesis	共著	2011年	J. Biol. Chem. 286, 6017-6026
Sprouty proteins are negative regulators of interferon (IFN)-signaling and IFN-inducible biological responses	共著	2012年	J. Biol. Chem. 287, 42352-42360
Two-stage translational control of dentate gyrus LTP consolidation is mediated by sustained BDNF-TrkB signaling to MNK	共著	2014年11月	Cell Reports 9, 1430-1445
2. 学会発表 (平成27年度)		発表年・月	学会名
該当なし			
III 学会および社会における主な活動			
平成23年度~平成27年度	日本薬学会近畿支部委員		
平成26年12月~平成27年11月	日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 環境分子生理学	職名 教授	氏名 藤本 陽子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 衛生薬学(環境衛生) 衛生薬学実習 特別演習・実習(研究) 薬学総合演習(衛生)	現在まで 現在まで 現在まで 現在まで	2年次生に講義形式で実施している。ヒトが生態系の一員である意識づけを行い、衛生薬学の見地から生活環境、地球環境を衛る重要性を説明している。講義では社会的なトピックスを交えながら、興味を持たせるように努めている。毎年、授業評価アンケートを実施し、前年度の授業評価アンケートに記載された学生の意見を参考に講義内容や方法の改善に努めている。 3年次生に衛生試験法記載の環境試験法のうち衛生薬学分野で特に重要な項目の測定技法を教授している。実験手技の習得みならず、原理を理解させるよう努めている。6名程度を1グループとして、自ら考えさせること、衛生薬学関連講義のさらなる理解へと波及効果が期待できるように努めている。毎年、授業評価アンケートを実施し、前年度の授業評価アンケートに記載された学生の意見を参考に講義内容や方法の改善を行っている。 5~6年次生に衛生薬学分野の研究指導を行っている。分子生物学的実験手技の習得みならず、原理や研究テーマ理解のための文献紹介などを実施している。自ら考えさせること、実験結果の考察力を養うように努めている。毎年、学内、研究室内発表会を実施し、報告書を作成させることにより、プレゼンテーション能力などの養成に努めている。 6年次生に衛生薬学分野の内容の総復習を講義形式で実施している。卒業後の薬剤師国家試験を意識した内容とし、卒業生全員が衛生分野を高度に習得することを目指している。	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) FDのための公開授業(衛生薬学)	2013年度	複数の教員による講義評価、学生アンケート、授業研究会をもとに、講義方法の改善に努めた。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Hydrogen peroxide generated by xanthine/xanthine oxidase system represses the proliferation of colorectal cancer cell line Caco-2.	共著	2015年1月	J. Clin. Biochem. Nutr., 56, 15-19 (2015)
(論文) Monochloramine suppresses the proliferation of colorectal cancer cell line Caco-2 by both apoptosis and G2/M cell cycle arrest.	共著	2014年5月	Cell Biochem. Funct., 32, 188-193 (2014).
(論文) The involvement of mitogen-activated protein kinases in the 1 α ,25-dihydroxy-cholecalciferol-induced inhibition of adipocyte differentiation in vitro.	共著	2012年6月	J Nutr Sci Vitaminol., 58, 1-8 (2012).

(論文) Xanthine oxidase-derived reactive oxygen species mediate 4-oxo-2-nonenal-induced hepatocyte cell death.	共著	2010年12月	Toxicol Appl Pharmacol. 249(2):127-31 (2010).
(論文) Perfluorinated carboxylic acids inhibit cyclooxygenase pathway more potently than 12-lipoxygenase pathway in rat platelets.	共著	2010年10-12月	Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids. 83(4-6):225-8 (2010).
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
CatechinおよびTaxifolinはスーパーオキシドならびにペルオキシラジカルを選択的に消去する		2015年9月	フォーラム2015 衛生薬学・環境トキシコロジー
大腸癌細胞におけるQuercetinによる増殖抑制の作用機構の解析		2015年9月	フォーラム2015 衛生薬学・環境トキシコロジー
Vitamin E類縁体はCaco-2細胞に対するCurcuminの増殖抑制作用を増強する		2016年3月	日本薬学会 第136年会
Clozapineによる3T3-L1前駆脂肪細胞分化誘導作用の作用機序について		2016年3月	日本薬学会 第136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
昭和53年～現在まで	日本薬理学会 会員		
昭和54年～現在まで	日本薬学会 会員		
昭和57年～現在まで	日本脂質生化学会 会員		
昭和61年～現在まで	日本酸化ストレス学会 (旧、臨床フリーラジカル学会および日本過酸化脂質・フリーラジカル学会) 会員		
平成元年～現在まで	日本私立薬科大学協会 薬剤師国家試験問題検討委員会衛生薬学部会 委員		
平成元年3月～現在まで	日本薬理学会 評議員		
平成11年2月1日～平成25年3月31日	大阪府毒物劇物取扱者試験委員会 委員		
平成17年7月11日～現在まで	高槻市健康たかつき21推進ネットワーク会議 委員		
平成18年4月～現在まで	日本薬学会近畿支部 委員		
平成18年6月7日～現在まで	高槻市環境審議会 委員		
平成20年4月1日～平成24年3月31日	大阪府登録販売者試験委員会 委員		
平成20年4月1日～平成23年3月31日	大阪府立公衆衛生研究所 調査研究評価委員会 委員		
平成21年～現在まで	日本ビタミン学会 会員		
平成21年3月13日～現在まで	薬学教育協議会 衛生薬学担当教員会議 幹事		
平成21年8月7日～平成22年8月4日	高槻市食薬ネットワーク会議 (担当者)		
平成22年2月26日～平成23年3月	高槻市総合計画審議会 委員		
平成23年2月1日～平成25年1月31日	社団法人日本薬学会 代議員		
平成23年8月26日～平成25年3月31日	高槻市保健医療審議会 (食育) 委員		
平成27年4月1日～平成29年3月31日	薬学教育協議会 衛生薬学担当教員会議 委員長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 病態分子薬理学	職名 教授	氏名 松村 靖夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成21年4月～	使用テキストに加えて、講義用プリントを作成、配布し、液晶プロジェクターを有効活用しながら講義している。各講義では、最初の数分間は前回講義内容の概略を復習している。講義最終日には、まとめのプリントを配布し、試験対策を実施している。例年の学生授業評価において、これらプリント類は概ね好評である。
2 作成した教科書、教材、参考書 標準医療薬学 薬理学 (医学書院) 新薬理学テキスト第3版 (廣川書店)		平成21年4月 平成23年3月	第14章 子宮作用薬 第5章 平滑筋作用薬、第6章 利尿薬
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成26年11月	本学FD委員会主催の公開授業 (2年次生 薬理学1) を担当した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Postconditioning improves postischemic cardiac dysfunction independently of norepinephrine overflow after reperfusion in rat hearts: Comparison with preconditioning.	共著	平成22年1月	J. Cardiovasc. Pharmacol., 55 (1) 6-13.
(論文) Endothelin ETB receptor is involved in sex differences in the development of balloon injury-induced neointimal formation.	共著	平成23年2月	J. Pharmacol. Exp. Ther., 336 (2), 533-539.
(総説) Pathophysiological role of endothelin receptors in cardiovascular diseases.	共著	平成24年7月	J. Pharmacol. Sci., 119 (4), 302-13
(総説) Endothelin in coronary artery disease and myocardial infarction.	共著	平成25年3月	Cardiol. Rev., 21, 249-256.
(論文) Vasoprotective effects of an endothelin receptor antagonist in ovariectomized female rats.	共著	平成26年11月	Life Sci., 118 (2), 379-385.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Endothelin receptor antagonist protects against ischemia/reperfusion-induced acute kidney injury in male but not in female rats		2015年9月	14th International Conference on Endothelin
虚血性急性腎障害モデルラットにおける内皮依存性血管弛緩反応に関する検討		2016年3月	第89回日本薬理学会年会
ナリングениンの内皮依存性血管弛緩作用について		2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
昭和63年4月～現在	日本薬理学会学術評議員		
平成16年2月～現在	日本心脈管作動物質学会評議員		
平成18年4月～平成22年3月	日本薬理学会広報委員		

平成18年5月～現在	日本N0学会評議員
平成18年9月～現在	腎とフリーラジカル研究会組織委員
平成19年4月～平成22年3月	日本薬理学雑誌編集委員
平成21年9月、平成23年9月、平成25年9月	International Conference on Endothelin: International Scientific Advisory Committee
平成24年4月～平成26年3月	日本薬理学会総務委員
平成25年3月	Guest Associate Editor (Life Sciences, ELSEVIER)
平成26年4月～平成26年8月	日本薬理学会財務委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	薬物治療学
職名	教授	氏名	松村 人志
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成23年～ 平成23年 平成26年	科目「病態生理学演習実習」における実習に、フィジカルアセスメント、救急蘇生、TDM等、医療現場で活用されている手技に関する実習を導入した。また、同科目の演習においては、実際の医療現場における難解な症例を提示して、病態生理や薬物治療をグループで多角的に検索・検討する演習を導入した。この方針で今日まで継続しているが、新カリキュラムでは、実習部分は「早期体験学習2」として1年次で、演習部分は「病態・薬物治療学演習」として高学年で、それぞれ学習できるよう分離した。 カリキュラム委員会の委員に指名され、薬物治療学関連の講義量が本学では極端に少ない事実を指摘し、平成24年度からの新しいカリキュラムにおいては、薬物治療学関連の科目数を増やすことを認めていただいた。 新しいカリキュラム委員会の委員に指名され、基礎医学的知識に関する授業を早期に始めることで医療薬学全般の学習効率をよくし、さらに6年制の後半で薬物治療学のアドバンスト版を設置することで医療薬学領域の学習の深化を促す等の改革案を提示し、認めていただいた。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成23年～ 平成25年9月	上記の科目「病態生理学演習実習」における演習で使用する症例を毎年作成。平成23年度は3例、24年度と25年度はそれぞれ6例を作成した。26年度以降は他の教員との分担が進み、私が担当するのは3例となっている。 出版社（医学評論社）からの依頼で「イラストでみる疾病の成り立ちと薬物療法（小野寺憲治編集）」の「第5章 神経・精神疾患」の「てんかん」、「統合失調症」、「気分障害」、「アルツハイマー型認知症」、「脳血管性認知症」の項目を執筆。
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成25年9月20日	本学における公開授業研究会において、集められた教職員を対象に、自分が担当していた科目「人体の構造と機能」の授業方法についての考え方や、医療薬学領域の他の科目との関連や、それら科目の全体を通して医療薬学に関する教育成果を如何にして向上させるかについての考え方を披露した。
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成22年5月15日 平成25年度	本学の第54回公開教育講座において、「統合失調症の治療とケアの概要」との演題で主に薬剤師を対象に教育講演を行った。 『大学コンソーシアム大阪 平成25年度大学と連携した参加・参画型事業（若年層人権啓発事業）「医療の現場における人権意識の現在と医療人権教育について」（大阪市受託事業）』において、主たる研究参画者の一人として、研究室の学生達と共に、各種医療機関へのアンケート調査依頼や訪問によるインタビュー実施等によりデータを収集・検討し、結果をシンポジウムで発表し、さらに成果を報告書にまとめた。

	平成26年度	本学の公開教育講座委員会の委員長として、年3回の公開教育講座を開催し、加えて、新しくサテライトセミナーを企画した。前者は講演会形式で、1回あたり2~3名の講師に講演をいただき、毎回300~400名の参加者（主に薬剤師）があった。後者は、1回あたり約20名の薬剤師が参加し、講義・演習・実習を織り交ぜて各4時間セッションの4回シリーズで行った。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）主観的ウェルビーイング評価 Subjective well-being under neuroleptic drug treatment (SWN)	共著	平成23年7月	『精神医学キーワード事典』中山書店
（論文）精神科病棟看護師の諸葛藤の解析結果が示す精神科看護の現状とその改善のための方策	共著	平成24年5月	日本看護研究学会雑誌 (Vol. 35 No. 5)
（論文）入院中の統合失調症患者への集団認知行動療法の有効性に関する検討	共著	平成25年1月	『認知療法研究』日本認知療法学会（第6巻1号）
（論文）Inhibition of Ca ²⁺ -regulated exocytosis by levetiracetam, a ligand for SV2A, in antral mucous cells of guinea pigs	共著	平成25年9月	European J Pharmacol 721
（論文）PPAR α autocrine regulation of Ca ²⁺ -regulated exocytosis in guinea pig antral mucous cells: NO and cGMP accumulation	共著	平成26年10月	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 307
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
o-カルボキシフェニルフルオロンと鉄(III)によるヒ酸イオン測定法の開発について		2015年・5月	第75回 日本分析化学討論会
o-ブロモフェニルフルオロンとCo(II)を用いるポリアミンの吸光度定量法の開発		2015年・9月	日本分析化学会第63年会
エオシンとチタン(IV)を用いるニューキノロン系抗生剤の吸光度法の開発について		2015年・9月	日本分析化学会第63年会研究会
マイクロ波の非熱性効果が種々の培養癌細胞に与える影響		2015年・9月	第34回 microwave surgery 研究会
アルコール依存症に対するゾニサミドの影響		2015年・10月	平成27年度 アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会
治療抵抗性統合失調症に対するクロザピンの有効性について — 定量法に関する基礎的検討と考察 —		2015年・10月	第25回 日本臨床精神神経薬理学会
低温でのマイクロ波照射下での細胞の誘電率と生存率の関係		2015年・11月	第9回 日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム
有限要素法によるマイクロ波加熱下でのHL-60の電磁界及び温度分布挙動		2015年・11月	第9回 日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム
PPAR α modulation mediated via PI3K/Akt pathway of Ca ²⁺ -regulated exocytosis in antral mucous cells		2015年・11月	8 th Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies
胃幽門腺粘液細胞におけるPI3K/Aktを介したPPAR α 刺激性NOS1のリン酸化：Ca ²⁺ 調節性開口放出の増強		2016年・3月	第93回 日本生理学会大会
III 学会および社会における主な活動			
平成24年5月～平成27年3月	高槻市社会福祉審議会委員（平成24年6月より障がい者福祉専門分科会会長）		
平成27年4月～平成30年3月	高槻市社会福祉審議会委員（平成27年6月より障がい者福祉専門分科会会長）		
平成24、25、26年12月	高槻市保健福祉施設等施設整備庁内審査会出席		
平成24、25、27年度	本学の市民講座委員会委員長として、年2回の本学での市民講座をはじめ、高槻市との共同での講演会や子供を対象とした実習等の催しを行ってきた。		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	薬品分析化学
職名	教授	氏名	三野 芳紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成23年4月～ 各学期末	印象付けるため、講義で簡単な実験を見せている授業評価アンケートを行っている
2	作成した教科書、教材、参考書		特になし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特になし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Chemical degradation of polychlorinated biphenyls by the UV-Fe ²⁺ /Fe ³⁺ -H ₂ O ₂ system and its application for polychlorinated biphenyl-polluted electric insulating oil	共著	平成23年10月	J. Health Sci. vol.57 No.5
硫酸を用いた低温・低pH条件におけるUV-Fe ²⁺ /Fe ³⁺ -H ₂ O ₂ 系によるPCBsの化学分解	共著	平成24年1月	環境衛生工学研究 vol.25 No.1
Induction of Viable but Non-culturable (VBNC) State in Salmonella Cultured in M9 Minimal Medium Containing High Glucose	共著	平成26年10月	Biol. Pharm. Bull. vol.37 No.10
下水中の抗インフルエンザ薬成分を用いた疫学調査手法の検討	共著	平成26年2月	環境技術 vol.43 No.4
Amino acid sequences of ferredoxins from several species of genus <i>Ephedra</i>	共著	平成27年4月	Bull. Osaka Univer. Pharm. Sci. vol.9
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
治療抵抗性統合失調症に対するクロザピンの有効性について 一定量法に関する基礎的検討と考察		2015年10月	第25回日本臨床精神神経薬理学会
III 学会および社会における主な活動			
平成22年4月～現在に至る	日本薬学会 環境・衛生部会 食品成分試験法専門委員		
平成25年4月～現在に至る	日本薬学会 環境・衛生部会 食品成分試験法専門委員会委員長		
平成25年4月～現在に至る	日本薬学会 環境・衛生部会 試験法委員		
平成25年4月～現在に至る	衛生試験法・注解2015 編集幹事		
平成25年4月～現在に至る	日本分析化学会 近畿支部幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	臨床実践薬学教育
職名	教授(特任)	氏名	恩田 誠二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成25年度～ 平成26年度～ 平成27年度～	病院実務実習・薬局実務実習において「ふるさと実習」を導入実施した(H25年度より) 臨床導入実習-1.-2.(コミュニケーション項目) 薬学総合演習2(担当:実務-9) キャリアサポート(病院就職希望者に対する個別面談等を実施支援) 実務実習報告会(5,6年次生)を地域別に3会場に分け、学生主体の会として実施した 臨床導入実習のコミュニケーション項目では、学生に考えさせる姿勢を持たせるように取り組んだ 臨床導入実習のコミュニケーション項目では、ロールプレアの回数を増やし、多くの学生に模擬体験させた
2	作成した教科書、教材、参考書	平成26年3月 平成27年3月	平成26年度 臨床導入実習ノート(共著) 平成27年度 臨床導入実習1ノート(共著)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成23年10月1日	第21回 日本医療薬学会年会<ワークショップ> 体験してみよう! 輸液ライン設計とフィジカルアセスメント
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
	(論文)末期がん患者の消化管閉塞に対するオクトレチオド酢酸塩の使用経験ー経静脈投与法の効果の検討ー	共著	2010年10月
	(論文)フェンタニル貼付剤からのオピオイドローテーション、投与量の検討	共著	2011年5月
	2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
			癌と化学療法 2010.vol137 (P1991-1993)
			日本緩和医療学会雑誌 2011.vol15(P301-307)
			発表年・月
			学会名
III 学会および社会における主な活動			
2010年4月～2012年3月	兵庫県病院薬剤師会 理事		
2010年4月～2012年3月	兵庫県病院薬剤師会 西宮支部 支部長		
2014年4月～2015年3月	病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員会 委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	臨床実践薬学教育
職名教授(特任)	氏名		金 美恵子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成25年度～ 平成25年度～ 平成26年4月5日 平成27年4月4日 平成26年度～	病院実務実習・薬局実務実習において「ふるさと実習」を実施 キャリアサポート委員として、就職活動の対応を実施 病院・薬局実務実習報告会を地域別に3会場に分けて実施 臨床導入実習においてコミュニケーション項目にインスリン自己注射の指導方法を実施
2 作成した教科書、教材、参考書		平成26年3月 平成27年3月	臨床導入実習ノート(共著) 臨床導入学習1ノート(共著)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成19年4月～平成24年3月	神戸薬科大学非常勤講師・社会薬学Ⅲを担当		
平成19年4月～平成27年7月	神戸薬科大学同窓会大阪支部生涯研修企画委員		
平成25年9月29日	神戸薬科大学同窓会北陸支部総会・講演		
平成26年6月8日	神戸薬科大学同窓会北陸支部総会・講演		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	臨床実践薬学教育
職名	教授(特任)	氏名	小森 勝也
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成25年度～ 平成25年度～ 平成25年度～ 平成25年度～ 平成25年度～	臨床導入実習(4年次)において確認テスト(計数・水剤・散剤・軟膏)を実施。(調剤手技に係るスキルを強化するため) 実務実習(5年次)において「ふるさと実習」を開始(24名)。(地域偏住を少なく、かつ故郷での就職活動をも踏まえて) 病院・薬局実務実習報告会(5・6年次生参加)を3会場にて実施(5年次生により臨場感を体験してもらうため、会場を分散) キャリアサポート(病院就職希望の学生を対象に個別面談を実施) OSCE対策(薬学総合演習2にて、各課題における個別チェックを実施)
2	作成した教科書、教材、参考書	平成26年3月 平成27年3月	臨床導入実習1ノート(共著) 臨床導入学習1ノート(共著)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
	(論文)生体肝移植後の妊娠・出産におけるタクロリムスの投与設計	共著	平成22年
	(論文)Oxaplatin末梢投与における血管痛の原因と対策	共著	平成23年
	(論文)アミオダロン誘発性甲状腺機能低下症の発症頻度とその治療	共著	平成23年
	(論文)アミオダロン誘発性甲状腺機能低下症のリスクファクターについて	共著	平成23年
	(論文)抗HIV薬の懸濁時における安定性に関する検討	共著	平成24年
	2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月
			学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成21年11月～平成23年9月	全国国立病院薬剤部科長協議会 副会長		
平成22年1月～平成24年12月	近畿国立病院薬剤師会 会長		
	全国国立病院薬剤部科長協議会近畿地区 支部長		
	日本病院薬剤師会HIV感染症専門薬剤師部門研修委員会委員		
平成22年4月～平成25年3月	大阪薬業クラブ公益(助成)事業選考委員会 座長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	臨床実践薬学教育
職名	教授(特任)	氏名	鈴木 芳郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		平成23年5月15日	実務実習伝達報告会(発表10題+パネルディスカッション)を初めて開催した。
		平成24年3月23日	実務実習伝達報告会(発表20題)形式変更、また、白衣授与式を初めて開催した。
		平成24年5月24日	実務実習伝達報告会(ポスター発表27題)変更した。
		平成25年度	病院実務実習・薬局実務実習において「ふるさと実習」を実施するとともに、伝達報告会を地域別(3会場)に行った。
		平成26年度	臨床導入実習において調剤に係るスキルを強化するため確認テスト(無菌操作)を実施した
2 作成した教科書、教材、参考書		平成22年度	平成22年度臨床導入実習ノート(共著)
		平成23年度	平成23年度臨床導入実習ノート(共著)
		平成24年度	平成24年度臨床導入実習ノート(共著)
		平成25年度	平成25年度臨床導入実習ノート(共著)
		平成26年度	平成26年度臨床導入実習ノート(共著)
		平成27年度	平成27年度臨床導入実習ノート(共著)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成22年5月22日	大阪薬大市民講座「薬を安全に飲んでいただくためのくすりの話」
		平成22年10月28日	平成22年度明石市薬剤師会研修会「臨床導入実習の現状と課題」
		平成23年3月12日	第16回伊丹糖尿病フォーラム講演「臨床栄養と糖尿病」
		平成26年7月12日	165回北摂薬剤師交流研修会「熱中症対策に繋がる保険薬剤師に必要な輸液の話」
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成22.24.25.26年度	早期体験学習講義「病院薬剤師」担当
		平成23年9月	大学院後期講義「臨床栄養学」担当
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成22年4月～平成26年9月	病院・薬局実務実習近畿地区調製機構委員		
平成22年4月～平成26年9月	病院・薬局実務実習近畿地区調製機構大学小委員会委員		
平成22年4月～平成27年3月	日本静脈経腸栄養学会学術評議員		
平成22年4月～平成27年3月	日本静脈経腸栄養学会大柳治正学術振興アワード選考委員会委員		
平成27年4月～	大阪府薬剤師会代議員(教職支部)		
平成27年4月～	大阪府薬剤師会倫理に関する検討委員会委員長		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	臨床実践薬学教育
職名	教授(特任)	氏名	出開 豊子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年～	病院実務実習・薬局実務実習支援として施設訪問のみならず、各施設での発表会に可能な限り参加 実務実習困難者への対応
		平成24年～	就職支援
		平成24年～	病院・薬局実務実習報告会の実施。25年度からは地域別3会場に分けて実施。 白衣授与式を実施
		平成24年～	実務実習での情報を翌年度の臨床導入学習に反映
		平成25年～	「ふるさと実習」を実施
2 作成した教科書、教材、参考書		平成25年3月	臨床導入実習ノート (共著)
		平成26年3月	臨床導入実習ノート (共著)
		平成27年3月	臨床導入実習ノート (共著)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
			発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
2. 学会発表(評価対象年度のみ)			発表年・月
			学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成16年4月～平成24年3月	大阪府病院薬剤師会 代議員		
平成19年4月～平成24年3月	大阪府病院薬剤師会千里支部 監査		
平成20年4月～平成22年3月	大阪府下市立病院薬剤師会 会計幹事		
平成22年4月～平成23年3月	大阪府下市立病院薬剤師会 副会長		
平成23年4月～平成24年3月	大阪府下市立病院薬剤師会 監査		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 臨床実践薬学教育	職名 教授(特任)	氏名 新田 剛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成22年度～ 平成25年度～ 平成22年度～ 平成22年度～	病院実務実習・薬局実務実習訪問・指導 病院実務実習・薬局実務実習において「ふるさと実習」を実施した 実務実習終了後に「実務実習伝達・報告会」実施 臨床導入学習1(4年次生) 事業評価:実習レポートの提出,平成27年度から注射剤の無菌操作習得確認試験実施
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年3月～	臨床導入実習ノート(共著)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成22年10月31日	本学同窓会ホームカミングデー 特別講演「薬学6年制の5年時における病院並びに薬局実務実習について」
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成23年度～	6年次生病院就職相談(キャリアサポートからの日時指定)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可) 発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	臨床実践薬学教育
職名	教授(特任)	氏名	長谷川 健次
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成23年度～ 平成23年度～ 平成25年度～ 平成26年度～ 平成23年度～ 平成23年度～	病院実務実習・薬局実務実習学内報告会を実施した 京都府並びに滋賀県実務実習報告会参加並びに討論会参加 病院実務実習・薬局実務実習において「ふるさと実習」を実施した 臨床導入実習において調剤に係るスキルを強化するため確認テスト(計数・水剤・散剤・軟膏)を実施した 京都府並びに滋賀県下の病院に関する就職支援を実施 OSCE対策の実施(薬学総合演習2における学生個別対応)
2	作成した教科書、教材、参考書	平成24年3月 平成25年3月 平成26年3月	臨床導入実習ノート(共著) 臨床導入実習ノート(共著) 臨床導入実習ノート(共著)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成20年10月 平成21年10月	大阪府病院薬剤師会新採用研修会講演 大阪府病院薬剤師会新採用研修会講演
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)
			発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
2.	学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月
			学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成16年4月～平成23年3月	近畿国立病院薬剤科長協議会副会長		
平成21年4月～平成23年3月	京都府薬剤師会伏見支部理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 臨床実践薬学教育	職名教授(特任)	氏名 花山 加代子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成22年4月～	臨床導入学習1(旧臨床導入実習)臨床導入学習2(旧薬学総合演習2)においてコミュニケーション項目を担当。実務実習の事前学習として身だしなみ、マナー、態度を含めコミュニケーション能力の育成を行う。学習1、2において毎回臨床に則した課題を与えモールド・ディスカッション室で討論させ、自ら考え行動することを指導。問題解決能力を養う実践教育を行っている。
		平成23年5月	平成22年度実務実習報告会 講堂シホ・ジウム形式「実務実習伝達・報告会」企画、実施(講堂)
		平成24年5月	平成23年度実務実習報告会 D棟2Fホ・スタ発表「実務実習伝達・報告会」企画、実施(講堂)
		平成24年8月	第一回白衣授与式 企画、実施(講堂)
		平成24年11月	平成24年度大学院生・研究生実務実習報告会 企画、実施
		平成25年3月	平成24年度実務実習報告会・白衣授与式 企画、実施(講堂)
		平成25年11月	平成24年度大学院生・研究生実務実習報告会 企画、実施
		平成26年4月 平成27年4月	平成25年度実務実習報告会 3会場に分けて実施
		平成25年度～	実務実習「ふるさと実習」実施
		平成27年度	OSCEの第1、5領域のSP、SD教育と臨床導入学習2との円滑な連絡を図るためSP、SD教育に参加
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年度～平成26年度 平成27年度	臨床導入実習ノート(共著) 臨床導入学習1 ノート(共著)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成23年2月 平成23年6月 平成23年11月 平成27年10月	薬学協議会フォーラム(共立キャンパス)ポスター発表 三島ブロック(高槻、茨木、摂津)研修会 講演 茨木市薬剤師会 研修会 講演 岡山大学薬学部にて「実務実習事前教育」に関する講演
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成23、24年 平成26年5月 平成27年8月	キャリアサポート委員として就職支援を担当 認定実務実習指導薬剤師育成ワークショップのタスクフォースとして参加 オープンキャンパスにて調剤、注射剤混合を指導
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	臨床実践薬学教育
職名教授(特任)	氏名	脇條 康哲	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成25年度～ 平成25年度～ 平成26年4月5日 平成27年4月4日 平成26年度～ 平成26年度～	病院実務実習・薬局実務実習において「ふるさと実習」を実施 地方独立行政法人 大阪府立病院機構等に関する就職支援を実施 病院・薬局実務実習報告会を地域別に3会場に分けて実施 臨床導入実習において調剤に係るスキルを強化するため確認テスト(計数・水剤・散剤・軟膏)を実施 薬学総合演習2において監査項目をOSCEと同じ環境条件(ヘッドホンの使用)で実施
2	作成した教科書、教材、参考書	平成26年3月 平成27年3月	臨床導入実習ノート(共著) 臨床導入学習1ノート(共著)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文)パクリタキセルとワルファリンの相互作用に関する調査	共著	平成20年10月	日本病院薬剤師会雑誌, 44(10):1511-1514. 2008
(論文)クリニカルパス使用患者の増加と抗菌薬感受性の推移の関係について	共著	平成22年10月	日本病院薬剤師会雑誌, 46(10):1343-1347. 2008
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
虚血性急性腎障害におけるエンドセリン受容体拮抗薬の効果には性差が存在する		2015年3月	第88回日本薬理学会年会
Endothelin receptor antagonist protects against ischemia/reperfusion-induced acute kidney injury in male but not in female rats		2015年9月	14th International Conference on Endothelin
III 学会および社会における主な活動			
平成19年4月～平成25年3月	地方独立行政法人 大阪府立病院機構薬局長会会長		
平成22年4月～平成24年3月	社団法人大阪府病院薬剤師会理事・副会長		
平成22年4月～平成25年3月	社団法人大阪府病院薬剤師会第7支部支部長・公益法人制度検討委員会副委員長		
平成22年4月～平成25年3月	社団法人日本病院薬剤師会代議員・社団法人大阪府薬剤師会病診委員会委員		
平成22年4月～平成25年3月	大阪府薬剤師研修協議会委員		
平成22年4月～平成27年3月	社団法人大阪府薬剤師会学術委員会委員		
平成23年9月	一般社団法人日本病院薬剤師会通常総会副議長		
平成24年2月	一般社団法人日本病院薬剤師会臨時総会議長		
平成24年4月～	一般社団法人大阪府病院薬剤師会顧問		
平成25年4月～	病院・薬局実務実習近畿調整機構委員		

平成27年4月～	病院・薬局実務実習近畿調整機構副委員長
平成27年4月～	一般社団法人大阪府薬剤師会生涯研修委員会委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 循環病態治療学	職名 准教授	氏名 井尻 好雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 がんプロ E-learning 重篤副作用		平成27年3月23日	「がん治療薬における重篤副作用の考え方とその対策」の収録
2 作成した教科書、教材、参考書 実践処方例とその解説 第2版		平成26年5月1日	処方例に関する教科書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
大阪大学・がんプロ養成プロジェクト(文部科学省採択事業「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」)での講師	がんプロ合同研修会	平成25年9月8日	食道癌治療に使用される薬剤 支持療法や薬物相互作用
	第5回がんプロシンポジウム	平成26年2月23日	「がん化学療法における副作用情報の取り扱いについて」
	第6回がんプロシンポジウム	平成26年8月29日	「在宅医療における予測・予防の医療への挑戦」
	平成26年度合同フォーラム	平成27年1月29日	(がん薬物療法FD) 大学院教育シラバス作成
	第7回がんプロシンポジウム	平成27年2月15日	「保険薬局における薬物の副作用管理について(そのII)」
4 その他教育活動上特記すべき事項			特になし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Human Hepatocarcinoma Functional Liver Cell-4 Cell Line Exhibits High Expression of Drug-Metabolizing Enzymes in Three-Dimensional Culture.	共著	平成26年	Biol Pharm Bull 37, 1782-1787
(論文) Hydrogen gas attenuates embryonic gene expression and prevents left ventricular remodeling induced by intermittent hypoxia in cardiomyopathic hamsters.	共著	平成26年	Am J Physiol Heart Circ Physiol 307, H1626-H1633
(論文) The effect of capsaicin on circulating biomarkers, soluble tumor necrosis factor and soluble tumor necrosis factor-receptor-1 and-2 levels in vivo using lipopolysaccharide-treated mice.	共著	平成26年	Toxicology Reports 1, 1062-1067
(論文) Chronological changes in circulating levels of soluble tumor necrosis factor receptors 1 and 2 in rats with carbon tetrachloride-induced liver injury.	共著	平成26年	Toxicology 316C, 55-60
(論文) Influence of capsaicin on fluctuation of digoxin pharmacokinetics in lipopolysaccharide-treated rats.	共著	平成24年	Xenobiotica 42, 798-807
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Soluble tumor necrosis factor receptors 1 and 2 as novel biomarkers for drug-induced liver injury		平成27年5月23日-24日	JSTDM and IATDMCT Young Scientist Joint Symposium, 第32回日本TDM学会・学術大会、松本
シンポジウム2 炎症と周術期循環管理, 周術期における可溶性腫瘍壊死因子レセプター解析の意義と重要性		平成27年6月5-6日	第36回日本循環制御医学会総会、名古屋

LPS投与マウス及びRAW264細胞におけるCapsaicinの作用	平成27年6月5-6日	第36回日本循環制御医学会総会、愛知
ヒト肝がん細胞および macrophage化ヒト単球性白血病細胞の 3次元培養下でのhalogenated hydrocarbonesの 細胞障害性に関する検討	平成27年6月29-7月1日	第42回日本毒性学会学術年会、金沢
重篤副作用発現機序における皮膚免疫の関わり	平成27年7月4-5日	シンポジウム22 皮膚薬科学の魅力と拓かれる可能性、第23回クリニカルファーマシーシンポジウム医療薬学フォーラム2015
「保険薬局における薬物の副作用管理について(そのⅢ)—用量規制毒性DLTIについて—」	平成27年8月30日	第9回がんプロシンポジウム、がんプロ養成プロジェクト(文部科学省採択事業「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」)
THERAPEUTIC DRUG MONITORING OF ACETAMINOPHEN AND ITS GLUCURONIDE IN ACETAMINOPHEN INDUCED LIVER INJURY (Congress Poster Awards in the field of Clinical Toxicology)	October 11-15, 2015	14th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology 2015 (Rotterdam, the Netherlands)
CASPASE-3, -8, AND -9 ACTIVITIES IN CARBON TETRACHLORIDE, HALOTHANE, AND SEVOFLURANE-INDUCED LIVER INJURY	October 11-15, 2015	14th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology 2015 (Rotterdam, the Netherlands)
Acetaminophenとそのグルクロン酸抱合体血中濃度測定の意義	平成27年10月2-4日	第9回日本緩和医療薬学会年会、横浜
HPLCを用いたリバーロキサバンの血中濃度測定法の検討	平成28年3月28日	日本薬学会年会、横浜
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成10年4月～	日本病院薬剤師会医薬情報委員会・委員	
平成17年4月～	厚生労働省「重篤副作用対策事業ワーキンググループ委員」	
平成19年4月～21年3月	大阪医科大学・薬理学講座・非常勤講師	
平成19年4月～	日本循環制御医学会評議員	
平成19年4月～	日本循環制御医学会・編集委員	
平成20年4月～	日本TDM学会評議員	
平成20年4月～	研究成果最適展開支援事業専門委員	
平成21年4月～	日本循環制御医学会・理事	
平成23年4月～24年3月	第97回薬剤師国家試験委員	
平成24年4月～	文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン・委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	生化学
職名	准教授	氏名	井上 晴嗣
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・担当科目について	分子細胞生物学	2006年4月～ 2011年3月 2008年10月～	3年次科目 分子細胞生物学 2年次科目 生化学2
・授業方法の工夫	生化学2	2009年10月～	3年次科目 生体分子機能学 ホームページを作成し、授業で使った資料を公開するとともに、ホームページ上の掲示板で学生の質問などに答えた。また、分子生物学に関心を持ってもらうため、新聞等に載った科学記事についてのレポート課題を与えた。
	生体分子機能学		授業ではなるべくアニメーションを多用し、分子レベルで起こっている現象を、学生が目で見えて理解できるように工夫した。また、ホームページを作成し、授業で使った資料を公開するとともに、ホームページ上でオンラインテストや掲示板を利用できるようにした。また、授業期間の中間段階での学生の理解を深めるため、中間テストを行った。 毎回、バイオインフォマティクスに関する課題を与え、授業時間内にレポートを作成させた。人数が少ないため、マンツーマンで指導し、パソコンを用いて課題を提出させた。
2 作成した教科書、教材、参考書			
レーニンジャーの新生化学 (第5版)		2010年9月	Chap. 2 水
キャンベル・ファーレル生化学 (第6版)		2010年12月	Chap. 5 タンパク質の機能 Chap. 3 アミノ酸とペプチド Chap. 5 タンパク質の精製と特性解明のための技術
レーニンジャーの新生化学 (第6版)		2015年3月	Chap. 14 解糖、糖新生、およびペントースリン酸回路
生化学2 講義ノート、問題集、解答集		2008年10月～	講義教材として受講生に配布すると同時に http://www.geocities.jp/seika2oups/ にて公開
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
・公開授業 (2年次科目 生化学2)		2011年11月28日	FD活動の一環として学内教員に授業を公開
・高校模擬授業		2010年10月6日	育英西高校
		2011年11月16日	尼崎小田高校
		2012年7月11日	生野高校
		2014年10月6日	大阪市立東高校
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) The effect of dopamine agonists: The expression of GDNF, NGF, and BDNF in cultured mouse astrocytes	共著	2010年	J. Neurol. Sci. 291, 12-16

(論文) Up-regulation of the expressions of phospholipase A ₂ inhibitors in the liver of the venomous snake by its venom phospholipase A ₂	共著	2010年	Biochem. Biophys. Res. Commun. 395, 377-381
(論文) Transient signaling of Erk1/2, Akt and PKC γ induced by nerve growth factor in brain capillary endothelial cells	共著	2010年	Vasc. Pharmacol. 53, 107-114
(論文) Autologous extracellular cytochrome c is endogenous ligand for leucine-rich α_2 -glycoprotein and β -type phospholipase A ₂ inhibitor	共著	2010年	J. Biol. Chem. 285, 21607-21614
(論文) Inhibitory activities of the heterotrimer formed from two α -type phospholipase A ₂ inhibitory proteins with different enzyme affinities and importance of the intersubunit electrostatic interaction in trimer formation	共著	2010年	Biochim. Biophys. Acta 1804, 2121-2127
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
		該当なし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	薬剤学
		職名	准教授
		氏名	岩永 一範
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
短期間での効率的な学習内容の整理と反復学習による学習効果の改善（薬学総合演習2）		平成16年度～ 平成26年度	薬剤学関連領域について、これまでに修得した内容のまとめプリントを作成し、効率的に重要項目の復習をし、理解できるように工夫した。
短期間での効率的な学習内容の整理と反復学習による学習効果の改善（薬学総合演習3、4）		平成16年度～ 現在	薬剤学関連領域について、これまでに修得した内容のまとめプリントを作成し、効率的に重要項目の復習をし、理解できるように工夫した。
法律改正に対する迅速な教授内容変更による正確な知識定着への工夫（日本薬局方概論／日本薬局方総論）		平成20年度～ 平成23年度	平成23年4月の日本薬局方第16改正における製剤総則の大改正に授業内容、資料を速やかに変更し対応した
学習方略（資源）および評価法の改善による学習効果向上への工夫（基礎薬剤学）		平成20年度～ 平成23年度	教科書に準拠させた纏めプリントの作成、PPTの利用、課題による復習の利用等により学習効果を高めている。また独自の中間試験を導入し評価機会を増やすことにより学習効果を高めた。
学習方略（資源）の改善による学習効果向上への工夫（剤形設計学）		平成21年度～ 平成24年度	講義時に数多くの製剤実物を見せることにより、理解した内容の定着を図り教育効果を高めた。
学習方略（資源）の改善による学習効果向上への工夫（薬物動態学Ⅰ）		平成25年度～ 現在	教科書に準拠させた纏めプリントの作成、PPTの利用、課題による復習の利用等により学習効果を高めている。
シラバスの改善と法律改正に対する迅速な教授内容変更による正確な知識・技能習得への工夫（薬剤学実習）		平成4年度～ 現在	常に実習内容を見直し、特に日本薬局方第16改正における製剤総則の大改正時には、実習内容を速やかに変更し、遅延なく対応した実習を行った。
綿密な学習目標の設定による学習効果改善への工夫（特別演習・実習1、2）		平成4年度～ 現在	学部生による学会発表を行わせることにより、研究内容のより深い理解と研究の楽しさを伝えられるよう工夫している。
学習方略の改善による学習効果向上への工夫（特別演習（PBL））		平成23年度～ 現在	大学院前期博士課程対象に本学におけるPBLの立ち上げを行い、より効果的な学習方法の取り入れと実践に努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書			
CBT対策と演習 薬剤学2－製剤学－		平成21年3月	薬学教育研究会編（廣川書店）
広義 薬物動態学		平成21年3月	第1章「吸収」、第2章「分布」掛見 正郎編（京都廣川書店）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
FD委員		平成25年4月～ 現在	授業アンケートの作成、公開授業研究会、FD講演会への参加を通して学習効果の改善に努めている。
国家試験対策委員		平成16年4月～ 現在	より高い国家試験合格率を目指して、効果的・効率的な学習が行えるよう努めている。
OSCE実施委員		平成21年度～ 現在	円滑にOSCEが実施されるための計画、立案、実施に努めるとともに、模擬患者の演技指導のための講習会を2か月に1回程度担当している。
第31回薬剤師のためのワークショップin近畿		平成21年5月4日	タスクフォースとして参加
第38回薬剤師のためのワークショップin近畿		平成21年9月21日	タスクフォースとして参加
第45回薬剤師のためのワークショップin近畿		平成22年3月14日	タスクフォースとして参加
第49回薬剤師のためのワークショップin近畿		平成22年9月20日	タスクフォースとして参加

第57回薬剤師のためのワークショップin近畿	平成23年9月19日	タスクフォースとして参加
第60回薬剤師のためのワークショップin近畿	平成24年4月30日	タスクフォースとして参加
第65回薬剤師のためのワークショップin近畿	平成25年3月10日	タスクフォースとして参加
第66回薬剤師のためのワークショップin近畿	平成25年4月29日	タスクフォースとして参加
第72回薬剤師のためのワークショップin近畿	平成26年5月4日	タスクフォースとして参加
第75回薬剤師のためのワークショップin近畿	平成26年11月9日	タスクフォースとして参加
指導薬剤師資質向上のためのタスクフォーススキルアップ研修	平成26年12月28日	受講生として参加
第76回薬剤師のためのワークショップin近畿	平成27年2月22日	タスクフォースとして参加
指導薬剤師資質向上のためのタスクフォーススキルアップ研修in関東	平成27年7月4日	受講生として参加

II 研究活動

1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Furanocoumarin derivatives in Kampo extract medicines inhibit Cytochrome P450 3A4 and P-glycoprotein.	共著	2010年8月	Drug Metabolism & Disposition, vol. 38 No. 8
(論文) Application of organogels as oral controlled release formulations of hydrophilic drugs.	共著	2012年1月	International Journal of Pharmaceutics, vol. 436 No. 1-2
(論文) Time-dependent changes in hepatic and intestinal induction of cytochrome P450 3A after administration of dexamethasone to rats.	共著	2013年9月	Xenobiotica, vol. 43 No. 9
(論文) Quantitative analysis of the effect of triglyceride alkyl-chain length on the partitioning of highly lipophilic compounds to the mesenteric lymph in intestinal cells.	共著	2014年7月	Archives of Pharmacol Research, vol. 37 No. 7
(論文) Enhancing mechanism of intestinal absorption of highly lipophilic compounds using microemulsion -Quantitative analysis of the partitioning to the mesenteric lymph in intestinal cells-	共著	2015年6月	Asian Journal of Pharmaceutical Sciences, vol. 10 No. 3
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ヒト肝由来HepG2細胞におけるBODIPY® FL C16の細胞内取り込みに及ぼすアルブミン共存の影響		2015年5月	日本薬剤学会第30年会
茶葉飲料—ドネベジル塩酸塩混合時において形成される複合体に関する研究		2015年5月	日本薬剤学会第30年会
インスリンのパルス状投与による血糖低下効果増大の要因		2015年5月	第32回日本TDM学会・学術大会
フェキソフェナジン塩酸塩の消化管吸収性変化に関する検討—リンゴジュースでの服用による溶解性変化の影響—		2015年10月	第65回 日本薬学会近畿支部総会・大会
ヒト腎近位尿細管上皮細胞株におけるアルブミン誘発BCRP 輸送活性の上昇：脂肪酸の関与		2015年10月	第65回 日本薬学会近畿支部総会・大会
Reduced solubility of fexofenadine hydrochloride by mixing with apple juice		2015年10月	2015 AAPS Annual Meeting and Exposition
腎近位尿細管上皮細胞におけるBCRPおよびP-糖タンパク質活性性及び脂肪酸結合アルブミンの影響		2015年11月	日本薬物動態学会第30回年会
リンゴジュース中におけるフェキソフェナジン塩酸塩の溶解性に関する検討		2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
腎近位尿細管上皮細胞におけるHIF-1活性化に伴うBCRP機能亢進と薬剤性細胞障害に及ぼす影響		2016年3月	日本薬学会第136年会
シベンゾリンの低血糖作用に及ぼすロサルタン併用の影響		2016年3月	日本薬学会第136年会

III 学会および社会における主な活動

平成20年4月～平成22年3月	日本薬剤学会英語セミナー西地区委員長
平成22年4月～平成24年3月	日本薬剤学会英語セミナー西地区委員
平成23年2月～平成25年1月	日本薬学会代議員

平成26年1月～現在	日本薬物動態学会評議員
平成26年4月～現在	日本薬剤学会評議員
平成26年4月～現在	日本薬剤学会「薬剤学」投稿論文審査委員会委員
平成27年4月～現在	日本薬剤学会経口吸収フォーカスグループ執行部委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	薬品物理化学
職名	准教授	氏名	尹 康子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
	・担当科目について 化学演習（1年次科目）	2010年～現在	プリントを配布し、化学計算を中心に演習形式で授業を進め、理解度を確認するために小テストを実施している。学生の授業評価（アンケート）に基づき、講義の改善に努めている。
	物理・放射化学実習（2年次科目）	2010年以前～現在	薬学における物理化学と放射化学の基本的な重要事項についての知識と技能の修得を目的とし、数名のグループに分かれて実験を行っている。実習内容が薬学においてどのような位置づけにあるかを理解できるように説明を心掛け、特に国家試験に頻出される項目に関しては繰り返し説明を行っている。毎時間、実験結果のディスカッションを実施し、実習項目の理解の向上に努めている。平成26年度の評価は概ね良好であった。
	化学（1年次科目）	2012年～現在	高校で学んだ復習、大学における化学系専門科目を学ぶうえで必要不可欠なより高度な知識の習得を目指し教科書、配布プリントを用いて講義を行っている。必要に応じて演習、小テストを実施している。学生の授業評価（アンケート）に基づき、講義の改善に努めている。
	物性化学（3年次科目）	2013年	既に履修している物理系科目の項目を復習しながら、具体的な物質の物性や状態変化を算出できる技能の修得を目的とする。プリントを配布し、講義形式で授業を行った。
	物理化学3（2年次科目）	2013年～現在	物質の性質や変化などの物理的性質を通して、薬の体内での働きを理解することを目的とし、物質の反応速度などについての知識の修得を目指している。プリントを配布し、物理化学系への科目に興味を持てるよう意識しながら講義形式で授業を行っている。
	構造生物学特論（大学院科目）	2010年～現在	X線結晶構造解析法の実例として、主に生理活性ペプチドや機能性有機分子などの低分子化合物の構造解析を中心として、パワーポイントを用いた講義、解析に用いるアプリケーションの演習、回折計を用いたデータの測定デモ等、実施している。
	分子構造・機能解析学特論（大学院科目）	2013年～現在	生理活性ペプチドや修飾ペプチドのNMR法及び、X線結晶構造解析法を用いた立体構造解析と生理活性との相関性について考察する。パワーポイントを用いて講義を実施している。
2	作成した教科書、教材、参考書		
	物理・放射化学実習テキスト	2010年以前～現在	第1～第6項目
	物理化学3講義プリント	2013年～現在	第3～第6項目
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項		
	・FD委員会 委員	2011, 2012年	FD委員会の委員として公開授業、授業検討会の準備、実施に参画しました。
	・早期体験学習1委員会 委員	2014, 2015年	早期体験学習委員会の委員として講演会、マナー教育講演会、進路指導講演会の準備及び実施に参画しました。
	・FD委員会主催公開授業検討会	2013年6月19日	「化学・化学演習」公開授業
	・高校模擬授業	2008年12月15日	大阪学芸高校

	2009年7月17日	帝塚山学院高校
	2010年10月16日	京都精華女子高校
	2011年7月14日	大阪府立住吉高校
	2012年12月19日	大阪府立狭山高校
II 研究活動		
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）
CH- π interaction in VQIVYK sequence elucidated by NMR spectroscopy is essential for PHF formation of tau	共著	2014年3月
C-H... π interplay between Ile308 and Tyr310 residues in the third repeat of microtubule binding domain is indispensable for self-assembly of three- and four-repeat tau	共著	2012年5月
A conserved motif within the flexible C-terminus of the translational regulator 4E-BP is required for tight binding to the mRNA cap-binding protein eIF4E.	共著	2012年1月
Identification and function of the second eIF4E-binding region in N-terminal domain of eIF4G: Comparison with eIF4E-binding protein	共著	2011年9月
Structural scaffold for eIF4E binding selectivity of 4E-BP isoforms: crystal structure of eIF4E binding region of 4E-BP2 and its comparison with that of 4E-BP1	共著	2011年6月
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月
エリンギ (Pleurotus eryngii) 子実体のergostane型ステロイド		平成27年9月
エリンギ (Pleurotus eryngii) 子実体に含まれる新規ergostane型ステロイド		平成27年9月
臨床分離株 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799 由来シデロフォア結合タンパク質 VatD のシデロフォア結合機構の解明		平成27年10月
臨床分離株 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799 由来シデロフォア結合タンパク質 VatD とシデロフォアとの相互作用解析		平成28年3月
III 学会および社会における主な活動		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 有機薬化学	職名 准教授	氏名 宇佐美 吉英
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 有機化学 1, 2 基礎有機化学実習 薬学総合演習	平成19年～ 平成19年～ 平成19年～	試験による厳格な評価、表形式の出席簿による代筆防止 できる限り手を出さず、どうすれば成功するか考えさせる 演習問題集プリント、重点項目の徹底講義	
2 作成した教科書、教材、参考書 基礎有機化学問題集 第8章(廣川書店) 基礎有機化学実習、有機化学実習テキスト	平成25年3月20日 平成18年	丁寧な反応機構記述からより良い理解を心掛けた 2段組でメモが取れるスペースを作る	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD活動	平成25年4月～ 平成24年6月3日 平成19年12月1日	FD委員 FD公開授業担当(有機化学2) FD公開授業担当(有機化学1)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Synthesis of Marine-Derived Carbasugar Pericosines	単著	2014年	Pergamon Science Publishers, Studies in Natural Products Chemistry (vol. 41)
基礎有機化学問題集	共著	2013年3月	廣川書店
Synthesis of Marine Natural Product (-)-Pericosine E	共著	2014年7月	Organic Letters (vol.16・No.14)
Divergent synthesis of withsomnines via synthesis of 4-hydroxy-1 <i>H</i> -1- tritylpyrazoles and Claisen rearrangement of their 4- <i>O</i> -allylethers	共著	2011年8月	Tetrahedron Letters (vol.52・No.34)
Facile and Efficient Synthesis of Naturally Occurring Carbasugars (+)-Pericosines A and C.	共著	2009年7月	Organic Letters (vol.11・No.12)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Conversion of alkynes from cyanophosphates via α -azidotetrazoles		平成27年6月	16th Tetrahedron Sumposium
Novel Synthesis of Arylalkynes via α -Tetrazoles from Cyanophosphahtes		平成27年7月	第三回国際プロセス化学シンポジウム
テトラゾールホスフェートのフラグメンテーション—シアノホスフェートからアルキンの生成—		平成27年10月	第65回日本薬学会近畿支部大会
抗腫瘍性海洋天然物 pericosine A のエナンチオマー組成について		平成27年10月	第65回日本薬学会近畿支部大会
閉環メタセシスを鍵反応とする新規ピラゾール融合複素環化合物の合成		平成27年10月	第65回日本薬学会近畿支部大会
シアノホスフェートから α -アジドテトラゾールの生成とその反応性		平成27年10月	第41回反応と合成の進歩シンポジウム
Synthesis of (+)-Pericosine E: Naturally Occurring Minor Enantiomer		平成27年11月	13th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-13)
新規ヒスタミンH3受容体アンタゴニストの乳がん細胞増殖抑制作用		平成27年11月	第33回メディスナルケミストリーシンポジウム

海洋天然物を中心とする生理活性化合物の全合成研究	平成27年12月	第13回有機合成化学協会関西支部賞受賞講演会
Pericosine E 類縁体の合成とグルコシダーゼ評価	平成28年3月	日本薬学会第136年会
シアノホスフェートを経るケトンからアルキンへの変換反応	平成28年3月	日本薬学会第136年会
塩素原子欠乏型 pericosine E 類縁体の合成	平成28年3月	日本薬学会第136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成20年12月～	Marine Drugs 誌編集委員	
平成21年10月	Marine Drugs 誌 Special issue "Synthesis around Marine Natural Products" Guest Editor	
平成27年12月	第13回有機合成協会関西支部賞	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	病態分子薬理学
職名	准教授	氏名	大喜多 守
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	平成19年4月～ 平成19年4月～ 平成21年4月～	薬理学実習（3年生必修）組織・器官・個体を用いた薬物の作用について、実験を通じて指導する。 薬理学4（4年生薬学科必修、薬科学科選択）薬理学1～3で学習してきた事項をもとに、ホルモン関連薬・代謝性疾患治療薬・化学療法薬に着目した薬理学的知識を教授する。 薬学英语（4年生必修）化学・薬学英语の基本的な事柄から専門学術論文の講読まで、様々な観点から薬学英语の基本知識と技能を教授する。
2	作成した教科書、教材、参考書		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成24年5月	本学FD委員会主催の公開授業（4年次生 薬理学4）を担当した。
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可） 発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
	(論文) Endothelin ETB receptor is involved in sex differences in the development of balloon injury-induced neointimal formation.	共著	平成23年2月 J. Pharmacol. Exp. Ther., 336, 533-539.
	(総説) Pathophysiological roles of endothelin receptors in cardiovascular diseases.	共著	平成24年7月 J. Pharmacol. Sci., 119, 302-313.
	(論文) Reduced NO production rapidly aggravates renal function through the NF- κ B/ET-1/ETA receptor pathway in DOCA-salt-induced hypertensive rats.	共著	平成24年10月 Life Sci., 91, 644-650.
	(論文) Role of superoxide production in post-ischemic cardiac dysfunction and norepinephrine overflow in rat hearts.es.	共著	平成25年7月 Eur. J. Pharmacol., 711, 36-41.
	(論文) Vasoprotective effects of an endothelin receptor antagonist in ovariectomized female rats.	共著	平成26年11月 Life Sci., 118, 379-385.
2.	学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月 学会名
	Endothelin receptor antagonist protects against ischemia/reperfusion-induced acute kidney injury in male but not in female rats		2015年9月 14th International Conference on Endothelin
	虚血性急性腎障害モデルラットにおける内皮依存性血管弛緩反応に関する検討		2016年3月 第89回日本薬理学会年会
	ナリンゲニンの内皮依存性血管弛緩作用について		2016年3月 日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
平成20年4月～現在		日本薬理学会学術評議員	

平成21年6月～現在	日本薬学会薬理系薬学部会若手世話人会
平成24年9月1日	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2012実行委員長

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 生体機能診断学	職名 准教授	氏名 大桃 善朗
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
・ 担当科目	2006年4月～現在	1 年次科目	化学
	2012年4月～現在	1 年次科目	化学演習
	2007年4月～現在	2 年次科目	放射化学
		3 年次科目	応用放射化学
	2004年4月～現在	1 年次科目	基礎薬学実習
	2007年4月～現在	2 年次科目	物理・放射化学実習
・ 授業方法の工夫	2012年4月～現在	「化学」「化学演習」では、他の教員の協力を得て、1学年の学生を8クラスの少人数クラスに分けて講義演習を実施している。さらに、8クラス中2クラスは成績下位者を選抜し、成績の底上げに努めている。	
	2007年4月～現在	「放射化学」「応用放射化学」では、放射化学的物理現象や画像診断法について、理解を深めてもらうよう静止画のみならず動画教材を積極的に導入している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2011年	New放射化学・放射薬品学第2版、第7章放射性医薬品（廣川書店）	
	2011年	新放射化学・放射性医薬品学改訂第3版、第7章放射性医薬品（南江堂）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Monitoring of gefitinib sensitivity with radioiodinated PHY based on EGFR expression.	共著	2014年3月	Biol. Pharm. Bull., 37(3), 355-360.
(論文) Synthesis and evaluation of (-) - and (+)-[¹¹ C]galanthamine as PET tracers for cerebral acetylcholinesterase imaging.	共著	2014年1月	Bioorg. Med. Chem., 22(1), 285-291.
(論文) Relationship between uptake of a radioiodinated quinazoline derivative and radiosensitivity in non-small cell lung cancer.	共著	2014年4月	Am. J. Nucl. Med. Mol. Imaging, 4(4), 293-302.
(論文) A useful EGFR-TK ligand for tumor diagnosis with SPECT: development of radioiodinated 6-(3-morpholinopropoxy)-7-ethoxy-4-(3'-iodophenoxy) quinazoline.	共著	2013年5月	Ann. Nucl. Med., 27(5), 431-443.

(論文) Novel design and synthesis of a radioiodinated glycolipid analog as an acceptor substrate for N-acetylglucosaminyltransferase V.	共著	2013年11月	J. Label Compd. Radiopharm., 56(11), 562-572.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
肺癌治療薬の効果予測を目的とする新規エルロチニブ誘導体の合成と基礎評価		2016年3月	日本薬学会第136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 臨床実践薬学	職名 准教授	氏名 恩田 光子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
<p>1 教育内容・方法の工夫</p> <p>○薬事関連法・制度：4年次生を対象として、法と倫理の関連、医事・薬事関連各法規の目的・意義及び内容について講義を展開している。</p> <p>○コミュニティファーマシー：4年次生を対象に、実務実習事前学習科目の1つとして、医薬分業体制、地域薬局の役割・薬剤師の職能に焦点を合わせた内容を厳選し講義を展開している。</p> <p>○事前学習科目（臨床導入学習：4年次生対象）：実務実習現場での実情に合わせて、これの準備学習として最適となるよう実施項目（内容）の毎年度の見直しを行っている。</p> <p>○臨床薬学統合演習：6年次生を対象としたオムニバス形式の演習で、主にアドバンス教育として、「薬剤経済学の基礎と臨床現場への応用」について、ケーススタディを取り入れた演習を担当している。</p>	<p>毎年度4月～</p> <p>毎年度9月～</p> <p>毎年度4月～</p> <p>毎年度6月～</p>	<p>法規の講義は無味乾燥になりがちであるため、各回のメインテーマを整理するための、ワークシート形式のオリジナル教材（プリント）を使用し、加えて時事問題や臨床現場との意味づけなど具体的事例を極力盛り込み、理解の向上に努めている。</p> <p>地域包括ケアシステム構築の柱となる在宅医療、セルフメディケーション、生活習慣病の管理・支援に豊富な実務経験を有する外部講師を適時招聘し、臨場感ある講義と、学生との双方向での交流を重視した講義を展開している。</p> <p>主にコミュニケーション及びEBM教育を担当している。病院及び地域薬局において遭遇するであろう臨場感あるシナリオに基づくSGD形式の事例検討と、学内で養成している模擬患者を相手にしたロールプレイなどを取り入れている。</p> <p>演習問題は、薬剤経済学分野の教育が進んでいるオーストラリアのアニューキャッスル大学薬学部において活用されているテキストを参考に作成している。</p>	
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>グラフィックガイド 薬剤師の技能-理論まるごと実践へ-, 京都廣川書店, 京都</p> <p>わかりやすい薬事関係法規・制度, 廣川書店, 東京 (2013年改訂2版)</p> <p>Developing pharmacy practice - A focus on patient care- HANDBOOK-2006 Ed. World Health Organization, International Pharmaceutical Federation 薬剤師業務のさらなる展開～患者中心のケアを目指して～2006年版ハンドブック, メディカルドウ, 東京</p> <p>詳説 薬剤経済学 - 限られる社会資源から最高の医療を (2013年改訂第2版), 京都廣川書店, 京都</p> <p>薬事法規・制度・倫理マニュアル (2015年改訂12版), 南山堂, 東京</p> <p>薬学テキストシリーズ 医薬品情報学ワークブック, 朝倉書店, 東京</p> <p>『臨床導入実習ノート』 (毎年度の改訂版)</p>	<p>2009年8月30日</p> <p>2009年11月25日</p> <p>2011年1月15日</p> <p>2011年8月28日</p> <p>2013年4月1日</p> <p>2015年4月10日</p> <p>2009～2014年4月</p>	<p>本学事前学習（4年次）の教科書</p> <p>薬事関連法・制度（4年次）の参考書</p> <p>臨床薬学統合演習（6年次）の参考書</p> <p>コミュニティファーマシー（4年次）の教科書、臨床薬学統合演習（6年次）の教科書</p> <p>薬事関連法・制度（4年次）の教科書</p> <p>医薬品情報評価学（新カリキュラム6年次）の教科書として使用予定</p> <p>本学事前学習（4年次）の教科書</p>	
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>2013年セルフメディケーション財団助成事業「薬剤師および薬学生を対象とした健康行動理論に基づくOTC販売教育プログラムの開発とその効果の検証」</p> <p>ファーマシスト・サイエンティストの育成を目指して「患者本位の業務がもたらすアウトカムを可視化できる人材を育成するために」</p> <p>「セルフメディケーション-明日から薬局で使える！OTC薬の知識とスキルを身につける：風邪様症状編」</p>	<p>2014年4月</p> <p>2014年8月</p> <p>2015年1月</p>	<p>ワークショップ「かぜ薬選択をケーススタディで学ぶ～薬剤知識と行動理論をベースとして」(講演:滋賀県薬剤師会)</p> <p>第5回日本アブライド・セラピューティクス学会学術大会 シンポジウム3(講演:神戸)</p> <p>日本プライマリ・ケア連合学会 プライマリ・ケア認定薬剤師研修会(講演:大阪)</p>	
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>①模擬患者（SP）の養成</p>	<p>2008年4月～</p>	<p>4年次のコミュニケーション教育、OSCE対応のため、「大阪薬科大学SP会」を発足し、模擬患者養成講習会を月1回の頻度で継続している。</p>	

②OSCEの運営・実施	2010年～	OSCE実施責任者として準備・実施を担当している。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Factors Related to Medication Adherence of Cognitively Impaired Patients in Community Pharmacy.	共著	2012年12月	Pharmacology & Pharmacy (Vol. 3・No. 3)
（論文）Preliminary Study about the Relationship between Workload and the Outcomes of Community Pharmacists' Home Visiting Service.	共著	2013年12月	Japanese Journal of Social Pharmacy (Vol. 32・No. 2)
（論文）An Attempt at Objective Evaluation of the Current Situation of Concomitant Drug Use for Dementia Outpatients at Community Pharmacies.	共著	2014年2月	Japanese Journal of Drug Informatics (Vol. 15・No. 4)
（論文）Identification and prevalence of adverse drug events caused by potentially inappropriate medication in homebound elderly patients: a retrospective study using a nationwide survey in Japan.	共著	2015年6月	BMJ Open (2015;5:8 e007581 doi:10.1136/bmjopen-2015-007581)
（論文）Effectiveness of Pharmacists' Comprehensive Assessment of Medication Profiles in Dementia Patients.	共著	2015年9月	YAKUGAKU ZASSHI (Vol. 135・No. 9)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
病院・薬局から見た医療用医薬品卸の機能に関する実証研究		2016年3月	日本薬学会第136年会，横浜
薬局におけるセルフメディケーション関連業務の実施状況①～かぜ様症状への対応に着目して～		2016年3月	日本薬学会第136年会，横浜
Relationship between Community Pharmacy Attribution and Patient's Outcomes in Healthcare Service of Home-visiting		2015年11月	ISPOR 18th Annual European Congress, Milan, Italy
Effect of Intervention by Community Pharmacists on Awareness of Continuing Treatment among Patients with Hypertension		2015年11月	ISPOR 18th Annual European Congress, Milan, Italy
「禁煙支援推進」に向けた課題抽出のための実態調査		2015年11月	第25回日本医療薬学会年会，横浜
混合研究法による慢性疾患患者の服薬態度と処方医や薬局に対する評価の関連性		2015年9月	国際混合研究法学会 アジア地域会議／第1回日本混合研究法学会，大阪
薬局におけるファーマシューティカルケアに対する患者の評価と自己効力感に関する実証研究（その1）～糖尿病に着目して～		2015年7月	日本社会薬学会第34年会，熊本
医薬品服用時の飲水量調査結果がもたらす服薬指導への有用性		2015年6月	第18回医薬品情報学会総会・学術大会，岡山
経口剤の吸収に及ぼす飲水量の影響：（1）実態調査		2015年5月	日本薬剤学会第30年会，長崎
薬局薬剤師による生活習慣改善支援による降圧効果：クラスターランダム化比較試験COMPASS-BPのスタディデザイン		2015年5月	第58回日本糖尿病学会年次学術集会，下関
III 学会および社会における主な活動			
平成19年4月～平成20年3月	日本病院薬剤師会学術第9小委員会・委員		
平成21年4月～平成23年3月	日本病院薬剤師会学術第5小委員会 特別委員		
平成24年4月～現在	文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン・委員		
平成25年4月～現在	日本薬局学会評議員・研究倫理審査委員・編集委員		
平成26年4月～現在	薬剤師国家試験委員（厚生労働省）		
平成26年6月～現在	大阪府薬局健康情報拠点推進協議会委員		
平成26年6月～現在	日本プライマリ・ケア連合学会薬剤師認定制度委員会・協力委員		
平成27年2月～現在	大阪府薬剤師会出版企画委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	薬物治療学
職名	准教授	氏名	幸田 祐佳
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
①フィジカルアセスメントモデルを用いた「病態生理学演習実習」および「早期体験学習2」		平成23年4月～ 現在	バイタルサインやフィジカルアセスメントに関する体験学習を行っている。医療用モデル(フィジコ)の病態を把握し、フィジカルアセスメントにより得られた情報から、くすりの作用と副作用、薬物治療効果を評価できるような学習を目指している。
②「薬物治療学3」「薬物治療学演習」		平成23年4月～ 現在	各種疾病の病態を理解した上で、適正な薬物治療に参画できる能力を身に付けられるような教育を目指している。学生が、患者の病態生理を把握し、さらにくすりの専門家としてより良い薬物治療をイメージできるような講義を心がけている。
③「人体の構造と病態1」「病態生理学1」		平成23年4月～ 現在	医療人として、チーム医療の一員として、薬剤師の専門性を活かせるような教育を目指している。解剖生理と病態生理を柱とし、主に感覚器の疾患・病態に関連する症状・症候を捉えられるように講義を展開している。
④薬学総合演習		平成23年4月～ 現在	病態生理と薬物治療に関わる領域の講義を担当している。
⑤薬学英語		平成27年4月～ 現在	薬学・医療英語における専門用語習得のみならず英文による薬学・医療関連トピックスに慣れ親しめるような講義を目指している。専門用語に関するプレテストやポストテスト等を活用し、学生が効率よく学習できるような授業を心がけている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
①病態生理学演習実習の演習用症例		平成26年11月	病態生理学演習実習において使用する症例「急性の血糖異常は挨拶がわりにすぎない!?!」を作成した。
②薬学英語の講義用プリント		平成27年4月～ 現在	薬学・医療関連トピックスを題材とするプリントを作成している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
①明治国際医療大学看護学部非常勤講師		平成19年4月～ 平成21年7月	看護学部にて「薬理学」を担当した。
②公開授業研究会ならびにFD活動		平成24年9月	「大阪薬科大学における公開授業の現状と課題」授業評価の価値と活用について議論した。
		平成23年4月～ 平成25年3月	FD委員を担当した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称

Thiamine prevents obesity and obesity-associated metabolic disorders in OLETF rats	共著	2010年	J. Nutr. Sci. Vitaminol. Vol.56(6) 335-346
Thiamine ameliorates diabetes-induced inhibition of pyruvate dehydrogenase (PDH) in rat heart mitochondria: Investigating the discrepancy between PDH activity and PDH E1 α phosphorylation in cardiac fibroblasts exposed to high glucose	共著	2010年	J. Pharmacol. Sci. Vol.113(4) 343-352
Effect of thiamine repletion on cardiac fibrosis and protein O-glycosylation in diabetic cardiomyopathy	共著	2012年	J. Diabetes Metab. S7:001
Role of thiamine in obesity-related diabetes: Modification of the gene expression Food and Nutritional Components in Focus No.4 B Vitamins and Folate: Chemistry, Analysis, Function and Effects	共著	2012年	The Royal Society of Chemistry 580-591
Metabolic fate of excessive glucose in fibroblast cells in a diabetic setting	共著	2015年	Fund. Toxicol. Sci. Vol.2 No.2 55-60
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
治療抵抗性統合失調症に対するクロザピンの有効性について一定量法に関する基礎的検討と考察一		2015年10月	第25回日本臨床精神神経薬理学会
アルコール依存症に対するゾニサミドの影響		2015年10月	平成27年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会
胃幽門腺粘液細胞における粘液分泌と2つのオートクリン機構とに関する検討		2016年3月	日本薬学会第136年会
胃幽門腺粘液細胞における粘液分泌機序と細胞内Ca ²⁺ 濃度とに関する検討		2016年3月	日本薬学会第136年会
胃幽門腺粘液細胞Ca ²⁺ 調節性開口放出におけるPI3K/Aktを介したNOS1の活性化		2016年3月	日本薬学会第136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成18年1月～現在に至る	日本毒性学会評議員		
平成18年4月～現在に至る	日本薬理学会評議員		
平成25年11月	第124回日本薬理学会近畿部会 セッション：心・血管・腎臓1 座長		
平成26年6月	第125回日本薬理学会近畿部会 セッション：心・血管・腎臓1 座長		
平成26年11月	大阪薬科大学公開教育講座「サテライトセミナー」薬剤師生涯教育活動		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	生体機能解析学
職名	准教授	氏名	坂口 実
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 基礎細胞生物学	平成18年-27年 各年9月-翌年1月	<u>基礎細胞生物学 (1年次生後期)</u> 新入学生の生物の基礎学習、リメディアル教育を担当。視覚的な理解を重視しており、インターネット (JSTの「理科ねっとわーく」など) や本学図書館所蔵のビデオ教材などを多用しており、学生対象のアンケートでは好評である。また、過去の試験問題とその解答を開示し、さらに練習問題を提供して学習のポイントを分かり易くし、各自で的確な学習方法が取れるように導いている。また、3回目あたりの講義時間中に授業評価アンケートを実施し、学生からの要望を受け、それに対するフィードバックを行っている。 (学生アンケートによる授業評価) H18年 総合評価 4.14/5.0点 学内平均 3.76、 H19年 総合評価 4.12/5.0点 学内平均 3.77、 H20年 総合評価 4.13/5.0点 学内平均 3.69、 H21年 総合評価 4.14/5.0点 学内平均 3.78、 H22年 総合評価 4.15/5.0点 学内平均 3.68、 H23年 総合評価 4.16/5.0点 学内平均 3.72、 H24年 総合評価 4.12/5.0点 学内平均 3.80、 H25年 総合評価 3.6/4.0点 学内平均 3.2、 H26年 総合評価 .8/4.0点 学内平均 3.3
		平成24年-27年 各年4月-9月	<u>生物学 (1年次生前期)</u> 上記の基礎細胞生物学と同様に行っている。さらに、新入生には生物を学習していない者も約3割程度含まれることから、それらの学生と希望者を対象に、週1コマ (90分) の補講を行い、確認テスト等を通じて理解が高まるように指導した。 (学生アンケートによる授業評価) H24年 総合評価 3.97/5.0点 学内平均 3.80 H25年 総合評価 3.5/4.0点 学内平均 3.1 H26年 総合評価 3.6/4.0点 学内平均 3.3 H27年 総合評価 3.3/4.0点 学内平均 3.3
		平成19年-23年 各年4月-9月	<u>化学演習 (1年次生前期)</u> 小人数 (40名程度) を対象として、高校化学と大学での化学の橋渡的な内容の演習授業。最初の授業でリソグラフ印刷した自作のテキスト (練習問題を含む) を配布して使用した。毎回、当日の授業内容に関する確認テストを実施した。また、過去の試験問題とその解答を開示し、学習のポイントを分かり易くして、各自で的確な学習方法が取れるように導いた。2回の中間テストを行い、各自の理解度を確認させた。 (学生アンケートによる授業評価) H19年 総合評価 2.76/5.0点 学内平均 3.59 H20年 総合評価 4.28/5.0点 学内平均 3.66 H21年 総合評価 4.28/5.0点 学内平均 3.78 H22年 総合評価 4.03/5.0点 学内平均 3.65 H23年 総合評価 4.37/5.0点 学内平均 3.71
	生物学実習	平成1年-27年 各年9月-翌年1月	<u>生物学実習 (1年次生後期)</u> 生物体の構造と機能を、細胞から個体の観察を通して理解させる実習を担当。生物学、生化学、機能形態学など薬学における生物系教科との関連を重視しながら指導した。実験を体験させるだけでなく、実習終了後は、当日の実験の原理や結果の解釈について、時間をかけてディスカッションすることを重視した。また、写真を使った実習手順の解説や、関連する情報を常に閲覧できるように、各実験台に1~2台のパソコンを配備して情報を提供した。
2	作成した教科書、教材、参考書 「FUNDAMENTAL細胞生物学」 (京都廣川書店)	平成18年-27年	担当している教科 (基礎細胞生物学、生物学、化学演習) に関する教科書は、すべて自作のものをリソグラフ印刷して教材として配布してきた。しかし、図などやはり鮮明さに欠けるため、生物学・基礎細胞生物学の内容をまとめて、「FUNDAMENTAL細胞生物学」 (京都廣川書店) として本年度出版した。

		現在、化学演習は担当していないが、当時作成したテキストは学生に好評で、現在も多数の教員が同テキストを使用できるようにデータを提供している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成21年12月	授業研究会 学内FD委員会からの指示で公開授業を行い、後の授業研究会での他の教員からの意見を元に、授業構成の改良に努めた。授業中、適度な量の板書やスライド・動画を利用するタイミングを工夫することで、学生に飽きさせないように心がけた。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
「FUNDAMENTAL 細胞生物学」	単著	2015年3月	京都廣川書店
(論文) Prolyl oligopeptidase inhibition-induced growth arrest of human gastric cancer cells.	共著	2014年1月	Biochem Biophys Res Commun. 443 , 91-96.
(論文) Cloning and expression of the cold-adapted endo-1,4- α -glucanase gene from <i>Eisenia fetida</i> .	共著	2014年1月	Carbohydrate Polymers. 101 , 511- 516
(論文) Prolyl oligopeptidase is a glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase-binding protein that regulates genotoxic stress-induced cell death.	共著	2013年4月	Int J Biochem Cell Biol. 45 (1) 850-857
(論文) Prolyl oligopeptidase participates in cell cycle progression in a human neuroblastoma cell line.	共著	2011年6月	Biochem Biophys Res Commun. 409 , 693-698.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
培養乳癌細胞株MCF-7細胞に及ぼすベルベリンの細胞死誘導メカニズムの解析		2015年10月	第65回 日本薬学会近畿支部総会・大会
PC-12細胞の酸化ストレス障害に対するp38/Nrf2経路を介した α -リポ酸の保護作用		2015年10月	第65回 日本薬学会近畿支部総会・大会
抗ヒトプロリルオリゴペプチダーゼ (POP) モノクローナル抗体の作成と応用— POPと相互作用する分子の探索 —		2015年10月	第65回 日本薬学会近畿支部総会・大会
プロリルオリゴペプチダーゼ阻害薬による細胞増殖阻害メカニズムの解析		2015年10月	第65回 日本薬学会近畿支部総会・大会
シタラビンで誘導される細胞死におけるプロリルオリゴペプチダーゼとグリセルアルデヒド3リン酸脱水素酵素の相互作用解析		2015年10月	第65回 日本薬学会近畿支部総会・大会
新規ヒスタミンH3受容体アンタゴニストの乳がん細胞増殖抑制作用		2015年11月	第33回メディシナルケミストリーシンポジウム
培養乳癌細胞株MCF-7細胞に及ぼすベルベリンの細胞死誘導メカニズムの解析（2）		2016年3月	日本薬学会第136年会
PC-12細胞の酸化ストレス障害に対するp38/Nrf2経路を介した α -リポ酸の保護作用（2）		2016年3月	日本薬学会第136年会
培養ヒト胃がん細胞のRB1タンパク質発現に及ぼすプロリルオリゴペプチダーゼ阻害薬の影響		2016年3月	日本薬学会第136年会
シタラビンで誘導される細胞死におけるプロリルオリゴペプチダーゼとグリセルアルデヒド3リン酸脱水素酵素の相互作用解析（2）		2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
●学会			
平成1年4月～現在	日本薬学会 会員		
平成1年4月～現在	日本農芸化学会 会員		
平成21年4月～現在	日本生化学会 会員		
●社会的活動			
平成22年～現在	関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学 医工薬連環科学教育研究機構 構成員		
平成22年～平成26年	科学技術振興機構（JST）主催のサマーサイエンスキャンプ 講師		

平成21年～現在	高槻家族講座（医工薬連環科学教育研究機構 高大連携事業）
平成21年～平成22年	ワクワク夏休み科学実験（医工薬連環科学教育研究機構 高大連携事業）
平成21年～平成22年	高槻市内小中学校への出張講座（医工薬連環科学教育研究機構 高大連携事業）
平成25年8月	高槻市大学交流センター事業 「夏休みこども大学」 講師

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	環境医療学グループ
職名	准教授	氏名	阪本 恭子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
1) 文章作成に基づく知識の確立		平成19年4月～ 現在	前任校着任時より、課題を適宜与え、講義で習得した事柄を自分で文章にまとめる訓練を行っている。文章作成の過程で、新たな問題を発見して、自分の意見を確立することを目指す。
2) 映像資料を活用した問題意識の明確化		平成19年4月～ 現在	前任校着任時より、授業内容に適した映像資料を活用して、問題の実際の姿を提示している。理論と現実を対照させて、問題意識を明確にすることを目指す。
3) PBLとケーススタディによる自己学習		平成24年4月～ 現在	本校着任時よりは、医療人の自覚涵養のため、PBLによるケーススタディを新たに取り入れている。グループディスカッションの中でコミュニケーションの実際を体験して、価値観の多様性を認識しながら自ら思考し発言する習性の獲得を目指す。
2 作成した教科書、教材、参考書			
1) 事例でまなぶ ケアの倫理 (改訂2版)		平成22年2月	共著、Topic5「赤ちゃんポスト」執筆担当
2) 新・人間福祉学への招待		平成22年3月	共著、第2章「スピリチュアリティとスピリチュアル・ケアー未来へつながるケア」執筆担当
3) 大学生のための研究ハンドブック—よくわかるレポート・論文の書き方		平成23年4月	共著、第6章「わかりやすい文章づくり」執筆担当
4) 生命倫理と医療倫理 (改訂3版)		平成26年3月	共著、第7章「生殖補助医療技術」執筆担当
5) 倫理のノート		平成27年1月	共著、3「人は互いに気遣う／助け合うべきである」コラム「子どもとともに」執筆担当
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
1) ノートルダム清心女子大学公開講座 (於：岡山県・ノートルダム清心女子大学)		平成21年9月	発表題目：子どもを育む新しい「いのち」
2) 倉敷市人権教育推進課主催・イキイキ人間学講座 (於：岡山県・倉敷市民会館)		平成21年11月	発表題目：「子どもの権利」の現状と課題
3) 大阪大学公共政策研究科公開講座 (於：大阪府・大阪大学)		平成21年12月	発表題目：EUと日本における児童遺棄をめぐる家族政策—国連「子どもの権利条約」採択20年を迎えて
4) 笠岡市教育委員会・人権教育指導者養成講座 (於：岡山県・笠岡市民会館)		平成23年7月	発表題目：子ども虐待—親と子どもの新しい関係に向けて
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称

1) (論文) Baby-Post in Japan and Related Issues to be Solved	単著	平成22年3月	"Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine" Japanese Association for Philosophical and Ethical Researches in Medicine, No. 4
2) (著書) 世界の出産	共著	平成23年3月	勉誠出版
3) (論文) これからの家族と介護の関わり—ドイツ・家族介護期間法	単著	平成24年3月	『医療・生命と倫理・社会』大阪大学医学系研究科・医の倫理、第11号
4) (論文) 薬学教育における医療総合人間学の位置づけ—ヒューマニティ教育とコミュニケーション教育を中心に—	単著	平成25年2月	『大阪薬科大学紀要』Vol. 7
5) (論文) 医療教育におけるヒューマンイズムの原点—ニーチェの教育観と人間観を手がかりにして	単著	平成26年3月	『大阪薬科大学紀要』Vol. 8
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 赤ちゃんポストの未来—日独の現状から見えてくるもの—		平成28年2月	熊本大学国際シンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
1) 平成24年4月～現在に至る	国立循環器病研究センター治験審査委員会委員		
2) 平成25年4月～現在に至る	神戸先端医療センター映像医療審査委員会委員		
3) 平成25年4月～現在に至る	神戸先端医療センター生命倫理審議会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	環境分子生理学
職名	准教授	氏名	佐久間 覚
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
衛生薬学 (化学物質の毒性)	~現在まで	2年次生に講義形式で実施している。リスクアセスメント、リスクマネジメント、リスクコミュニケーションの必要性と衛生薬学としての知識の習得の重要性を説明している。講義ではトピックス交えながら、興味を持たせるように努めている。毎年、授業評価アンケートを実施し、前年度の授業評価アンケートに記載された学生の意見を参考に講義内容や方法の改善を行っている。	
衛生薬学実習	~現在まで	3年次生に衛生試験法記載の環境試験法のうち大気汚染、室内空気に関する項目の測定技法を実地で教授している。実験手技の習得のみならず、原理を理解させるよう努めている。6名程度を1グループとして、自ら考えさせること、衛生薬学関連講義への理解へも波及効果が期待できるように努めている。毎年、授業評価アンケートを実施し、前年度の授業評価アンケートに記載された学生の意見を参考に講義内容や方法の改善を行っている。	
特別演習・実習 (研究)	~現在まで	5~6年次生に衛生薬学分野の研究指導を行っている。分子生物学的実験手技の習得のみならず、原理や研究テーマ理解のための文献紹介などを実施している。自ら考えさせること、実験結果の考察力を養うように努めている。毎年、学内、研究室発表会を実施し、報告書を作成させることで、プレゼンテーション能力などの養成につなげている。	
薬学総合演習 (衛生)	~現在まで	6年次生に衛生薬学分野の化学物質の毒性を中心とした内容の総復習を講義形式で実施している。卒業後の薬剤師国家試験を意識した内容とし、卒業生全員が衛生分野を高度に習得することを目指している。	
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
薬剤師のためのワークショップin近畿タスクフォース	2009~2014年度	4つのワークショップにおいて実務実習指導薬剤師養成に助力した。	
FDのための公開授業 (衛生薬学)	2010年度	複数の教員による講義評価、学生アンケート、授業研究会をもとに、講義方法の改善に努めた。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Hydrogen peroxide generated by xanthine/xanthine oxidase system represses the proliferation of colorectal cancer cell line Caco-2.	共著	2015年1月	J. Clin. Biochem. Nutr., 56, 15-19 (2015)
(論文) Monochloramine suppresses the proliferation of colorectal cancer cell line Caco-2 by both apoptosis and G2/M cell cycle arrest.	共著	2014年5月	Cell Biochem. Funct., 32, 188-193 (2014).

(論文) The involvement of mitogen-activated protein kinases in the 1 α ,25-dihydroxy-cholecalciferol-induced inhibition of adipocyte differentiation in vitro.	共著	2012年6月	J Nutr Sci Vitaminol., 58, 1-8 (2012).
(論文) Xanthine oxidase-derived reactive oxygen species mediate 4-oxo-2-nonenal-induced hepatocyte cell death.	共著	2010年12月	Toxicol Appl Pharmacol. 249 (2):127-31 (2010).
(論文) Perfluorinated carboxylic acids inhibit cyclooxygenase pathway more potently than 12-lipoxygenase pathway in rat platelets.	共著	2010年10-12月	Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids. 83 (4-6):225-8 (2010).
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
CatechinおよびTaxifolinはスーパーオキシドならびにペルオキシラジカルを選択的に消去する		2015年9月	フォーラム2015 衛生薬学・環境トキシコロジー
大腸癌細胞におけるQuercetinによる増殖抑制の作用機構の解析		2015年9月	フォーラム2015 衛生薬学・環境トキシコロジー
Vitamin E類縁体はCaco-2細胞に対するCurcuminの増殖抑制作用を増強する		2016年3月	日本薬学会 第136年会
Clozapineによる3T3-L1前駆脂肪細胞分化誘導作用の作用機序について		2016年3月	日本薬学会 第136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
昭和60年4月～現在まで	日本薬理学会会員		
昭和63年～現在まで	日本薬学会会員		
平成7年3月～現在まで	日本薬理学会評議員		
平成16年～現在まで	日本酸化ストレス学会 (旧、臨床フリーラジカル学会および日本過酸化脂質・フリーラジカル学会) 会員		
平成19年～現在まで	日本脂質生化学会会員		
平成21年～現在まで	日本ビタミン学会会員		
平成22年8月5日～現在まで	高槻市食楽ネットワーク会議 (担当者)		
平成25年5月1日～現在まで	大阪府毒物劇物取扱者試験委員会委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	生薬科学
		職名	准教授
		氏名	芝野 真喜雄
I 教育活動			
	教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成18年～現在	生薬学1 (2年次科目, 現在は1年次科目) 生薬学2 (2年次科目) *それぞれ生薬学1および2は, 平成20年度より, 医工薬連環科学教育科目として, 関西大学へ配信 武田薬品工業(株)京都薬用植物園の協力のもと, 学生全員を少人数グループに分けて, 重要薬用植物の観察法や有毒植物の観察会を実施 板書とパワーポイントのバランスを考え構成している。また, 生薬の実物を回覧し, 香りや味も経験できるようにしている。
		平成18年～現在	薬局方総論 (生薬関連担当) 6年次科目 (薬学科), 4年次科目 (薬科学科)
		平成24年～現在	医工薬連環科学 (1コマ, 医薬品の資源を担当) 関西大学, 大阪医科大学へ配信
		平成6年～現在	生薬学実習 (2年次科目)
		平成17年～現在	大学院薬科学専攻 生薬・天然物化学
		平成24年～現在	大学院薬学専攻 処方解析演習 (漢方薬担当)
		平成24年～現在	がん医療薬学総論 (がん専門薬剤師養成コース)
2	授業評価		公開授業の実施および学生アンケートの結果は, 毎年良好であり, 評価値も学年平均を上回っている。
2	作成した教科書、教材、参考書	平成25年8月	薬用植物学改訂第7版 (共著)
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成26年9月	日本生薬学会年会において, 「薬用植物園の活用は学生の生薬学への意識向上に役立つか?」という演題で発表
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)
			発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
	(著書) 甘草 (カンゾウ) の栽培法～甘草の国内生産・安定生産への挑戦～	単著	平成25年10月 情報機構
	(論文) Tabata Akinori, Taniguchi Masahiko, Shibano Makio Ecliptamines A - D, Four New Guanidine Alkaloids from Eclipta prostrata L.	共著	平成27年4月 Phytochemistry Letters 11, 224-228.

(論文) Ozaki Kazuo, Shibano Makio Aim for production of Glycyrrhizae Radix in Japan (3): development of a new licorice cultivar	共著	平成26年2月	J. Nat. Med. 68(2), 358-62.
(論文) Shibano Makio, Misaka Ayaka, Sugiyama Kayo, Taniguchi Masahiko, Baba Kimiye Two secopregnane-type steroidal glycosides from <i>Cynanchum stauntonii</i> (Decne.) Schltr. ex Levl.	共著	平成24年2月	Phytochemistry Letters 5, 304-308.
(論文) Shibano Makio, Ozaki Kazuo, Watanabe Hitoshi, Tabata Akinori, Taniguchi Masahiko, Baba Kimiye Determination of flavonoids in licorice using acid hydrolysis and reversed-phase HPLC and evaluation of the chemical quality of cultivated licorice	共著	平成22年3月	Planta Medica 76, 729~733
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
カンゾウ属植物の地上部の成分について		平成27年7月	第7回甘草に関するシンポジウム
早蓮草熱水抽出エキスに含まれる新規グアニジンアルカロイドとCOX阻害活性について		平成27年8月	第32回和漢医薬学会学術大会
紫根熱水抽出エキス中のピロリチジンアルカロイドの探索研究		平成27年8月	第32回和漢医薬学会学術大会
河内長野市におけるジャノヒゲ栽培の調査研究		平成27年9月	日本生薬学会第62回年会
石斛の品質評価法の検討. 指標成分の探索 (3)		平成27年3月	日本薬学会第136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成15年4月～現在	甘草に関するシンポジウム実行委員		
平成24年4月～現在	滋賀県草津市 草津あおばな会 顧問		
平成25年4月～現在	「薬用植物研究」編集委員		
平成25年4月～平成27年3月	全国甘草栽培協議会 専門機関委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 言語文化学グループ	職名 准教授	氏名 スミス 朋子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成23年4月～現在 平成24年4月～26年8月 平成24年9月～現在	薬学系の英語専門語彙指導 (専門英語教育) e-learning教材の活用 (学生のレベルに合った英語指導: リスニング, リーディング, 文法) 英語多読教材の利用 (英語基礎力の向上)	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成23年1月11日 平成23年3月31日 平成25年3月27日	ALC NetAcademy2『ライフサイエンス英語コース』アルクe-learningシステム (英語学習教材) 共著者: 野口ジュディー 動詞&形容詞活用帳 Verb and Adjective Conjugation book 大阪大学大学院工学研究科・工学部 国際交流室留学生相談部 共著者: 川村由紀子 「はじめての薬学英語」 講談社 共著者: 野口ジュディー, 神前陽子, 天ヶ瀬葉子	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成23年11月23日 平成24年7月22日 平成26年3月29日	“CEFR self-assessment software for curriculum” JALT 2011, 37th Annual International Conference on Language Teaching and Learning 共同発表者: Antonio F. Smith, Fabian Brites 「ライフサイエンス・医療系の研究論文のムーブ分析とe-learningへの応用」 日本医学英語教育学会 第16回学術集会 共同発表者: 野口ジュディー 「薬学生を対象とした 専門用語習得のレベル別対応の試み」 日本薬学会第134年会, 熊本大学 共同発表者: 天ヶ瀬葉子, 野口ジュディー	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成23年12月～現在 平成25年4月～平成27年3月 平成26年6月～現在	学内TOEIC IPテスト実施 大阪薬科大学FD委員 English Hour・E-Chatの実施 (課外英会話)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(著書) “Cross-linguistic categorization of benefactives by event structure”	単著	平成22年	In Benefactives and malefactives: Case studies and typological perspectives. Fernando Z úñiga and Seppo Kittilä (eds) pp71-95. John Benjamins.
(著書) “An areal and cross-linguistic study of benefactive and malefactive constructions”	共著	平成22年	In Benefactives and malefactives: Case studies and typological perspectives. Fernando Z úñiga and Seppo Kittilä (eds) pp97-120. John Benjamins. 共著者: Paula Radetzky
(論文) 薬学系大学生の英語学習に対する意識: 学部生を対象とするアンケート調査から	単著	平成24年3月	大阪薬科大学紀要, 6, 41-47.

(論文) アメリカの医療通訳現場から学べること：総合病院でのビデオ通訳の試み	共著	平成26年3月	大阪薬科大学紀要, 8, 67-73
(論文) 薬学生を対象として専門用語の理解度調査：種類別対応の必要性	共著	平成27年3月	大阪薬科大学紀要, 9, 13-17
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
専門用語学習における辞書の重要性について		平成27年7月18日	日本医学英語教育学会
薬学部3年生を対象とした医学薬学専門英語の指導と学習効果の検証		平成28年3月28日	日本薬学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成20年～現在	みのお外国人医療サポートネット：ボランティア (医療通訳)		
平成23年2月19日	ユネスコ国際母語デー記念 学術講演会プログラム「越境する言語」実行委員会		
平成26年1月25日	大阪薬科大学シンポジウム「医療の現場における人権意識の現在と医療人権教育について」実行委員会		
平成23年4月～平成27年3月	大学英語教育学会 関西支部 研究企画委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	環境医療学グループ
職名	准教授	氏名	当麻 成人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2010年4月	スポーツ・運動実習、バドミントン種目において、学生の運動量確保およびコミュニケーション向上を図る目的で4人に1組にチーム分けし、4対4の試合を行う(1球1球交替で打ち合う)
2	作成した教科書、教材、参考書		
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2009年～	少子高齢化の影響をよりよく克服するため水球に関わり地域の子供達にスポーツ指導を行っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
水球競技の初心者指導2	単著	2009年2月	大阪薬科大学紀要, vol.3:31-36
運動継続のための新たな運動処方	共著	2009年2月	松山大学論集第20号:243-259
高齢者におけるフットタッピング動作による足底屈および足背屈最大筋力簡易推定法の提案	共著	2012年3月	神奈川体育学会体育研究所46号24-29
在宅医療の充実に向けて-地域医療での薬剤師の新たな役割を考える-	共著	2014年2月	大阪薬科大学紀要vol. 8:91-93
市民講座 健康寿命について考える	単著	2015年2月	大阪薬科大学紀要, vol. 9:35-41
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2009年7月	第25回ユニバーシアード大会(ザグレブ) 水球日本代表監督		
2010年9月	第65回国民体育大会 千葉国体水球競技審判員		
2011年9月	第66回国民体育大会 山口国体水球競技審判員		
2012年9月	第67回国民体育大会 岐阜国体水球競技審判員		
2014年11月	高槻市大学交流センター事業市民講座 講演 演題 「健康寿命について考える」		
2014年7月	水球大阪代表監督		
2015年4月～	大阪水泳協会評議員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	薬品物理化学
		職名	准教授
		氏名	友尾 幸司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目について 生物物理化学 (4年次科目)		2012年以前～ 現在	生体高分子の構造と機能についての理解を深めるために、その物理化学的性質と機能解析法について、主にテキストを用いた講義形式で行っている。概ね良好な講義評価を得ている。
分子設計 (4年次科目)		2012年以前～ 現在	機能性タンパク質の構造と機能を理解すると共に、これらが関与する疾病の治療薬開発を目指した分子設計について、主にスライドを用いた講義形式で行っている。概ね良好な講義評価を得ている。
薬学英语 (4年次科目)		2012年以前～ 2013年	薬学英语の基本的事項から専門学術論文の講読まで、様々な観点から薬学英语に慣れ親しむために、主にプリントを用いた演習形式で行った。概ね良好な講義評価を得ていた。
物理放射化学実習 (2年次科目)		2012年以前～ 現在	薬学における物理化学と放射化学の基本的な重要事項についての知識と技能の修得を目的として、実習を行っている。概ね良好な評価を得ている。
物性化学 (3年次科目)		2013年	物質の物性、状態変化や物質間の相互作用について物理化学的に理解するために、主にプリントを用いた講義形式で行っている。概ね良好な講義評価を得た。
物理化学3 (2年次科目)		2013年～現在	物質の性質や変化などの物理的性質を通して、薬の体内での働きを理解することを目的として、主にプリントを用いた講義形式で行っている。概ね良好な講義評価を得ている。
構造生物学特論 (大学院科目)		2011年～現在	生物物理化学的手法の基本原則を学び、医薬品の分子設計に必要な不可欠な構造生物化学解析法の基礎知識とその応用法についての理解を目的として、主にスライドを用いた講義形式で行っている。概ね良好な評価を得ている。
領域統合型先端科学特論 (大学院科目)		2012年～現在	分子構造・機能解析に必要な基本的研究手法を駆使した実践的な薬物設計・開発に関する先端的研究として、蛋白質等の受容体の立体構造を基にした創薬についての解説を、主にスライドを用いた講義形式で行っている。概ね良好な評価を得ている。
分子構造・機能解析学 I, II, III (大学院科目)		2012年～現在	疾患発症機構を分子レベルで理解するために、疾患発症に関与するタンパク質の構造と機能とその制御機構についての解説を、主にスライドを用いた講義形式で行っている。概ね良好な評価を得ている。
・授業方法の工夫			講義開始前と終了後にプレ、ポストテストを行い講義の内容と理解の確認を行っている。また、実習では1日ごとに実習内容についての講義を始めに行い、円滑に実習操作に入れるように努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 物理放射化学実習テキスト 物理化学3講義プリント		2012年以前～ 現在 2013年～現在	第1～第6項目 第1, 2, 7～13項目
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・第7回物理系薬学の教育と研究を展望するシンポジウム		2013年8月	「大阪薬科大学における教育と研究の両立を目指した取り組みについて」というタイトルで講演

4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) ・認定実務実習指導薬剤師育成ワークショップin近畿 ・第4回 薬学教育者のためのアドバンスドワークショップ ・FD委員会主催公開授業検討会	2005年～現在 2014年11月 2011年 2014年	実務実習における指導薬剤師養成を目的としたワークショップに、タスクとして参加(計17回) 学習成果基盤型教育に基づいて6年制薬学教育の学習成果を考える研修に参加 生物物理化学(4年次科目) 講義公開 物理放射化学実習(第2項目) 講義公開	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Importance of Tyr310 residue in the third repeat of microtubule binding domain for filament formation of tau protein.	共著	2010年2月3月	J. Biochem. Vol.147 No.3
Structural scaffold for eIF4E binding selectivity of 4E-BP isoforms: crystal structure of eIF4E binding region of 4E-BP2 and its comparison with that of 4E-BP1	共著	2011年9月	J. Pept. Sci. Vol.17 No.9
A conserved motif within the flexible C-terminus of the translational regulator 4E-BP is required for tight binding to the mRNA cap-binding	共著	2012年1月	Biochem. J. Vol.441 No.1
C-H... π interplay between Ile308 and Tyr310 residues in the third repeat of microtubule binding domain is indispensable for self-assembly of three- and four-repeat tau	共著	2012年9月	J. Biochem. Vol.152 No.3
CH- π interaction in VQIVYK sequence elucidated by NMR spectroscopy is essential for PHF formation of tau	共著	2014年3月	Biopolymers Vol.102 No.3
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Vibrio vulnificus M2799株の鉄獲得機構の解明		平成27年9月	第27回微生物シンポジウム 岡山9月
エリンギ(Pleurotus eryngii)子実体のergostane型ステロイド		平成27年9月	第59回 香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会 大阪 9月5-7日
エリンギ(Pleurotus eryngii)子実体に含まれる新規ergostane型ステロイド		平成27年9月	日本生薬学会第62回年会 岐阜 9月11-12日
臨床分離株 Vibrio vulnificus M2799 由来シデロフォア結合タンパク質 VatD のシデロフォア結合機構の解明		平成27年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
臨床分離株 Vibrio vulnificus M2799 由来シデロフォア結合タンパク質 VatD とシデロフォアとの相互作用解析		平成28年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
平成15年4月～平成22年12月	該当無し		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 自然学グループ	職名 准教授	氏名 永田 誠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成20年4月～ 現在	指定教科書の他に、参考資料として要点をまとめたプリントを配布。教科書とは異なる説明で解説する。板書の時間をとってノートを取らせる。毎回宿題としてレポートを提出させる。小テストを行う等。	
2 作成した教科書、教材、参考書	該当なし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	該当なし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	該当なし		
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) On Siegel's lemma and linear spaces of random variables	単著	平成22年6月	AIP Conference proceedings 1264
(論文) On a certain symmetric property in the geometry of numbers	単著	平成24年3月	大阪薬科大学紀要Vol.6
(論文) Influence of capsaicin on fluctuation of digoxin pharmacokinetics in lipopolysaccharide-treated rats	共著	平成24年8月	Xenobiotica, Vol.42, No.8
(論文) 拡散を連想させるある離散モデルの裾確率について	共著	平成25年3月	大阪薬科大学紀要Vol.7
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
該当なし			
III 学会および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	生体防御学
		職名	准教授
		氏名	藤森 功
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 教育方法の工夫		2007年4月～ 2008年9月 2008年9月～ 2008年4月～ 2007年～ 2011年～ 2011年～	4年次 臨床生化学 3年次 病態生化学 3年次 生物科学実習 特別演習・実習1・2 (卒業論文作成指導) 薬学総合演習3 早期体験学習 教科書を中心に、配布プリントで補足する。
2 作成した教科書、教材、参考書		2014年8月	病態生化学 解明 (京都廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 回薬剤師のためのワークショップ in 近畿 (大阪) 【高校出張模擬授業関連】 分野別模擬授業 (薬学)		2007年8月 2008年1月 2009年7月 2009年11月 2010年9月 2011年11月 2012年1月	受講者として参加 兵庫県立川西緑台高校 私立追手門学院高校 大阪府立今宮高校 大阪府立北千里高校 大阪府立刀根山高校 大阪府立北千里高校
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Suppression of adipogenesis by valproic acid through repression of USF1-activated fatty acid synthesis in adipocytes	共著	2014年	Biochem. J. 459: 489-503
Termination mechanism of CREB-dependent activation of COX-2 expression in early phase of adipogenesis	共著	2014年	Mol. Cell. Endocrinol. 384: 12-22
Synergistic suppression of early phase of adipogenesis by microsomal PGE synthase-1 (PTGES1)-produced PGE2 and aldo-keto reductase 1B3-produced PGF2 α .	共著	2012年	PLoS ONE 7: e44698
Rapid degradation of cyclooxygenase-1 and hematopoietic prostaglandin D synthase through ubiquitin-proteasome system in response to intracellular calcium level	共著	2012年	Mol. Biol. Cell 23: 12-21
Suppression of adipocyte differentiation by aldo-keto reductase 1B3 acting as prostaglandin F2 α synthase	共著	2010年	J. Biol. Chem. 285: 8880-8886

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
温州ミカンの未熟果皮に含まれる成分による脂肪細胞における脂肪蓄積抑制機構の解析	2016年3月	日本薬学会第136年会
フィセチンによる6-OHDA誘導細胞死の抑制効果の検討	2016年3月	日本薬学会第136年会
COX-2プロモーターのメチル化による脂肪細胞の分化抑制機構の解析	2016年3月	日本薬学会第136年会
プロスタグランジンD2 受容体を介した脂肪分解抑制機構の解明	2015年12月	第38回日本分子生物学会・第88回日本生化学会 合同大会
プロスタグランジンによる肥満制御の包括的解析	2015年11月	平成27年度日本応用酵素協会研究発表会
甲状腺ホルモンによる脂肪細胞の分化活性化機構の解析	2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部大会
植物フラボノイドであるバイカレインによる脂肪細胞分化抑制機構の解明	2015年9月	フォーラム2015：衛生薬学・環境トキシコロジー
プロスタグランジンD2受容体を介した脂肪蓄積促進機構の解明	2015年5月	第57回日本脂質生化学会大会
甲状腺ホルモンによる脂肪滴蓄積促進機構の解明	2015年5月	第62回日本生化学会近畿支部例会
バイカレインによる脂肪細胞分化抑制機構の解明	2015年5月	第62回日本生化学会近畿支部例会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2012年～	Dataset Papers in Biology, Editorial board	
2014年～	Poland National Science Centre, Foreign reviewer (second-stage)	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 中央機器研究施設	職名 准教授	氏名 箕浦 克彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成23年度～現在	化学演習：学生が苦手とする化学計算を中心に演習形式で講義を進めている。プリントを配布し教材として利用している。毎講義終了時、アンケートを実施し、講義の改善に努めている。平成27年度の評価は概ね良好である。	
	平成24年度～現在	化学：高校の化学と大学における化学系専門科目との橋渡しとなるよう講義を行っている。教科書では不十分な内容については、プリントを配布し学生の理解を図っている。また、身近なエピソードを取り入れることで、単調な講義内容にならないように工夫している。毎講義終了時、アンケートを実施し、講義の改善に努めている。平成27年度の評価は概ね良好である。	
	平成23年度～現在	分析化学実習：容量分析法や機器分析法（光分析、HPLC分析）により医薬品の定量分析を行うことで、定量などに必要な知識と技能を習得することを目的としている。実習項目の内容と器具や機器の使用方法、操作上の注意点を説明したのち、数名ずつのグループで実習を行っている。また機器の原理について、その内部構造を見せることで理解を深める工夫をしている。平成27年度の評価は概ね良好である。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成24年4月1日 平成23年4月1日	化学プリント 分析化学実習テキスト	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
CH- π interaction in VQIVYK sequence elucidated by NMR spectroscopy is essential for PHF formation of tau.	共著	平成26年3月	Biopolymers (Peptide Science) vol.102, No. 3
Additional cytotoxic substances isolated from the sponge-derived <i>Gymnascella dankaliensis</i> .	共著	平成25年8月	Tetrahedron Letters, vol. vol. 54, No. 45
Anthcolorins A-F, novel cytotoxic metabolites from a sea urchin-derived <i>Aspergillus versicolor</i> .	共著	平成25年4月	Tetrahedron, vol. 69, No. 23
Creation of an HDAC-based yeast screening method for evaluation of marine-derived actinomycetes: discovery of Streptosetin A.	共著	平成24年11月	Journal of Natural Products, vol. 75, No. 12
C-H... π interplay between Ile308 and Tyr310 residues in the third repeat of microtubule binding domain is indispensable for self-assembly of three- and four-repeat tau.	共著	平成24年5月	Journal of Biochemistry vol.152, No. 3
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 臨床分離株 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799 由来シデロフォア結合タンパク質 VatD のシデロフォア結合機構の解明		平成27年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
(演題名) 臨床分離株 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799 由来シデロフォア結合タンパク質 VatD とシデロフォアとの相互作用解析		平成28年3月	日本薬学会第136年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
	該当なし

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 薬剤学	職名 准教授	氏名 宮崎 誠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 実習における考察重視の取り組み	平成12年4月～ 現在	得られた実験データの図表から結果が意味する知見を読み取り、物事を論理的に考える能力を養うことを目的に、薬剤学実習のレポートでは実験方法などの記載を省き、考察を重視した課題を課している。	
反転授業と個別添削のシステム化	平成20年4月～ 現在	化学演習・化学は、ほぼすべての学生にとって履修済みである高校化学の復習にあたるものであり、今後の専門教育の基礎となる学力の底上げを目的としている。よって、単なる講義では教育効果は少なく、個々の学生の弱点を集中的に改善することに重点をおくべきと考えた。そこで、毎週、単元を限定した上で講義を行う前に演習問題を課し、自ら参考書等を用いて正答を導かせ、次週にそれを添削、その翌週に学生の解答に合わせた解説を行っている。この方法により、予め学生の理解度の高い内容は簡単に、理解度の足りない内容は集中して講義を行うことができ、範囲の広い内容から効率的に学生の弱点に焦点を絞った講義を進めることができる。また、この授業システムは予習、講義、復習の流れが明確であり、学習計画を立てやすいと学生からも好評価を得ている。	
ルーブリック自己評価を用いた学習啓発	H20年4月～現在	薬学に従事する者は生涯学習を続ける必要があり、自己を適正に評価できることが将来必要になる。化学演習・化学において自己の学習態度を評価し、薬学部学生としての学習習慣を確立してもらいたいことを目的にルーブリックを用いた自己評価を行ってもらっている。毎年の評価内容は概ね学生の成績と連携している。特に種々の学習習慣や態度の中でも、復習の習慣が成績と最も相関するというデータも得られており、これを学生に示すことでさらに学生の学習意欲の向上を図ることができた。	
S-P表分析を用いた学生・試験問題等の評価	H25年4月～現在	日々の学習指導の過程において講義の進行を最適にするためには、個々の学生の学習を監視して診断すると同時に教材や指導の検討、評価をするための資料が必要である。S-P表分析により学生の学習に関する診断評価および、演習・試験課題などに関する検討・評価の両側面を同時に捉えることができる。種々の試験結果に対してこのS-P表分析を行い、随時、添削課題にコメントを付したりし学生にフィードバックできると同時に、次回の試験問題作成に反映させている。(臨床薬物動態学、化学・化学演習)	
2 作成した教科書、教材、参考書 薬剤学実習テキスト	H12年4月～現在	上記「実習における考察重視の取り組み」を行うために、実習結果の解析とそれに関する考察を順次行うことで、実習課題の主題を理解できるような構成としている。考察は毎年少しずつ変更しており、過年度のレポートのコピーでは通用しないようにしている。	
広義 薬物動態学	平成21年3月18日	初めて生物薬剤学・薬物動態学を学ぶため、また将来の薬物動態学研究者となるための基礎知識醸成のための教科書である。コアカリキュラム以上の発展的内容も含んでおり、本学のハイレベルな薬物動態学教育を特徴付けるための基盤となる教材である。	
広義 薬物動態学 難解複合問題100選	平成23年1月15日	上記「広義 薬物動態学」に対応した問題集。	

コンパートメントモデル学習用薬物動態シミュレーター MSコンチン投与計画シミュレーター	平成26年10月19日 平成26年10月19日	コンパートメントモデルの概念および各モデルパラメータの特徴を理解・学習するためのExcel用薬物動態シミュレーター（下記サテライトセミナーで使用）。静脈内急速投与および経口投与後の血中薬物濃度時間推移、尿中累積薬物量時間推移を1コンパートメントモデルと2コンパートメントモデルでそれぞれシミュレートすることが可能。応用として問題形式によるパラメータ学習機能も有する。このシミュレーターにより薬物動態パラメータの変動が体内動態に与える影響をビジュアル的に理解させようとするものである。 ヒトにおける薬物動態学パラメータを用いたMSコンチン反復経口投与時後の血中薬物濃度時間推移のシミュレーター（下記サテライトセミナーで使用）。反復投与中の不連続な投与量、1日投与回数、投与間隔に対応しており、薬物動態学的・薬物治療学的側面から臨床処方（投与計画）の評価・考察を行う際のツールとなる。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ピアレビュー・FD研究会の立ち上げと参加 学習支援を目的とした科目ホームページの運用	平成19年～現在 平成21年～現在	<p>本学FD委員会発足時（H19）に委員として、今日の本学における講義ピアレビューの立ち上げに協力した。その後、委員会を外れた後もピアレビュー（他の教員の授業参観）、研究会に毎回参加し、その都度、講義における教育方法など改善のための検討と討議を行っている。</p> <p>Google appsを利用し、科目（臨床薬物動態学・化学/化学演習）ホームページを受講生限定公開で作成運用している。講義中の配布資料や連絡事項、過去の試験問題と正答例などを掲載することで、講義を欠席した学生や日常の復習、定期試験対策等の学生による自宅での自主的な学習を補助している。また、Google Analyticsを用いることで当該サイトに対するアクセス解析を随時行い、結果に応じて当該ホームページの改善を行っている。当該サイトは学生アンケートでも利便性、見やすさ等の点から好評価を得ている。</p>	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Chronopharmacological assessment identified GLUT4 as a responsible factor for the circadian variation of the hypoglycemic effect of tolbutamide in rats.	共著	平成23年10月	Drug Metab Pharmacokinet vol. 26 No. 5
（論文）The pharmacokinetic-pharmacodynamic assessment of the hypotensive effect after coadministration of losartan and hydrochlorothiazide in spontaneously hypertensive rats	共著	平成24年4月	Drug Metab Pharmacokinet vol. 27 No. 2
（論文）Time-dependent changes in hepatic and intestinal induction of cytochrome P450 3A after administration of dexamethasone to rats.	共著	平成25年9月	Xenobiotica vol. 43 No. 9
（論文）Pharmacokinetic assessment of absorptive interaction of oral etoposide and morphine in rats.	共著	平成26年2月	Biol Pharm Bull vol. 26 No. 3
（論文）Pharmacokinetics and toxicity of repeated oral etoposide is altered by morphine coadministration in rats	共著	平成27年9月	Eur J Drug Metab Pharmacokinet vol. 40 No. 3
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
アルブミン共存下におけるBODIPY® FL C16の尿細管上皮細胞内移行特性		2015年5月	日本薬剤学会第30年会
ヒト肝由来HepG2細胞におけるBODIPY® FL C16の細胞内取り込みに及ぼすアルブミン共存の影響		2015年5月	日本薬剤学会第30年会
茶葉飲料-ドネペジル塩酸塩混合時において形成される複合体に関する研究		2015年5月	日本薬剤学会第30年会

インスリンのパルス状投与による血糖低下効果増大の要因	2015年5月	第32回日本TDM学会・学術大会
フェキソフェナジン塩酸塩の消化管吸収性変化に関する検討ー リンゴジュースでの服用による溶解性変化の影響ー	2015年10月	日本薬学会近畿支部総会
ヒト腎近位尿細管上皮細胞株におけるアルブミン誘発BCRP輸送活性 の上昇：脂肪酸の関与	2015年10月	日本薬学会近畿支部総会
リンゴジュース中におけるフェキソフェナジン塩酸塩の溶解性に関 する検討	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
Effect of fatty acid-bearing albumin on BCRP and P- glycoprotein activity in renal proximal tubular epithelial cells	2015年11月	第30回日本薬物動態学会年会
シベンゾリンの低血糖作用に及ぼすロサルタン併用の影響	2016年3月	日本薬学会第136年会
腎近位尿細管上皮細胞におけるHIF-1活性化に伴うBCRP機能亢進と薬 剤性細胞障害に及ぼす影響	2016年3月	日本薬学会第136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成19年4月1日～現在	日本時間生物学会評議委員	
平成21年5月16日	大阪薬科大学市民講座講師 演題「おくすり、ちゃんと飲んでいますかー赤ちゃんからお年寄りまでー」	
平成26年5月24日	大阪薬科大学公開教育講座講師 演題「薬物治療に活かす薬物動態」	
平成26年9月21日～12月21日	大阪薬科大学公開教育講座サテライトセミナー「薬は今、どこで、何を」講師	
平成27年6月～現在	医薬品開発のためのPPK・PD研究会PKPDコース講師（一般社団法人 医薬品開発の ためのPopulation Pharmacokinetics/Pharmacodynamics研究会主催）	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 微生物学	職名 准教授	氏名 宮本 勝城
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成22年度以前 ～現在	応用分子生物学：毎回、講義内容とモデル・コアカリキュラムとの対応を説明するとともに、基礎と応用の知見を相互に関連付けながら講義をしている。また、液晶プロジェクターを用いて視覚的に理解できるように工夫している。学生による平成27年度授業評価は概ね良好であった。	
	平成22年度以前 ～現在	化学演習：化学計算を中心に演習形式で授業を進めている。プリントを配布して教材として利用している。学生による授業評価に基づき、講義の改善に努めている。学生による平成27年度授業評価は概ね良好であった。	
	平成22年度 ～現在	化学：高校で学んだ化学についての復習、あるいは応用について、教科書を用いて講義をしている。教科書に記載のない箇所については、配布したプリントを使用して説明している。学生による授業評価に基づき、講義の改善に努めている。平成27年度の評価は概ね良好であった。	
	平成22年度以前 ～現在	生物科学実習：組換えDNA実験に必要なとされる基礎的な実験を行い、遺伝子クローニング、塩基配列決定、ならびに遺伝子解析などについての基本的知識と技能を習得することを目的とし、グループで討論することにより問題解決能力の向上を目指している。学生による平成27年度授業評価は概ね良好であった。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成27年4月1日	生物科学実習テキスト	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Crystallization and preliminary X-ray crystallographic analysis of BxIA, an intracellular beta-D-xylosidase from <i>Streptomyces thermoviolaceus</i> OPC-520.	共著	平成22年7月	Acta Crystallogr Sect F Struct Biol Cryst Commun, vol. 66 No. 7
The <i>Vibrio parahaemolyticus</i> <i>pvuA1</i> gene (formerly termed <i>psuA</i>) encodes a second ferric vibrioferrin receptor that requires <i>tonB2</i> .	共著	平成23年11月	FEMS Microbiol Lett, vol. 324 No. 1
NK1.1(+) cells regulate neutrophil migration in mice with <i>Acinetobacter baumannii</i> pneumonia.	共著	平成24年2月	Microbiol Immunol, vol. 56 No. 2
Role of periplasmic binding proteins, FatB and VatD, in the vulnibactin utilization system of <i>Vibrio vulnificus</i> M2799.	共著	平成25年12月	Microb Pathog, vol. 65
The RND protein is involved in the vulnibactin export system in <i>Vibrio vulnificus</i> M2799.	共著	平成26年10月	Microb Pathog, vol. 75

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
<i>Pseudoalteromonas piscicida</i> 0-7株のキチン分解機構に関する新規タンパク質の解析	2015年8月	日本キチン・キトサン学会
<i>Vibrio vulnificus</i> M2799株の鉄獲得機構の解明	2015年9月	微生物シンポジウム
臨床分離株 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799株におけるVulnibactin分泌機構の解明	2015年10月	日本薬学会近畿支部
Bam複合体を標的とした新規抗菌物質の開発	2015年10月	日本薬学会近畿支部
臨床分離株 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799株由来シデロフォア結合タンパク質 VatD のシデロフォア 結合機構の解明	2015年10月	日本薬学会近畿支部
<i>Vibrio vulnificus</i> M2799株のペリプラズム結合タンパク質VatDの構造解析	2016年3月	日本細菌学会
<i>Vibrio vulnificus</i> のRtxA1 毒素の解析	2016年3月	日本細菌学会
臨床分離株 <i>Vibrio vulnificus</i> M2799 由来シデロフォア結合タンパク質VatD とシデロフォアとの相互作用解析	2016年3月	日本薬学会
<i>Aeromonas hydrophila</i> におけるferrichrome 利用遺伝子の解析	2016年3月	日本薬学会
<i>Vibrio vulnificus</i> における外因性シデロフォア受容体遺伝子の発現に関与する転写因子の作用機構について	2016年3月	日本薬学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成22年1月～平成23年12月	日本キチン・キトサン学会理事	
平成22年9月3、4日	日本薬学会主催 第22回微生物シンポジウム実行委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 医薬品化学	職名 准教授	氏名 山田 剛司
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 化学・化学演習 有機スペクトル解析学 医薬品化学1		平成21年4月～ 現在	大学で実施する授業アンケートのほか、出席表を兼ねたアンケートを毎回行い、次回の講義に迅速に反映できるように努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成20年2月 平成21年2月 平成27年2月	(著書) New医薬品化学 (廣川書店) (冊子) 化学演習講義冊子 (著書) よくわかる薬学機器分析 (廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成24年12月 平成25年10月	FD委員会 (平成20～24年) において授業アンケートの改正に携わった。 担当科目の他教員による授業参観および検討会
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) The relationship between the CD Cotton effect and the absolute configuration of FD-838 and its seven stereoisomers.	共著	平成22年5月	Journal of Organic Chemistry 75, 4146-4153.
(論文) Halichoblelides B and C, potent cytotoxic macrolides from a Streptomyces species separated from a marine fish.	共著	平成24年4月	Tetrahedron Letter, 53, 2842-2846.
(論文) Anthcolorins A-F, novel cytotoxic metabolites from a sea urchin-derived Aspergillus versicolor.	共著	平成25年8月	Tetrahedron, 69, 4617-4623.
(論文) Tandyukisin, a novel ketoaldehyde decalin derivative, produced by a marine sponge-derived Trichoderma harzianum.	共著	平成26年1月	Tetrahedron Letter, 55, 662-664.
(論文) Altercrasin A, a novel decalin derivative with spirotetramic acid, produced by a sea urchin-derived Alternaria sp.	共著	平成27年1月	Tetrahedron, 71, 2753-2760.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ブラジル産植物アンデローバ (<i>Capara guianensis</i>) 種子の新規リモノイド		2015年9月	日本生薬学会第62回年会
アンデローバ含有リモノイドの肝細胞内中性脂肪低減作用		2015年9月	日本生薬学会第62回年会
エリンギ (<i>Pleurotus eryngii</i>) 子実体に含まれる新規ergostane型ステロイド		2015年9月	日本生薬学会第62回年会
エリンギ (<i>Pleurotus eryngii</i>) 子実体のergostane型ステロイド		2015年9月	第59回 香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会
セイヨウタンポポ (<i>Taraxacum officinale</i>) 根部の新規トリテルペン		2016年3月	日本薬学会第136年会
ウンシュウミカン (<i>Citrus unshiu</i>) 果皮の新規リモノイド		2016年3月	日本薬学会第136年会
ムラサキウニ由来真菌の新代謝産物altercrosin類の構造		2016年3月	日本薬学会第136年会
カイメン由来真菌の産生する新規細胞毒性物質の絶対構造		2016年3月	日本薬学会第136年会
エリンギ (<i>Pleurotus eryngii</i>) 子実体の新規ステロイド-eringiacetal A および Bの構造-		2016年3月	日本薬学会第136年会
アンデローバ含有成分の脂肪肝低減作用成分		2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			

	なし

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 自然学グループ	職名 准教授	氏名 吉岡 興一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2011～2014年度	授業評価アンケート
2 作成した教科書、教材、参考書		2009年9月 2010年4月 2011年4月 2011年10月 2012年4月 2012年10月 2013年4月 2013年4月	解析力学1 教材 解析力学1 教材 物理学A 教材 物理学C 教材 物理学B 教材 理工学概論 教材 物理学A 教材 物理学B 教材
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2014年11月28日 2015年4月1日～	公開授業(物理学入門2) FD委員会委員
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Runaway, D term and R-symmetry Breaking	共著	2012年11月26日	Phys. Rev. D86(2012)095026
(論文) D term and gaugino masses in gauge mediation	共著	2011年9月26日	JHEP 1109 (2011) 112
(論文) Universally Leptophilic Dark Matter From Non-Abelian Discrete Symmetry	共著	2011年1月17日	Phys. Lett. B695 (2011) 476
(論文) Deep Correlation Between Cosmic-Ray Anomaly and Neutrino Masses	共著	2010年9月29日	Phys. Rev. D82 (2010) 053009
(論文) Seesaw Neutrino Signals at the Large Hadron Collider	共著	2010年6月15日	JHEP 1006 (2010) 058
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ベクトルの世代を含む超対称性模型におけるヒッグス質量とミューオン $g-2$		2015年9月	素粒子物理学の進展2015
D=4, N=1 共形超重力理論における成分形式と超場形式の一般的対応		2015年9月	日本物理学会
Application to Cosmology in Asymptotically Non-Free Theory		2015年9月	日本物理学会
Component versus superspace approaches to D=4, N=1 conformal supergravity		2015年11月	YITP workshop "Microstructures of Black Holes"
Improved gauge-fixing condition in superspace conformal supergravity		2016年2月	KEK Theory Meeting on Particle Physics Phenomenology
Gauge fixing in superspace conformal supergravity		2016年3月	日本物理学会
III 学会および社会における主な活動			
2009年12月～2013年11月	素粒子物理学の進展2011, 2012, 2013 実行委員(2011年度委員長)		
2011年5月～2012年1月	シンポジウム 質量の起源と階層性 実行委員		
2011年6月～2012年3月	Extra Dimensions in the Era of the LHC 組織委員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 機能分子創製化学	職名 准教授	氏名 和田 俊一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2006年4月～ 2009年4月～ 2007年4月～ 現在	1年次科目「基礎有機化学」を担当 4年次科目「薬学英语」を担当 3年次科目「有機化学実習」を複数の教員で担当 教科書に加え、書き込み式のプリントを配布し、まとめ易く且つ復習し易くしている。また授業の終わりに問題を解かせ、学生の理解度を確認したり、毎回の授業に関する意見を学生に書いてもらい、次の授業に生かしている。 医薬品の製品情報や副作用情報、サプリメントに関する情報など、学生が興味を持ちそうな題材を選んで使用している。 毎回、実習終了後、3人1組に対して、その日行った実験の解説や質問を受けたりして理解を深めるよう指導している。
・ 授業科目について			
・ 授業方法の工夫 「基礎有機化学」			
「薬学英语」 「有機化学実習」			
2 作成した教科書、教材、参考書		2006年4月～現在	書き込み式の講義プリントを作製した。
「基礎有機化学」講義プリント		2009年4月～現在	医薬品の製品情報や副作用情報、サプリメントに関する情報に関する講義プリントを作製し
「薬学英语」講義プリント		2007年4月～現在	実験に関する心構えや注意点を加えて合成反応操作に関する実習書を作成した
「有機化学実習」実習テキスト		2009年1月～現在	共著者として参画した。
「有機化学入門第2版」(廣川書店)			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
・ 公開授業(1年次科目 基礎有機化学)		2012年5月	複数の教員による講義評価、学生アンケート、授業研究会をもとに、講義方法の改善に努めた。
・ 高校出張模擬授業		2015年7月	同上
		2009年7月	大阪府立住吉高校
		2009年12月	兵庫県立宝塚西高校
		2010年10月	大阪府立寝屋川高校
		2011年	高校生のための大学フェア大阪
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Antitumor-Initiating Effects Spiro-biflavonoids from <i>Abies sachalinensis</i>	共著	2010年9月	<i>Chem & Biodiv.</i> , 7(9), 2303-2308.
Cellular Uptake of Aib-containing Amphipathic Helix Peptide	共著	2011年8月	<i>Bioorg. Med. Chem. Lett.</i> , 21(19), 5688-5691.
Cellular Uptake of Covalent Conjugates of Oligonucleotide with Membrane-modifying Peptide, Peptaibol	共著	2012年4月	<i>Bioorg. Med. Chem.</i> , 20(10), 3219-3222.

Effect of Ala Replacement with Aib in Amphipathic Cell-Penetrating Peptide on Oligonucleotide Delivery into Cells	共著	2013年10月	<i>Bioorg. Med. Chem.</i> , 21 (24), 7669-7673.
Aib-Containing Peptide Analogs: Cellular Uptake and Utilization in Oligonucleotide Delivery	共著	2014年11月	<i>Bioorg. Med. Chem.</i> , 22 (24), 6776-6780.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Cu ^I の配位による新規C-Cu ^I -T 型塩基対の形成		2015年・10月	日本薬学会近畿支部
DNA polymerase によるC-Ag ^I -T、T-Ag ^I -C 錯体型塩基対の連続形成の検討		2015年・10月	日本薬学会近畿支部
プロドラッグ型 2'-O-メチルジチオメチル修飾-siRNA の遺伝子発現抑制効果		2015年・10月	日本薬学会近畿支部
Design of multivalent cyclic RGD-conjugated MAP (Aib) for targeted delivery of small interfering RNA		2015年・11月	日本ペプチド学会
RGD配列を有した膜透過性ペプチドMAP (Aib) のsiRNA デリバリー能力		2016年・3月	日本薬学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
	該当なし		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	三大学医工薬連環科学教育研究機構
職名	特任准教授	氏名	銭田 晃一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ・担当科目	2012年度～現在 2013年度～現在	三大学医工薬連環科学教育研究機構 双方向遠隔講義(実習、見学等を含む)の実施、運営 「医工薬連環科学」薬の効き方、効くしくみ薬理学入門 担当
2	作成した教科書、教材、参考書	2014年4月 2015年4月	「医工薬連環科学」資料集(関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学 医工薬連環科学教育研究機構 編著)作成 同上、改訂版作成
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特記すべき事項なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) ・認定実務実習指導薬剤師 ・日本薬剤師研修センター認定薬剤師	2013年3月 2014年5月 2009年2月 2010年1月	第65回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin近畿(タスクフォース) 第72回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin近畿(タスクフォース) 第10-43903号
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可) 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
	(教師論文)医療関係者に対する学生インタビューに同行して	単著	2014年3月 大学コンソーシアム大阪 大学と連携した参加・参画型事業 平成25年度「医療の現場における人権意識の現在と医療人権教育について」 81 大阪薬科大学
	(報告)在宅医療の充実に向けて—地域医療での薬剤師の新たな役割を考える—	共著	2014年3月 大阪薬科大学紀要, 8, 91-93
2.	学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月 学会名
	なし		
III 学会および社会における主な活動			
平成24年8月～現在	三大学医工薬連環科学教育研究機構が主催する社会還元事業(自由研究コンテスト、高槻家族講座、シンポジウム、JSTサマー・サイエンスキャンプ等)の実施、運営		

平成26年3月1、8、15（全3回） 平成27年3月7、14、21（全3回）	高槻市立生涯学習センター「けやきの森市民大学事業」大阪薬科大学公開講座 「身近なくすりが効くしくみ」講師
平成26年8月～	高槻市大学交流センター事業 夏休みこども大学 大阪薬科大学開催分「薬剤師 さんに変身 ーこども薬剤師体験ー」講師
平成26年8月～	大学コンソーシアム大阪「中学生サマー・セミナー」講座提供

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	分子構造化学
職名	講師	氏名	浅野 晶子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年4月～現在	「化学・化学演習」 毎回講義の最後に出欠確認を兼ねた小テストを実施しており、それによって学生全体の習熟度を把握しながら講義を進めている。
2	作成した教科書、教材、参考書	2013年4月～現在	「化学・化学演習」 指定の教科書の補足プリント、演習用の問題プリントの作成
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2015年6月26日	「化学・化学演習」において公開授業(FD)を実施予定
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Crystal structure of t-butyloxycarbonyl-L-hydroxyprolyl-glycine methyl ester (Boc-Pro-Hyp-Gly-OMe).	共著	2010年7月	Anal. Sci. X-Ray structure Analysis Online. 2010 ;26 :53-54.
The square conformation of phenylglycine-incorporated ascidiacyclamide is stabilized by CH/ π interactions between amino acid side chains.	共著	2011年4月	Bioorg Med Chem. 2011 ;19(11) :3372-7.
The desoxazoline asidiacyclamide analogue cyclo(Gly-Thr-D-Val-Thz-Ile-Thr-D-Val-Thz) acetonitrile monosolvate	共著	2012年12月	Acta Crystallogr Sect E: Struct Rep Online. 2012 ; 68(1), o54.
Modulating the structure of phenylalanine-incorporated ascidiacyclamide through fluorination	共著	2014年7月	J. Pept. Sci. 2014; 20: 794-802.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
アミロイド β ペプチドの26位セリン周辺の配列に着目した凝集阻害ペプチドの探索研究		2015年・10月	日本薬学会近畿支部
ヒトカルシトニンのシステイン置換型誘導体における二量体の合成と凝集性及び二次構造の評価		2015年・10月	日本薬学会近畿支部
ヒトカルシトニン二量体モデルにおける凝集性及び繊維形態の評価		2016年・3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 循環病態治療学	職名 講師	氏名 加藤 隆児
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 特になし			
2 作成した教科書、教材、参考書 実践処方例とその解説 第2版		平成26年5月1日	処方例に関する教科書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 公開授業研究会 公開授業研究会		平成25年9月20日 平成25年11月14日	公開授業に関する研究会 (FD活動) 公開授業に関する研究会 (FD活動)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Human Hepatocarcinoma Functional Liver Cell-4 Cell Line Exhibits High Expression of Drug-Metabolizing Enzymes in Three-Dimensional Culture.	共著	平成26年	Biol Pharm Bull 37, 1782-1787
(論文) Hydrogen gas attenuates embryonic gene expression and prevents left ventricular remodeling induced by intermittent hypoxia in cardiomyopathic hamsters.	共著	平成26年	Am J Physiol Heart Circ Physiol 307, H1626-H1633
(論文) The effect of capsaicin on circulating biomarkers, soluble tumor necrosis factor and soluble tumor necrosis factor-receptor-1 and-2 levels in vivo using lipopolysaccharide-treated mice.	共著	平成26年	Toxicology Reports 1, 1062-1067
(論文) Chronological changes in circulating levels of soluble tumor necrosis factor receptors 1 and 2 in rats with carbon tetrachloride-induced liver injury.	共著	平成26年	Toxicology 316C, 55-60
(論文) Influence of capsaicin on fluctuation of digoxin pharmacokinetics in lipopolysaccharide-treated rats.	共著	平成24年	Xenobiotica 42, 798-807
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Crosstalk between O-GlcNAcylation and Phosphorylation Regulates Autophagy in Diabetes Mellitus and OGT-Tg Mice Exposed to Intermittent Hypoxia		2015年4月	第79回日本循環器学会学術集会
Acetaminophen誘発肝障害の予測予防に関する検討 - Acetaminophenとそのグルクロン酸抱合体血中濃度測定とUGT1A1遺伝子診断の意義 -		2015年5月	第32回日本TDM学会・学術大会
Soluble tumor necrosis factor receptors 1 and 2 as novel biomarkers for drug-induced liver injury		2015年5月	第32回日本TDM学会・学術大会
LPS投与マウス及びRAW264細胞におけるCapsaicinの作用		2015年6月	第36回日本循環制御医学会総会
ヒト肝がん細胞および macrophage化ヒト単球性白血病細胞の 3次元培養下でのhalogenated hydrocarbonesの 細胞障害性に関する検討		2015年6月	第42回日本毒性学会学術年会
重篤副作用発現機序における皮膚免疫の関わり		2015年7月	第23回クリニカルファーマシーシンポジウム 医療薬学フォーラム2015
Acetaminophenとそのグルクロン酸抱合体血中濃度測定の意義		2015年10月	第9回日本緩和医療薬学会年会

THERAPEUTIC DRUG MONITORING OF ACETAMINOPHEN AND ITS GLUCURONIDE IN ACETAMINOPHEN INDUCED LIVER INJURY	2015年10月	14th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology 2015
CASPASE-3, -8, AND -9 ACTIVITIES IN CARBON TETRACHLORIDE, HALOTHANE, AND SEVOFLURANE-INDUCED LIVER INJURY	2015年10月	14th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology 2015
Factor Xa inhibition prevents cardiac remodeling induced by intermittent hypoxia in sleep apnea model mice	2015年11月	American Heart Association Scientific Sessions 2015
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成23年9月～	International Association of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology Young Science Committee member	
平成24年7月～	日本腎臓病薬物治療学会学会雑誌編集委員会委員	
平成26年5月～	日本TDM学会評議員	
平成26年5月～	日本TDM学会若手の会委員長	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 製剤設計学	職名 講師	氏名 門田 和紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 基礎薬剤学 (授業評価等を含む)		2014年4月～現在	3年生前期の授業で、物理化学などとの関連実際の製剤についてこの学問がなぜ必要かを意識した工夫をしている。また適宜、理解度を把握するために、演習問題を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 薬剤学実習書		2015年4月	4年生を対象にした、薬剤学の実習書についてのテキストである。製剤学、局方などについて詳しく実践できるように工夫したものである。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特になし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Anomalous role change of tertiary amino and ester groups as hydrogen acceptors in Eudragit® E based solid dispersion depending on the concentration of Naproxen	共著	2015年2月	Mol. Pharm., 12, 1050-1061
(論文) Enhanced dissolution of quercetin by forming composite particles	共著	2015年3月	J. Food Eng., 149, 248-254
(論文) Absorption improvement of tranilast by forming highly soluble nano-size composite structures associated with α -glucosyl rutin via spray drying	共著	2015年5月	Euro. J. Pharm. Biopharm., 92, 49-55
(論文) Kinetics of co-crystal formation with caffeine and citric acid via liquid assisted grinding analysed using distinct element method	共著	2015年8月	Euro. J. Pharm. Sci., 76, 217-224
(論文) Preparation of composite particles of hydrophilic or hydrophobic drugs with highly branched cyclic dextrin via spray drying for dry powder inhalers	共著	2015年10月	Powder Technology, 283, 16-23
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Curcumin の溶解度及び化学的安定性向上を指向した複合粒子の開発		2015年5月	粉体工学会2015年度春期研究発表会
CFD 解析による粉末吸入製剤使用時の Breath-hold が粒子挙動に及ぼす影響		2015年5月	日本薬剤学会第30年会
Stabilizing effect of cyclodextrins on the water-soluble nanocomposite formulation of curcumin and transglycosylated aditives		2015年5月	Joint conference of 8th Asian Cyclodextrin Conference and 32nd Cyclodextrin Symposium
Development of shape-controlled inhalable tranilast powder by asparagine acid		2015年7月	The 5th International Conference on the Characterization and Control of Interfaces for High Quality Advanced Materials and the 51st Summer Symposium on Powder Technology
酵素処理ルチンによる光安定性改善を指向した葉酸ナノ粒子の作製.		2015年8月	第40回製剤・創剤セミナー

糖転移ステビアのミセル形成能を利用した医薬品の溶解性改善	2015年10月	粉体工学会2015年度秋期研究発表会
両親媒性グラフトコポリマーSoluplusを用いたIpriflavone非晶質固体分散体－物理化学的特性の評価－	2015年10月	第65回 日本薬学会近畿支部総会
Folic acid nanoparticle production with highly dispersion and photostability using α -glycosyl rutin	2015年10月	Food structures, Digestion and Health, 3rd International Conference
肺の幾何学的構造を考慮した吸入療法における Breath-hold習得の有用性検証	2016年3月	日本薬学会136年会
ウルソデオキシコール酸を用いた新たな低分子化合物の結晶定量法としての Plused NMR の応用	2016年3月	日本薬学会136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成25年～現在	日本薬剤学会「薬剤学」投稿論文審査委員	
平成26年～現在	粉体工学会 粉体操作に伴う諸現象に関する勉強会 幹事	
平成26年～現在	日本海水学会 若手の会 役員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	薬品作用解析学
職名	講師	氏名	河合 悦子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
医薬品安全性学	2007年～2012年	医薬品安全性学 副作用発症機序をより理解してもらうために、図を多用した講義用プリントを作成し、教科書の補助として使用した。	
薬学英語	2013年～現在	薬学における専門英語(医療英語を含めて)に慣れることに重点をおいて講義を進めた。講義には病態に関わる洋書の専門書などから選択した英文でプリントを作成し、さらにパワーポイントを利用しながら講義を進める。各年度終了後の学生アンケートでは概ね良い評価を得ている。	
薬理学実習	1988年～現在	薬理作用の理解をさらに深めることを目的として実習内容を実施している。実習終了後のアンケート結果では、実習と通じて薬理作用が良く理解出来たとの評価を得ている。	
薬学総合演習	1994年～現在	薬理学領域を担当。テキストだけでなく、プリントや演習問題を配布し講義を進めている。	
特別実習・演習1、2	1988年～現在	研究室配属学生について、研究の実践を通じて、問題提起およびその解決能力を養うためのトレーニングを意識しながら指導をしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
「スタンダード薬学シリーズ4生物系薬学IV 演習編」	2011年	体液の調節機構の理解を深めるための演習問題作成を担当	
「図解 薬害・副作用学」	2013年	「薬剤性腎・泌尿器障害」執筆担当	
「毒性質問箱第16号」	2014年	「薬学における副作用学—教育・研究での取り組み」について、薬学6年制における副作用学に対する取り組みを紹介	
スタンダード薬学シリーズ4生物系薬学II	2015年	「第21章体液の調節」執筆担当	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
「安全性評価研究会春のセミナー」	2013年4月	薬学6年制における副作用学への取り組みについて講演	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
公開授業研究会	2014年5月 2015年4月	公開授業に関する研究会 (FD活動) 公開授業に関する研究会 (FD活動)	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)
(著書) 図解 薬害・副作用学		共著	2013年8月
(著書) スタンダード薬学シリーズ4生物系薬学II		共著	2015年10月
(論文) The effect of antioxidant on development of fibrosis by cisplatin in rats.		共著	2009年12月
(論文) シスプラチンによるepithelial-mesenchymal transitionへの抗酸化剤の影響		共著	2010年6月
(論文) Characterization of nicardipine hydrochloride-induced cell injury in human vascular endothelial cells.		共著	2015年2月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名

薬剤性急性腎障害修復に対するシステイニルロイコトリエン受容体拮抗薬モンテルカストの影響	2015年7月	第42回日本毒性学会学術年会
ニコチン誘発けいれんの原因部位およびメカニズムの解析	2015年7月	第42回日本毒性学会学術年会
Antiepileptic drugs elevate astrocytic Kir4.1 channel expression in rats	2016年3月	第89回日本薬理学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成18年4月～現在に至る	一般社団法人 日本トキシコロジー学会 学術評議員	
平成19年4月～現在に至る	公益社団法人 日本薬理学会 学術評議員	
平成26年5月～現在に至る	大阪医科大学附属病院倫理委員会外部委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧		
大学名 大阪薬科大学	講座名 薬品分析化学	職名 講師 氏名 佐藤 卓史
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	～平成22年	薬局方総論を担当。
	平成22年～26年	化学・化学演習を担当。平成24年に、従来の講義形式の化学を化学演習と一体化し、少人数クラス編成とし、特に入学時点において化学に対する学力の低い学生をピックアップしたクラス編成とすることで、それらの学生の学力の向上を図るように提言し、実施した。その際、低学力クラスを担当し、化学への興味の醸成に努めるとともに、学力の向上を目指した。結果として、従来留年の多かったこれらの層の学生の留年率の低減に一定の成果が見られた。
	平成23年～	機器分析学を担当。従来、学生の難解との声が多い科目であるため、できる限り装置の内部が見えるようにしたものを授業のときに持ち込み、必要ならビデオカメラを用いてスクリーンに投影して説明を行っている。また、原理がイメージしやすいようにアニメーションを組んだパワーポイントを用いた説明を毎回20分を越えない時間で行っており、同ファイルをポータルサイトにアップし、学生が自由にダウンロードできるようにしている。また、講義が一方通行にならないように、授業中に学生の理解できているかを確認しながら、講義を進めるように心がけている。毎回、ポストテストを行い、アンケート欄に書かれた質問に回答して返却している。授業に対する評価は概ね良好で90%以上の学生が分かりやすいと評価している。
	平成23年～ 平成25年～	生体分析化学を担当。 応用分析学を担当。機器分析学と同様に、装置等の持ち込み、アニメーションを組んだパワーポイントを用いた原理の説明を行っており、同ファイルをポータルサイトにアップし、学生が自由にダウンロードできるようにしている。。また、講義が一方通行にならないように、授業中に学生の理解できているかを確認しながら、講義を進めるように心がけている。毎回、ポストテストを行い、アンケート欄に書かれた質問に回答して返却している。授業に対する評価は概ね良好で90%以上の学生が分かりやすいと評価している。
	平成22年 以前より	分析化学実習を担当。事前の説明時に、関心を持たせるように、関連した日常の現象や具体的な応用例などを織り交ぜて説明しており、必要ならデモンストレーションを行っている。また、説明が一方通行にならないように、授業中に学生の理解できているかを確認しながら、講義を進めるように心がけている。実習に対する評価は概ね良好で90%以上の学生が分かりやすく、熱意の感じられる指導であると評価している。
2 作成した教科書、教材、参考書		よくわかる薬学機器分析(廣川書店)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成23年4月～	本学FD委員として、関西FDフォーラムのワークショップ等に参加。また、学生アンケートを従来の授業評価型から、授業内容や授業手法等の学生の学習意欲向上への寄与を問う形式への改定作業を行う。

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	、
よくわかる薬学機器分析	共著	平成27年1月	廣川書店
Solvolysis and cytotoxicity of dinuclear ruthenium(II)-2,20-bipyridine complexes with various bridged-ligands	共著	平成25年1月	Inorg. Chim. Acta. 2013; 394: 190-195.
Second- and higher-order structural changes of DNA induced by antitumor-active tetrazolato-bridged dinuclear platinum(II) complexes with different types of 5-substituent.	共著	平成25年10月	J Inorg Biochem. 2013; 127: 169-74.
The RND protein is involved in the vulnibactin export system in <i>Vibrio vulnificus</i> M2799.	共著	平成26年10月	Microb Pathog. 2014; 75: 59-67.
Detection of Peramivir and Laninamivir, New Anti-Influenza Drugs, in Sewage Effluent and River Waters in Japan.	共著	平成27年1月	大阪薬科大学紀要 9号 2015 53-60
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
テトラゾール5位に置換基を導入した制がんtetrazolato架橋白金(II)二核錯体の細胞内取り込みとDNA凝縮的検討と考察—		2015年5月	第25回金属の関与する生体関連反応シンポジウム
治療抵抗性統合失調症に対するクロザピンの有効性について—一定量法に関する基礎的検討と考察		2015年10月	第25回日本臨床精神神経薬理学会
Cellular Uptake and DNA Compaction of Anticancer Tetrazolato-Bridged Dinuclear Platinum(II) Complexes with Various Substituents at Tetrazole C5		2015年10月	1st International Symposium on Clinical and Experimental Metallodrugs in Medicine: Cancer Chemotherapy” (CEMM)
III 学会および社会における主な活動			
平成25年4月～	分析化学会近畿支部 幹事		
平成25年4月～	金属の関与する生体関連反応シンポジウム 評議委員		
平成20年4月～	認定指導薬剤師養成のためのワークショップ タスクホース		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 微生物学	職名 講師	氏名 土屋 孝弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2005年度- 2007年度 2005年度- 現在 2014年度- 現在	3年次科目 生物科学実習 実習概要については実験の始まる前に説明するが、実験の待ち時間等にも適宜説明を加えることにより、実験方法や注意点を確認するとともに、待ち時間も実習内容について考えさせるように工夫している。 1年次科目 生物学実習 実験の原理、手順、注意点などの説明する際に、写真を多用したスライドを用意し視覚的に理解できるようにしている。また、プロジェクターで投影するだけでなく、各実験台にパソコンを2台用意し、モニターに映しながら説明を行っている。また、実習期間中いつでも学生が自由にスライドを見返すことが出来、確認しながら実験を進めるようにしている。 3年次科目 免疫学 図表を多用することにより、視覚的に反応機構を理解できるように解説するとともに、以前に説明した事柄も関連する個所で何度も復習をしながら講義を進めている。	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
早期体験学習	2009年度- 現在	SGDおよび施設見学引率	
大阪薬科大学OSCE	2009年度- 現在	評価者	
近畿大学OSCE	2009年度	評価者	
京都薬科大学OSCE	2010年度- 2014年度	評価者	
第72回認定実務実習指導者薬剤師養成ワークショップ in 近畿	2014年度	タスクフォース	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Proteomic analysis of <i>Vibrio vulnificus</i> M2799 grown under iron-repleted and iron-depleted condition	共著	2009年6月	Microb Pathog. 2009 46:171-177
NK1.1+ cells regulate neutrophil migration in mice with <i>Acinetobacter baumannii</i> pneumonia	共著	2012年3月	Microbiol Immunol. 2012 56:107-116
抗菌薬存在下における耐性乳酸菌と酪酸菌の腸内での生存について	共著	2013年6月	医学と薬学, 69, 921-927 (2013)
Role of periplasmic binding proteins, FatB and VatD, in the vulnibactin utilization system of <i>Vibrio vulnificus</i> M2799.	共著	2013年11月	Microb. Pathog. 2013 65: 73-81
The RND protein is involved in the vulnibactin export system in <i>Vibrio vulnificus</i> M2799.	共著	2014年9月	Microb Pathog. 2014 75:59-67.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名

<i>Vibrio vulnificus</i> M2799株の鉄獲得機構の解明	2015年9月	第27回微生物シンポジウム
Bam複合体を標的とした新規抗菌物質の開発	2015年10月	日本薬学会近畿支部総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
該当なし		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	生体機能診断学
職名	講師	氏名	平田 雅彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 担当科目 化学・化学演習		2013年-2015年	少人数制のクラスでの授業を行い、講義部分より実践を多く取り入れ学生自身が自学実践できるよう心掛けている。また、大学入学時、より、ノートをとる学生が減少することからノートを作成の大切さを説き、ノート提出をさせている。 放射化学部分を担当している。レポートをたんに提出させるだけでなく、丁寧に添削、指導し、完全にできるまで再提出させている。テストでは、できるまで何回も実施し、理解できるまで行っている。
担当科目 物理放射化学実習		2010年-2015年	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Relationship between uptake of a radioiodinated quinazoline derivative and radiosensitivity in non-small cell lung cancer.	共著	2014年	Am J Nucl Med Mol Imaging. Vol. 7 No. 4
(論文) Monitoring of gefitinib sensitivity with radioiodinated PHY based on EGFR expression.	共著	2014年	Biol Pharm Bull. Vol. 37No. 3
(論文) A useful EGFR-TK ligand for tumor diagnosis with SPECT: development of radioiodinated 6-(3-morpholinopropoxy)-7-ethoxy-4-(30-iodophenoxy)quinazoline.	共著	2014年	Ann Nucl Med vol. 27 No 6
(論文) Assessment of epidermal growth factor receptor status in glioblastomas	共著	2013年	Asia Oceania J Nucl Med Biol. Vol. 1No. 2
(論文) Evaluation of Radioiodinated Quinazoline Derivative as a New Ligand for EGF Receptor Tyrosine Kinase Activity Using SPECT	共著	2011年	Annal. Nucl. Med. Vol 25
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
肺癌治療薬の効果予測を目的とする新規エルロチニブ誘導体の合成と基礎評価		2016年・3月	日本薬学会 第136年会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	生化学
職名	講師	氏名	藤井 忍
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 生物科学実習（3年生科目）		1992年～	脂質、糖質、核酸、タンパク質に関する実習 学生が興味を持てるよう、各自の唾液タンパク質のSDS-PAGEを行わせ、その結果などを解説している
薬学英语（4年生科目）		2006年～	科学英語を主体とし、PubMedを利用 数式の読み方、化学式の読み方など、教養科目の英語ではあまり学ばない点について解説する。
生化学1（1年生科目）		2007年～	脂質、糖質、タンパク質（酵素を含む）に関する講義 各項目の講義終了後に簡単なポストテスト（確認テスト）を行い、学生に自分の理解度を確認させている。講義は、できる限り学生の中に入って質問したりするとともに、板書を多用し、板書の不足分は補助プリントとして配布することで、学生が、自宅で容易に学習できるように工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書 生物科学実習		1992年～	実習テキスト ：血清成分の定量、タンパク質のイオン交換クロマトグラフィーによる分離、酵素反応を担当
薬学英语		2006年～	補助教材 ：科学論文とPubMedの利用法として、論文の形式とPCを用いた論文の検索法を解説
生化学1		2007年～	補助教材 ：レーニンジャーの生化学から、ぜひ覚えてほしい部分を抜粋して板書出来ない部分はプリントとして配布。また、各項目に関するCBTレベルの5択問題を作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特記事項なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿 高校模擬講義		2008年～ 2008年～	タスクフォースとして、毎年1回～2回参加 毎年1回程度、「タンパク質と薬」と題して、いくつかの高等学校で模擬講義を行っている
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）
レーニンジャーの新生化学（第6版）（上） 第2章 水 p63-104の翻訳を担当		共著	2015年3月
2. 学会発表（評価対象年度のみ）			発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
			発表年・月
			学会名
III 学会および社会における主な活動			
特記事項なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。

- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	中央機器研究施設
職名	講師	氏名	藤嶽 美穂代
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) マススペクトロメトリー (MS) の基礎と薬剤師 国家試験問題の解説。		2000年～	「学生と研究者のための新しくかつ分かり易い マススペクトルガイド」を独自に作成し、4年 次生と院生、教職員の方を対象としたMSのセミ ナーを、薬品合成化学の授業外学習で、さらに 依頼を受けた研究室において開催し、MSの基本 に関して、より理解を深めてもらえるように努 めています。
2 作成した教科書、教材、参考書 教材：有機化学実験のための易しいマススペク トロメトリー		2012年～	「有機化学実験のための易しいマススペクト ロメトリー」と題した原稿を本学紀要に投稿し (大阪薬科大学紀要 6, 85-106, 2012)、これ をテキストとして使用しています。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・早期体験学習の一環として病院・薬局訪問事前 講演会とマナー教育講演会の実施		2012年4月	早期体験学習(病院・薬局)のための講演会とマ ナー教育講演会の準備、実施。
・早期体験学習の一環として企業訪問事前講演会 と卒業生による進路教育講演会の実施		2012年9月	早期体験学習(企業訪問)受け入れ依頼及び講演 会の準備、実施。卒業生による進路指導のため の講演会の準備、実施。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
・FD委員会 委員		2011, 2012年度	FD委員会の委員として公開授業、授業検討会の 準備、実施に参画しました。
・早期体験学習1委員会 委員		2011, 2012年度	早期体験学習委員会の委員として講演会、マ ナー教育講演会、進路指導講演会の準備及び実 施に参画しました。
・アムステルダム自由大学の学生との国際交流実 施		2015年4月	アムステルダム自由大学のスタディツアー受け 入れ準備、実施。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Antitumor Agents. 282. 2'- <i>O</i> -(<i>R</i>)- <i>O</i> - Acetylglaucarubinone, a Quassinoid from Odyndyea gabonensis As a Potential Anti- Breast and Anti-Ovarian Cancer Agent	共著	2010年	<i>J. Nat. Prod.</i> , 73 , 1553 -1558.
(論文) イミダゾールC-ヌクレオシドホスホロア ミダイトのマススペクトル測定の実際	共著	2011年	大阪薬科大学紀要, 5 , 49-57.
(論文) Synthesis of novel tetrazole C5- linked C0- and C2-ribonucleoside phosphoramidites using MePOM and POM groups for probing RNA catalysis	共著	2012年	<i>Tetrahedron Lett.</i> , 53 , 5891-5894.
(論文) 有機化学実験のための易しいマススペク トロメトリー	単著	2012月	大阪薬科大学紀要, 6 , 85-106.
(論文) LSI/FABを用いる多官能性ヌクレオシドホ スホロアミダイトのマススペクトル測定	共著	2013年	薬学雑誌, 133 (7), 823- 841.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
2013年4月～現在に至る	日本質量分析学会 男女共同参画推進委員会委員		

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧				
大学名	講座名	RI研究施設	職名 講師	氏名 山沖 留美
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成21年9月1日	衛生薬学実習を担当した。食品衛生および環境衛生上の知識と技能を高めるために、衛生試験法に掲載されている飲食物試験法および環境試験法に関して、3年次生を対象に講義を行い、実技を指導し、実習レポートおよび筆記試験による成績評価を行った。	
		平成22年5月1日	早期体験学習1を担当した。1年次生を対象に、卒業生の活躍する現場(病院・薬局および企業の研究所・工場)などを体験させ、グループディスカッション・発表・報告書作成の指導を行った。	
		平成22年9月1日	物理化学・放射化学実習を担当した。薬学における放射化学の基本的な事項について受講生が知識と技能を修得できることを目指し、2年次生を対象に講義を行い、実技を指導し、実習レポートおよび筆記試験による成績評価を行った。	
		平成22年10月1日	薬学総合演習1を担当した。薬剤師に求められる基礎から専門知識までの総合的な理解と問題解決能力を養うことを目標とし、4年次生を対象に、薬学教育モデル・コアカリキュラムにおける物理系薬学および衛生薬学のうち、放射化学・放射薬品学に関する領域について講義を行った。	
		平成23年5月1日	早期体験学習1を担当した。1年次生を対象に、卒業生の活躍する現場(病院・薬局および企業の研究所・工場)などを体験させ、グループディスカッション・発表・報告書作成の指導を行った。	
		平成23年9月1日	物理化学・放射化学実習を担当した。薬学における放射化学の基本的な事項について受講生が知識と技能を修得できることを目指し、2年次生を対象に講義を行い、実技を指導し、実習レポートおよび筆記試験による成績評価を行った。	
		平成23年10月1日	薬学総合演習1を担当した。薬剤師に求められる基礎から専門知識までの総合的な理解と問題解決能力を養うことを目標とし、4年次生を対象に、薬学教育モデル・コアカリキュラムにおける物理系薬学および衛生薬学のうち、放射化学・放射薬品学に関する領域について講義を行った。	
		平成22年5月1日	早期体験学習1を担当した。1年次生を対象に、卒業生の活躍する現場(病院・薬局および企業の研究所・工場)などを体験させ、グループディスカッション・発表・報告書作成の指導を行った。	
		平成24年9月1日	物理化学・放射化学実習を担当した。薬学における放射化学の基本的な事項について受講生が知識と技能を修得できることを目指し、2年次生を対象に講義を行い、実技を指導し、実習レポートおよび筆記試験による成績評価を行った。	
		平成24年10月1日	薬学総合演習1を担当した。薬剤師に求められる基礎から専門知識までの総合的な理解と問題解決能力を養うことを目標とし、4年次生を対象に、薬学教育モデル・コアカリキュラムにおける物理系薬学および衛生薬学のうち、放射化学・放射薬品学に関する領域について講義を行った。	
		平成25年5月1日	早期体験学習1を担当した。1年次生を対象に、卒業生の活躍する現場(病院・薬局および企業の研究所・工場)などを体験させ、グループディスカッション・発表・報告書作成の指導を行った。	
		平成25年9月1日	物理化学・放射化学実習を担当した。薬学における放射化学の基本的な事項について受講生が知識と技能を修得できることを目指し、2年次生を対象に講義を行い、実技を指導し、実習レポートおよび筆記試験による成績評価を行った。	
		平成25年10月1日	薬学総合演習1を担当した。薬剤師に求められる基礎から専門知識までの総合的な理解と問題解決能力を養うことを目標とし、4年次生を対象に、薬学教育モデル・コアカリキュラムにおける物理系薬学および衛生薬学のうち、放射化学・放射薬品学に関する領域について講義を行った。	

	平成25年11月1日	薬学総合演習3を担当した。薬剤師に求められる基礎から専門知識までの総合的な理解と問題解決能力を養うことを目標とし、6年次生を対象に、薬学教育モデル・コアカリキュラムにおける物理系薬学および衛生薬学のうち、放射化学・放射薬品学に関する領域について講義を行った。
	平成26年4月1日	化学・化学演習を担当した。大学における化学系専門科目を学ぶ上で必要不可欠な化学の基礎知識を習得できること目指し、1年次生を対象に講義と化学計算を中心とした演習を行い、定期試験、出席状況、小テスト等をもとに、総合的に判断して成績評価を行った。
	平成26年5月1日	早期体験学習1を担当した。1年次生を対象に、卒業生の活躍する現場(病院・薬局および企業の研究所・工場)などを体験させ、グループディスカッション・発表・報告書作成の指導を行った。
	平成26年7月28日	薬学総合演習3を担当した。薬剤師に求められる基礎から専門知識までの総合的な理解と問題解決能力を養うことを目標とし、6年次生を対象に、薬学教育モデル・コアカリキュラムにおける物理系薬学および衛生薬学のうち、放射化学・放射薬品学に関する領域について講義を行った。
	平成26年9月1日	物理化学・放射化学実習を担当した。薬学における放射化学の基本的な事項について受講学生が知識と技能を修得できることを目指し、2年次生を対象に講義を行い、実技を指導し、実習レポートおよび筆記試験による成績評価を行った。
	平成26年10月1日	薬学総合演習1を担当した。薬剤師に求められる基礎から専門知識までの総合的な理解と問題解決能力を養うことを目標とし、4年次生を対象に、薬学教育モデル・コアカリキュラムにおける物理系薬学および衛生薬学のうち、放射化学・放射薬品学に関する領域について講義を行った。
	平成27年4月1日	化学・化学演習を担当した。大学における化学系専門科目を学ぶ上で必要不可欠な化学の基礎知識を習得できること目指し、1年次生を対象に講義と化学計算を中心とした演習を行い、定期試験、出席状況、小テスト等をもとに、総合的に判断して成績評価を行っている。
	平成27年5月1日	早期体験学習1を担当した。1年次生を対象に、卒業生の活躍する現場(病院・薬局および企業の研究所・工場)などを体験させ、グループディスカッション・発表・報告書作成の指導を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書	平成21年9月1日	衛生薬学実習 実習テキスト
	平成22年5月1日	早期体験学習1 SGD資料
	平成22年9月1日	物理化学・放射化学実習 実習テキスト
	平成22年10月1日	薬総合演習1 演習テキスト
	平成22年10月1日	薬総合演習1 演習問題集
	平成23年5月1日	早期体験学習1 SGD資料
	平成23年9月1日	物理化学・放射化学実習 実習テキスト
	平成23年10月1日	薬総合演習1 演習テキスト
	平成23年10月1日	薬総合演習1 演習問題集
	平成24年5月1日	早期体験学習1 SGD資料
	平成24年9月1日	物理化学・放射化学実習 実習テキスト
	平成24年10月1日	薬総合演習1 演習テキスト
	平成24年10月1日	薬総合演習1 演習問題集
	平成25年5月1日	早期体験学習1 SGD資料
	平成25年9月1日	物理化学・放射化学実習 実習テキスト
	平成25年10月1日	薬総合演習1 演習テキスト
	平成25年10月1日	薬総合演習1 演習問題集
	平成25年11月1日	薬総合演習3 演習テキスト
	平成25年11月1日	薬総合演習3 演習問題集
	平成26年4月1日	化学・化学演習テキスト
	平成26年4月1日	化学・化学演習 演習問題集
	平成26年5月1日	早期体験学習1 SGD資料
	平成26年7月1日	薬総合演習3 演習テキスト
	平成26年7月1日	薬総合演習3 演習問題集
	平成26年9月1日	物理化学・放射化学実習 実習テキスト

	平成26年10月1日	薬総合演習1 演習テキスト	
	平成26年10月1日	薬総合演習1 演習問題集	
	平成27年4月1日	化学・化学演習テキスト	
	平成27年4月1日	化学・化学演習 演習問題集	
	平成27年5月1日	早期体験学習1 SGD資料	
	平成27年5月1日	薬総合演習3 演習テキスト	
	平成27年5月1日	薬総合演習3 演習問題集	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成21年7月1日	高校ガイダンス（兵庫県）にて「薬学教育」について講演	
	平成22年6月1日	高校ガイダンス（大阪府）にて「薬学教育」について講演	
	平成22年12月1日	高校ガイダンス（兵庫県）にて「薬学教育」について講演	
	平成23年12月1日	高校ガイダンス（大阪府）にて「薬学教育」について講演	
	平成24年6月1日	高校ガイダンス（大阪府）にて「薬学教育」について講演	
	平成26年6月29日	AASP第3回薬学部長フォーラム2014 「薬系大学紹介ポスター展示発表会」に参加発表	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成21年5月1日	第31回「薬剤師のためのワークショップin近畿」に参加	
	平成21年11月1日	大阪薬科大学FD研究会（生物系）評価者	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）照射生薬の検知について	単著	平成21年10月	防菌防黴, 37.
（論文）Analysis of electron spin resonance spectra in irradiated gingers	共著	平成22年4月	Radiat. Phys. Chem., 79
（論文）Electron spin resonance characterization of radical components in irradiated black pepper skin and core	共著	平成23年12月	Radiat. Phys. Chem., 80
（論文）ESR characterization of irradiated peony root, a medicinal plant containing crystalline sugars	共著	平成25年4月	RADIOISOTOPES, 62
（論文）Electron spin resonance spectral analysis of irradiated royal jelly.	共著	平成26年1月	Food Chemistry, 143
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
放射線照射した果実由来生薬で観測される安定ラジカル種について		平成28年3月	日本薬学会第136年会
放射線照射した乾燥果実類のESRシグナル特性		平成27年7月	日本アイソトープ研究会
III 学会および社会における主な活動			
平成21年6月～平成21年7月	農林水産省／動物医薬品検査所 「放射線利用動物用医薬品の評価方針に関する検討会」委員囑託		
平成24年7月	第49回アイソトープ・放射線研究発表会若手優秀講演賞の審査員囑託		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	臨床化学
職名	講師	氏名	山口 敬子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 臨床化学 薬学総合演習 臨床導入実習 薬局方総論 病態生理学実習演習 早期体験学習		平成20年～ 平成20年～ 平成21年 平成22年～ 平成21年～	一方的な知識の羅列に終わることなく理解度確認のために座学科目では演習プリントを作成し双方向の授業に近づけるべく毎回のアンケート提出により今後のより良い授業の追求に活用している。また演習実習の授業においては、最大限に学生との疎通を再優先とし個別に理解度を確認しながら自主性を促し、最大限の効果を引き出す工夫を創出する。
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学生のための臨床化学 共著 南江堂		平成27年	既存の内容を継承することではなく、新しい見地も含めながら図表で表現できる部分を既存のものよりも増やして理解しやすい内容の記述につとめた。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 高校における模擬授業（賢明女子学院高校 京都精華女子高等学校 東山高等学校 枚方津田高校）		平成21年 平成26年	模擬授業やオープンキャンパスで高校生対象にわかりやすい薬学知識の身近な例から研究実験の面白さや薬剤師の役割などに言及する。記載事項以外からも高校のみならず、定時制高校や家庭教師センターより個別に依頼をいただくこともあった。
4 その他教育活動上特記すべき事項 日本分析化学会近畿支部主催 第53～59回 機器による分析化学講習会		平成18年～ 平成21年	分析業務に携わる社会人を対象にわかりやすく機器の測定原理から具体的な実習をすることで実践的な前処理法の提案をして、また各々の職場で技術敵問題にも個々に対応し好評を得た。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（著書）薬学生のための臨床化学	共著	平成27年8月予定	南江堂
（論文）Spectrophotometric determination of hydrogen peroxide with osmium(VIII) and m-carboxyphenyl-fluorone	共著	平成26年1月	Spectrochimica Acta, Part A: Molecular and Biomolecular Spectroscopy (2014), 117, 814-816.
（論文）Spectrophotometric determination of micro amounts of albumin using zirconium(IV) and xylenol orange	共著	平成24年1月	Chemistry Letters (2012), 41(1), 58-59.
（論文）Spectrophotometric determination of copper(II) with o-bromophenylfluorone.	共著	平成21年12月	Anal Sci; 2009 Dec;25(12):1457-60
（論文）Fluorophotometric determination of hydrogen peroxide with fluorescein in the presence of cobalt (II) and reaction against other reactive oxygen species	共著	平成21年5月	Journal of fluorescence (2009), 19(5), 769-75.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ブラジキニンと金属イオンとの反応性について		2015年・5月	第75回 日本分析化学討論会
キサントン系色素を用いる La(III) 定量法の確立		2015年・5月	第75回 日本分析化学討論会
o-カルボキシフェニルフルオロンと鉄(III)による ヒ酸イオン測定法の開発について		2015年・5月	第75回 日本分析化学討論会
o-プロモフェニルフルオロンとCo(II)を用いるポリアミンの吸光光度定量法の開発		2015年・9月	日本分析化学会第63年会
エオシンとチタン(IV)を用いるニューキノロン系抗生剤の吸光光度法の開発について		2015年・9月	日本分析化学会第63年会
o-カルボキシフェニルフルオロンと鉄(III)イオンを用いるRNA及びDNA定量への試み		2015年・9月	日本分析化学会第63年会

ケルセチンと金属イオンとの金属錯体について	2015年・9月	日本分析化学会第63年会
<i>o</i> -スルホフェニルフルオロンを用いるカルシウム(II)の吸光度定量法の開発	2015年・9月	日本分析化学会第63年会
EDTA共存下、キサントン系色素-Ti(IV)錯体の退色を利用するH ₂ O ₂ の測定法について	2015年・9月	日本分析化学会第63年会
アクロレインとレゾルシノール類の蛍光反応について	2015年・9月	日本分析化学会第63年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成21年3月～	日本分析化学会近畿支部幹事	
平成21年10月～	薬学共用試験センターOSCEモニター員	
平成21年12月～	第20回 日本臨床化学会近畿支部総会 事務局	
平成24年3月～平成25年2月	日本分析化学会近畿支部常任幹事	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	臨床薬学実務教育
職名	助教	氏名	羽田 理恵
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2009年度～ 2014年度 2009年度～現在 2015年度	4年次科目 調剤学実習 大阪薬科大学附属薬局における薬局実務実習 大阪薬科大学附属薬局における早期体験学習
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			大阪薬科大学附属薬局薬剤師併任(2004年6月～) 認定実務実習指導薬剤師(2012年6月～)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 臨床化学	職名 助手	氏名 浅野 麻実子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）	2012年4月～現在	<u>早期体験学習2（1年生、後期）</u> 患者症例を2例の症例解析を行うと同時に、患者の疾患モデルでの診察や検査を実施している。具体的には、眼底検査、鼓膜観察、擬似尿を用いた尿検査及びパルスオキシメータを用いた呼吸機能検査を行っている。1年生には難易度の高いテーマであるため、事前講義では病態生理学、生化学、臨床検査学等多岐に渡る説明を行うことで、1年生でも充分理解できるよう工夫している。	
	2011年4月～現在	<u>病態生理学演習実習（5年生、前期）</u> 内容は早期体験学習2と同様であるが、より専門的かつ難易度を上げて実施している。具体的には、患者症例を2例の今後の治療方針について、投与設計を中心に議論させレポートに記載させる内容を追加した。また、事前講義は必要最小限とし、できるだけ自主的に調査し考えさせる内容とした。	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2015年8月9日	<u>青少年のための科学の祭典2015 石巻大会</u> 石巻専修大学にて「電子レンジでサイエンス！」と題し、一般市民向けにマイクロ波科学に関する体験実験の講義を行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事項（FDを含む）	2011年9月 2012年10月 2013年11月	<u>早期体験学習1（1年生、後期）</u> 製薬会社（シオノギ製薬、小野薬品工業の研究所）への見学を引率し、見学の前後にsmall group discussion (SGD)を行った。事前のSGDでは、見学の際学習したいことを議論させるが、議論が円滑に進むよう新薬開発の流れや当該企業の特色について講義した。事後のSGDでは、見学での学習内容を今後の学生生活や進路に生かせるようなディスカッションとした。また報告書の添削も行った。	
	2014年8月	<u>オープンキャンパスでの講義（高校生向け）</u> 高校生に向けて、尿検査の体験から臨床検査の意義を講義した。まず、尿が作られる過程や腎臓の仕組みを説明した後、糖尿病患者及び腎疾患患者モデルの擬似尿を用いて尿検査を実施した。更に、サプリメント服用時の尿検査への影響を講義した。具体的には、ビタミンC溶液を擬似尿に添加し、尿試験紙における呈色の違いを体験させ、考察させた。本講義に対する講義スライドや配布資料も併せて作成した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）MWE 2015 マイクロウェーブワークショップダイジェスト	共著	2015年11月	APMC国内委員会
（論文）Bio-imaging of hydroxyl radicals in plant cells using the fluorescent molecular probe rhodamine B hydrazide, without any pretreatment.	共著	2015年1月	<i>J. Biosci. Bioeng.</i> , 118 (1), 98-100 (2014).
（論文）Spectrophotometric determination of hydrogen peroxide with osmium(VIII) and m-carboxyphenylfluorone.	共著	2015年1月	<i>Spectrochim. Acta A Mol. Biomol. Spectrosc.</i> , 117 (3), 814-816 (2014).

(論文) A fundamental study for the mechanism of cell death by special effects of microwave.	共著	2015年9月	<i>Thermal Med.</i> , 30 , 160 (2014).
(著書) 最新 マイクロ波エネルギーと応用技術	共著	2014年11月	株式会社産業技術サービスセンター
(論文) Fluorophotometric determination of histone with 3,4,5,6-tetrafluoro-2-carboxyphenylfluorone-manganese(II) complex and its characterization.	共著	2014年2月	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , 61 (4), 379-383 (2013).
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
マイクロ波の非熱性効果が種々の培養癌細胞に与える影響		2015年9月	第34回microwave surgery 研究会
低温でのマイクロ波照射下での細胞の誘電率と生存率の関係		2015年11月	第9回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム
有限要素法によるマイクロ波加熱下でのHL-60の電磁界及び温度分布挙動		2015年11月	第9回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム
植物に対するマイクロ波の影響とそのメカニズムに関する研究		2015年11月	第9回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム 【JEMEA ベストペーパー賞 最優秀賞受賞】
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成26年6月～現在	日本電磁波エネルギー応用学会 若手アカデミー部会 委員		
平成26年11月18～19日	第8回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム 学会賞審査員		
平成27年6月～現在	第9回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム 実行委員		
平成27年8月～現在	JEMEA東北復興支援チーム2015 メンバー		
平成27年11月2日 (予定)	京大大学生存圏研究所 第298回生存圏シンポジウム 招待講演		
平成27年11月18～20日 (予定)	第9回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム 学会賞審査員		
平成27年11月25～27日 (予定)	Microwave Workshop& Exhibition (MWE) 2015 講師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 薬品分析化学	職名 助手	氏名 東 剛志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2012年4月～ 2012年4月～ 2012年4月～ 2012年4月～ 現在	1年次科目:早期体験学習1(企業見学のプレ/ ポストSGD) 2年次科目:分析化学実習 OSCEサポートスタッフ ・前年度の授業アンケートに記載された学生の 意見を参考に講義方法の改善を行っている。 ・実習講義の際に分析機器の内部を見せること により、測定機器を身近に感じ興味を持っても らえるようにした。	
2 作成した教科書、教材、参考書		分析化学実習テキスト 分析化学実習(講義編/操作編) 毎年作成している。平成25年度から新たな実習 項目を追加し全体的に改定した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当無し	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2014年3月	在宅医療における薬剤師の役割についての提案 を、大阪薬科大学紀要 vol. 8, 91-93(2014)「在 宅医療の充実に向けてー地域医療での薬剤師の 新たな役割を考えるー」として分担執筆し発行 した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Synchronous dynamics of observed and predicted values of anti-influenza drugs in environmental waters during a seasonal influenza outbreak.	共著	平成24年10月	Environ. Sci. Technol., 46(23), 12873- 12881(2012).
(論文) Mass balance of anti-influenza drugs discharged into the Yodo River system, Japan, under an influenza outbreak.	共著	平成25年7月	Chemosphere, 93(9), 1672-1677(2013).
(論文) Optimisation of the analysis of anti- influenza drugs in wastewater and surface water.	共著	平成26年6月	Int. J. Environ. Anal. Chem., 94(9), 853- 862(2014).
(論文) The RND protein is involved in the vulnibactin export system in <i>Vibrio</i> <i>vulnificus</i> M2799.	共著	平成26年9月	Microb. Pathog., 75, 59- 67(2014).
(論文) Determination of pharmaceutical pollutants in river environment by the SPE- LC-MS/MS method: A mini review.	共著	平成26年12月	J. Environ. Anal. Chem., 2(1), 1-5(2014).
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
医療機関からの排水を対象にした医薬品成分類の検出		平成27年3月	日本水環境学会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成27年4月～現在に至る	日本水環境学会関西支部幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 分子構造化学	職名 助手	氏名 川島 浩之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年4月～	「基礎薬学実習」にて1回生を対象とし、化学実験の基本的手技の指導を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Epimerization-free synthesis of cyclic peptide by use of the O-acyl isopeptide method.	共著	2010年7月	Journal of Peptide Science, 16, 437-442.
(論文) Synthesis of an O-acyl isopeptide by using native chemical ligation to efficiently construct a hydrophobic polypeptide.	共著	2011年10月	Tetrahedron Letters, 52, 7146-7148.
(論文) Comparative properties of A β 1-42, A β 11-42, and [Pyr11]A β 11-42 generated from O-acyl isopeptides.	共著	2013年1月	Bioinorganic & Medicinal Chemistry Letters, 23, 1326-1329.
(論文) A new class of aggregation inhibitor of amyloid- β peptide based on an O-acyl isopeptide.	共著	2013年9月	Bioinorganic & Medicinal Chemistry, 21, 6323-6327.
(論文) Synthesis of an O-acyl isopeptide by using native chemical ligation in an aqueous solvent system.	共著	2014年3月	Journal of Peptide Science, 20, 361-365.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
アミロイド β ペプチドの26位セリン周辺の配列に着目した凝集阻害ペプチドの探索研究		2015年 10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
ヒトカルシトニンのシステイン置換型誘導体における二量体の合成と凝集性及び二次構造の評価		2015年 10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
ヒトカルシトニン二量体モデルにおける凝集性及び繊維形態の評価		2016年 3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 医薬品化学	職名 助手	氏名 菊地 崇
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2011年9月～ 現在 2011年4月～ 現在	1年次科目 基礎有機化学実習 5-6年次科目 特別演習実習 学生が操作の原理を理解できるよう努め、有機化学に興味を持ってもらうことにつなげてもらうことを心掛けている。また、すぐに答えを教えるのではなく、学生に考えさせるよう心掛けている。	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Pyrazole alkaloids from watermelon (<i>Citrullus lanatus</i>) seeds.	共著	2015年3月	Phytochemistry Lett., 12, 95-97.
(論文) Cytotoxic and apoptosis-inducing activities, and anti-tumor-promoting effects of cyanogenated and oxygenated triterpenes.	共著	2014年11月	Chem. Biodivers., 11, 491-504.
(論文) Three new triterpene esters from pumpkin (<i>Cucurbita maxima</i>) seeds.	共著	2014年4月	Molecules, 19, 4802-4813.
(論文) Cucurbitane-type triterpenes from <i>Citrullus lanatus</i> (watermelon) seeds.	共著	2013年8月	Nat. Prod. Commun., 8, 1367-1369.
(論文) Cytotoxic and apoptosis-inducing activities of 12-O-Acetylazedarachin B from the fruits of <i>Melia azedarach</i> in human cancer cell lines.	共著	2013年1月	Biol. Pharm. Bull. 36, 135-139.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
エリンギ (<i>Pleurotus eryngii</i>) 子実体のergostane型ステロイド		2015年9月	第59回 香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会
エリンギ (<i>Pleurotus eryngii</i>) 子実体に含まれる新規ergostane型ステロイド		2015年9月	日本生薬学会第62回年会
アンデローバ含有リモノイドの肝細胞内中性脂肪低減作用		2015年9月	日本生薬学会第62回年会
ブラジル産植物アンデローバ (<i>Capara guianensis</i>) 種子の新規リモノイド		2015年9月	日本生薬学会第62回年会
エリンギ (<i>Pleurotus eryngii</i>) 子実体の新規ステロイド -eringiace		2016年3月	日本薬学会第136年会
セイヨウタンポポ (<i>Taraxacum officinale</i>) 根部の新規トリテルペン		2016年3月	日本薬学会第136年会
ウンシュウミカン (<i>Citrus unshiu</i>) 果皮の新規リモノイド		2016年3月	日本薬学会第136年会
ムラサキウニ由来真菌の新規代謝産物altercrosin類の構造		2016年3月	日本薬学会第136年会

カイメン由来真菌の産生する新規細胞毒性物質の絶対構造	2016年3月	日本薬学会第136年会
アンデローバ含有成分の脂肪肝低減作用成分	2016年3月	日本薬学会第136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
	該当なし	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 生体防御学	職名 助手	氏名 小池 敦資
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 実習内容の改変		平成26年9月～	衛生薬学実習について、食品分野の試験項目に偏りがあったため、油脂に含まれる脂肪酸組成の定量から食品添加物の定量試験に変更を行った。授業評価より食品添加物に興味をもつようになったなど一定の評価を受けている。
2 作成した教科書、教材、参考書 衛生薬学実習テキスト		平成26年9月～	実習テキストにおいて、レイアウトの改訂ならびに食品添加物の定量試験の項目を新たに作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Transient Receptor Potential (TRP) and Cch1-Yam8 Channels Play Key Roles in the Regulation of Cytoplasmic Ca ²⁺ in Fission Yeast	共著	平成23年7月	PLOS ONE
(論文) Transient Receptor Potential (TRP) and Cch1-Yam8 Channels Play Key Roles in the Regulation of Cytoplasmic Ca ²⁺ in Fission Yeast	共著	平成24年6月	Journal of Biological chemistry
(論文) Nitric oxide is an important regulator of heme oxygenase-1 expression in the lipopolysaccharide and interferon- γ -treated murine macrophage-like cell line J774. 1/JA-4.	共著	平成27年1月	Biological and Pharmaceutical Bulletin
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
シコニン含有生薬のエンドトキシンによる汚染とシコニン-エンドトキシンが誘導するマクロファージの細胞障害性の解析		平成27年9月	フォーラム2015 衛生薬学・環境トキシコロジー
マクロファージ活性化に及ぼす培地の影響		平成27年12月	第88回日本生化学会大会
乾燥ストレス負荷によるサルモネラのVBNC状態への移行と復帰		平成27年12月	第88回日本生化学会大会
Simultaneous addition of shikonin derivatives and lipopolysaccharide induces rapid death of macrophages		平成27年12月	ASCB annual meeting 2015
VBNC状態のサルモネラに対するカタラーゼ及びピルビン酸の異なる回復効果		平成28年3月	第89回日本細菌学会総会
サルモネラの感想耐性獲得に及ぼすSEp22 (Dps)、栄養因子、及び菌の密度の効果		平成28年3月	第89回日本細菌学会総会
マウス腹腔マクロファージの活性化に及ぼす培地の影響		平成28年3月	第136回日本薬学会年会
シコニンとLPSの併用によって誘導されるマクロファージ細胞死を抑制する化合物の探索		平成28年3月	第136回日本薬学会年会
クルクミンとLPSによって誘導されるマクロファージの細胞障害性の解析		平成28年3月	第136回日本薬学会年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 環境分子生理学	職名 助手	氏名 孝田 哲也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 早期体験学習1 衛生薬学実習 特別演習・実習1、2 (授業評価等を含む)	平成23年4月 ～現在 平成23年4月 ～現在 平成23年4月 ～現在	薬局見学の引率およびSGDを担当している。見学前後での薬剤師に対する学生の意見を収集・フィードバックし、その内容について討論することで、今後の学習意欲向上につながるよう努めている。 学生実習の補助として、安全かつ円滑に実習を行えるよう努めている。水質試験法について、測定結果を考察する際に、実生活や環境における意義を具体的に交えて解説している。 研究室配属学生に対する研究補助として、細胞培養技術や各種実験方法について、指導している。実験等で問題が起きた際には、まず学生自身が考えるように助言している。	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) The involvement of mitogen-activated protein kinases in the 1 α ,25-dihydroxy-cholecalciferol-induced inhibition of adipocyte differentiation in vitro.	共著	平成24年6月	J. Nutr. Sci. Vitaminol. 58(1):1-8.
(論文) All-trans Arachidonic acid generates reactive oxygen species via xanthine dehydrogenase/xanthine oxidase interconversion in the rat liver cytosol in vitro.	共著	平成24年7月	J. Clin. Biochem. Nutr. 51(1):55-60.
(論文) Curcumin inhibits the proliferation of a human colorectal cancer cell line Caco-2 partially by both apoptosis and G2/M cell cycle arrest.	共著	平成26年4月	Int. J. Pharmacol. Res. 4(2):84-90.
(論文) Monochloramine suppresses the proliferation of colorectal cancer cell line Caco-2 by both apoptosis and G2/M cell cycle arrest.	共著	平成26年5月	Cell Biochem. Funct. 32(2):188-93.
(論文) Hydrogen peroxide generated by xanthine/xanthine oxidase system represses the proliferation of colorectal cancer cell line Caco-2.	共著	平成27年1月	J. Clin. Biochem. Nutr. 56(1):15-9.
2. 学会発表(平成27年度)		発表年・月	学会名
CatechinおよびTaxifolinはスーパーオキシドならびにペルオキシラジカルを選択的に消去する		平成27年9月	フォーラム2015 衛生薬学・環境トキシコロジー
大腸癌細胞におけるQuercetinによる増殖抑制の作用機構の解析		平成27年9月	フォーラム2015 衛生薬学・環境トキシコロジー
Vitamin E類縁体はCaco-2細胞に対するCurcuminの増殖抑制作用を増強する		平成28年3月	日本薬学会 第136年会
Clozapineによる3T3-L1前駆脂肪細胞分化誘導作用の作用機序について		平成28年3月	日本薬学会 第136年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成23年2月～現在	日本薬学会会員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	製剤設計学
		助手	
		氏名	佐藤 秀行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	該当なし	
2	作成した教科書、教材、参考書	該当なし	
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等	該当なし	
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	該当なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Enhanced solubility of quercetin by forming composite particles with transglycosylated materials.	共著	2015年3月	J. Food Engineering. 149, 248-254 (2015)
Physicochemical stability study on cyclosporine A loaded dry-emulsion formulation with enhanced solubility.	共著	2014年11月	Chem. Pharm. Bull. 63, 54-58 (2015)
Self-micellizing solid dispersion of cyclosporine A with improved dissolution and oral bioavailability.	共著	2014年10月	Eur J Pharm Sci. 62:16-22 (2014)
Development of cyclosporine A-loaded dry-emulsion formulation using highly purified glycerol monooleate for safe inhalation therapy.	共著	2013年3月	Int J Pharm. 448:282-9 (2013)
Comparative studies on physicochemical stability of cyclosporine A-loaded amorphous solid dispersions.	共著	2012年4月	Int J Pharm. 426:302-6 (2012)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Stabilizing effect of cyclodextrins on the water-soluble nanocomposite formulation of curcumin and transglycosylated aditives		2015年5月	8th Asian Cyclodextrin Conference
Curcumin の溶解度及び化学的安定性向上を指向した複合粒子の開発		2015年5月	粉体工学会2015年度春期研究発表会
肺結核治療を指向したリファンピシンとイソニアジド粉末吸入剤の設計		2015年5月	日本薬剤学会第30年会
α -Glycosyl Stevia と界面活性剤の複合体形成による pH 非依存性製剤の設計		2015年5月	日本薬剤学会第30年会
CFD 解析による粉末吸入製剤使用時の Breath-hold が粒子挙動に及ぼす影響		2015年5月	日本薬剤学会第30年会
Development of shape-controlled inhalable tranilast powder by asparagine acid		2015年7月	The 5th International Conference on the Characterization and Control of Interfaces for High Quality Advanced Materials
III 学会および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	薬品作用解析学
職名	助手	氏名	清水 佐紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成23年10月～ 現在	「薬理学実習」(3回生対象) ・実習前の講義にて、実習の目的・手順などの要点を押さえた説明を実践することにより、あらかじめ学生に実習意義を理解させた上で実習に取り組ませるよう指導している。 ・少人数制で実施し、各学生に対してきめ細かな指導を心掛けている。 ・実習内容に関連した課題を与え、レポートを作成させることにより、学生自身に考える力を養成させている。 ・安全面・倫理面に配慮した指導に努めている。 ・学生アンケートにおける学生の満足度は高い。	
	平成23年10月～ 現在	「三大学医工薬連環科学教育 機能形態学実習」 ・実習前の講義にて、実習の目的・手順などの要点を押さえた説明を実践することで、あらかじめ学生に実習意義を理解させた上で実習に取り組ませるよう指導している。 ・少人数制で実施し、学生一人ひとりが考えて取り組むよう指導している。 ・安全面・倫理面に配慮した指導に努めている。 ・学生アンケートにおける学生の満足度は高い。	
	平成23年10月～ 現在	「特別演習・実習1および2」(5, 6回生対象) ・配属学生に対して一人ひとりにあわせた研究指導を行い、実験技術や思考能力が取得できるよう丁寧な指導を心掛けている。 ・専門領域の勉強会、研究内容のディスカッション、文献セミナーを定期的実施しており、これらを通して、専門知識の構築や思考能力の取得ができるよう指導している。 ・学会発表や卒論発表を通して、研究の遂行能力、研究発表資料の作成技術や発表能力の育成に努めている。 ・学生に対して研究指導する上で、自らも最新の研究に対して常に情報収集するよう努めている。	
	平成24年4月～	「早期体験学習1」(1回生対象) ・施設訪問前には、学生自身で学習目的を考えさせ、より効果的な学習の機会となるよう努めている。 ・施設訪問後には、学生自身で積極的にディスカッションができるよう指導し、本学習が今後の薬学教育に活かせるよう努めている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成23年10月～ 現在	「薬理学実習書」 ・「薬理学実習」の教科書として使用している。	
	平成23年10月～ 現在	「三大学医工薬連環科学教育 機能形態学実習書」 ・「三大学医工薬連環科学教育 機能形態学実習」の教科書として使用している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		なし	

(FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Improving the treatment of Parkinson's disease: A novel approach by modulating 5-HT _{1A} receptors.	共著	平成25年2月	Aging Dis. 4:1-13.
Improving the treatment of schizophrenia: role of 5-HT receptors in modulating cognitive and extrapyramidal motor functions.	共著	平成25年9月	CNS Neurol Disord Drug Targets. 12:861-869.
5-HT _{1A} agonist alleviates serotonergic potentiation of extrapyramidal disorders via postsynaptic mechanisms.	共著	平成25年10月	Prog Neuro-Psychopharmacol Biol Psychiatry. 46:86-91.
Role of cerebellar dopamine D ₃ receptors in modulating exploratory locomotion and cataleptogenicity in rats.	共著	平成26年4月	Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 50:157-162.
Interaction between anti-Alzheimer and antipsychotic drugs in modulating extrapyramidal motor disorders in mice.	共著	平成27年4月	J Pharmacol Sci. 127:439-445.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Alternation of dopaminergic neurotransmission in the nucleus accumbens by the gene mutation of synaptic vesicle protein 2A (Sv2aL174Q).		平成27年7月	第38回日本神経科学会
Amygdala is the primary causative site for nicotine-induced convulsive seizures.		平成27年7月	第38回日本神経科学会
下オリーブ核HNC1チャンネルは本態性振戦の発症を制御する。		平成27年9月	第45回日本神経精神薬理学会 第37回日本生物学的精神医学会 合同大会
D ₁ 受容体を介する口部ジスキネジア発現に対する小脳D ₃ 受容体の調節機能。		平成27年9月	第45回日本神経精神薬理学会 第37回日本生物学的精神医学会 合同大会
Mutation of the gene encoding synaptic vesicle protein 2A (SV2A) markedly facilitates the kindling epileptogenesis in rats.		平成27年10月	第49回日本てんかん学会
Mechanisms underlying the kindling facilitation by the gene mutation of synaptic vesicle protein 2A (SV2A).		平成27年10月	第49回日本てんかん学会
Nicotine provokes seizures by activating amygdala neurons partly through α 7-nACh receptors.		平成27年10月	第49回日本てんかん学会
Role of cerebellar D ₃ receptors in regulating exploratory locomotion and extrapyramidal motor disorders.		平成27年11月	The 4th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology.
NMDA receptor glycine-binding site agonists improve extrapyramidal side effects by antipsychotics.		平成27年11月	The 4th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology.
Mutation of the gene encoding synaptic vesicle protein 2A (SV2A) markedly facilitates the kindling epileptogenesis in rats.		平成27年11月	The 4th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology.
III 学会および社会における主な活動			
平成20年1月～現在	日本薬理学会 所属		
平成20年1月～現在	日本薬学会 所属		
平成20年4月～現在	日本神経精神薬理学会 所属		
平成22年4月～現在	日本毒性学会 所属		
平成25年1月～現在	日本神経科学学会 所属		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 薬物治療学Ⅱ	職名 助手	氏名 高野 美菜
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2012年9月 ～現在 2012年12月 ～現在	1年次科目 早期体験学習2を担当 パワーポイントを用いた説明で理解を深めた後、血糖自己測定の実技を指導した。 5年次科目 病態生理学演習実習を担当 パワーポイントを用いた説明で理解を深めた後、血糖自己測定の実技を指導した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2012年 ～現在 2012年 ～現在 2013～2014年	薬学共用試験OSCEサポートスタッフ 薬学共用試験CBT体験試験・本試験での試験監督 1年次科目 早期体験学習1を担当 企業見学の事前・事後SGDの実施、見学の引率	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Chronological changes in circulating levels of soluble tumor necrosis factor receptors 1 and 2 in rats with carbon tetrachloride-induced liver injury.	共著	2014年2月	Toxicology. Vol. 28 No. 316
β_2 刺激時マウス末梢気道線毛運動周波数のCa ²⁺ 依存性PDE1による調節	共著	2015年3月	分子呼吸器病、Vol. 19 No. 1
胃幽門腺粘液細胞における粘液開口放出に対するindomethacinの二つの効果:PGE2/EP4の抑制とAA/PPAR α の活性化	共著	2015年5月	Ulcer Research. Vol. 42
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
加齢に伴う大腸憩室発見頻度と自覚症状に関する疫学的検討		2015年6月	第57回日本老年医学会学術集会
2型糖尿病モデルラットを用いたインスリン療法による合併脂質異常症と小腸の形態的・機能的変化に関する検討		2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
2型糖尿病モデルラットを用いた低脂肪食餌療法による合併脂質異常症と小腸の形態的・機能的変化に関する検討		2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
アルコール依存症患者における腹部超音波所見・血液検査所見と飲酒期間との相関		2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
アルコール依存症患者における長期アルコール摂取と合併症との相関		2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
アルコール依存症患者の過去26年間に於ける年齢分布および上部消化管疾患の変移		2015年11月	第25回日本医療薬学会年会
1型糖尿病合併脂質異常症に対するインスリン療法と小腸の形態的・機能的変化に関する検討		2016年3月	日本薬学会第136年会
2型糖尿病合併脂質異常症に対するインスリン療法と小腸MGAT2発現量に関する検討		2016年3月	日本薬学会第136年会

2型糖尿病合併脂質異常症に対する高脂肪食・低脂肪食摂取と小腸の形態的・機能的変化に関する検討	2016年3月	日本薬学会第136年会
高齢者における消化管内視鏡検査の呼吸循環動態に関する検討	2016年3月	日本薬学会第136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
	該当なし	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 薬物治療学	職名 助手	氏名 田中 早織
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2011年4月～ 現在に至る	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次 早期体験学習2 血圧の測定方法をまとめた資料を作成し、血圧測定の実技を指導した。学生の理解度を把握するために、実習後に復習レポートを課し、添削評価した。 ・6年次 病態生理学演習実習 血圧の測定方法をまとめた資料を作成し、血圧測定の実技を指導した。学生の理解度を把握するために、実習後に復習レポートを課し、添削評価した。 	
2 作成した教科書、教材、参考書		教材：血圧の測定方法をまとめた小冊子およびレポートを作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2011年4月～ 現在に至る	<ul style="list-style-type: none"> ・早期体験学習1 製薬工場の付き添い、製薬工場見学に対するレポート添削、製薬工場に行く前後でSGDを実施 ・薬学共用試験OSCEサポートスタッフ ・薬学共用試験CBT試験監督 ・公開教育講座サテライトセミナースタッフ ・フィジカルアセスメント講習会スタッフ (血圧測定の指導) 	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) The regulation of ciliary beat frequency by ovarian steroids in the guinea pig Fallopian tube: interactions between oestradiol and progesterone.	共著	平成23年10月	Biomed Res. vol.32 No. 5:321-8.
(論文) A PKG inhibitor increases Ca(2+)-regulated exocytosis in guinea pig antral mucous cells: cAMP accumulation via PDE2A inhibition.	共著	平成25年2月	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. Vol. 304 No. 9:G773-80.
(論文) Inhibition of Ca(2+)-regulated exocytosis by levetiracetam, a ligand for SV2A, in antral mucous cells of guinea pigs.	共著	平成25年9月	Eur J Pharmacol. Vol. 721 No. 1-3:185-92.
(論文) PPAR α autocrine regulation of Ca ²⁺ -regulated exocytosis in guinea pig antral mucous cells: NO and cGMP accumulation	共著	平成26年10月	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. Vol. 307 No. 12:G1169-1179.
(論文) 胃幽門腺粘液細胞における粘液開口放出に対するindomethacinの二つの効果：PGE ₂ /EP4の抑制とAA/PPAR α の活性化	共著	平成27年5月	潰瘍 ULCER RESEARCH
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
胃幽門腺粘液開口放出のアラキドン酸/PPAR α による増強		平成27年5月	日本膜学会第37年会
PPAR α modulation mediated via PI3K/Akt pathway of Ca ²⁺ -regulated exocytosis in antral mucous cells		平成27年11月	8 th federation of the asian and oceanian physiological societies
Enhancement of ciliary beating by Carbocistein via modulation of [Cl ⁻] _i and pH _i in bronchiolar ciliary cells in mice		平成27年11月	8 th federation of the asian and oceanian physiological societies
Procaterol stimulated ciliary beat frequency modulated via PDE1 in mouse bronchiolar cilia		平成27年11月	8 th federation of the asian and oceanian physiological societies
胃幽門腺粘液細胞におけるPI3K/Aktを介したPPAR α 刺激性NOS1のリン酸化：Ca ²⁺ 調節性開口放出の増強		平成28年3月	第93回日本生理学会大会

マウス細気管支線毛細胞におけるカルボシステインによる $[Cl^-]_i$ と pH_i 調節を介した線毛運動の活性化	平成28年3月	第93回日本生理学会大会
マウス末梢気道におけるPDE1A活性調節を介したProcaterolによる線毛運動周波数の制御	平成28年3月	第93回日本生理学会大会
胃幽門腺粘液細胞 Ca^{2+} 調節性開口放出におけるPI3K/Aktを介したNOS1の活性化	平成28年3月	日本薬学会第136年会
胃幽門腺粘液細胞における粘液分泌機序と細胞内 Ca^{2+} 濃度とに関する検討	平成28年3月	日本薬学会第136年会
胃幽門腺粘液細胞における粘液分泌と2つのオートクリン機構とに関する検討	平成28年3月	日本薬学会第136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 生体機能解析学	職名 助手	氏名 田中 智
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成23年9月～	生物学実習(1年次生後期) 生物体の構造と機能を、細胞から個体の観察を通して理解させる実習を担当している。実習テキストおよびスライドを利用して講義内容を再確認させると共に、口頭試問やアドバイスを等を行い、学生の理解向上に努めている。学生からの質問にはわかり易く説明するよう心がけている。例年の授業評価は概ね好評である。
2 作成した教科書、教材、参考書			該当なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			該当なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Efficient Synthesis of N-[4-(4-chlorophenyl)butyl]-S-(3-piperidinopropyl)isothiourea (OUP-186) and Its Analogs using 2-Nitrophenylacetyl Isothiocyanate: Application to Novel Histamine H3R Antagonists	共著	2015年3月	Synthesis, 47 , 1291-1302
Prolyl oligopeptidase inhibition-induced growth arrest of human gastric cancer cells.	共著	2014年1月	Biochem Biophys Res Commun., 443 , 91-96.
Bio-imaging of hydroxyl radicals in plant cells using the fluorescent molecular probe rhodamine B hydrazide, without any pretreatment.	共著	2014年1月	J Biosci Bioeng., 118 , 98-100.
Prolyl oligopeptidase is a glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase-binding protein that regulates genotoxic stress-induced cell death.	共著	2013年4月	Int J Biochem Cell Biol., 45 (1) 850-857
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
マイクロ波の非熱性効果が種々の培養癌細胞に与える影響		2015年9月	第34回microwave surgery 研究会
PC12細胞の酸化ストレス障害に対するp38/Nrf2経路を介した α -リポ酸の保護作用		2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
培養乳癌細胞株MCF-7細胞に及ぼすベルベリンの細胞死誘導メカニズムの解析		2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
抗ヒトプロリルオリゴペプチダーゼ(POP)モノクローナル抗体の作成と応用 POPと相互作用する分子の探索		2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
シタラピンで誘導される細胞死におけるプロリルオリゴペプチダーゼとグリセルアルデヒド3リン酸脱水素酵素の相互作用解析		2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
プロリルオリゴペプチダーゼ阻害薬による細胞増殖阻害メカニズムの解析		2015年10月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
低温でのマイクロ波照射下での細胞の誘電率と生存率の関係		2015年11月	第9回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム
新規ヒスタミンH3受容体アンタゴニストの乳がん細胞増殖抑制作用		2015年11月	第33回メディスナルケミストリーシンポジウム
培養乳癌細胞株MCF-7細胞に及ぼすベルベリンの細胞死誘導メカニズムの解析		2016年3月	日本薬学会第136年会

培養ヒト胃がん細胞のRB1タンパク質発現に及ぼすプロリルオリゴペプチダーゼ阻害薬の影響	2016年3月	日本薬学会第136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成22年～現在	日本薬学会 会員	
平成23年～現在	日本生化学会 会員	
平成24年～現在	日本薬理学会 会員	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	病態分子薬理学
職名	助手	氏名	田中 亮輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成23年9月～	(薬理学実習) 薬理学の講義で得た知識を実験によって確かめ、理解を深める実習。事前講義および血管反応・血圧測定に関する実験を担当。講義では板書による説明に重点を置き、学生が見て分かり易い板書に努めている。実験では実習内容が身につくように、何故この操作が必要であるか理解してもらえよう努めている。例年の授業評価は概ね好評である。
2	作成した教科書、教材、参考書 薬理学実習 配布テキスト	平成25年9月	学生の理解を促進するための教材や補助資料等の作成
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Sex differences in ischemia/reperfusion-induced acute kidney injury are dependent on the renal sympathetic nervous system.	共著	平成25年8月	Eur. J. Pharmacol. 714: 397-404.
(論文) Involvement of renal sympathetic nerve overactivation in the progression of chronic kidney disease in rats.	共著	平成26年1月	J. Cardiovasc. Pharmacol. 63: 9-15.
(総説) 急性腎障害(AKI)治療薬	共著	平成26年4月	腎・高血圧の最新治療, 3, 87-92.
(著書) 腎障害実験モデルの簡便な作製方法	共著	平成26年6月	医薬品・医療機器の承認申請書の上手な書き方・まとめ方, 452-456.
(論文) Mechanisms underlying the renoprotective effect of γ -aminobutyric acid against ischaemia/reperfusion-induced renal injury in rats.	共著	平成27年3月	Clin. Exp. Pharmacol. Physiol. 42: 278-86.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Endothelin receptor antagonist protects against ischemia/reperfusion-induced acute kidney injury in male but not in female rats		2015年9月	14th International Conference on Endothelin
虚血性急性腎障害モデルラットにおける内皮依存性血管弛緩反応に関する検討		2016年3月	第89回日本薬理学会年会
ナリンゲニンの内皮依存性血管弛緩作用について		2016年3月	日本薬学会第136年会
III 学会および社会における主な活動			
平成21年～現在	日本薬理学会 会員		
平成22年～現在	日本心脈管作動物質学会 会員		
平成24年～現在	日本薬学会 会員		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	大阪薬科大学	講座名	機能分子創製化学
職名	助手	氏名	林 淳祐
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫	2014年4月～	3年次科目 有機化学実習を担当 Grignard 反応、Claisen-Schmidt反応(2015年より)の実習前講義を行った。また各実習後、1班ごと(2-4人の学生からなる)に実習操作の概要(操作の意義など)を説明した。
2	作成した教科書、教材、参考書		該当なし
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4	その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		該当なし
II 研究活動			
1.	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)
	(論文) Aib-containing peptide analogs: cellular uptake and utilization in oligonucleotide delivery	共著	2014年
2.	学会発表(評価対象年度のみ)	発表年・月	学会名
	Cu ^I の配位による新規C-Cu ^I -T型塩基対の形成	2015年・10月	日本薬学会近畿支部
	DNA polymeraseによるC-Ag ^I -T、T-Ag ^I -C錯体型塩基対の連続形成の検討	2015年・10月	日本薬学会近畿支部
	プロドラッグ型 2'-O-メチルジチオメチル修飾-siRNAの遺伝子発現抑制効果	2015年・10月	日本薬学会近畿支部
	Design of multivalent cyclic RGD-conjugated MAP(Aib) for targeted delivery of small interfering RNA	2015年・11月	日本ペプチド学会
	RGD配列を有した膜透過性ペプチドMAP(Aib)のsiRNAデリバリー能力	2016年・3月	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
該当なし			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 生薬科学	職名 助手	氏名 平田 佳之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2014年9月1日～ 2015年3月31日	日本薬局方に記載されている生薬の取り扱い及び生薬成分の確認試験法、漢方処方煎じ方などを講義した。
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			大阪薬科大学・大阪医科大学・関西大学による三医工業連環化学教育機構への参加及び抗がん剤開発での共同研究(大阪薬科大学-関西大学)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
New orally bioavailable 2-aminobenzamide-type histone deacetylase inhibitor possessing a (2-hydroxyethyl)(4-(thiophen-2-yl)benzyl)amino group	共著	2010年	<i>Bioorganic & Medicinal Chemistry</i> (2010) 18 , 3925-3933
New microtubule polymerization inhibitors comprising a nitroxymethylphenyl group	共著	2011年	<i>Bioorganic & Medicinal Chemistry</i> (2011) 19 , 3995-4003
A Potent Inhibitor of SIK2, 3, 39, 7-Trihydroxy-49-Methoxyflavon (49-O-Methylfisetin), Promotes Melanogenesis in B16F10 Melanoma Cells	共著	2011年	<i>PLoS One</i> (2011), 6 , 10, e26148
Anti-tumor activity of new orally bioavailable 2-amino-5-(thiophen-2-yl)benzamide-series histone deacetylase inhibitors, possessing an aqueous soluble functional group as a surface recognition domain	共著	2012年	<i>Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters</i> (2012) 22 , 1926-1930
Synergistic antitumor effect of a combination of paclitaxel and carboplatin with nobiletin from <i>Citrus depressa</i> on non-small-cell lung cancer cell lines.	共著	2014年	<i>Planta medica</i> (2014), 80 , 452-457.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
シンキョウカツの成分研究		2015年9月	日本生薬学会 第61回年会
The combination of Gefitinib (Iressa) and non-substituted B-ring flavonoids from <i>Scutellaria baicalensis</i> root showed synergistic effects against the growth of non-small-cell lung cancer cell lines		2015年9月	Frontiers in Medicinal Chemistry
石斛の品質評価法の検討。指標成分の探索(3)		2016年3月	日本薬学会 第136年会
III 学会および社会における主な活動			
		日本薬学会	
		日本生薬学会	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。

- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 大阪薬科大学	講座名 有機薬化学	職名 助手	氏名 米山 弘樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2011年4月～	3年次科目 有機化学実習 実習中、各班を周り、班ごとに実習操作の意義や反応の解説などを行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			有機化学実習用テキストの再編集
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			無し
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			無し
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Synthesis and evaluation of N-alkyl-S-[3-(piperidin-1-yl)propyl]isothioureas: High affinity and human/rat species-selective histamine H3 receptor antagonists	共著	2013年11月	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters., 23, 6415-6420.
Synthesis of marine natural product (-)-pericosine E.	共著	2014年7月	Org. Lett., 16, 3760-3763.
MICROWAVE-AIDED ONE-POT DEHYDRATION OF THE ALCOHOL DERIVED FROM (-)-SHIKIMIC ACID FOR EFFICIENT SYNTHESIS OF PERICOSINES	共著	2014年7月	HETEROCYCLES, 89, 2161-2167.
Synthesis of C4-Linked C0- and C2-Imidazole 2'-Deoxyribonucleoside Phosphoramidites and Imidazole Base-Pairing Effects on DNA	共著	2014年6月	SYNTHESIS, 46, 2815-2825.
Efficient Synthesis of N-[4-(4-Chlorophenyl)butyl]-S-(3-piperidinopropyl)isothiourea (OUP-186) and Its Analogues Using 2-Nitrophenylacetyl Isothiocyanate: Application to Novel Histamine H3R Antagonist	共著	2015年2月	SYNTHESIS, 47, 1291-1302
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
テトラゾール5位に置換基を導入した制がんtetrazolato 架橋白金(II)二核錯体の細胞内取り込みとDNA凝縮		2015年5月	第25回金属の関与する生体関連反応シンポジウム
Conversion of alkynes from cyanophosphates via α -azidotetrazoles		2015年6月	16th Tetrahedron Symposium Challenges in Bioorganic & Organic Chemistry
Novel Synthesis of Arylalkynes via α -Azidotetrazoles from Cyanophosphates		2015年7月	The 3rd International Symposium on Process Chemistry
Action of novel anticancer-active, dinuclear platinum complexes with ester group on the higher order structure and genomic activity of DNA		2015年9月	第53回日本生物物理学学会
シアノホスフェートから α -アジドテトラゾールの生成とその反応性		2015年10月	第41回反応と合成の進歩シンポジウム
テトラゾールホスフェートのフラグメンテーション—シアノホスフェートからアルキンの生成—		2015年11月	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会
Synthesis of (+)-Pericosine E: Naturally Occurring Minor Enantiomer		2015年11月	The 13th international Kyoto conference on new aspects of organic chemistry

Cellular Uptake and DNA Compaction of Anticancer Tetrazolato-Bridged Dinuclear Platinum(II) Complexes with Various Substituents at Tetrazole C5	2015年12月	1st International Symposium on Clinical and Experimental Metallodrugs in Medicine: Cancer hemotherapy
シアノホスフェートを経るケトンからアルキンへの変換反応	2016年3月	日本薬学会136年会
長短鎖アルキル基を導入した制がんテトラゾラト架橋白金 (II) 二核錯体の細胞内取込およびDNA 凝縮能	2016年3月	日本薬学会136年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
	無し	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。